ISS N 0912-8182

Vol.68 通巻778号
昭和62年1月25日発行
毎月1回25日発行
昭和24年3月19日第3種郵便物認可

建築と社会

ARCHITECTURE AND SOCIETY

1987 1

特集●入浴物語



日本建築協会



空気を吸わせると、お湯も生き返ってくれました。

お湯に吹き込む気泡が、気持ち良い〈気泡浴槽〉

TOTO

TOTOの気泡浴槽とはいったいなんだッ。それは空気を含んだお湯が心地よい、泡の出るお風呂のことだッ。この泡の働きはたいしたもので、洗っただけでは流せないような汚れや疲れを落としてしまえる。お湯も汚れてしまうけれど、TOTO独自のろ過機付きタイプなら大丈夫。お湯をきれいに保ちます。また、この泡は、背側と足側に噴出口があって、気泡の量も強さも角度も、簡単な操作で自由にコントロール。だから好き勝手に気泡浴が楽しめます。あまりの気持よさに、みんなの入浴時間が長くなってしまいそうだけれど、そこはTOTOに免じて、大目に見てください。



※カタログご希望の方は、〒530 大阪市北区曽根崎2-3-7 梅新第一生命ビル東館 東陶機器株までご請求ください。

謹賀新年
1987

1987年、本会創立70周年を迎えて

社団法人日本建築協会会長　佐野正一

明けましておめでたく存じます。

今年は本協会創立から70周年という記念すべき年にあたります。大正６年、片岡安、池田実、武田五一、設楽貞雄、波江悌夫ら５名の方がたの発起によって、３月、この新しい団体が創立され、建築にかかる学術、技芸の発展と普及を目的として華々しく事業を開始したのでありました。学会、業界に広く会員を擁する態勢ですが、関西の事情を考え、教育、設計、建設、電気、管工、建材の分野別を基礎として会員確保と事業を行い、その総合性を発揮して社会との結合を深めることを会の特色としてまいりました。

顧みれば長い歳月、各分野の大ぜいの方がたの積極的なご協力によって今日の本会があることを思うとき深い感慨を禁じ得ないのであります。

関西には古い歴史に支えられた良き建築の蓄積があります。私たちはこれを受けつぎ将来にわたって展開してゆくことが夢であります。すこし気負っていうならば、責任でもありましょう。私たちは、そう考えるだけの建築の水準を保持している環境のなかにあると思います。

日本建築協会は70年の経過のなかで、この建築界になにがしかの貢献をし、なにがしかの業績を残したことを誇りと感じております。私たちは、先人たちによってうち建てられたこれらの貢献や業績を大切にし、次の時代に進んでゆく基礎とし、さらに一層の輝きを積み重ねるように、会員各位の御力添えによって前進と充実をはかりたいと考えるのであります。

70周年に当たり、これを記念して３月30日の記念式典のほか住宅に関する展覧会、図書の編集と出版、日本建築協会賞の創設等の事業を準備しております。そのいずれにも、この会の将来の発展の期待をこめて、よき成果を待望したいと存じます。

一般の建築情勢ははかばかしくない状況がつづいております。これを慢性的不況というにはあまりにも長く、不幸として忍ぶにしては社会、経済の動きは流動的であります。慎重にしてかつ積極的に建築界の英知をふるって事態を明るい方へ開いてゆきたいものであります。

この年の皆さまのご繁栄を心から祈りあげます。

創立70周年記念事業

第1回 日本建築協会賞

創立70周年記念事業

■記念式典、表彰式、講演会、祝賀会

昭和62年3月30日(月) 於・太閤園

■日本建築協会賞の創設

■大正、昭和初期住宅作品の展示

■「住まいの絵本」の編集、出版

■「関西の昭和生まれの建築家」の出版

■特別見学会

■その他

日本建築協会賞　要綱

●趣　旨

本会の創立70周年を契機として、建築界における総合団体としての性格に基き、建設に関わる技術全般の向上、進歩、発達などあらゆる分野において社会に貢献した団体または個人に対して、その業績を讃えると共に、わが国文化の向上、公共の福祉に寄与することを目的とする。（作品を除く）

●対　象

本会会員を対象とするが、会員外であっても、その趣旨に基くものであれば拒まない。

●表　彰

賞金総額 300万円 入選　100万円
準入選　50万円

●推　薦

推薦は、関係官公庁、試験研究機関、関係各団体、および会員とする。

●提出資料

推薦者は、審査資料となるものおよび候補者の経歴書等を提出する。

提出書類は、原則として返却しない。

●提出期限

昭和62年1月31日

●提出先

社団法人 **日本建築協会**
大阪市北区梅田1丁目1番3-2100
大阪駅前第3ビル21階　TEL 06-348-0635

DESIGN BY T. MIZUNO

「建築と社会」でコミュニケーションを
—編集委員会—

編集委員長 井　上　　滉

初めに、去年の雑誌の発刊が毎月遅れて皆々様に大変御迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。
遅れました理由はいろいろありますが、期日を守らないということは基本的な誤りであり、反省しています。
さて昭和62年は日本建築協会の創立70周年に当たり、人にたとえるならば古稀を迎えたことになります。
建築に関するあらゆる分野の人々が集まるこのユニークな協会が、今後もますます発展して100周年を迎えるためにも、この「建築と社会」誌が中心となってお互いのコミュニケーションをより一層深められるように、さらに充実した雑誌とするべく、委員一同今年も頑張る所存であります。なお一層のご支援、ご鞭韃のほどをよろしくお願い申し上げます。

「プロのノウハウ」シリーズセット記念セールへ —出版委員会—

出版委員長 須　賀　好　富

出版委員会は月一回の割で開かれており、その一部が本紙昨年9月号に委員会報告として報告されている。毎回委員各位の活発な提案があり、新しい企画が生み出されている。今年も「プロのノウハウ」シリーズを中心に良書を出版し、会員各位の期待にこたえたいと思っている。
今年は日本建築協会70周年にあたるので、「プロのノウハウ」書をそれまでに15冊以上刊行し、それらをまとめて「記念セール」ができればと意気込んでいる。会員各位の一層のご協力をお願いするとともに、新しい出版企画に対しご意見をいただければ幸いである。
最後に、「プロのノウハウ」の紹介を兼ねた講演会も企画したい。すべてのものにというわけにはいかないと思うので、講演会にふさわしいもの取り上げる。これには他の委員会と協同してやっていかねばならないと考える。

もっと、もっと、世の中の役に立つために
—建材委員会—

建材委員長 牧　田　顯　治

本委員会は、昭和24年の創設以来今日まで、建築材料がよりよき進歩をなし、社会のために役立つよう、幾多の先輩諸子が継続努力されてまいりました。私も過去十数年間、信念を持って使用されるよう普及、啓蒙に努めてきたつもりです。
ところで、本誌の「新建材紹介コーナー」への掲載も138件に達しました。時の流れというか、今年は、従来の能率的な、経済的なという考え方に多少変化がきたような感じがします。
各委員の皆様の熱心な討議の結果、ますます活発化してまいり、建材委員会の日がくると、今日は何が紹介されるか、楽しみになるようになってまいりました。
本年も、昨年同様研鑽を重ね、少しでも進歩向上するよう心掛けてまいる所存です。どうかよろしく、ご指導下さいますようお願い申し上げます。

記念の年に相応しく —事業委員会—

事業委員長 西　村　良　平

本協会は、今年創立70周年を迎え、記念の行事が種々予定されている。本事業委員会も、記念の諸行事とあいまって、この時を会員諸兄と共に祝い、記念の年に相応しい事業を、企画実施したいと考えている。
70年前、関西の地に本協会が設立された当時の、先輩方の心意気を想い起こし、『建築界のあらゆる分野を構成員として成立している、その独自の総合性』を生かした事業が企画できればと思っている。
幸い、委員の方々のご努力により、ことに若い委員方の、こだわりのないユニークな発想による企画も多く、これまで催しに参加された会員諸兄に、ご満足いただけているものと自負している。
会員諸兄には、今年はぜひ一度、事業に参加していただき、本協会への理解を一層深めていただくとともに、本協会の発展のためにご支援を賜るよう、切にお願い申し上げる次第である。

特長のある企画を一層活発に —教育委員会—

教育委員長 片　倉　健　雄

協会の教育委員会というのは一体何をしているのか、と思われる方が多いであろうし、また会全体からみても地味な存在です。しかし、数多い建築関係団体の事業の中で、特長が明確で定評のあるものに絞って継続的な事業を行っております。
「建築実務講習会」はすでに42回を数えており、施工と監理にたずさわる中堅技術者に、具体的・実践的な研修の機会を提供しています。受講者の増加が期待できるので、本年はその内容をさらに新しく一歩踏み込んだものにするべく、検討を進めつつあります。
今年33回目を迎える「工高生デザインコンクール」は、昨年全国の工業高校から求めた意見に基づいて募集発表時期を繰り上げた結果、応募校が2倍以上、応募点数が1.5倍を超えるという反響がありました(本号38頁参照)。担当の委員からも活発な提案があるので、本年はさらに表彰方法などについても見直して、一層の活発化を図りたいと考えております。
何とぞ会員各位のご支援と協力をお願いする次第です。

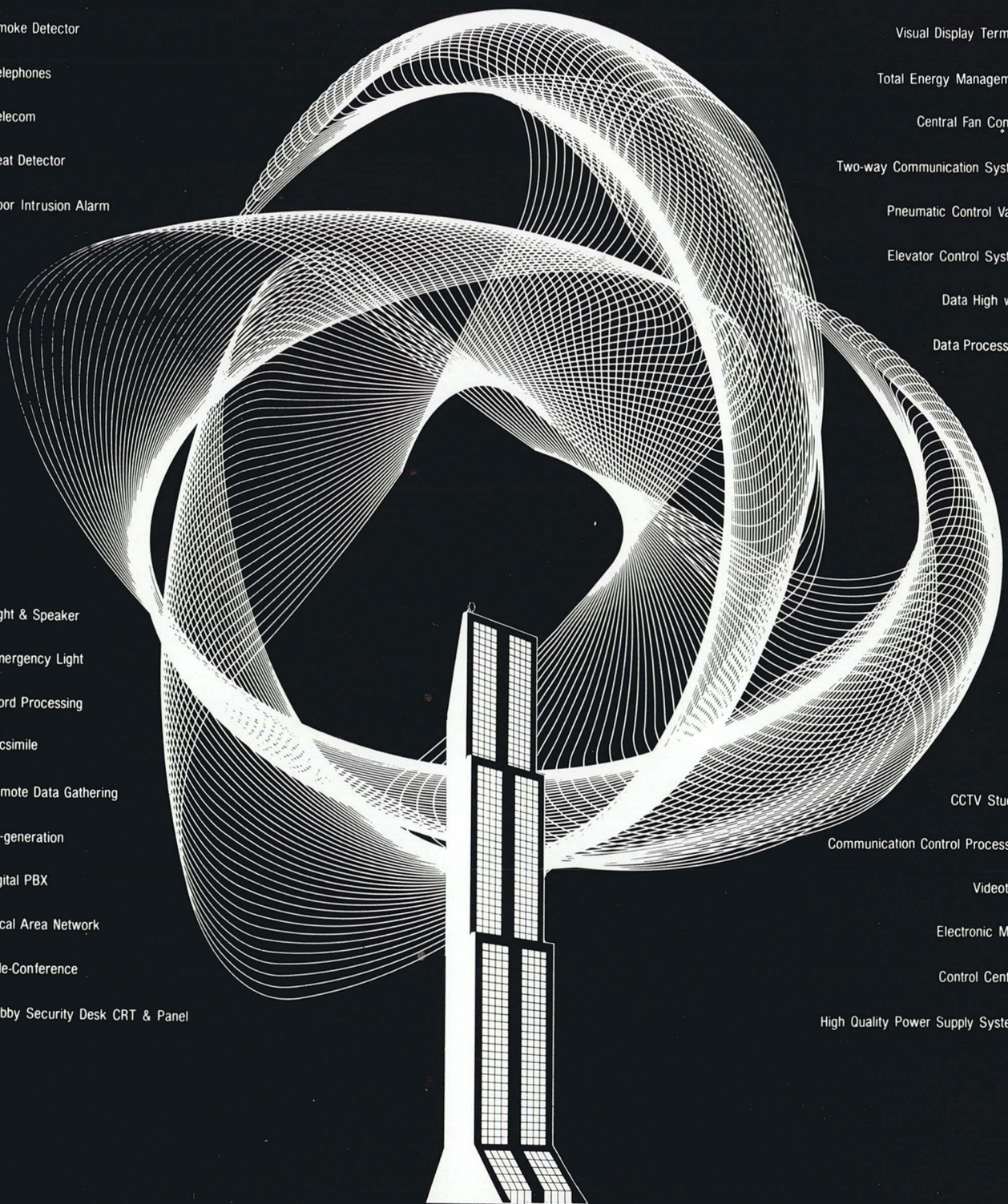


24時間のスマートオフィス・未来の風の中で…

ビルをインテリジェント化する近電エトータルファシリティシステム

Smoke Detector
Telephones
Telecom
Heat Detector
Door Intrusion Alarm

Visual Display Terminal
Total Energy Management
Central Fan Control
Two-way Communication System
Pneumatic Control Valve
Elevator Control System
Data High way
Data Processing



Light & Speaker
Emergency Light
Word Processing
Facsimile
Remote Data Gathering
Co-generation
Digital PBX
Local Area Network
Tele-Conference
Lobby Security Desk CRT & Panel

CCTV Studio
Communication Control Processor
Videotex
Electronic Mail
Control Center
High Quality Power Supply System

エネルギー・情報・環境…設備総合エンジニアリング

近電工

近畿電氣工事株式會社

大阪市大淀区本庄東2丁目3番41号 〒531 ◎06・375・6000

1917創刊
1987
第68集
建築と社会 © ARCHITECTURE AND SOCIETY
CONTENTS
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

表紙デザイン●吉田隆一
（東畑建築事務所）

泉布観　ここへ来るといつも何人かの絵を描いている人に出合う。同じ公園内にある桜宮公会堂玄関を正面に、左にこの泉布観を見る構図である。この整った建物を、真正面からはなかなか絵にしにくい。明治のはじめ、大阪造幣寮応接所として英人技師ウォートルスが設計監督に携わり、周囲に御影石の柱のあるベランダを巡らした瀟洒な建物である。隣の公会堂玄関も旧造幣寮鋳造場玄関で、同じ設計者によるもの。いずれも重文指定である。

1 通巻778

年頭のことば
本年の抱負
作品作風

■特集予告
2月号／腐食
3月号／保管・貯蔵施設
3月号／創立70周年記念号
4月号／室内の仕上床

会　長　佐野正一
副会長　足立　孝・市川　宏
松村雄二・薬袋公明
編集委員会（昭和61年度）
編集委員長
◎井上　洸
編集理事
井上　洸　更ヱ　實男
金井　弘次　水口　譲
金多　潔　山下　仁志
小島　雄　山田　敏捷
城口　庸平　横井　征夫
竹中　錬一　■法令分科会
武田　恭一　★押川　兼宏
長谷部朔郎　松田　洋三
松村　慶三　南出　和延
渡辺　忠　中島富三郎
編集委員　（作品作風小委員会）
（特集小委員会）　荒川　朱美
■計画分科会　浦山　哲
奥村　礼子　小椋　豊久
川前　勉　加藤　力
河端　秀直　黒川　省二
佐野　潤一　小林　正純
清水　肇　高瀬　由康
芝吹　千昭　○寺本　敏則
田附　尚　中山　隆
★田中　直人　林　浩二
高田　佳子　◇松村　孝治
平岡　博　水川　尚彦
藤田　治彦　（投稿欄小委員会）
北條　誠　浅野　貴志
舟橋　國男　赤井　富弘
■構造分科会　伊藤　郁郎
和泉　一義　北村　泰一
★阪本　隆敏　高田　光雄
田中　茂樹　塚口　明洋
高垣　利夫　永原　守
谷　明勲　堀畑　裕一
向井　久夫　○増渕　昌利
安田　光世　吉本　安邦
■設備分科会　（広告企画小委員会）
磯田　憲生　池渕　俊男
★遠藤　進　寛　秀明
柿内　隆雄　北村　潤
河津　隆之　中井　進
久須美高朗　西牧　惠吉
田中　脩　原田　常介
中尾　信之　広田　和正
桑　學　◇藤田　孝吉
■施工材料分科会　山下　修司
★荒木　弘之　◇吉田　健次
○渡辺　忠
◎編集委員長　○副委員長
◇副委員長代行　★幹事

Gallery
作品作風探訪
デザインコンクール
大先輩に聞く
書評
私が読んだ本
東海ルネサンス
東海の建築マップ
新建材紹介コーナー

GBRCニュース
法令コーナー220
建築の眼

会告

特集
新春風呂談義

座談会
エッセイ

外人留学生よりの入浴談義

事例
ルポ記事

アンケート事例

資料篇

構造の頁142
Information

編集人　松　井　昭　光
印　刷　昭和62年1月20日
発　行　昭和62年1月25日
発行人　吉　田　悦　二
発行所　（社）日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　06—348—0635
振替口座　大阪1-39975
印刷所　日本写植印刷株式会社
電　06—606—1111(代)
大信印刷株式会社
電　06—451—7631
青葉印刷株式会社
電　06—351—5428(代)
定　価　950円（送料共）

特集●入浴物語

SPECIAL FEATURES ON A BATHING STORY

1987年、本会創立70周年を迎えて／佐野正一（日本建築協会会長）— 1
日本建築協会常設委員会本年の抱負／常設委員会委員長— 3
サントリーホール— 設計監理：安井建築設計事務所　施工：鹿島建設— 6
呉市中央図書館— 設計：日建設計　監理：呉市建設局技術部建築課・日建設計— 18
施工：増岡組・大之木建設共同企業体
広島市庁舎— 設計監理：広島市・安井建築設計事務所— 22
施工：大林組・フジタ工業・奥村組・増岡組・上野谷建設共同企業体—新本庁舎
フジタ工業・日成建設・創建工業共同企業体—南庁舎
高松市総合体育館— 設計：日建設計・大阪本社　施工：鹿島建設— 24
堺市総合福祉会館— 設計監理：堺市建築部建設課・昭和設計— 26
施工：戸田建設・西川建設共同企業体
小山田記念温泉病院— 設計監理：藤川建築設計事務所・東畑建築事務所— 28
施工：大成建設名古屋支店
大阪ガスコンピューターセンター— 設計監理：安井建築設計事務所　施工：大林組— 30
ホテルシェレナ— 設計：コスモ設計・環境再開発研究所　施工：長谷川工務店— 32
Tree's（京都・北山通）—設計：妹尾正治建築事務所— 34
サントリーホール—大人の街のシンフォニーホール／黒川省二— 37
第32回工高生デザインコンクール入選作品（設計課題：テニスクラブハウス）— 38
浦辺鎮太郎（浦辺建築事務所）／高田光雄— 42
建築に対する覚悟を促す—「建築・都市論集」（大谷幸夫著）／太田隆信— 44
社会変化と建築の関係を読む／吉羽逸郎— 45
名古屋こそ人間らしい都会／飯島宗一　vs　中島一— 46
景観としての建築— 49
「プラスウォール」／猪野達雄— 51
「ヒビガード」「パリックFP-100」／中原泰— 53
排煙排ガス処理装置新規購入機器紹介— 54
建築士を対象とする指定講習制度／三木俊介— 55
和式バス付高級ホテルのすすめ／巽和夫．多様化新時代／古林敏郎— 56
佐賀平野／谷淳之介．場のデザイン／美濃吉昭
大阪府立体育館改築工事の見学．ベル・パークシティの見学．— 57

入浴物語

東畑謙三／ポンペイの浴場跡をみる— 66
西山夘三／城崎のまちづくり— 68
落合茂／ゆあみのうた— 70
保坂陽一郎／浴室—東西文化の融合へのみち— 70
風呂と入浴物語— 大場修・西井弘和・髙田公理— 72
西山夘三／牟婁の湯—白浜の大衆浴場— 81
竹原義二／地域に根ざした銭湯—延命湯— 81
副島雅行／今、何故か健康センター— 82
岩崎輝雄／求められる“クアオルトロジー”に思う— 82
山田義之／露天風呂— 83
山崎　猛／お風呂こぼれ話— 83
川村耕造／温泉を地域の住民に開放—小山田温泉物語— 84
川村真次／集合住宅の風呂— 85
松島信雄／庶民生活と銭湯— 89
イブラヒム・マブルーク／エジプトの風呂・温泉．Somnuke Praparntanatorn／タイの“bathing”．于穎／中国の銭湯の伝統的なサービスコース．李相浩／韓国の入浴、沐浴そして私．オスマン・タニム・タンコ／ガーナの入浴— 86
今おもしろい“温泉”見てあるき
健康ひろば加古川／温泉町リフレッシュ館／ヘルスライフ京都／金閣寺湯／ゆーとぴあ／西郷コミカ温泉／御三軒湯／清水湯／塚口温泉．— 90
クアハウス屈斜路／和賀町立夏油温泉館／財団法人片倉館／クアハウス碁点／滋賀トロン保健センター／霊山寺薬師湯殿．— 96
KURAHAUS— 99

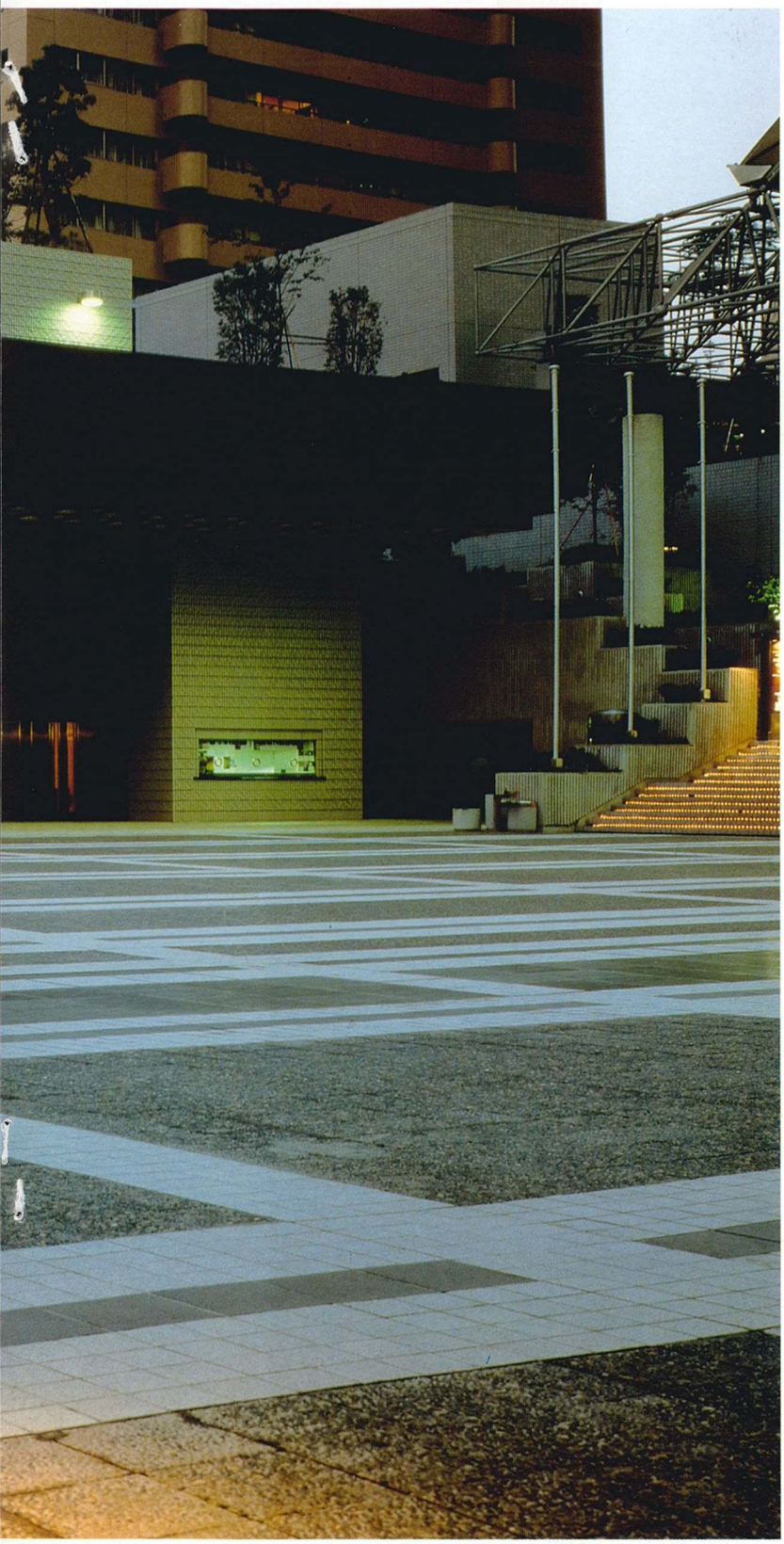
新しい制震構造に向けて—ダイナミックインテリジェントビルの提唱—／小堀鐸二— 102
フィンランド家具セミナー開催．— 104

サントリーホール

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　鹿島建設



正面玄関前広場・アークプラザ





外観全景(撮影　川澄 明男)



正面玄関(撮影　東出 清彦)





都心のビル経営に大きな実績をもつ「森ビル」が、昭和61年春、民間ベースでは最大規模の赤坂六本木地区再開発計画を完成させた。多様な都市機能を複合し、その一つひとつがハイグレードの未来性を指向し、国際性豊かな新都心を形成しているとして注目されている。

「サントリーホール」はこの地区のなかにある。中央の人工広場「アークプラザ」に面して、超高層のオフィスビル、ホテル、住宅がならぶなかに、テレビ朝日のスタジオに隣接して、低層の静謐な一角をつくっている。再開発計画に音楽ホールをつくる要請を受けて参画したサントリーは、クラシック音楽専用ホールとする決断のもとに2,006席と約400席の大小コンサートホールを誕生させた。4月の再開発計画全体の竣工ののち、大ホールにパイプオルガンの設置等の整備をすすめ、音楽シーズンの到来に合わせ、10月12日サヴァリッシュ指揮ＮＨＫ交響楽団と林祐子のオルガンによって芥川也寸志作曲の祝祭曲の初演、つづいてベートーヴェンの第９交響曲の演奏で華々しく開幕の日を迎えた。柿落としの演奏は昭和62年の春まで続く。話題を呼んだ小澤征爾指揮のベルリンフィル、チェリビダッケ指揮のミュンヘンフィルをはじめ、内田光子とイギリス室内管弦楽団のモーツアルトピアノ協奏曲全曲演奏、アイザック・スターン、マリー・クレール・アランなど、海外からの来演、クセナキス、武満徹ら内外の作曲者委嘱作品の初演など、盛り沢山に質の高い演奏が繰りひろげられている。演奏者からも一般の音楽愛好者からも、このホールの優れた響きが注目され、わが国の音楽の歴史に新しいページを加えたと高く評価されたようである。

サントリーホールの計画でめざしたものは「世界一美しい響き」である。この目標を、２千席を超す大型ホールで達成するには、ホール形成について考え方をまず固める必要があった。サントリーホールの大ホールは、ワインヤード形式をとっていることに大きな特色がある。中央のステージを囲んで客席は段々畑のようにのぼり、ひろがる。必要なホール容積を確保することによって、適度な長さの残響をもった豊かな響きがホールを満たし、すべての客席でむらなく音楽のよろこびを共感することができるのだ。この形式を推したヘルベルト・フォン・カラヤンが云われるように「演奏者と聴衆と一体になって音楽を創る」理想の場が形つくられるのである。

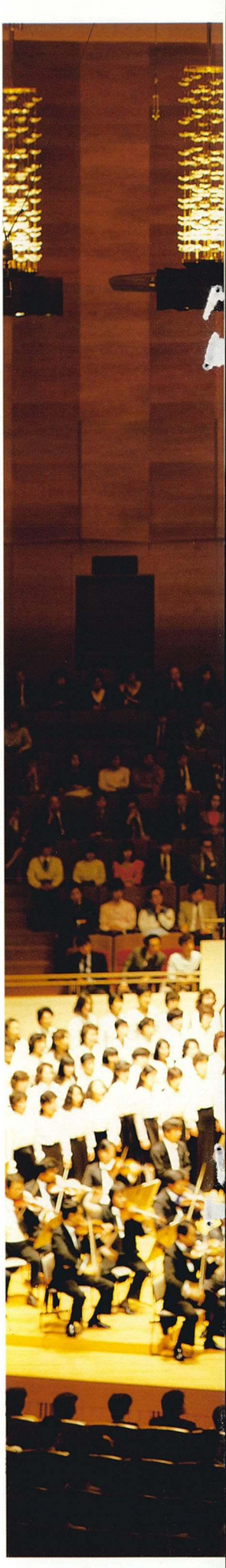
優れた音楽性を備えたコンサートホールをつくるには、優れた建築音響計画家の存在が不可欠である。このホールの計画で永田穂建築音響設計事務所の永田穂氏の協力を得られたことが有難かった。計画の当初から検討に加わり、計画の進行に従って試作模型によるテストと設計修正を繰り返し、施工から完成への過程でのチェックや、実際に演奏者、聴衆を入れて行うテストと調整を行うなど徹底した内容である。天井や壁、ワインヤードの小さな側壁、座席の音響効果の調整、各座席ごとの聞こえかたのチェックなど、微妙で煩雑な調整の仕事が無かったらこのホールは生まれなかっただろう。

ワインヤード形式の泣きどころは広い空間である。裏まわりの楽屋、ラウンジ、楽器庫、リハーサル室を加えると、必要な面積、容積は大きくふくれあがる。再開発計画の法令規制は、位置、容積、高さともに厳しいものだったから、設計対応は１平方メートルの追加もできぬ厳格さで進行した。そのなかで「森ビル」の良き理解と、総合設計監理の任にある入江三宅設計事務所が計画に当たって練達の処理をしてもらったことが、円滑な進行を可能にしたと思う。複雑長期の再開発計画の進行するなかで、その計画に組み込まれた各個の建物の設計は、全体とは違った次元で設計エネルギーを燃やしている。入江三宅事務所は対処してよく調整を計られた。感謝に堪えないことである。

大ホールのほかに小ホールがある。独立した運用ができるようになっているが、中間にあるホワイエを含めて大小ホールの連繋使用も可能である。大ホールの残響時間が中音域で満席時2.1秒に対し、小ホールはフラット床、座席は固定でなく最大460席まで、舞台は３分割の迫りで可変型、残響時間は中音域で満席時1.1秒、空席時1.3秒である。

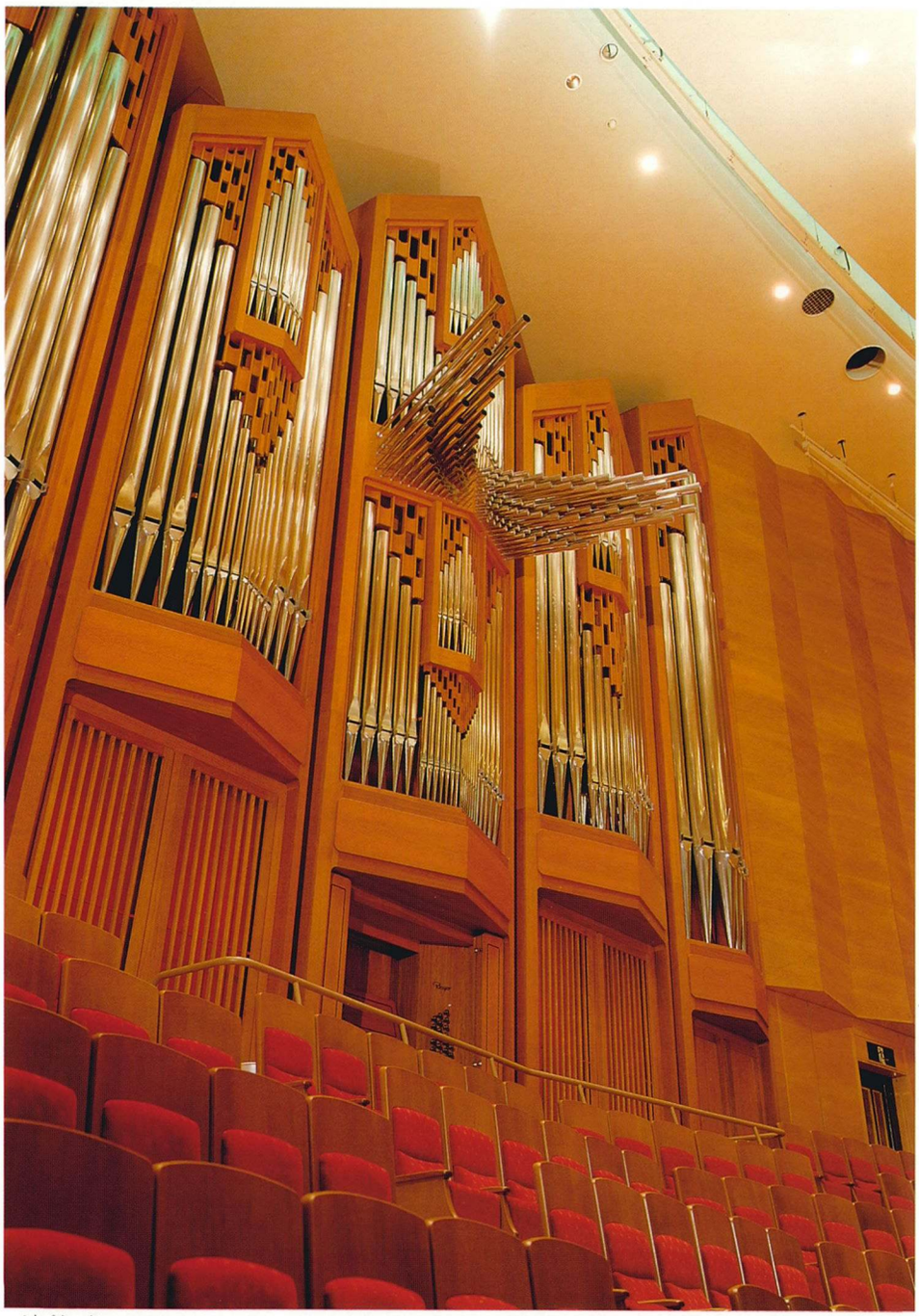
大ホール、小ホールとも、床、壁ともに木質の仕上げ、大ホールの反射壁のみはトラバーチン大理石を使った一貫性のあるデザイン、どちらかといえば抑制したデザインで、サービスを含め、来場した人びとに豊かな音楽の幸せにひたってもらう場であることをひたすら追求している。ホール完成と同時にプラザの向かい側にフランス料理店「ル・マエストロ」及びカフェ「コンチェルト」も開店した。

（佐野　正一）



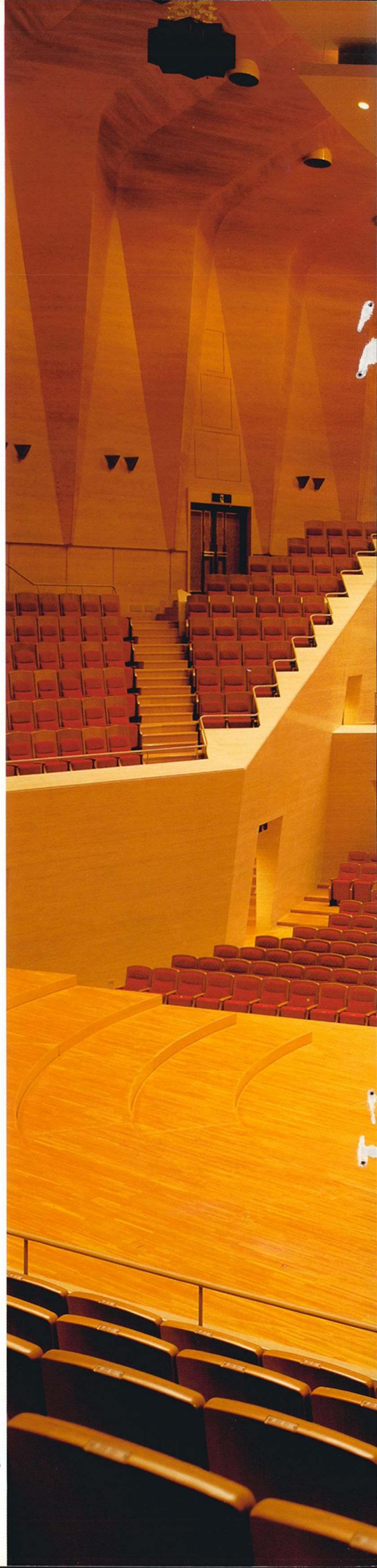


大ホール柿落とし　ベートーヴェン「第９交響曲」 1986.10.12



パイプオルガン

パイプ総本数5,898本のパイプオルガンは、4段手鍵盤、2種類の足鍵盤を持ち、74ストップと日本最大級の規模を誇る。製作はオーストリアの名門リーガー社。ホールの音響特性にふさわしい、やわらかく暖かみのある音色である。



大ホール
舞台側から客席を見る

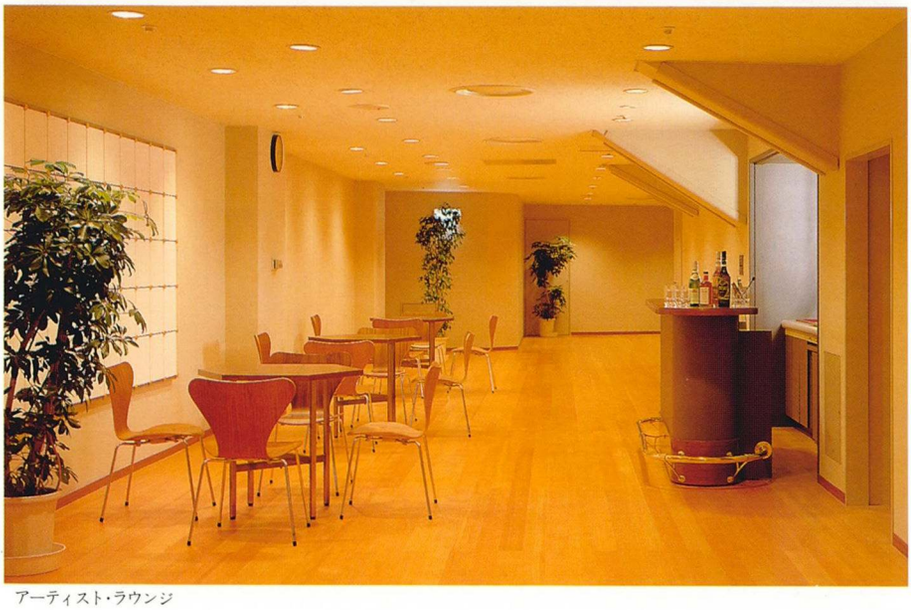




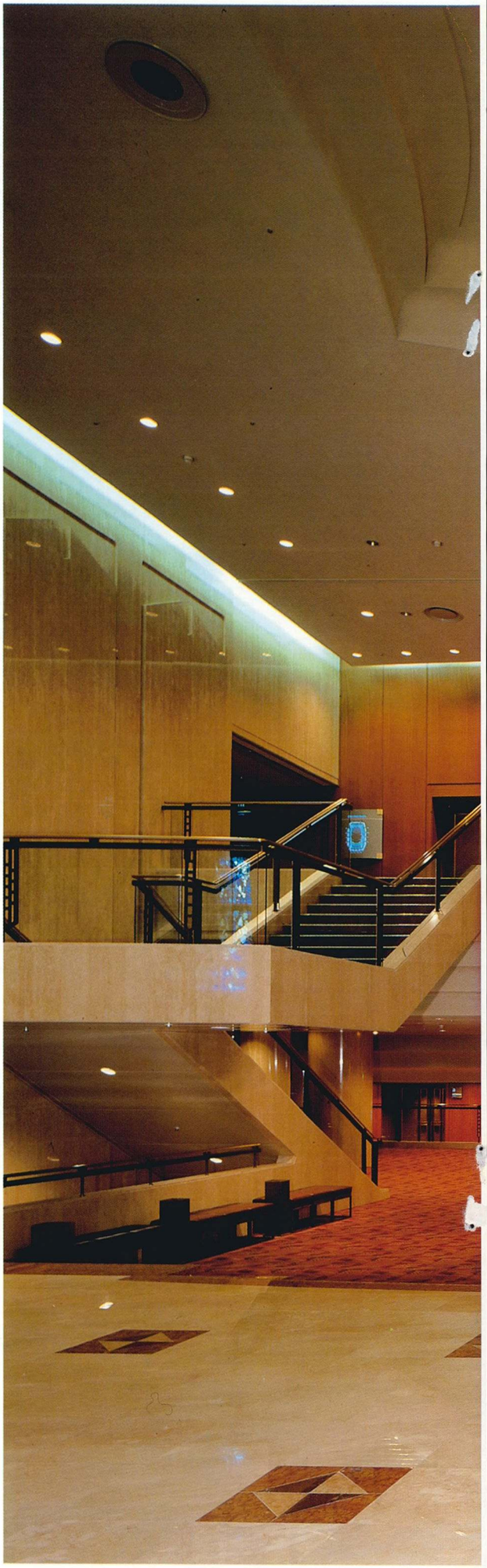
エントランスホール　壁画「響(ひびき)」制作・宇治山哲平　ステンドグラス「ぶどうの生長」制作・三浦啓子（撮影　川澄明男）



バー



アーティスト・ラウンジ



ロビー　シャンデリア「響(ひびき)」制作・石井幹子





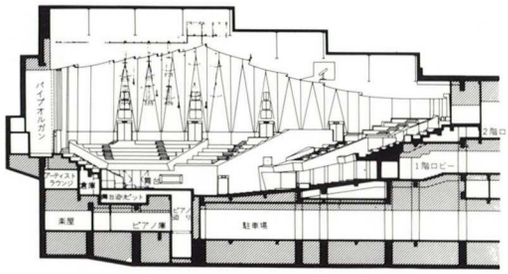
リハーサル・ルーム



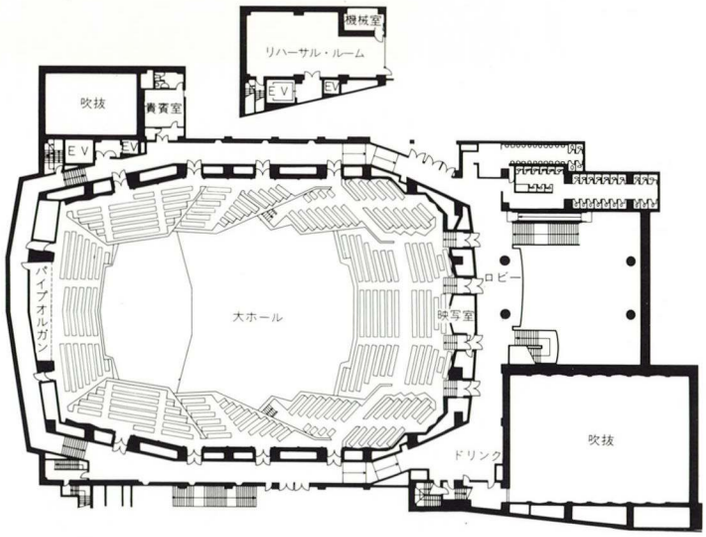
楽屋



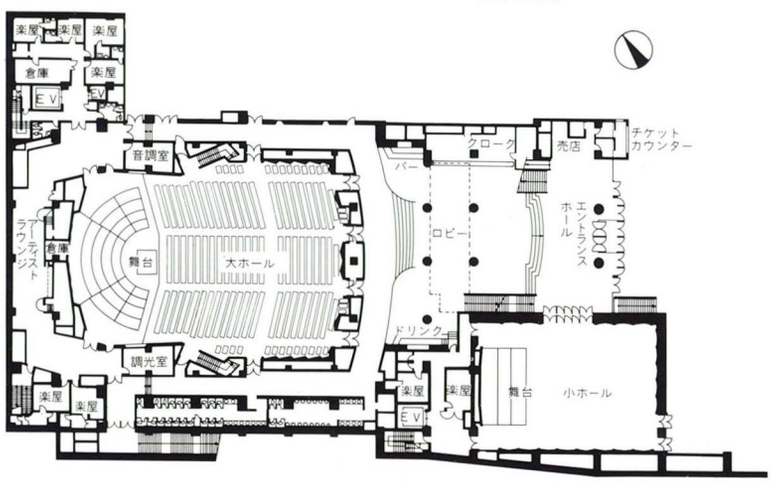
調光室から大ホール舞台を見る



断面図



2階平面図



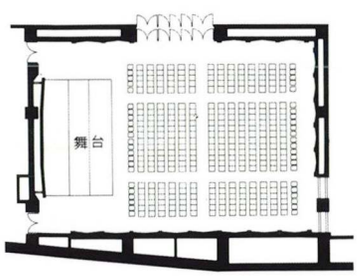
1階平面図　1：1,000

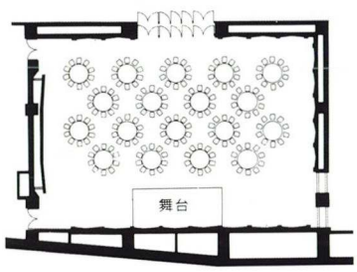
サントリーホール

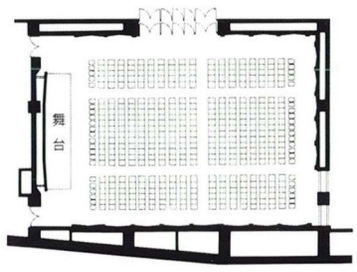
設　計	建築設備	安井建築設計事務所
	構　造	入江三宅設計事務所
	音　響	永田穂建築音響設計事務所
監　理	安井建築設計事務所	
施　工	鹿島建設	
	電　気	近畿電気工事
	空調・衛生	三機工業
	舞台機構	森平舞台機構　三精輸送機
	舞台照明	龍電社
	舞台音響	不二音響
	石	関ヶ原石材
	金属建材	マンテン
	造　作	内外木材工業
	ステンレス金物	田島順三製作所
	鋼製建具	田中サッシュ工業
	建築金具	美和ロック
	シャッター・建具	三和シャッター工業
所在地	東京都港区赤坂1-13-1	
建築面積	3,022.23㎡	
延床面積	12,149.23㎡	
構　造	軀体　SRC、基礎　RC	
規　模	B2、3F	
客　席	大ホール	2,006席(ワインヤード型)
	小ホール	460席(シューボックス型)
駐車台数	50台	
工　期	昭和59年1月～昭和61年9月	
最寄駅	地下鉄赤坂駅	

写　真　サントリー提供(一部を除く)

小ホール







小ホールの利用例

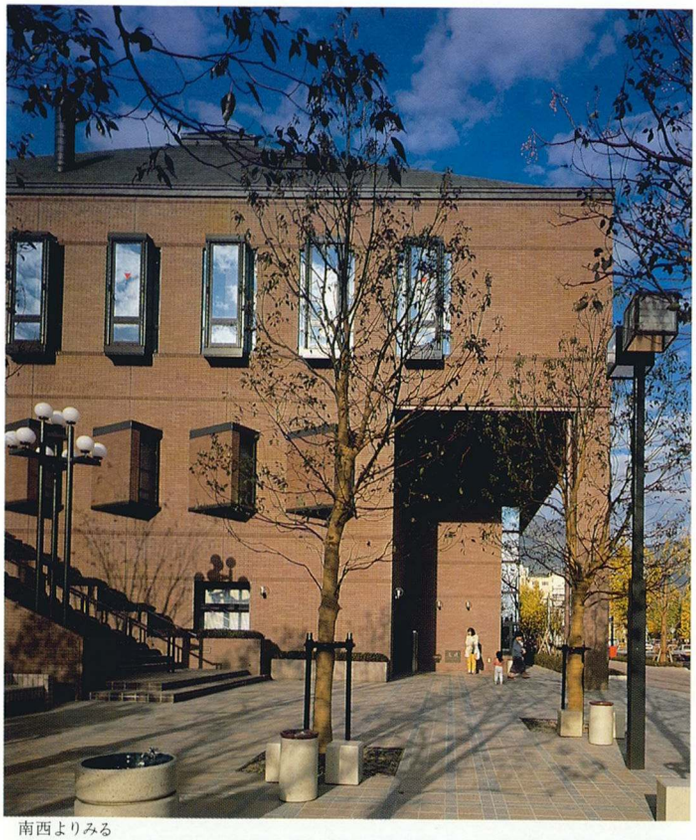
Ⓐコンサートに(368席)
最もオーソドックスな形での利用例。暖かい雰囲気の中でピアノ・ソロ、室内楽等を楽しむことができる。

Ⓑサロンコンサートに(180席)
舞台を床面にまで下げれば、自由な形での会場演出が可能となる。サロンコンサート、小演劇、舞踏会等に幅広く活用できる。

Ⓒ講演会などに(460席)
講演会、会議等に利用する場合は、最大460席までの設営が可能。また椅子をすべて取り払えば、展覧会、展示会等にも利用できる。

呉市中央図書館

設　　計　日建設計
監　　理　呉市建設局技術部建築課　日建設計
施　　工　増岡組・大之木建設共同企業体

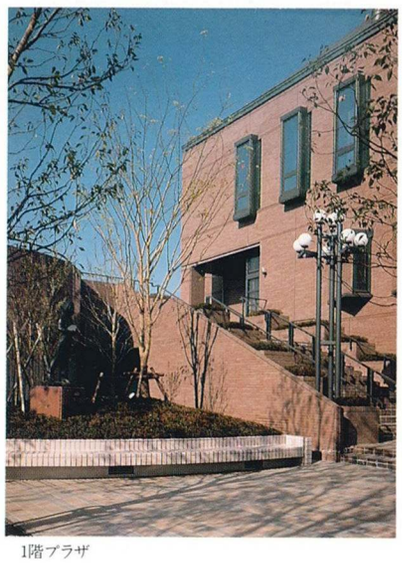

南西よりみる

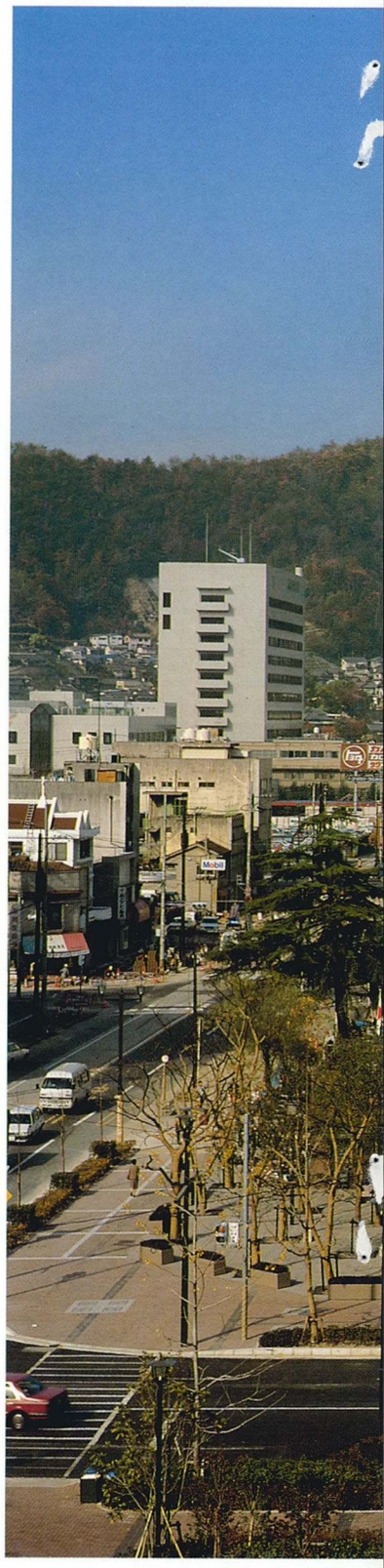

東面夜景

呉市中央図書館は、国鉄呉駅から市役所に至るメインストリートに面して建っている。この地域一帯は、中央公園化整備の中で堺川と呼ばれる水辺を生かし、緑豊かな街づくりを目指している。これらの核として、「呉市文化センター構想」があり、ここに文化ホールと図書館の２つの施設が計画され、64年完成を目指す文化ホールに先がけて図書館が完成した。

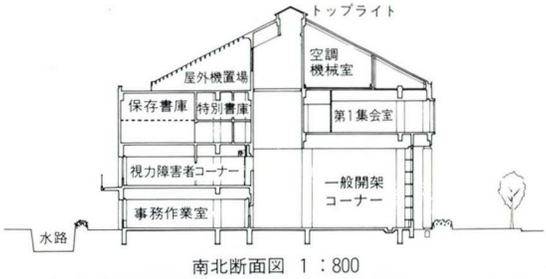
この計画は、５社による指名コンペにより当社の案が採用となったもので、呉市役所・呉市公民館と並び呉市の街づくりの中で、かつての軍港としての栄光を偲ばせるイメージの継承と、新しい、イメージ作りに貢献できるものと確信している。図書館の特徴としては、軍港としての貴重な資料が収蔵されていることがあげられるが、市民の活発な利用を目指し、開架室のほとんどは１階の道路側に配置している。コントロールデスクを中心とし、管理しやすいレイアウトをするとともに、一般の施設では味わえない３層吹抜のトップライトと２階吹抜の開架室は、開放的で明るい図書館作りに役立ったと考えている。外装は炻器質の紫味のあるレンガタイルと緑青銅板の寄棟屋根により、呉市の山を背景にした海の街にふさわしい色調と形態とした。

（日建設計／大野一男）


1階プラザ

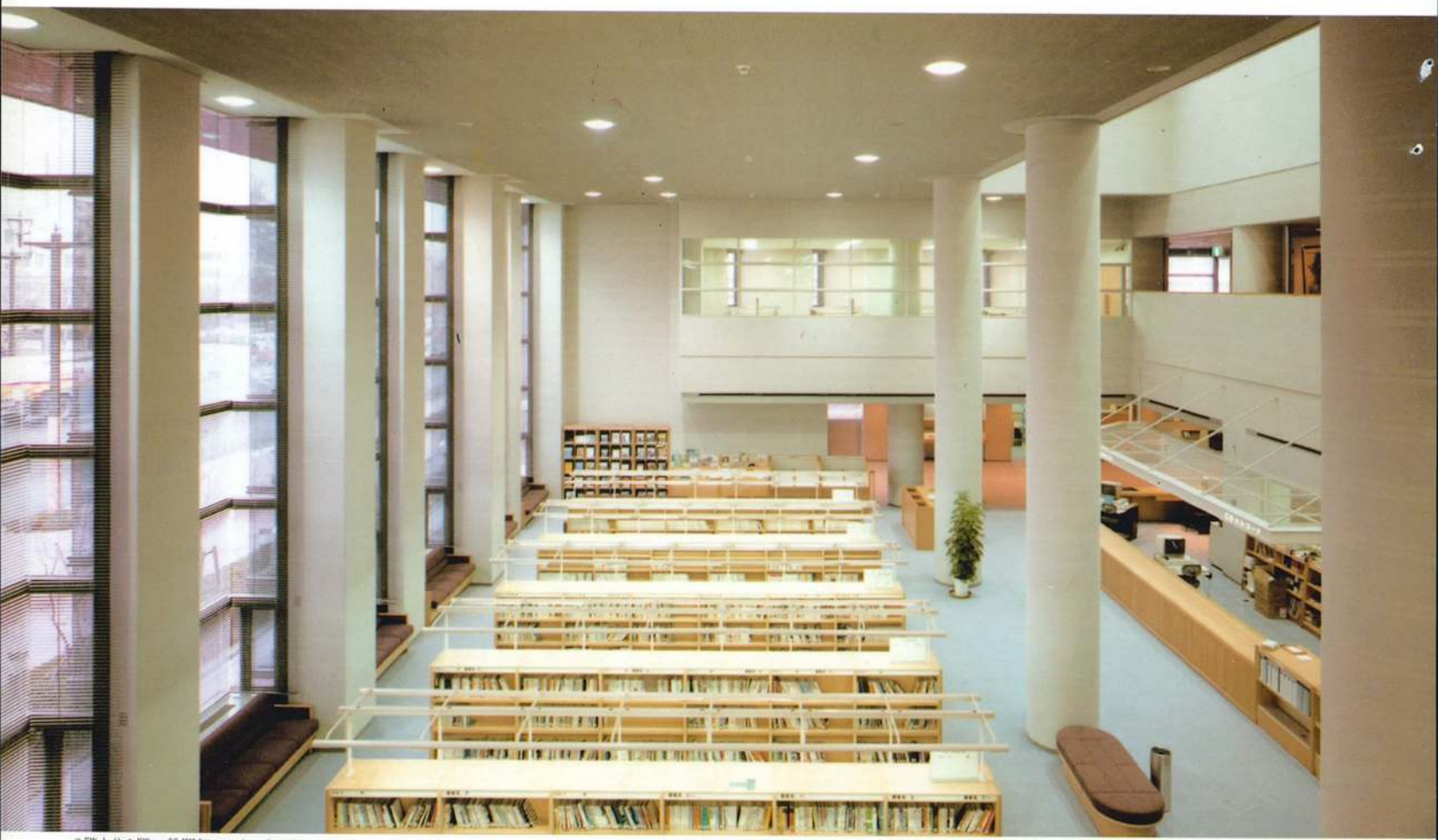


撮影　島　修一
　　西日本写房



南北断面図　1：800

全景



2階より1階一般開架コーナーをみる



エントランスホール



1階一般開架コーナー

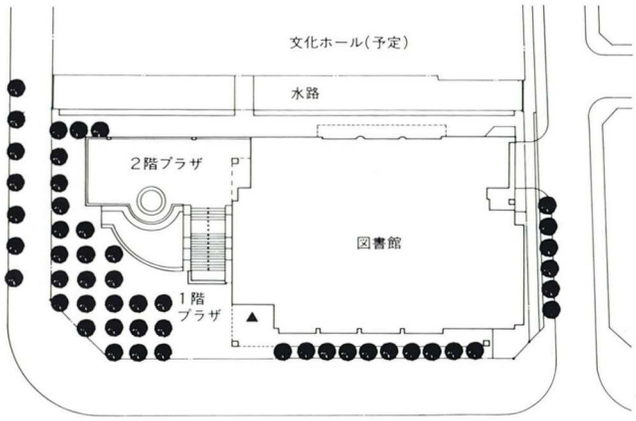
所 在 地　呉市中央３丁目10-3
敷地面積　2,404.92㎡
建築面積　1,446.60㎡
延床面積　4,019.21㎡
構造規模　RC、B1、4F
工　　期　昭和60年７月～昭和61年９月
最 寄 駅　国鉄呉線呉駅



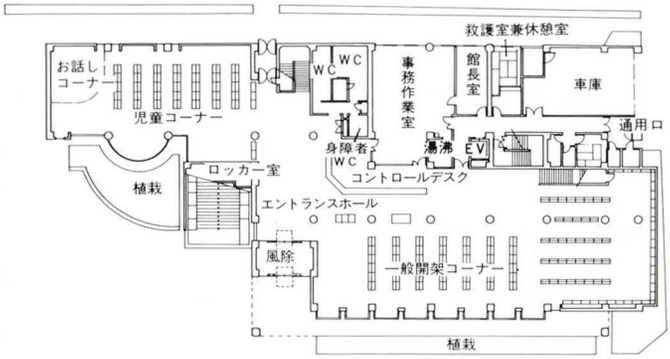
コントロールデスク



児童コーナー



配置図　1：1200



１階平面図　1：800

主な協力業者

電　　気	**近畿電気工事**	呉市中央2-5-17　TEL0823-21-6101
空　　調	**中国工業**	呉市西中央4-9-12　TEL0823-21-1556
給排水衛生	**桝設備・藤井設備・広島配管**	呉市仁方本町1-5-20　TEL0823-79-1200
エレベータ	**フジテック**	広島市中区八丁堀7-2　TEL082-223-6733
スチール書架	**金剛**	広島市南区南蟹屋1-1-3　TEL082-284-3771
木製書架	**岡村製作所**	広島市中区鉄砲町5-16　TEL082-227-5666
内外タイル	**INAX**	広島市中区八丁堀5-17　TEL082-223-1710
金属建具ステンレス	**紅雲製作所**	広島市中区銀山町11-1　TEL082-249-8213
金属建具スチール	**日本スピンドル製造**	広島市中区大手町2-11-2農林ビル　TEL 082-248-4561
金属建具アルミ	**住友ウォールシステム**	広島市中区堺町1-2-10新見ビル　TEL082-232-1388
内装・床材	**東洋リノリューム**	広島市中区中町7-22住生平和大通りビル　TEL082-249-4616
内装・壁クロース	**住江織物**	広島市南区霞2-9-6　TEL082-254-5821
屋根銅板	**新星鋼業**	千葉県八千代市大和新田672-1　TEL0474-50-8111
サイン	**日本彫刻工芸**	呉市海岸1-11-16　TEL0823-22-2054
金属建具シャッター	**三和シャッター工業**	呉市焼山中央1-1-6　TEL0823-33-3535
硝　　子	**旭硝子**	広島市中区新天地2-4有楽ビル　TEL082-248-3737
家　　具	**坂光家具**	広島市西区商工センター3-3-18　TEL 082-277-8811
内装ブラインド	**立川ブラインド**	広島市南区東雲本町3-1-31　TEL082-284-1412



広島市庁舎

設計監理　広島市　安井建築設計事務所
施　　工　新本庁舎　大林組・フジタ工業・奥村組・増岡組・上野谷建設共同企業体
　　南庁舎　フジタ工業・日成建設・創建工業共同企業体

所在地　広島市中区国泰寺町1丁目
敷地面積　17,113㎡
建築面積　4,393㎡
延床面積　55,727㎡
構造規模　新本庁舎　SRC、B2、17F
　　南庁舎　RC、B1、6F
工　　期　昭和57年4月～昭和61年7月
最寄駅　国鉄山陽本線広島駅

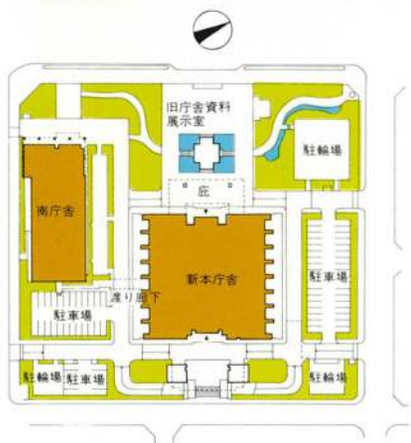
広島市はわが国10番目の政令都市であり、「国際平和都市」を標榜する街である。広島市の新しい庁舎も、行政運営の中核としての機能をもつだけでなく、平和意識を高揚するイメージが求められさらに市の代表的建築物として都市景観の先導的役割を果すことが期待されて計画が進められた。
新庁舎の計画は、既存の庁舎が建ちならぶ敷地内で、業務を中断することなく建設工事を進めるという制約のなかで立案され、高層の本庁舎と議会棟の改修、外構の整備が年次別に計画的に竣工した。
旧庁舎の本館棟は残存する数少ない被爆建物であり、その保存やメモリーの継承については新庁舎の計画と併行して慎重な検討がなされた。その結果、耐久性や耐震性などの問題もあり保存することは無理と判断し、メモリーを継承する方向で新本庁舎と一体的に計画に折り込むことにした。
旧本庁舎の地下1階の一部を保存改修して「旧庁舎資料展示室」とし、旧庁舎に使用された石材などを新しい広場や外構の要石として採用した。このような解決により、被爆の痕跡を平和の願いにつなげる記録として残し、同時に新庁舎の配置計画の上でも広々とした前庭を確保することができた。
広島市の新庁舎は、一般的市庁舎と異なり市民サービスの窓口業務のほとんどが各区役所で行なわれているために、行政庁舎としての平面形は比較的にシンプルにまとめられている。そのなかで、1階にゆったりとした市民待合ロビーならびに市民サービスの関係諸室を配して市民との結びつきを強めている。
新庁舎の外観は、この庁舎が都市景観の先導的役割を担う重要性から、シンボル性、品位と格調、親しみのほかに街なみとの調和も大きな要素として配慮された。立面構成でシンボル性と品位さらに格調を表現し、外壁の茶系統の大型ブリックタイルにより親しみと周辺建物との調和、旧庁舎のイメージとのつながりを求めた。
南庁舎は主として議会部門が収容されていたが、昭和40年の竣工ということもあって、構造体はそのままとし外装を本工事に合わせ、内部は議会専用棟として全面的に改修されたものである。
（安井建築設計事務所）


市民ロビー

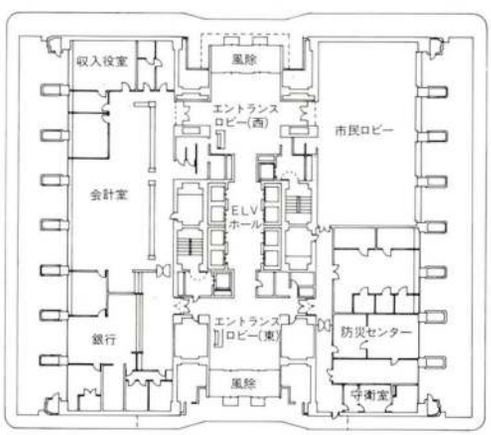

議場


全景

◀西面外観



配置図1：3000



1階平面図1：1000

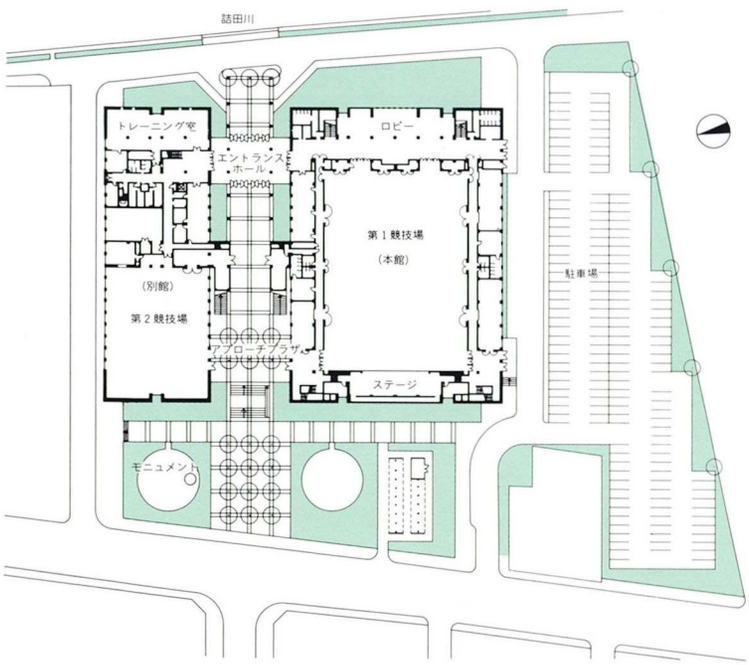
撮影　西日本写房

高松市総合体育館

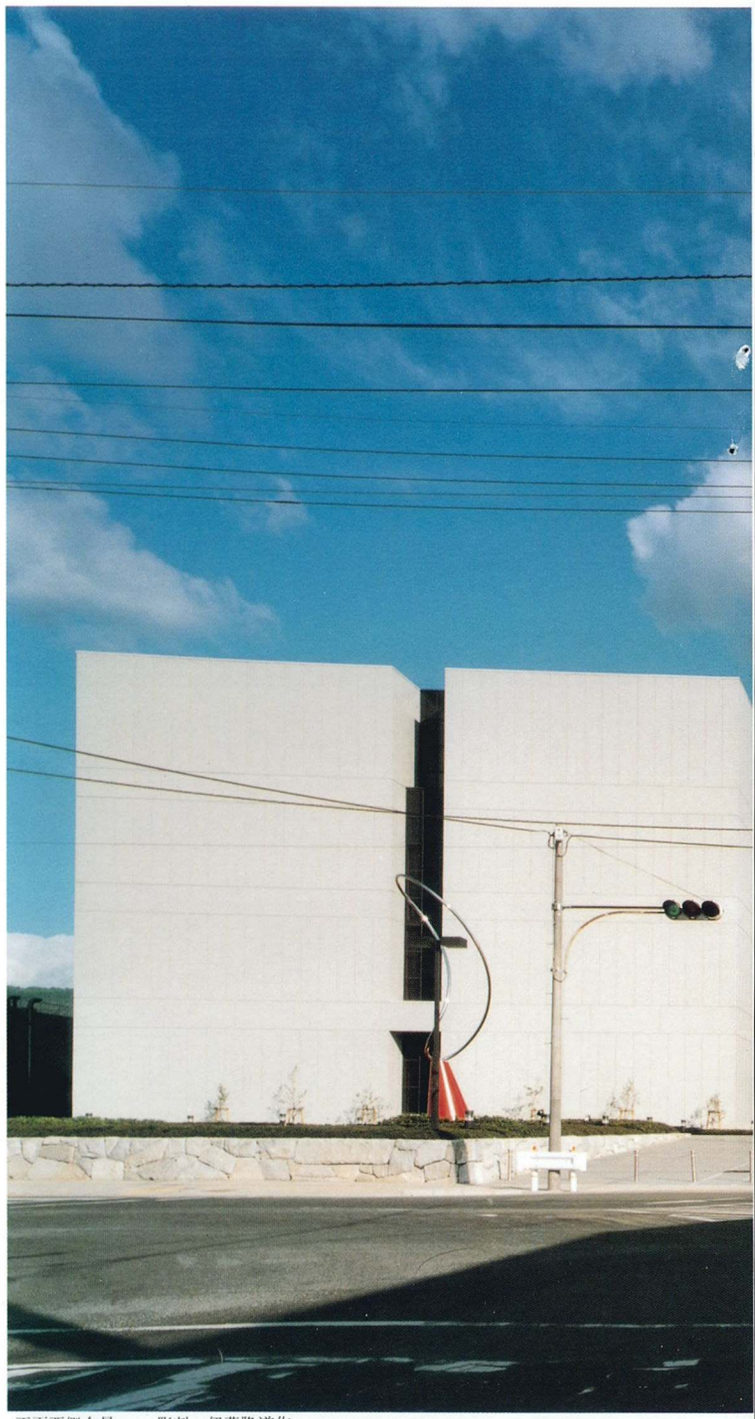
設計　日建設計・大阪本社
施工　鹿島建設

所 在 地　高松市福岡町4-36-1
敷地面積　20,178.43㎡
建築面積　 7,768.58㎡
延床面積　13,792.45㎡
構造規模　RC(一部S)、B1、4F
工　　期　昭和60年7月～昭和61年9月
最 寄 駅　琴平電鉄沖松島駅

撮　　影　日本アートグラフィック



配置・1階平面図　1：2,000



正面西側全景　　彫刻　伊藤隆道作

高松市総合体育館は、市民の多様なニーズに対応できる多目的な総合体育館として計画された。最大5,000人の収容能力を持ち、イベント指向の強い第1競技場と、サブアリーナを始め各種武道場、弓道場、トレーニング室等を有するコミュニティ体育施設とからなり、その内容は高松市のスポーツの中核施設に相応しいものとなっている。

敷地は高松市の東部、詰田川に面した福岡町にある。東面の対岸にはゴルフ場が広がり、その背後に高松のシンボルとも言える屋島が横たわり、まさに絵になる構図がある。そこで、西側のアプローチ道路の延長線上にアプローチプラザを設け、建物はこの西側に、エントランスはプラザの奥、つまり東面に配置する構成とした。更に東西面は力強いマッシブな壁面とすることにより、アプローチである狭間を強調するとともに、エントランスホールから屋島への景観をよりドラマチックなものとしている。この施設がスポーツ愛好者だけでなく、幅広い市民に親しまれ、愛され、同地区の発展に寄与することを願うものである。(上田信也・遠松展弘/日建設計)



エントランスホールから屋島を望む

外装仕上　屋根：ＡＬＣ版露出防水、壁：コンクリート化粧打放し弾性吹付タイル、開口部：アルミ焼付塗装熱線吸収ガラス



アプローチプラザ夕景



第１競技場　椅子を並べたところ　　緞帳デザイン　粟辻　潔

堺市総合福祉会館

設計監理　堺市建築部建設課・昭和設計
施　　工　戸田建設・西川建設共同企業体


正面南側外観


南東側全景


玄関ロビー


多目的ホール

近年、福祉をめぐる社会情勢は、急激な高齢化、核家族化、地域連帯意識の希薄化などに起因する多くの福祉課題が山積みされている。本施設はそれらの多面的な福祉課題に総合的に応える為、堺市の福祉を推進する社会福祉協議会を中心とした民間関係団体並びに、堺市福祉事務所の活動の拠点として計画された。

敷地は堺市の官庁ゾーンの一角に位置し、私鉄ターミナルや高速道路ランプにも近接している。

施設内には地域福祉活動の拠点として、老人、児童、母子並びに身体障害者などの福祉団体の諸室、社会奉仕活動を支援するボランティアセンター、視覚障害者の為の点字図書館、社会福祉の指導者育成の場としての研修室、さらに広く一般市民も利用できる500人収容の多目的ホールを併設している。

計画のテーマは、このような複雑な諸機能をそれぞれ独立させながら、かつ有機的につながりをもたせ、利用客や職員にわかりやすく、使いやすく、安心感と親密感が得られるよう空間構成を行うことであった。

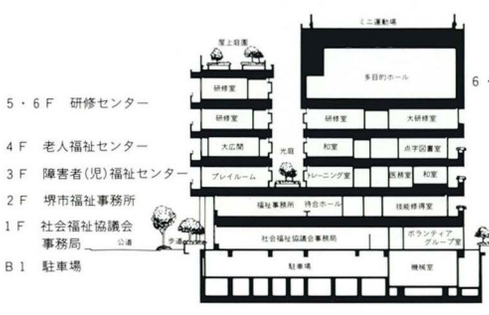
また、施設の性格上、防災、避難計画にも重点を置き、ゆとりのあるロビー、幅の広いローカと屋内・外階段、すべり台を有効に配置し、二方向避難経路を確保するとともに、救助活動を容易にするためのバルコニー、屋上庭園等を積極的に設け、より安全性の高い施設になるよう配慮した。

今後、この施設が堺市の地域福祉の中核として、幅広く市民に親しまれ、利用されるとともに、堺市の福祉がより一層充実し、発展を遂げられることを期待している。

（野畑欣市／昭和設計）



南西側全景



南北断面図

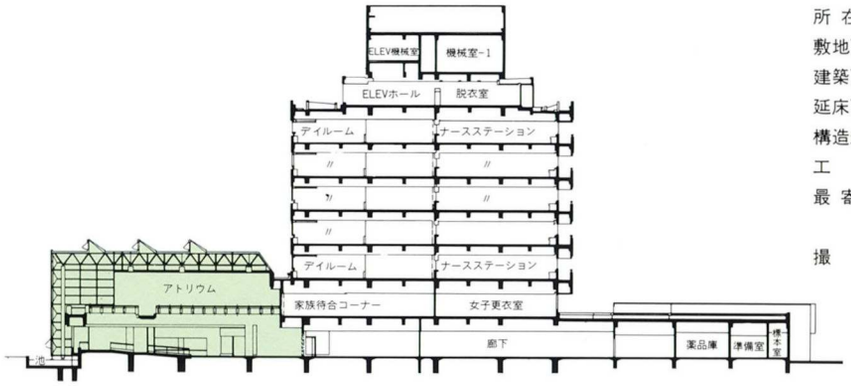


配置・1階平面図　1:1,000

所在地	堺市南瓦町22-1
敷地面積	1,918.58㎡
建築面積	1,420.55㎡
延床面積	8,678.59㎡
構造規模	SRC、B1、7F、P1
工期	昭和59年12月～昭和61年8月
最寄駅	南海電鉄高野線堺東駅
電気	日本電設工業
機械	須賀工業
撮影	島 修一・伸和実業

小山田記念温泉病院

設計監理　藤川建築設計事務所・東畑建築事務所
施　　工　大成建設名古屋支店



断面図　1:800

所 在 地　三重県四日市市山田町5538-1
敷地面積　25,292.23㎡
建築面積　6,523.09㎡
延床面積　16,854.97㎡
構造規模　SRC(一部RC)、8F、PI
工　　期　昭和60年5月～昭和61年10月
最 寄 駅　近鉄本線四日市駅

撮　　影　加藤敏明(SS名古屋)

アトリウムに秋の陽が舞って、蘇った樟の若葉が初々しい。ここは、昭和61年11月、四日市市の郊外に開院した、老人を主体とする長期療養（約1年）タイプの病院である。〝患者のための病院〟が唱えられて久しいが、患者の自主的な生活空間にスペースを割く病院は、今なお少ない。この病院では、病室内の談話コーナー、病棟内のデイコーナー・食堂兼デイルーム、1階のアトリウム、そして屋外の遊歩道と、患者の病状・生活状態に応じた段階的な、患者のための生活空間が設けられている。特に、アトリウムと呼ばれる20M角のスペースは、ガラス屋根に覆われた中に、樟・欅・紅葉や草花を植え込み、四季の変化に富んだホスピタルポケットパークである。周囲には、リハビリテーション・軽食喫茶店・売店・銀行といった施設を配し、集うことの楽しさの中で、変化のある入院生活が過ごせることを目論んでいる。鈴鹿おろしによる厳しく長い冬を過ごす患者にとって、このアトリウムが活性化することにより、回復への意欲につながる場となれば幸いである。

この病院は、患者を総合的に診療するために、歯科を含む15科から成り、また、48℃の温泉を利用した展望浴室も、8階に設けられている。鈴鹿山系の雪景色を眺めながらの入浴は、さぞやすばらしいことであろう。

設計にあたっては、昭和48年より小山田の地で、老人医療・老人福祉に取り組んでこられたオーナーの〝患者のための生活空間を〟という言葉に支えられた。また、基本設計においては、三重大学の今井正次助教授に御指導を受け、特に、外来診療部・手術部の考え方については、設計上その多くを反映させていただいた。設計JVを組んだ藤川建築設計事務所の皆さん、役物の多い建物に最後まで熱意をもって施工していただいた大成建設名古屋支店の関係各位にも、合わせて謝意を表したい。　（松村孝治／東畑建築事務所）







電　　気　東海電気工事
衛生空調　川崎設備工業
昇 降 機　三菱電機
鋼製建具　不二サッシ
硝　　子　セントラル硝子
トラス　太陽工業
天井岩綿吸音板　松下電工
クロス　サンゲツ
ACフロアー　タジマ
排水処理　日本理化工業




←リハビリテーション科

大阪ガスコンピューターセンター

施　　主　大阪ガス
設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　建　　築　大林組
　　給排水衛生　大阪電気暖房
　　空気調和　新日本空調
　　電　　気　近畿電気工事

所 在 地　大阪市西区千代崎３
地域地区指定　準工業地域・準防火地域
敷地面積　84,859.46㎡
建築面積　2,347.48㎡
延床面積　13,850.61㎡
構造規模　SRC、6F、P2
工　　期　昭和60年４月～昭和61年10月

撮　　影　島 修一

大阪ガスコンピューターセンターは、大阪ガス発祥の地である大阪市西区千代崎の地にあり、大阪ガスグループの情報ネットワーク化（G-NET）の中枢となる施設です。
大阪ガスの〝情報化〟を担い、コンピューター利用業務の飛躍的な拡大と高度化に対応するため、現在望める最大限の機能を追求するとともに、発展性を重要視して、「Futurism & Humanism（発展と調和）」をそのコンセプトとしました。
無停電対策としては、コンピューターセンターとしては日本で初めてガスエンジンによるコ・ジェネレーションシステムを導入し、商用電力との並列運転によって電力の安定供給を実現しています。
セキュリティー対策としてはLAC（LOCATION & ACCESS CONTROL）カードを導入し、入退室のコントロールはもとより行き先の確認まで行

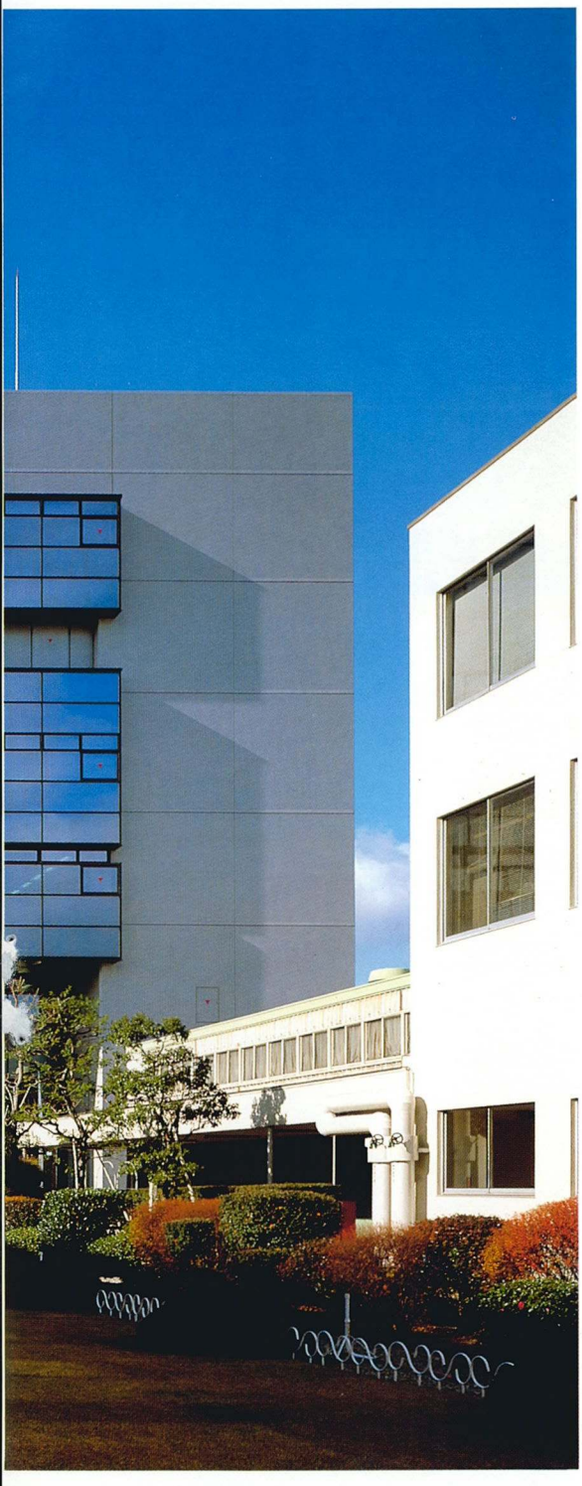


正面東側外観

っています。地震対策については、地表面加速度400galの入力に対しても機能維持ができるよう計画しています。インテリジェント化としては、ビル内に光ファイバーによるエネルギー系LANと情報系LANを組み入れ、これらをコンピューターにより総合的にコントロールしています。また、ビル内のレイアウト変更、設備の拡充についても、フリーアクセスフロアー・パーティションウォール・システム天井・OAコンセント等によりフレキシブルな対応を可能にしています。

高度に機能化された空間は無機的な空間になりがちです。そこで、はたらく人間へのやさしさを失わない配慮をし、徹底した省力化・自動化・省エネルギー化をはかり、創造的業務に集中できる空間づくりをめざし計画をしました。

（安井建築設計事務所）





エントランスホール



正面玄関



北東側全景

ホテルシェレナ

設計　コスモ設計・環境再開発研究所
施工　長谷川工務店









1階ロビー

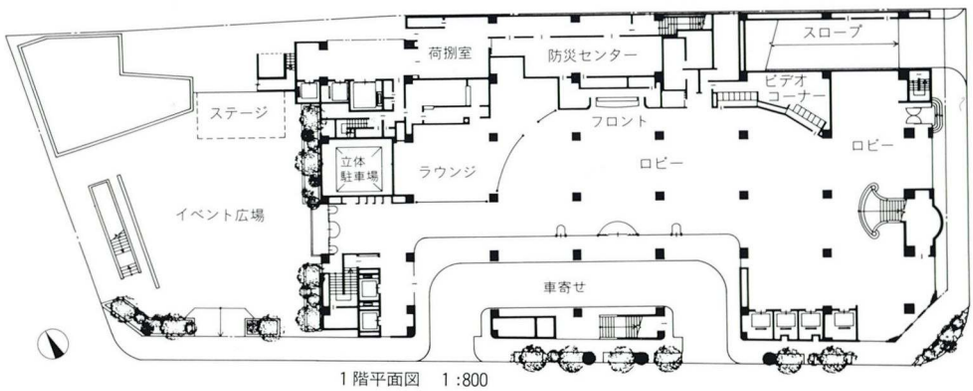
建設地は神戸の商業軸である元町通りと、業務軸の栄町通りに面した「旧三越神戸店」の跡地にある。かつては神戸一の繁華街として賑わったところである。「元町ルネッサンス」(元町復興)をスローガンに土地利用計画をスタートしてから2年余、今その核として「ホテルシェレナ」がオープンした。婚礼宴会をターゲットとした〝ブライダルホテル〟とも呼ぶべきホテルである。1日最高60数組の結婚式披露宴が可能である。施設内容は、まず結婚披露宴をメインに10人～1,000人規模までの宴会に対応できる22の宴会場、そして挙式者を対象とした40～60㎡のラグジュアリータイプの客室が24室ある。式場は神式2、教会式1であり、特に屋上広場に設けたチャペルは、美しい神戸の海と山のコントラストをバックに新しい祝祭空間を演出している。厨房は1日最大3,000食の料理に対応することができ、約1,650㎡の広さを持つ。また1階のロビーのビデオスクエアでは、各宴会場からの挙式披露宴の模様が映し出されており、若い人達に話題性のある空間として親しみやすいものとなっている。

建物はヨーロピアン感覚の重厚で瀟洒なイメージである。外装は自然石を使い、神戸のエキゾチックな都市景観にマッチするよう考えている。構造上の特色は、2階に大宴会場(1,040㎡)を設ける為、3階から7階まで四周をSRC造とし、内部を21mスパンの鉄骨梁と床スラブコンクリートを合成構造とした鉄骨合成梁としていることである。また配置計画上、元町通りに面した空閑地を、「イベント広場」として地元商店街との協調をはかるとともに、本建物の防災的役割を兼ねたものとしている。

(白居秀次／長谷川工務店)



正面外観



1階平面図　1:800

所在地　神戸市中央区元町通6-2-12
敷地面積　3,701.85㎡
建築面積　2,605.66㎡
延床面積　24,876.02㎡
構造規模　SRC、B2、9F
工　期　昭和60年5月～昭和61年9月
最寄駅　神戸高速鉄道西元町駅

撮　影　納崎雄二　黒田青巌

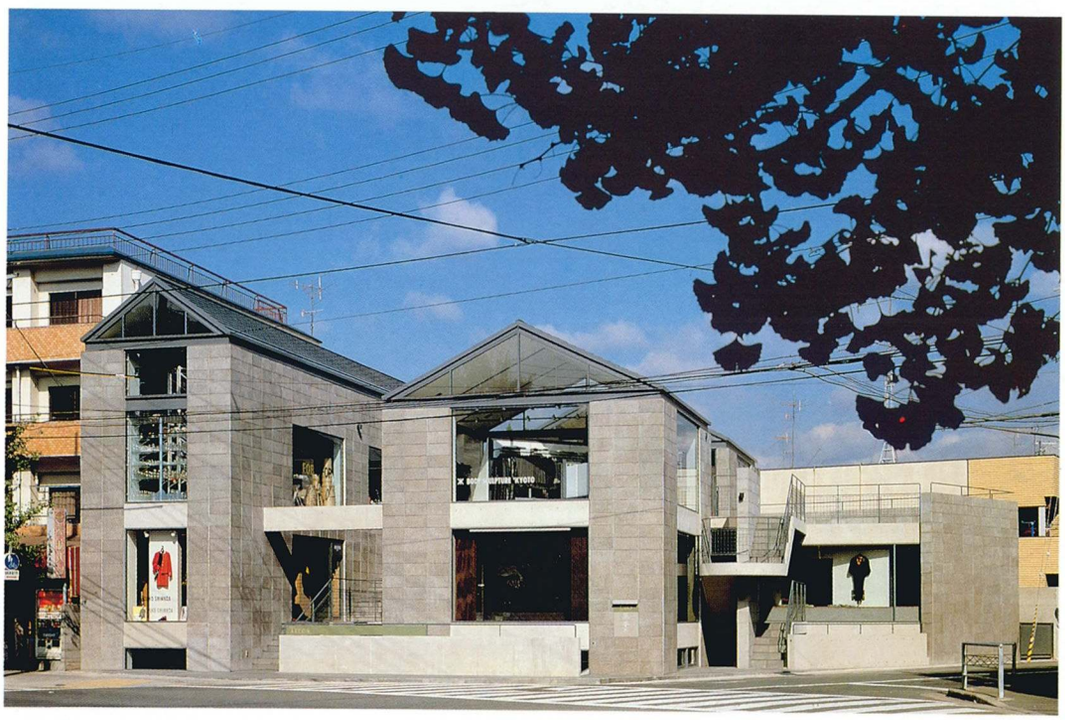
Tree's

RAMBLING GALLERY

Kyoto Kitayama-dori

Gallery

まち・建築・ひと



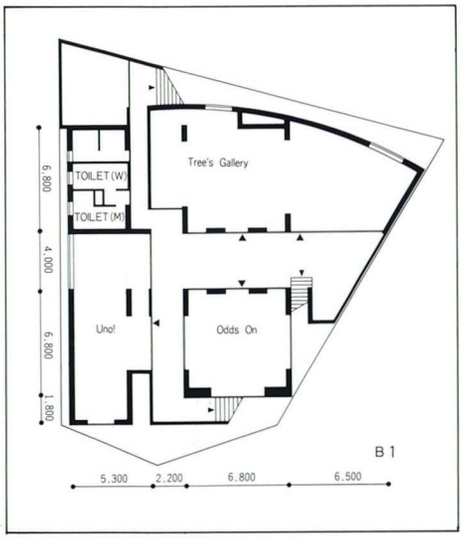
緑と風と太陽との対話

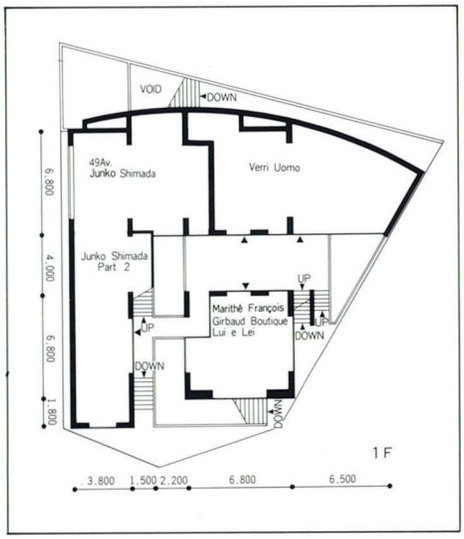
Tree'sビルは、建物の中に風がそよぎ、太陽の光がふりそそぎ、植物園の緑がにおう建物にしたいと思った。また、風と太陽と緑の中を人が散策し、立ち止まり、語り、見たり見られたりのアクティビティが、各shopの周りに展開し、その情景が外部からはひとつの劇のように見えればと考えた。Tree'sの階段、テラス、shopはすべて植物園に焦点を合わし、建物を散策する人々からは常に植物園の緑が目に入るようになっている。階段の昇り降りやテラスでのかたらいのときには、太陽の光が空から降りそそぎ、そよ風が建物を抜けてゆくように、外部空間はできるだけ広くオープンなスペースとし、行き止まりを作らず、人々が自然に建物を一巡できるようにデザインした。北山通りの上品でファッショナブルな雰囲気をこわさないように、また、主役である人間と商品をひきたたせるためにシンプルな形態とニュートラルな色、材料を使用し、ガラス面は可能な限り大きくとり、北山通りから各shopの中がよく見えるように配慮した。（妹尾正治）

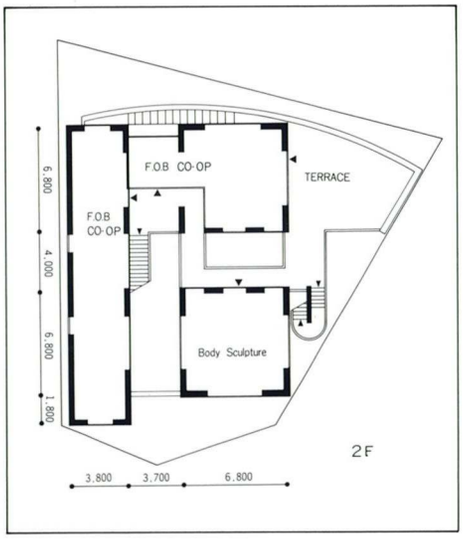
Tree's

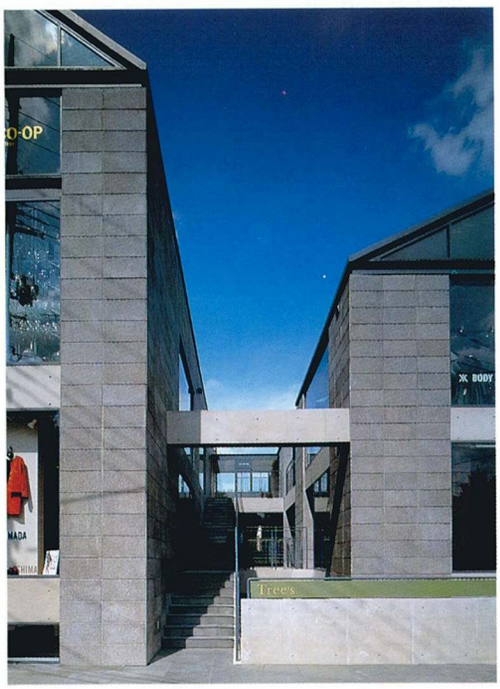
所 在 地　京都市北区上賀茂今井河原町66
設計監理　妹尾正治建築事務所
敷地面積　472.74㎡
建築面積　315.6 ㎡
延べ面積　745.15㎡
　地階　292.05㎡
　1階　272.33㎡
　2階　180.77㎡
用途地域　第2種住居専用地域
主体構造　鉄筋コンクリートラーメン構造　一部鉄骨
　地上2階　地下1階
基礎構造　鉄筋コンクリート造べた基礎
工事期間　1985年12月～1986年9月
屋　根　フッ素樹脂鋼板
外　壁　コンポジットユニット　コンクリート打放し

企画編集　作品作風小委員会　小林正純
撮　影　堀内広治

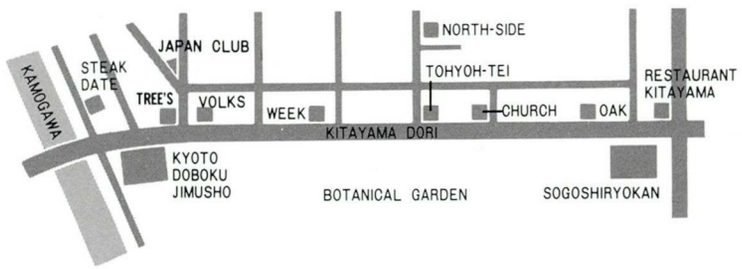












妹尾 正治

1949年　京都市生まれ
1971年　東京大学工学部電気工学科卒　工学士号取得
1973年　東京大学工学部建築工学科卒
1975年　東京大学大学院中退
1977年　プリンストン大学大学院
　　SCHOOL OF ARCHITECTURE 卒
　　MASTER OF ARCHITECTURE 取得
1977年　MICHAEL GRAVES ARCHITECT 入所
1978年　丹下健三都市建築設計研究所　入所
1983年　丹下健三都市建築設計研究所を辞す
1984年　妹尾正治建築事務所創立、現在に至る

妹尾正治建築事務所

東京都港区西麻布3-1-15 西河ビル(〒106)
PHONE 03-479-3921

サントリーホール施工業者

鹿島建設
KAJIMA CORPORATION

電気設備

近畿電気工事株式会社

本　店　大阪市大淀区本庄東２－３－41
電　話　(06) 375－6000

空調・衛生設備

三機工業株式會社

本　社　東京都千代田区有楽町1-4-1 三信ビル
電　話　(03) 502－6111

舞台機構設備

三精輸送機株式会社

本　社　大阪府吹田市江坂町１－13－18
電　話　(06) 385－5621

舞台機構設備

森平舞台機構株式会社

本　社　東京都台東区花川戸２－11－２
電　話　(03) 842－1621

舞台照明設備

株式会社 龍　電　社

東京都港区新橋４－７－２
第六東洋海事ビル
電　話　(03) 434－6982

舞台音響設備

不二音響株式会社

本　社　東京都千代田区6-7-22
電　話　(03) 263－3181㈹

石工事

関ヶ原石材株式会社

本　社　岐阜県関ヶ原町
電　話　(05844) ２－1234

金属建材

株式会社 マ　ン　テ　ン

本　社　大阪市浪速区日本橋東１-10-６
電　話　(06) 644－2111㈹

造作

内外木材工業株式会社

本　社　大阪府大東市谷川２－７－１
電　話　(0720) 72－2161

ステンレス金物

株式会社 田島順三製作所

本　社　東京都千代田区永田町２-14-３
赤坂東急ビル６階
電　話　(03) 581－6291

鋼製建具

田中サッシュ工業株式会社

本　社　横浜市金沢区鳥浜町11－７
電　話　(045) 771－1441

建築金具

美和ロック株式会社

本　社　東京都港区芝３－１
電　話　(03) 452－5551

シャッター・建具

三和シャッター工業株式会社

本　社　東京都新宿区西新宿２-１-１
新宿三井ビル44階
〒160　電　話　(03) 346－3011

作品作風探訪●サントリーホール

大人の街のシンフォニーホール
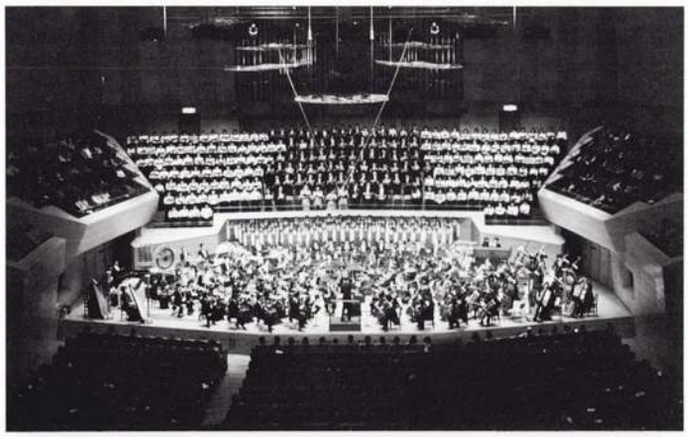
黒川省二

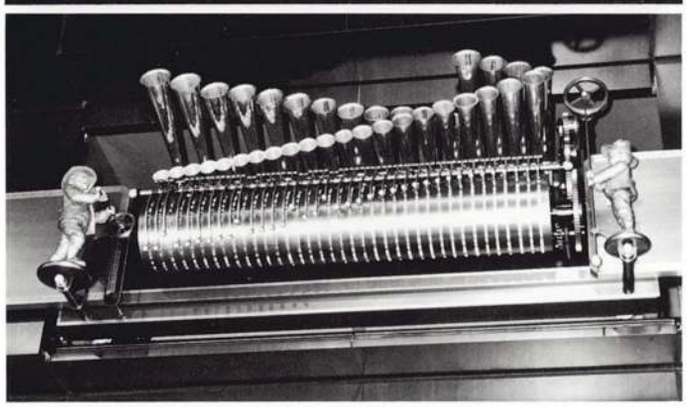
赤坂の新しいシンボル、アークヒルズに着いたのは残り少なくなった枯葉が秋の陽に舞う午後であった。都心にありながら山手の住宅地の様な雰囲気を持っていたこのあたりの、ここ十数年程の様変わりは驚くばかりだ。ハイライズビルディングに囲まれたホール前面の中庭に立つと、ここがどこの国だかわからなくなる。サントリーホールは、この中庭と一体になった緑壇の下に姿をひそめている。

インタビューに先がけ歩いていると、ホールの入口に人だかりがし始めた。エントランス上部外壁のブロンズパネルが静かに上がり、人形が扉を引き開ける。そしてパイプオルゴールが現れ、演奏が始まる。ホッとするミュージックブレイクに聴き入ることしばし、再びブロンズの扉は閉じ、インタビューの時間となった。設計を担当した安井建築設計事務所の松枝京二氏とサントリーホールの鈴木順子さん、この御二人に設計とユーザーの苦労話や裏話をざっくばらんに伺おうというわけである。

音と建築のハーモニー

何よりも建物の中を見ることが先決と、御二人の案内でホワイエへ。〝全体計画の中で割りあてられたスペースに、2,000人収容のホールと400席のホールを入れたら、これだけのスペースしかとれなかった〟と松枝氏の話であるが、2階吹抜のホワイエは、実に居心地の良い空間だ。両サイドにBARのあるのも良い。何年か前、BOSTONのシンフォニーホールで小澤征爾の演奏会の休憩に飲んだカクテルを想い出した。外国のコンサートは、音楽を聴くだけではなくて、こういった場の雰囲気を楽しむ余裕がある。そんな使われ方をされているかどうか、鈴木さんに伺うと、〝このホールで最も人気のある場所の一つ〟だということなので安心した。タキシードやロングドレスを着こなし談笑する人々のざわめきが聞こえてくるような、このホワイエはそれ自体もう一つのステージとなっているのだ。壁面には三浦啓子さんのステンドグラスがある。輝やくガラス魂がぶどうを想起させ、これがサントリーホールであったこと、そしてホールがワインヤード形式であったことと想念が連なる。そしてホールへ。2,000人のホールがとてもまとまって見える、それが第一印象。オークとナラとトラバーチン、全体としてはWOODYな暖かく柔らかな雰囲気だ。音楽家は木のテクスチャーを好むと云う。舞台では今夜の演奏会のリハーサルを行っていた。指揮のケント長野氏と新日本フィルのメンバーである。音がやわらかく聴こえる。そして何より舞台と客席の一体感がすごいのだ。ベルリンまで出向いてマエストロ・カラヤンに確かめて決めたというこの形式。その形状からワインヤード形式と呼ばれている。演奏者側と聴衆席とがはっきり別れる従来の形式とは、明らかに一体感で差が出ている。我が国で初めてというこの形式に、カラヤン氏の太鼓判はあったものの、初めての経験なので、でき上がるまで、それも音を聴くまで、正直なところ不安だったと松枝氏はふり返る。座席の裂地の色彩が、木の肌と良く合っている。柄はオーストリアのアールヌーボー当時のパターンとのことだ。リハーサルも私には演奏会より以上に興味があったが、そっと席を立ち舞台裏へ。演奏家の通る場所は裏方と云えども皆、舞台と同様、木を主材としている。デリケートな音楽家たちは、控室から舞台までの床材のテクスチャーの違いだけで、気がそがれてしまうこともあるとのことである。小ホールのマホガニーの内装は、よりサロン的な色を濃くし、小演奏会にふさわしい華やかな雰囲気につつまれている。





上　オープニングシリーズ　マーラー「千人の交響曲」
下　エントランス上部にあるからくり人形のパイプオルゴール

サントリーホールの設計に対する安井建築設計事務所社長・佐野正一氏の熱の入れ方は大変なもので、松枝氏は毎日出されるスケッチを見るにつけ、緊張するとともに、勉強になったと語っている。

新しい音楽ライフの場

見学を終え、松枝氏と一緒に、中庭をはさんでホールと対峙しているカフェに入った頃には、既に夕方になっていたが、そこに佐野吉彦氏が現れた。彼の話の中で、父・正一氏が話されたこととして、印象に残った話がある。安井建築設計事務所とサントリーの関係は知る人ぞ知るものであるが、その中で三つの記念碑的な建物がある。それは、京都山崎の工場のデザイン、府中のビール工場、そして今度のサントリーホール。それぞれサントリーのイメージ創りに貢献してきた建物であるが、今回が最も大変だったと云う。東京で初めての音楽専用ホール、サントリーがその文化イメージを代表することとなるこのホール、それに我が国初めてというワインヤード形式の採用といった重層する気づかいによるものであろうか。

このような話をしていたカフェは、レストランと一体になっていて、エスパースシンフォニーと呼ばれている。フランス人ダニエル・アルノー他のデザインで安井建築設計事務所も設計監理に関係したサントリー直営店である。演奏会を待ちながら、また終わったあとの余韻を楽しみながら、そのすごし方は様々であろうが、ヨーロッパの本格的インテリアがつくり出す雰囲気は、ホールと相乗効果をあげている。

大人の街アークヒルズとでも云えるだろうか。東京らしいちょっとスノビッシュな雰囲気のただよう街だ。そんな街によく似合うホールができあがった。　（くろかわ　しょうじ　編集委員・竹中工務店）

――「作品作風探訪」は今後随時掲載していきます。作品は巻頭カラー頁に掲載。

第32回工高生デザインコンクール入選作品

審査総評

審査委員長 徳岡昌克

昭和30年より毎年開催されてきたこのコンクールは、今回で第32回目であるが、応募校数34校、応募作品数158点という本企画史上の中でも、特記に値する結果であった。コンクールに寄せられた関係各位の期待と熱意に応えるべく審査員一同、心して厳正に審査にあたってきた。

第一次審査に残った45点は、できるだけ自由な発想と多様性をもとめて慎重に選んだもので、いずれも表現の密度が高く、内容的にも見るべきものがあり、僅差で入選10点へとしぼられていった。最優秀賞を得た沼保君の案は、当初には特に審査員の注目を独占したものではなかったが、審査がすすむ程に、その素直な思考や表現が共感をよび、第8次の最終審査において入選案10点について、各個に意見交換を行い、最優秀作品として決定されたものである。森君を代表者とする共同制作案は、テニスコートの向きをめぐって異論はあったが、いかにも建築的なデザインへの精力的な取り組み方が評価されて入選した。井上君を代表者とする共同制作案は、軽快なスポーツ施設としての表現が評価され、関口君の案は、透視図でのプレゼンテーションの良さが得票した。石井君と星野君を夫々代表者とする共同制作案は、デザインのファッション性と表現力が秀れていた。五加君と阿井君の案は共にその配置の割り切り方の良さで票を得た。特に阿井君の発想はユニークではあったがその表現の力不足が惜しまれる、精進を期待したい。さて、高須君と石原君の案は、模型写真を貼付した高密度なプレゼンテーションでその表現技能については嬉しいかぎりで、日頃の訓練のほどが充分しのばれるものであったが、その場所の設定が必ずしも共感を得られなかった。その点、最優秀の沼保君は課題の主旨とこの企画の趣旨を素直に表現した好作品といえる。何分、158点の作品のなかから10点をしぼることは、仲々の作業で入選こそ逸したが、木村一也君、野村哲也・小磯毅君共同制作案、野坂猛・林正幹君共同制作案、相原茂・五十嵐勝君共同制作案、中里好博君、片山晴夫君の案は7次選考まで残り、また、松村佳久男君の案は途中までかなりの評価を得ていたが残りきれず残念なことであった。

応募しようと決意しゴールまでたどりついた158案の諸君全員に深く敬意を表するものである。

審査記録

9月20日　応募作品受理

10月16日　予備審査－応募作品について募集規定の点検（工高生教育小委）
規定不適合事項のある作品　151／158点

10月24日　事前審査－審査会欠席の審査員4名による。

10月25日　審査会　審査員10名
募集規定不適合事項のあるものも含め、全応募作品について投票討議、意見交換によって審査を進める。（審査時間 13:30～21:00）

審査経過

1次　全応募作品について審査員1人が10点を選び、投票する。
欠席の審査員5人のうち事前審査終了の4審査員の投票（1名・10点）も含める。（時間　13:50～15:20）審査員計14名

集計結果

得票	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
作品数	1	3	0	1	1	2	5	9	8	15	45／158

＊1名のみ8点投票　総数138点

＊上記のうち得票のない作品（113点）を除く。
＊得票1以上の作品45点を以後の審査対象とする。

2次　討議により1次審査にて得票1以上の作品15点について審査。審査員1人が1点を選び投票する。白紙投票も認める。
（時間　16:00～16:20）審査員10名

集計結果

得票	3	1	0	
作品数	1	1	13	＊白紙投票6

＊上記のうち得票のない作品（13点）を除く。

3次　得票を得た作品2点と1次審査で2票以上4票以下の作品22点を加え計24点の作品について審査。審査員1人が10点を選び投票する。
（時間　16:30～17:00）審査員10名

集計結果

得票	7	6	5	4	3	2	1	
作品数	4	3	5	4	7	0	1	24／24

4次　得票5以上の作品12点と得票4以下の作品12点について討議。
討議の結果、得票5以上の作品12点を選ぶ。
選出した作品12点と1次審査で得票5以上を得た作品8点を加え、さらに得票4以下（3次審査）の作品の中から推薦された作品3点を含め、計23点の作品について審査。審査員1人が1点を選び投票する。
（時間　17:40～18:00）審査員10名

集計結果

得票	8	7	6	5	4	3	2	1	
作品数	2	2	1	4	7	2	5	0	23／23

＊上記のうち得票3以下の作品7点について討議。
討議の結果、得票4以上の作品16点に対象をしぼり、個々の作品について意見交換。
（作品のレベル、課題に対する考え方、プレゼンテーションの仕方、工高生のコンペに応募する態度、レベル等）

5次　協議により10点を選ぶが、選考外の作品6点について再度審査。
審査員1人が1点を選び投票する。（時間　19:00～19:30）審査員10名

集計結果

得票	6	4	3	0
作品数	1	2	2	1

＊上記のうち得票3以下の作品3点を除く。得票6の作品1点は残し、得票4の作品2点について審査員1人が1点を選び再度投票。得票数の多い方1点を残す。

6次　最終選考にあたり、5次審査で選んだ作品10点と得票6を得た作品1点を加え、計11点の作品について意見交換。
11点の中より9点を入選作品と決定。（時間　19:50～20:30）審査員10名

7次　入選わく1点の選定について協議。選考外の作品2点と5次審査で除いた作品のうち、審査員の推薦による作品2点を加えた計3点について再度審査。審査員1人が1点を選び投票。（時間　20:30～20:45）審査員10名

集計結果

得票	5	3	2
作品数	1	1	1

＊上記のうち得票5の作品を入選と決定。

8次　入選作品10点について各個に意見交換を行い、うち1点を最優秀作と決定。
審査会を終了する。（時間　20:45～21:00）審査員10名

以　上

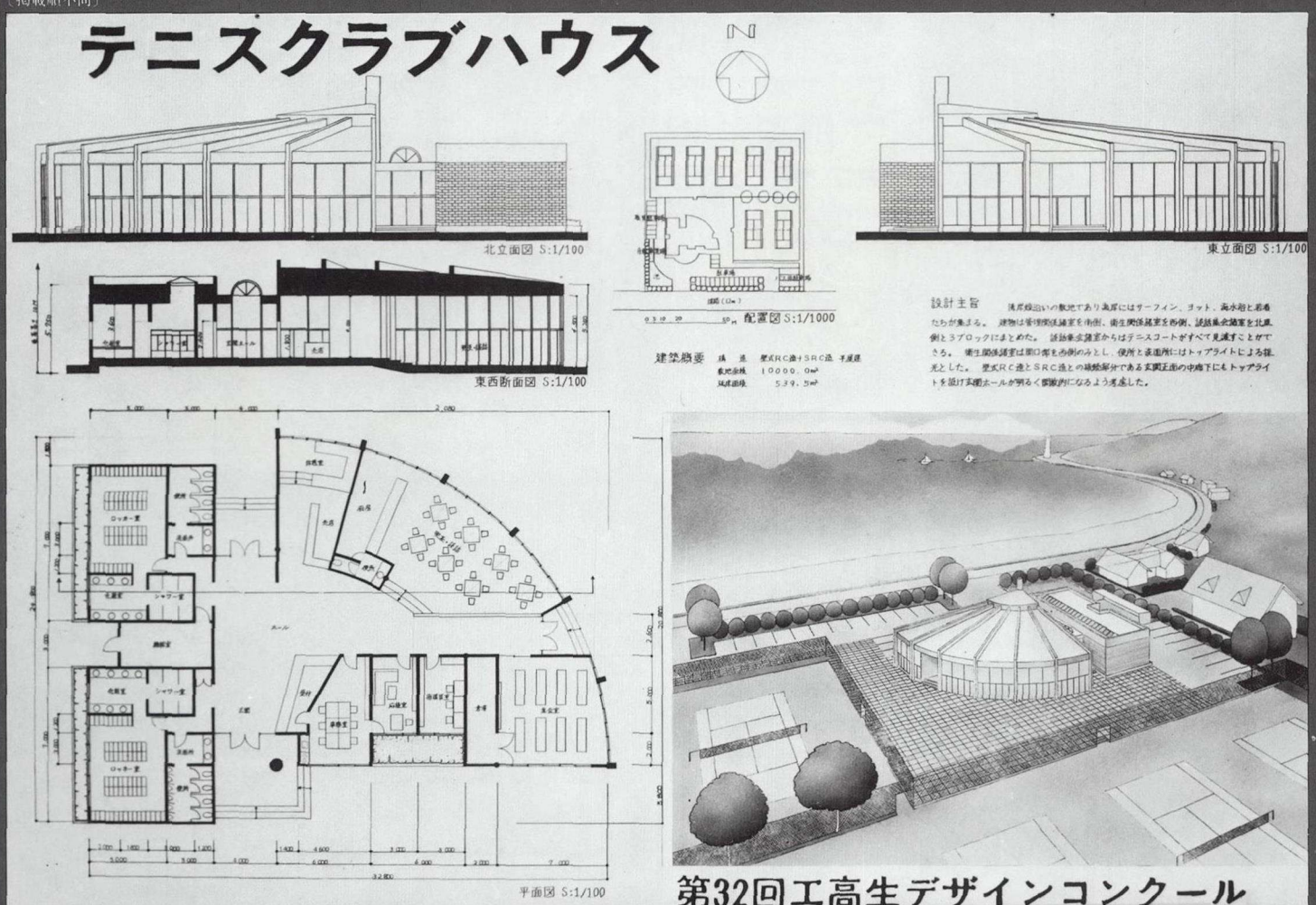
設計課題　テニスクラブハウス

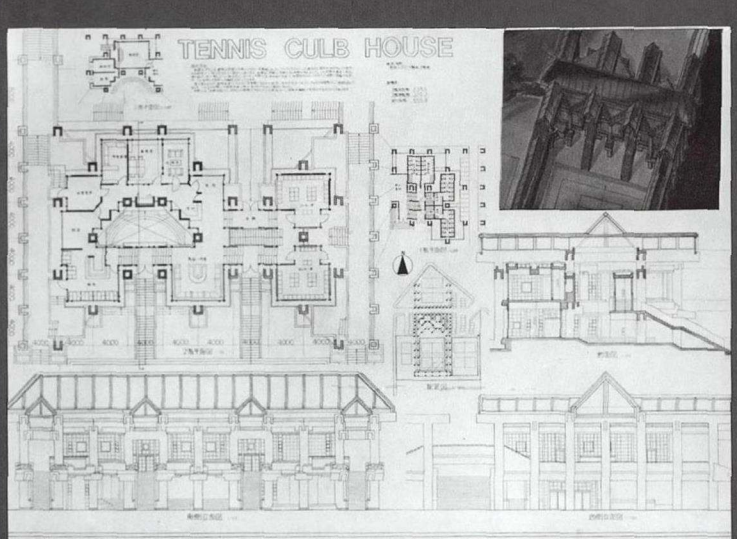
主　　催　日本建築協会
応募校数　34校
応募作品数　158点
締 切 日　昭和61年9月20日
審 査 会　昭和61年10月25日
表 彰 式　昭和61年11月22日

審 査 員

徳岡昌克／徳岡昌克建築設計事務所
足立　啓／関西大学工学部建築学科
植田凱夫／村野・森建築事務所
大泉研二／日建設計大阪本社
奥　俊信／大阪大学工学部建築工学科
狩野忠正／竹中工務店大阪本店
清水一雄／藤木工務店京都支店
西村征一郎／京都工芸繊維大学住環境学科
羽生克彦／安井建築設計事務所
橋本健治／坂倉建築研究所
藤本尚久／近畿大学理工学部建築学科
三谷幸司／大林組本店建築設計第二部
峰岸　隆／大阪工業大学工学部建築学科
安田丑作／神戸大学工学部建築学教室
山本達哉／山本・西原建築設計事務所

〔掲載順不同〕





▲入選・最優秀賞　沼保　篤（群馬県立高崎工業高等学校定時制・2年）

先生にやってみないかといわれてやってみましたが、自分の考えたものがどれだけの作品にできあがるかが、楽しみでもありました。先生の意見を参考にしながら、各室の配置を決め平面を考えました。平面図ができあがり立面図・断面図・透視図などを仕上げ、やっと出品することができました。「最優秀」と聞かされて、まさかと思いました。作品を仕上げられただけでも不思議なくらいでしたので、本当にうれしいです。これからも賞に負けないように、頑張りたいと思います。

◀入選　森　彦一・柳伸一郎（共同制作）　椎葉美和・小代由香（大分県立大分工業高等学校 3年・3年 2年・2年）

本来、クラブやこれに類する建築物は、自然との調和、一体化を目標に設計されるものなのに、実際には自然が取り入れられていない場合が多いように思われる。私達は開放された空間を中間部、開放されない空間を内部、まったくの自然を外部とし、この3つの関係を考えたが、問題はいかにして内部を自然に向かわせることかにあった。そこで主要な空間を2階に、その他の室とコートからの動線が考えられるものを1階に設けた。2階には吹抜けを設け、1階は外部と通じ、風が吹込むようにした。

課題の主旨

テニスは、今や四季を通じて手軽に行なえるスポーツとして、老若男女に盛んに行なわれるようになってきた。
そのために、地域の人々の日常利用や勤めがえりの人々の利用を主とした、都市内や郊外の施設が増し、またリゾート地の施設も各地につくられている。
本課題は、上記のいずれを想定してもよいものとし、テニスを通して、人々のコミュニケーションがはかれる、明るく、楽しい、「テニスクラブハウス」の提案を求める。
現代のニーズにあった、若々しいスポーツ感覚によるユニークなデザインを期待する。

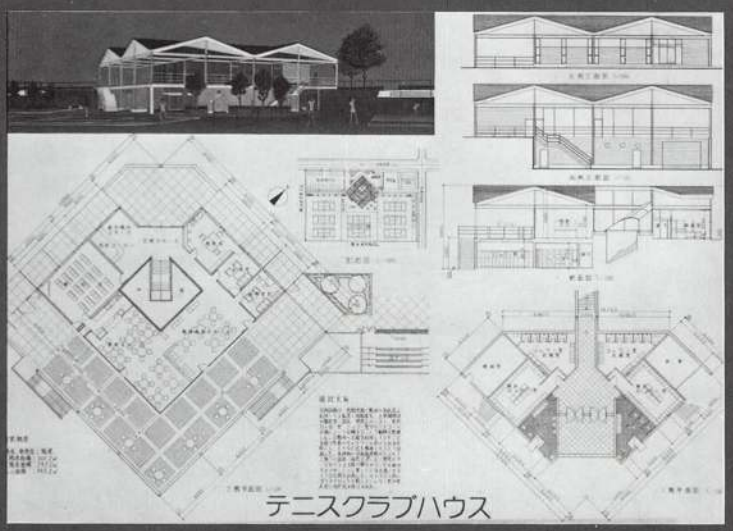
設計条件

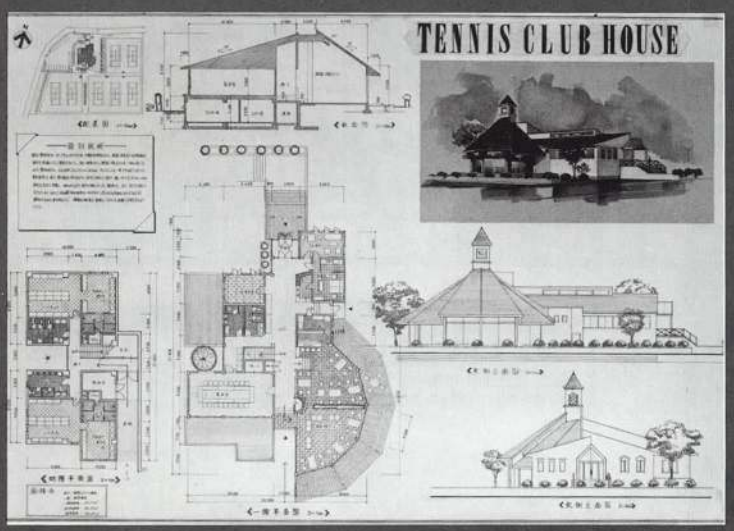
1．敷　　地：面積は10,000㎡程度とし、自由に想定する。
2．規　　模：延べ面積500㎡程度。平家または2階建、構造は自由とする。
3．所 要 室：

（室名）	（面　積）		
集　会　室	50㎡程度	事 務 室	20㎡程度
喫茶スペース（厨房を含む）	50㎡程度	応 接 室	15㎡程度
談話・休息スペース	50㎡程度	指導員室	15㎡程度
ロ ッ カ ー 室	男女各30㎡程度	機 械 室	適　宜
化粧室及び脱衣・シャワー室	男女各30㎡程度	倉　庫	適　宜
売 店 コ ー ナ ー	適　宜	受　付	適　宜
展示・案内スペース	適　宜	便　所	男女各20㎡程度

※その他、必要と思われる諸室を加えてもよい。

4．屋外施設：テニスコート（7～8面）、駐車場（30台程度）、自転車置場（屋根付、適宜）



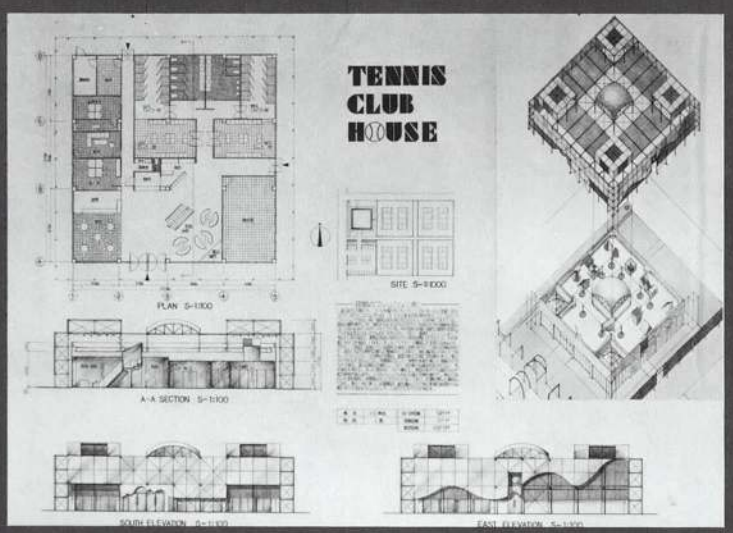


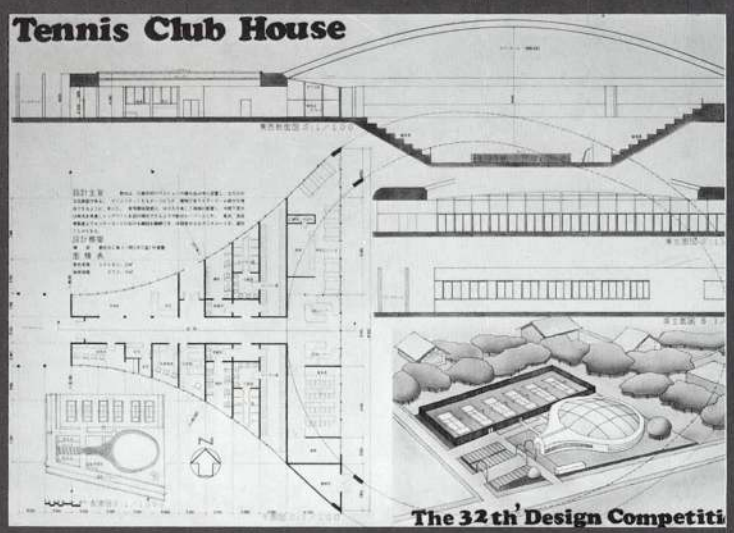
▲入選　井上健一・内山幹雄（共同制作）（大阪府立西野田工業高等学校3年・3年）

この作品は多くの人々が気軽にテニスをする事ができるようにニュータウンの一角に敷地を想定した。建物はシンプルなものとし、光を多く取り入れ明るい室内空間を作ることを考えた。またバルコニーを設け外部と内部をつなぐ中間的な空間とし、ゆったりと1日過ごせるようにした。全体計画ではオープンな施設にすることを考え、テニスコートに観覧席を設けテニスに親しむ事ができるようにした。中間テスト開始の直前に入選を知らされ、テスト終了後2人で、今までの努力が実ったと喜び合いました。

▲入選　関口景子（群馬県立高崎工業高等学校・2年）

この設計にあたり以前から念頭にあった、建築と社会とのかかわりを生かしてみようと思いました。現代の社会事情を見てみると、ふれあいの場がなくなりつつあり、また余暇を個人の健康管理にあてる時代になってきています。そのため人々のコミュニケーションを深めるように、明るく、開放的な設計を心がけました。設計コンクールに応募したのは初めてだったので、通知を受けた時は信じられなく、とまどう気持ちとうれしい気持ちが同時に心に満ちていくのがわかりとてもうれしかったです。ありがとうございました。





▲入選　石井由加・舘野光正（共同制作）（群馬県立高崎工業高等学校3年・3年）

テニスはもうファッション。時代の最先端をいき、流行ともいえるそのデザインは次次に様相を変える。この時代の速い流れに建築も対応していかなければならないのではないだろうか。そこで建築もファッションとして考えた。建物本体のボディ部分に開口を大きくとり、外部にパイプを組み、パネル・ネット・ワイヤーなどでこれらを組み合わせ、その時代の要素をとり入れて常に着がえてゆく……。完成を目標に毎日頑張ってきました。この入選をはずみとして、もっとよい作品製作をめざしたいと思います。

▲入選　星野　浩・宮下淳一（共同制作）（群馬県立高崎工業高等学校定時制4年・4年）

4年間の最後の思い出に入選できたらと思い、出品しました。8月中旬まではバレーボールが忙しくて出品作品がなかなかできなかったが、以前から建築を志すからには1度は出品してみたいと思っていました。建物はテニスラケットをモチーフに、かつ実用的になるように考え、1つぐらいこんなテニスクラブもあっていいのじゃないか、と思ってデザインしました。やったなぁ、と思った。毎日毎日夜おそくまで仕事のことで会社にも迷惑をかけたけれど、入選できてホントによかった。

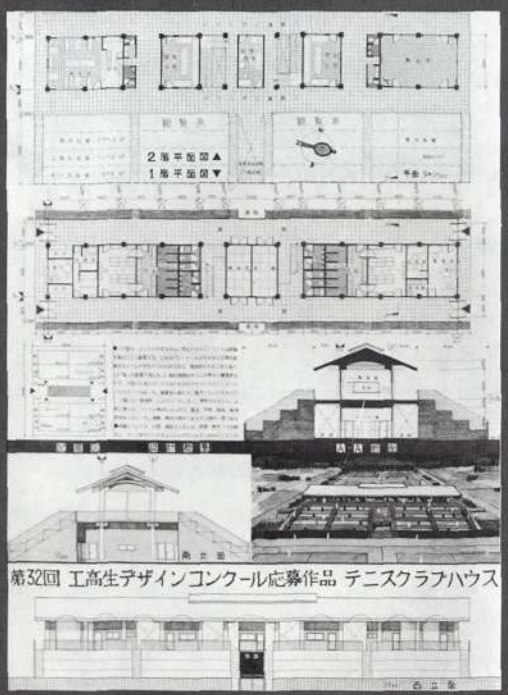
所要図面

1．配　置　図：縮尺１：1,000(前面道路・コート・駐車場・植栽等及び方位を記入する)
2．平　面　図：縮尺１：100（建物周辺の状況を示す）
3．立　面　図：縮尺１：100（２面以上、建物周辺の状況を示す）
4．断　面　図：縮尺１：100（設計意図がわかるもの１面以上）
5．透　視　図：外観着色仕上げ。
6．設計説明：設計主旨および建築概要（構造・階数・各階床面積・延べ面積表示など）を簡単に記入する。
7．そ　の　他：平面図、断面図には主要寸法を記入する。

▶入選賞牌

賞牌の原案は、サモトラケで発見された「ニケの像」をモチーフとしたものです。



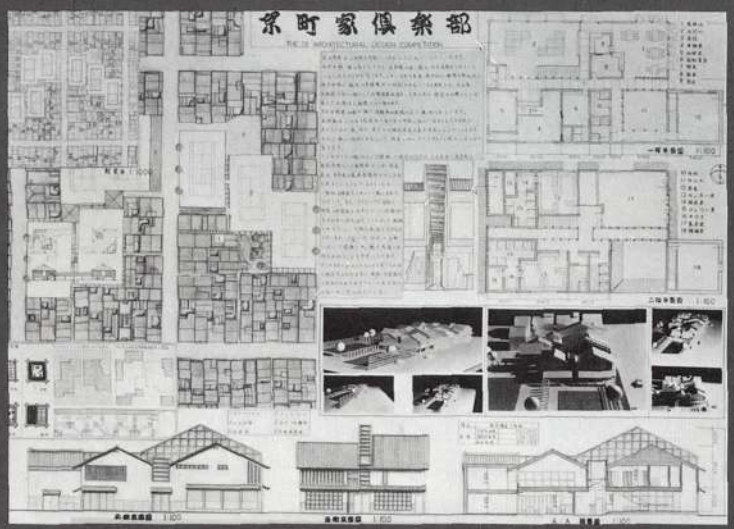


第32回 工高生デザインコンクール応募作品 テニスクラブハウス

◀入選　五加裕己

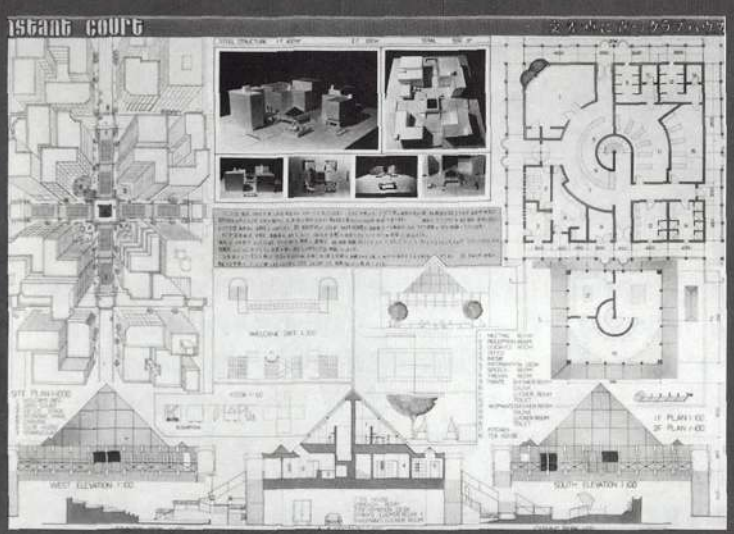
(静岡県立静岡工業高等学校定時制・4年)

今までに何度か応募したが入選できず、今年は最終学年であとがないという意気込みでチャレンジしたが、さらに中学からテニスをやっていたので余計にこの作品に最後の思いをかけてみたくなった。この作品のポイントは、まず建物と観覧席を１つのものにするため、建物を中心に両側にコートを設け、コートはプレーヤーが太陽を直視しないような方向に配置した。そして、２階には休憩・談話・集会などをとり、眺望を楽しめるように計画した。最後の年で入選できて、ほんとうにうれしかった。



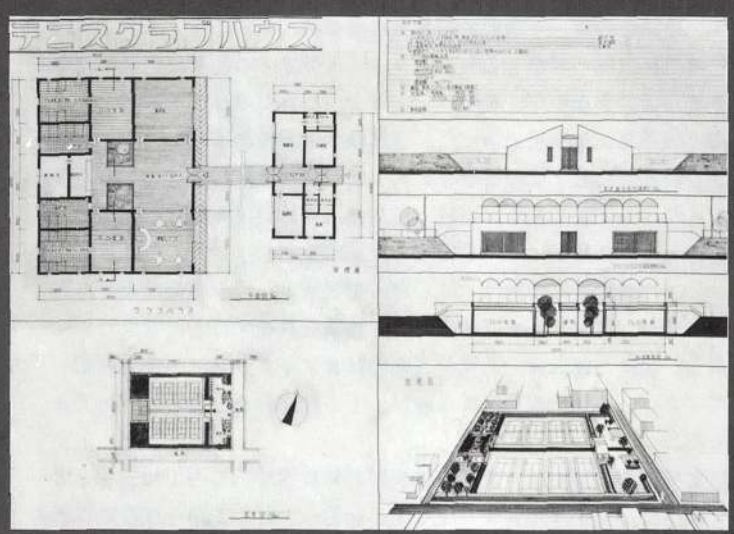
▲入選　高須孝仁(兵庫県立尼崎工業高等学校・3年)

現在のテニスクラブは、会員制のクラブなどが多く一部の人々しか利用できないのではないかと思われる。そこで、ごく身近で誰でもが利用できるようなクラブハウスを主題として考えた。立地は町の中が良いと思い、京の町屋の再開発を含めて計画することにした。町並みをくずさないようにテニスコートやクラブハウスを挿入し、テニスクラブ全体に町屋との違和感をなくし、テニスコートを町屋の裏庭的存在にし、クラブハウスも町内に開放し、新しいコミュニケーションができ上がって来ることを期待した。



▲入選　石原一弘(兵庫県立尼崎工業高等学校・3年)

テニスコートやクラブハウスのための土地を都市部で得ようとすると莫大な金額となり、利用者にも大きな負担がかかります。そのため、どこにでもある道路をインスタントコートとすることによりテニスを一般化し、誰もがテニスを楽しめるようにしました。またオフィス街でテニスをすることによりオフィス街にゆとりを与え、町全体も活性化するだろうと思いました。クラブハウスは、シンボリックなピラミッド型として人や車の利用しやすい交差点の中央に設け、歩道橋の四方は公園としてそこに人が集まる空間を作りました。



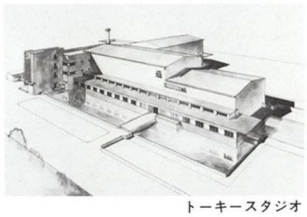
▲入選　阿井成一(横浜市立鶴見工業高等学校・2年)

テニスは、比較的気軽なスポーツであり、年齢層も幅が広く、競技という固いイメージではないのだから、ここに来ることが楽しくなる〝場〟を作りたい。また、近隣の人々には、公園的でありテニスクラブがここにあることで、公園のようなよい環境をつくるようにしたい。以上のことを、計画上のテーマとして設計しました。クラブハウスの「建物」が課題のポイントであったようなので、自分の考えるテーマ「風景をつくること」と焦点がずれているのではと、心配していましたが、入選できて自分の考えが正しかったと嬉しく思います。

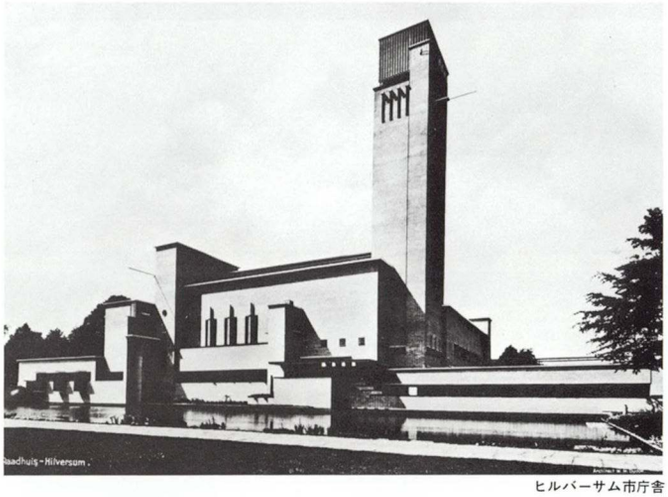
※上記入選者の感想文は、誌面の関係上委員会にて要約の上掲載しました。(文責・植松清志／教育委員会委員)

浦辺鎭太郎





トーキースタジオ



ヒルバーサム市庁舎

1．子供の頃——原風景としての倉敷

建築家浦辺鎭太郎は、1909年倉敷近郊の農村で生まれた。当時の倉敷は、今のように年間400万人もの観光客で賑わう町ではなく、むしろひっそりとした町であった。それでも、農村と都市とは対比的な光景をもち、両者のコントラストを見ながら幼年期を過ごした。さらに、倉敷の町は、一地方都市には違いなかったが、大原家を中心とした文化的香りが当時からあった。こうした環境が、後に地域に根ざしたまちづくりや建築の創作の礎となったことは殆ど疑う余地がない。

父親は、児島郡役所に勤務する農業技師で、祖父の「これからは学問の時代」という意思を受けて、結婚後農学校に通った。しかし、その父親も、帝大卒の郡長と仕事の上で何度か衝突する中で、息子はどうしても帝大に入れたいと願うようになる。こうした父親の願いに応えて、岡山一中、六高を経て1930年に京都帝国大学の門をくぐることになるのである。因に、同郷では８人目の帝大生であった。

2．建築への志——京都帝国大学建築学科

浦辺鎭太郎の建築とまちづくりは、大原家との出会いを避けて語ることはできないが、そのきっかけをつくったのは、岡山一中・六高の同期生、守屋正であった。守屋は大原家の親戚筋にあたり、若き日の浦辺に大きな影響を与えた。浦辺が建築学科に進む動機をつくったのも守屋である。当時、児島虎次郎画伯に傾倒する守屋は、芸術としての建築に思いを寄せ、建築家を志していたのである。しかし、六高時代に病気で入院したのを契機として、結局は医学の方面に進む。結果として、浦辺は一人建築を目指すことになったのである。後に、浦辺は、大原孫三郎の経営するクラレ（当時の倉敷レイヨン）に入社することになるが、その仲立ちをしたのも守屋であった。

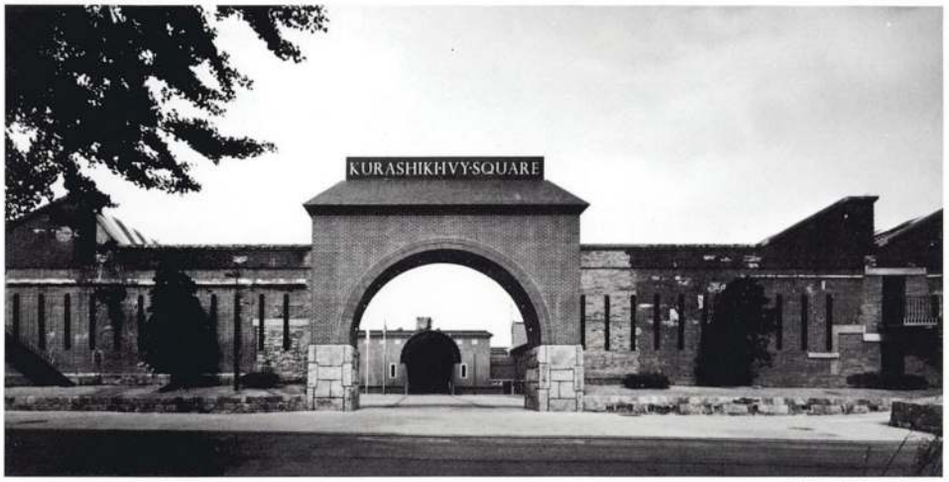
京都帝国大学では、現在京都大学名誉教授である西山夘三らと席を並べた。イギリス貴族の住宅などをテーマとして語られた武田吾一教授の住宅論に対して、後に西山は強い問題意識を抱き、庶民住宅研究を開始する。その西山を、浦辺は、学生時代から一貫したテーマを追求し続ける尊敬すべき友人であると語る。

当時、学生達が強い関心を抱いていた建築家は、何といってもグロピウスとコルビジェであったが、浦辺は、グロピウスにより強い興味をもったという。トロッケンモンタージュバウに代表される工学的アプローチの魅力とコルビジェの作品に対する感覚的な違和感があったからである。一方、アメリカの建築家ライトにも強く心を引かれる。卒業を１年遅らした浦辺は、東京の遠藤新建築創作所で仕事をした経験をもつ。この時、ライトについて多くを学ぶ。その後、ライトの造形に魅せられながらも、都市的でないプレーリースタイルに何か物足りなさを感じていた時、オランダの陸軍技師デュードックを知る。今も浦辺事務所相談役室に写真が飾られているヒルバーサムの市庁舎や学校は、グロピウスやライトを通して学生時代から浦辺が求め続けてきたものが何であったのかを確認するに十分である。そこには、原風景としての倉敷のヒューマンスケールと適度な都市性、温厚で文化的な雰囲気と技術的合理性が共存している。こうした建築を生み出したヒルバーサムは、伝統主義のアムステルダムと近代主義のロッテルダムの間にあり、公平性と客観性を重んじた風土的特色をもつ都市であったという。中庸の建築を指向する浦辺の感覚に合致した所以である。

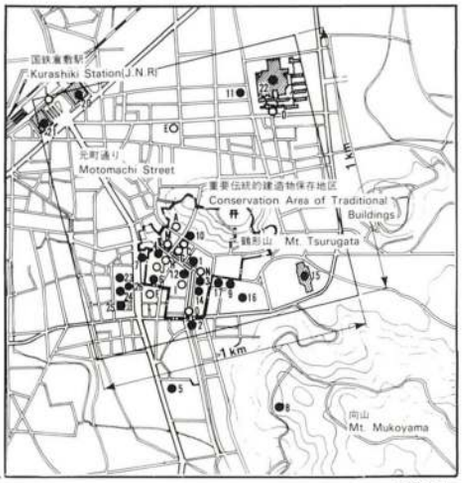
数学が得意であった浦辺は、卒業論文として音響遮断をテーマに選び、卒業設計は、当時最先端の建築の一つであったトーキースタジオを提出している。卒業にあたって、浦辺はアーキテクトというより、むしろエンジニアを目指していたのである。

3．クラレ技師——大原総一郎の精神に学ぶ

浦辺が京都帝国大学を卒業した1934年の日本は、1929年のウォール街の大恐慌直後の不景気がまだ続いていた。求人状況は極めて悪く、就職の見通しがつかない学生も多かったが、友人守屋の紹介でクラレに営繕技師として入社することができた。ちょうどその頃、クラレは新繊維レイヨンの生産に踏み切ったばかりであり、施設建設の需要が高まっていたのである。月給は事務系の社員より５円高く65円と悪くなかった。以後約30年間、同社に勤務、工場や厚生施設の建設に従事すると共に、大原家を通じて様々な文化的刺激をうけた。ヨーロッパに度々遊学し、倉敷をローテンブルグにまけない都市にしたい、ゲゼルシャフトではなくゲマインシャフトとして倉敷を育てたいという願望を持ち続ける大原総一郎の精神に、営繕技師浦辺は強い共感を覚えたという。戦後、財閥解体や農地改革によってクラレと大原家は打撃を受けるが、総一郎の精神は何等変わることはなく、日本のローテンブルグ目指して倉敷のまちづくりを進めた。倉敷市の市長、大山茂樹の役割も大きかった。総一郎の夢を行政の立場から支援し、浦辺の建築の良き理解者でもあったからである。



倉敷アイビースクエア



倉敷の町

4．建築家浦辺鎮太郎の誕生と倉敷のまちづくり—1㎞角と四方櫓

1962年、大原総一郎により倉敷建築研究所が開設され、浦辺は本格的な作家活動を開始する。2年後の1964年には長らく営繕部長として勤めてきたクラレを退社し、倉敷建築設計事務所を設立、さらに、1966年には浦辺建築事務所と社名を変更した。研究所開設当初の代表的作品であると共に建築家浦辺鎮太郎の存在を世に広く知らしめたのは、1963年に完成した倉敷国際ホテルである。このホテルは、総一郎が大きな役割を演じたという第2回日米ダートマス会議


倉敷国際ホテル

の舞台としても企画されたものであり、国際都市倉敷実現の重要な拠点でもあったという。総一郎の精神をよく理解し、倉敷のまちづくりの技術的な担い手であった浦辺は、このホテルを国際的な視野から位置付けると共に、地域社会へのインパクトと調和を強く意識して町並みに解け込んだ親しみやすいデザインにまとめ上げることに成功した。完成度の高いネオクラシズムの意匠は、浦辺がこれまでに試みてきた倉敷建築を洗練させたものであり、日本建築学会賞、建築年鑑賞を受賞している。

毎日芸術賞を受賞した倉敷市民会館も思い出深い作品である。無目的になりがちな多目的ホールを避け、あえてヨーロッパ古典音楽のためのコンサートホールとして国際的評価に耐えるものを狙ったという。これはまた、いいコンサートやオペラがあるとなると、ウィーンにまで聞きにいったという総一郎の夢の実現でもあったが、総一郎は既にこの世の人ではなかった。オープニングにあたって岩城宏之を招き好評を博したが、その後も数々の国際的イベントの企画が続けられ、総一郎の遺志を継ぐ大原謙一郎、大養麗子、正田泰子によって行われる“くらしきコンサート”の舞台となっている。

浦辺は、倉敷のまちづくりを語るとき、しばしば1㎞角と四方櫓を持ち出す。ヨーロッパであろうが日本であろうが古い町はほぼ1㎞角におさまっているという。人が歩いて往来できる範囲、ゲマインシャフトとしてのコミュニティの成立する規模がこれにあたる。そして、城壁都市なら四隅に櫓が立つ。倉敷の町も1㎞角内に古い町並みがあり、鶴形山を中心に、国鉄倉敷駅、旧倉敷庁舎、倉敷市民会館、倉敷中央病院が言わば角櫓としてそれを守るよう配置されている。4つの櫓は何等かの形ですべて浦辺が関わってきたものである。

5．若者へのメッセージ——「持続性」について

「建築におけるクライアントの役割をもっと重視しなければならない。いい建築は建築家の腕だけでは決してできないし、クライアントあってこその建築ではないか。」この重みのある言葉は、そのまま大原総一郎論ともなっている。浦辺は、コマーシャルな建築を馬鹿にしてはいけないとも語る。「人が集まる建築、大衆に支持される建築こそ私の求めるものだ。」技術に厳しく、文化を重んじる浦辺の作品は、また、その大衆性、庶民性を抜きには論じることができない。さらに、キリスト教精神に支えられたゴシックの永遠性までは求めないにせよ、「持続性」を求め続けることの大切さを説く。用途が工場からホテルへと変わっても、基本となる空間・構造を崩さなかった倉敷アイビースクエアのような場合も含めて、持続性のある建築をつくっていく必要がある。「建築家に定年はないし、人生にも定年はない。自分自身の持続性を心掛けると共に、子から孫へと伝承する持続性も考えなければならない。」倉敷の町は正にそうした持続性を持ち続けた町である。そして、自らの建築とまちづくりの後継者としての松村慶三を高く評価する。芭蕉の「不易流行」を座右の銘としているのも同様の思いからである。「あの前川國男でさえ、晩年はこんな歌を好んでいましたよ——風に靡く富士の煙の空に消えて行方も知らぬわが思ひかな。」前川から聞いたという西行の和歌である。これは800年前の作であり、持続性は何に由来するものかと浦辺は考えている。

高田光雄（編集委員・京都大学助手）記

うらべ　しずたろう
1909　岡山県生まれ
1934　京都帝国大学卒業
　　倉敷レイヨン（現・クラレ）入社
1962　倉敷建築事務所（現・浦辺建築事務所）開設
1965　日本建築学会賞（倉敷国際ホテル）
1975　日本建築学会賞（倉敷アイビースクエア）
1986　日本建築学会大賞（地域の風土に根ざした町づくりと優秀な建築の創作活動による建築界への貢献）

書　評

建築に対する覚悟を促す

太田隆信

昭和30年前後に建築を学んだ私達にとって、丹下研究室の大谷さんというのは、実にたのもしい兄貴といった存在であった。その大谷さんが、退官された、ということは、もう60歳になられたのだ。この本を手に、改めて日本の建築の、建築界の、この30年間を、これまでとは違う角度から考えてみなければ、と思った。

建築を通して都市を見る

全体の構成は、最初の「都市と建築の文脈を求めて」が、大谷さんの最終講義、第II章以下は、これ迄に発表された文章をテーマごとに編年体でまとめてある。編集後記の書き出しに「建築を通して都市を見ること、都市を建築が集まってできるものとして認識するところから出発し、建築が集まって都市をつくる方法を求めること。大谷幸夫が一貫して追いつづけてきたのは、『個』である建築の確立を通して、都市という『全体』の成立を導くこと、その方法を設計の中で捉えることであった……」と、この本の内容、つまり大谷さんの思考を的確に要約してあるが、この30年、そのプロセスは、一本道ではなかった。「建築から都市へ」「都市の認識」「環境の歴史性」「都市形成の主体」「建築家と社会」等々タイトルを並べただけでも、大変であったな、という感じであるが、大谷さんは、それぞれの分野で、きちんとした発言を、丁寧にしておられる。そして、それが貴重な歴史になっている。

大谷さんは、背筋のしゃんとした姿勢のいい建築家である。ずばり正論をはくという感じである。それがちっとも嫌味ではない。気持ちよく聞こえる。福岡市役所、木曽駒の文化会館等のコンペでは、審査員として、きちんと歯切れのよい発言をしておられた。関西人の私から見ると、いかにも江戸っ子らしく「ぼっちゃん」を思わせるようなところがあった。気持ちよく正論が聞こえる一因はそこにあると思うが、それだけではない。建築を通して都市を見るというその根底にある「焼け野原に私もバラックを建てまして、焼け残ったお蔵とバラックに、おふくろや姉や弟たちと住んだわけです。そのとき、山の手の起伏の激しい風景の中に、余り遠くではなくしかしすぐ近くでもない、そういうあたりにポツポツと掘っ立て小屋ができるわけです。山の手の起伏の中に掘っ立て小屋ができて、そこに人影が動くわけです。……そのバラックと人影と、それから暗黙のうちに、顔が定かにはわからないぐらいの遠さだけども、心の中であいさつを交わしているという、そういう状景があるわけです」少し引用が長くなったが、あたたかい人々の存在、それが、大谷さんの正論の原点である。



建築・都市論集

大谷幸夫著

勁草書房刊
4,500円

座談会「戦後派建築家の出発点」

ここ迄書いてきて、大谷さん、菊竹さん、鬼頭さん、林さん、横山さん等々による座談会「戦後派建築家の出発点」のことを思い出した。'72年5月から6回に分けて雑誌「建築」に連載されたこの座談会で、それぞれが、自分のこと、建築のことを、じっくりと、素直に語っておられた。やはり同世代の評論家の、こんな話しは、めめしいのではないか、無意味ではないか、という発言もあったが、そのことをも含めて、興味深く読ませていただいた。この座談会、副読本として、推薦とは言わぬまでも、書きとめておきたい。

大谷作品の魅力

大谷さんの第一作である「麹町地区再開発計画」には、丹下さんの大谷さんというイメージを超えた、新鮮な何かがあった。それが、続く「東京都児童会館」では、巨大感のあるスケールの中に、何ともいえない暖かみのあるヒューマンな感じであったし、最近の「金沢工業大学」「国立京都国際会館大展示場」では、きめの細かいコンクリートのディテールとして表れていた。そのあたりが、大谷作品の魅力であると思ってはいたのだが、具体的には、なかなかうまく言い表せなかった。今回ようやく、その秘密が、少しは理解できたかなと思った。

この本は、すらすらっと読み終えるといった類のものではない。正統派である。硬派なのである。じっくりと腰をすえて取り組まねばならない。かなりしんどいことである。だから例えば、最終講義である第I章を読んで、それから途中はずっと飛ばして、最後の「私の中の建築」を読んでもいいのではないか。それで終了ではいけないが、座右に置いて、気分の高揚しているとき、順をおって読んでゆけばよいと思う。時間が、うんとかかってもかまわない、それだけの価値ある本である。

「ところで、私が、私自身の内部で、建築をもう一度やり直そうと考えていることには、私なりの背景がある」以下の結びの文章は、美しく、すばらしい。大谷さんのこれからへの決意の表明であると同時に、読者に対してもぐいぐいせまってきて、建築に対して、都市に対して、覚悟を促すひびきがある。

書評委員(敬称略)
伊藤郁郎（日建設計）
伊従　勉（京都大学教養部助教授）
太田隆信（板倉建築研究所大阪事務所長）
加藤邦男（京都大学建築学科助教授）
橋本敏子（生活環境文化研究所所長）
増渕昌利（神戸市営繕課）
山形政昭（大阪芸術大学建築学科講師）

新刊寸評

物語 I ものの建築史

風呂のはなし

山田幸一監修
大場　修著

本シリーズ発刊の主旨が素直でよい。「風土に密着して長い歴史にはぐくまれてきた在来工法の中の各部位や材料のルーツ、変遷をありのまま記述」しようという試みだそうである。

風呂を取りあげたこの本は、日本人の入浴習慣、銭湯のルーツ、風呂の種類と時代背景、と通常語られる路線にのりつつ、各場面の図面や写真も豊富に入っていてよい。

個人住宅での風呂が普及したのは、まだ歴史が浅いこともあって、話の中心は銭湯に片よりがちなのはある程度やむをえない面があろう。ならば、徹底して銭湯のみにした方がいっそよかったのではないか。個人住宅の風呂という面では、銭湯と機能的にも規模の上からも、文化的な意味からもかなり異なるからである。



内容の大半を占める銭湯建築については、コンパクトにまとめられている割には情報量も多い。明治以前の銭湯の浴室は、戸のすき間の明かり以外は、ほとんど真っ暗だったなどという記述は、当たり前のことのようで新鮮な指摘だ。

橋本敏子（鹿島出版会刊　1,300円）

私が読んだ本

社会変化と建築の関係を読む

吉羽逸郎（大阪府建築部営繕室）

生まれつき本を読むことが苦手である。当然文章を書くことも苦手である。小さい頃から暇さえあれば機械いじりや模型作りをしていた。手を動かすことは頭のトレーニングになると言われている。文字の方ではなくそちらの方で少しでも頭のトレーニングをしてきたのだと自分を慰めてみるものの、やはり淋しい限りである。軽薄短小から重厚長大へと世の中が変わりつつあるらしいが、やはりじっくり本を読むことが基本であるには違いないと思われる。

海野弘の「モダンシティーふたたび」

最近まで通勤の際、朝も夕も始発電車で座って25分間を読書の時間と決めていたが、ダイヤの改正で朝がダメ、帰りは遅くなることが多くてダメということになってしまった。そのかわり、立っていても手軽に読める「新聞」や「日経アーキテクチャー」位は、隅々まで読んで社会常識は確保するようにしている。

サンケイ新聞の夕刊に連載中の美術評論家海野弘氏の「モダンシティーふたたび」は、昭和初期を中心とした大阪の生き生きとした雰囲気を建築や都市を通して文学や風俗にまで広げて読ませてくれる名文である。当時のモダニズムのいぶきが大阪の活力を表現しているようで大変おもしろい。また大阪の資料としても役立ちそうなので、切り抜いて保存している。

最近関心のある本に社会予測に関するものがまずあげられる。世の中の動きと建築は密接な係りをもっていると思われるが、現代社会の動きをなかなか理解できないもどかしさが、いつももやもやとまとわり付いている。ポストモダニズムが流行しているが、社会全体のメカニズムの中で建築はどうなるのか、多いに興味が引かれるところである。『大変動』（アルビン・トフラー著、徳岡孝夫訳、中央公論社）『メガトレンド』（ジョン・ネイスビッツ著、竹村健一訳、三笠書房）『エントロピーの法則』（ジエレミー・リフキン著、竹内均訳、祥伝社）等、これらの本は、単なる未来予測ではなく、変わりつつある現在を的確に示してくれる。トフラーの説によると、今までの「第２の波」の産業的大量社会は、人間の感覚や運動能力を拡大する機械を発明し、大量生産、大量消費の社会を作り、多国籍企業が生まれ世界的規模の生産が行われた。建築においては、機能主義であり、インター



ナショナルスタイルであり、工業化であった。今迎えつつある「第３の波」社会は、人間の筋肉でなく頭脳力を拡大する機械によって、非大量化や多様性が増大する。情報化時代と言われているが、それは非大衆化が経済の分化によって起こり、そのために全体の統合を維持するのにますます情報を必要とするようになってくるそうである。なかなか難しいが、私達のまわりでインテリジェントビルやＯＡ化等とやかましく言われている背景が、少しわかったような気になれる。大衆という言葉は古くなり、差異を求めて人々は分衆へと変わり、生産も小規模多品種生産や地域主義になり、建築界のポストモダンもなるほどとうなずけることもあり、建築が経済や社会のメカニズムといかに強くつながっているかわかる。

この系統で気楽に読んだのは『成熟社会の流行現象』（電通）や『タウンウォッチング』（博報堂生活総合研究所）等がある。前者は流行のメカニズムを理論的かつ豊富な実例を通してわかり易く読ませてくれる。また後者は〝時代の「空気」を街から読む〟とそのサブタイトルにあるように、街からいかに多くの情報が得られるか、また街が計画的ではなくいかにゲリラ的に作られそのダイナミックな展開をしているかを、都市計画的な分析でなく都市の生活者の側から分析されていておもしろい。

分類してみて多いものに、日本とつく本がある。読んだもの積んであるもの取り混ぜて、日本の美、色、間、禅、能等に関するものである。日本人だから日本というわけではないにしても、私には避けて通れないし今後も関心を引かれるテーマであると思われる。

読んだ本ではなく、ながめた本であるが、『世紀末建築』（講談社）という写真集は（値段が高くて買えないが）、名建築が迫力のあるグラビアページで迫って来る逸品である。暇な時にながめるにはうってつけである。

半実用的ジャンルがほとんど

こうして書いてくると、読書ぎらいではあるが少しずつ読んでいるものだなぁと改めて思い知った。ただ、半実用的なジャンルがほとんどであり、文学とまではいかなくてもベストセラーにでも親しむ余裕があったらなぁとつくづく考えさせられる。いつの日か新ジャンル開拓をしてみたいと思う。

よしば　いつろう
1946年　金沢生まれ
1969年　神戸大学卒業後、大阪府建築部勤務
現在、設計担当係長
主な作品
サンパレスひらかた、大阪府農林技術センター展示館、自邸、大阪府布施保健所、特別養護老人ホーム光明荘

新刊寸評

都市は野生でよみがえる
花と緑の都市戦略

吉本元男著

文脈の整理が恐しく悪いのが玉に傷。筋を見つけようとして疲れてしまう。花→雑木林→マロニエという展開は、何度読み返しても分からなかった（142～145頁）。

しかし、素晴しく迫力のある本である。都市を緑と水と花とでよみがえらそうという戦略、具体的なアイデアが次々と示される。三面貼りされてしまった都市河川の有様を悲しむ人に、そして大都会でホタル再生を夢見る人に是非一読をすすめたい。

増渕昌利（学芸出版社刊　1,200円）

建築の発想　日本と西欧

谷川正己著

「建築の発想」という題であるが、読んだ感想は、建築がよくわかってきたということか。建築の美学と力学の見方・考え方を、建物の見近かな面からとらえて平易に分かりやすく語られ、今更になるほどと思わせるところが随所にみられる。著者の幅広い知識と興味ある言葉が楽しい本を作っている。それにしてもアーキテクト（建築家）という言葉は古くギリシャに語源をたどると「国家的事業を行う偉大な技術者」という意味であり、質の高い建築を目指すならば、建築家は単なる家をたてる技術者に止まってはいけないのだという指摘は、身につまされる事ではある。

伊藤郁郎（朝日新聞社刊　840円）

名古屋こそ人間らしい都会

飯島宗一　名古屋大学長
vs
中島　一　東海支部長・愛知工大教授


中島　一


久屋大通り
通りの真ん中は
広場になっている

東京、大阪、そして名古屋

中島　昭和39年、東京オリンピックが開催され、新幹線が走りました。また、池田内閣の経済の高度成長政策が着実に歩み出したころでもありました。このころを起点として、名古屋は、東京と大阪の間にはさまれた都市となってしまって、東京、大阪、そして名古屋という順序が出来上がってきたように思います。

飯島　新幹線はたしかに、距離を、時間を短縮し、情報を早く運んでくれるものとなりました。だからといって、名古屋は、東京、大阪の通過駅になったとか、支店機能が不要で名古屋支店が本社へ引き上げられるといって憂う心配はいらないと思う。それに替わる経済活動が行われればよいのではないでしょうか。

中島　名古屋を象徴するものの一つとして、百メーター道路（久屋大通り）があります。その真ん中にテレビ塔。戦前は鶴舞公園と名古屋市公会堂が名古屋の中心的存在であったといわれていましたが…。

飯島　久屋大通り、そしてこれに直交する若宮大通りは、都市防災の意味で、戦後、田淵助役が中心になって計画されたものですが、今のような車を予想した都市計画ではなかったものです。しかし、この道路の真ん中に、森があり、噴水がありで、現在ではだんだん名古屋の顔の意味を果たしてきているようですね。

中島　名古屋大学のあるあたりは、戦前は名古屋の東の境界で、それ程の高木もなく平凡な地勢でしたが、いまやこれより東の方に立派に開かれた都市ができてきました。

飯島　そうですね。東名の名古屋インターチェンジに通じる道路網があり、さらに若宮大通りが通る計画があります。また、付近には緑が多く、比較的閑静で、現在でも環境がよいところです。

中島　ところで、日本の大都市をみると、東京、大阪、京都は、かつて都があり、それぞれ個有の文化を形成してきました。また都づくりにも特色があり、それが基盤になって現在へと継承されてきたものですが、名古屋は〝都〟になったことがありません。

飯島　〝都〟があったからということは、現在を考える上では必ずしも重要なことではないと思います。

徳川の親藩であったここ尾張徳川からは、徳川幕府時代一度も将軍を出していません。紀州、水戸藩からは出ていますが。尾張は、どちらかというと押さえというか、外へあまり出したがらない傾向がありました。しかし、内にはすばらしい文化を創り出しているのです。それは、徳川美術館の所蔵している美術、工芸品を見ても分かります。

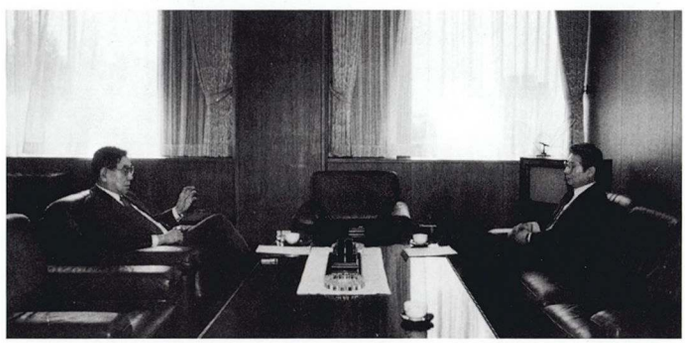
都づくりは、その地勢や気候、風土などを考慮して計画されたわけで、たしかに都市を形成する上の基本的な条件をもたなければなりません。しかし、それ以上に大切なのは、都市としての発達条件について考えることではないでしょうか。名古屋は名古屋としてあるべきです。東京、大阪をまねる必要はない。もちろんいいところは学ぶべきですが……。東京は町がゴチャゴチャしていて人が住めるところなのか疑問に思う。大阪は緑が少なく砂漠のようで、大阪の人はよく住んでいるなぁと思うときがありますね。

文化芸術の土壌と背景

中島　いま私どもの周辺では、環境をよくしようという市民運動がいろいろ行われています。この環境の中味も、自然環境――緑や水や空気――、文化環境、そして生活環境、また身近な環境を見つめきれいにしようというように住民として地域の環境づくりに力を入れています。いっぽう行政でも、生活環境にアメニティーを求めるため、都市景観形成のための条例を制定している都市が増えてきました。ご承知の通り、名古屋市、岡崎市は都市景観環境条例、豊田市も懇話会をつくり検討しています。

このような名古屋、尾張は、木曽三川と広く肥沃な濃尾平野と奥深い木曽、飛騨山脈をもつ、地勢上はまことに恵まれた位置にあるわけで、それらが文化を創る土壌となってきたのでしょう。

飯島　さらに南に開かれた海があり、交通の要衝でもありますから。



中島　古来から名古屋は〝芸どころ〟と言われてきました。それだけ市民は鋭どい鑑賞眼をもっていたのでしょう。

飯島　御園座というのがあって、芝居が常に行われているので、この点は恵まれていました。名古屋は、東西のお芝居が必ず通らなければならない地理的位置にあるので、その機会が多くあったのでしょう。



飯島宗一

いいじま　そういち
1922　長野県生まれ
1946　名古屋大学医学部卒業
1952　名古屋大学医学部講師
1958　名古屋大学医学部助教授
1961　広島大学医学部教授
1969　広島大学長
1977　広島大学医学部教授
1978　名古屋大学医学部教授
1980　名古屋大学医学部長
1981　名古屋大学長

主な委員　大学設置審議会委員、大学入試センター評議員、国立大学協会理事、臨時教育審議会第4部会長、日本医学会幹事、国連大学協力会理事

主な著書　〔専門〕「病理学各論」上下、「核放射線と原爆症」、「炎症と生体防御」、「広島・長崎の原爆災害」、「組織病理・アトラス」　〔一般教育〕「これからの学校教育と家庭」「教育と放送」「大学改革と方策」「教育と社会」

それにお茶も盛んです。ちょっとお宅を訪ねると、お抹茶が出る、というように。

中島　名古屋について、非常に残念な表現ではありますが、〝文化不毛の地〟という言葉があります。また〝白い街、名古屋〟という言葉もあります。この〝白い街、名古屋〟というのは、かつてＣＢＣが名古屋の街の歌をつくるにあたって、内村直也に依頼したとき、彼は〝陽光さんさんと輝く名古屋〟としたところ、本旨を曲げて誰かが〝白い街〟と誤まって口にしてしまったとか。

飯島　名古屋は緑が多いまちです。それも屋敷林を市民一人ひとりが大切に育て手入れをしています。東京・大阪などでは、もうほとんど見られなくなりました。大阪にはもっとも川をめぐる水はありますが……。緑はたしかに空気を清浄にするとか、清々しさを感じさせるとかの効用がありますし、心をなごませてくれます。その点、久屋大通りなんかいいのではありませんか。

これからの教育と建築

中島　この間、私は、名古屋の名東区のある中学校区の中学生を対象にいろいろ生活調査をしたことがありました。その結果、驚いたことがあるのですが、中学生の就寝時間です。73％の子どもが11時30分ごろまで起きている。何をしているのかと尋ねてみると、勉強だという。何か気の毒な気がした。また、家族一緒に夕食を摂ることについて、53％の家庭が一緒にとれていない。それは子どもが欠けているからだという。その原因が塾へ行くためだということも知りました。飯島先生は、臨教審の第4部会長としても活躍されていますが……。

飯島　たしかに今の子どもはみんなよく勉強しますね。それは親御さんの願いが強いからでしょう。

教育者が受験戦争をつくっているのではない。教育者はみんな、もっと教育的環境を望んでいるはずです。教育批判はいろいろな人がしていますが、いざ自分の子どもとなるとやはりいい学校へ、となる。そこの実際のところを抜きにして、今の学校教育批判だけをしてみても何も始まらない、解決しない。本来、教育とは、親・地域がもっと力を持っていたはずです。今は、親・地域が教育的力を見せていないから、学校に任せるかたちになっている。

中島　ところで、学校とくに義務教育の小中学校の施設をみると、その形態がほとんど同じものですね。片廊下式で、教室をその南側に配する平面型で、ホームルームを配しています。その他、多少プランの異なるものも最近は少しずつ試みられてはいますが、まだまだ実験段階だといえます。

飯島　個性のある教育を子どもたちに、との考え方はたしかに重要です。

学校の施設は最近よくなってきました。しかしその多くは、鉄筋コンクリート造ですし、屋根は陸屋根。それが、緑の多い山間の自然環境のところでも、都市の郊外であろうと、都心であろうと、同じような形態と色彩をもっています。これらは、建築家の皆さん方の責任でもあるのではないでしょうか。

それから稀ではありますが、最近、すばらしい木造の校舎も出来ていますね。木の膚の柔らかさ、木目の雅やかさ、木全体からくる和らぎ感が、子どもの教育環境に有効だと思います。学校建築は耐震・耐火構造とかいろいろ制約が多いようですが、学校は教育をする場なのだから、一番教育しやすい施設ということを最優先に考える必要があります。木造校舎は、教育の環境として良いと思うのです。それに外国の例を見ていると、木造の方が場合によっては耐久性があるのではないかと思えてくることもあります。

若いころ、ヨーロッパに行ったとき、フランスのマルセイユで、コルビジェのユニテ・アビタシオンを見たとき、さすがにすばらしいものだと感心したことがあります。名古屋にも、りっぱな建築・まちを、ぜひ建築家につくってもらいたい。戦後のしばらくは、諸施設が経済優先でつくられたのもやむをえなかったのでしょうが、これからの建築家は、経済性以上に人間性を重視してつくるべきだと思います。

中島　昨年（1986年）は名古屋で、プレデザインイヤーと称してアジアデザインフォーラムを催しました。デザイン関係の団体が中心になって、テーマを〝わが町わがデザイン〟として、市民とデザイナーのディスカッションの場を持ったのですが、私どもをめぐる生活・文化を創るのに、デザイナーの役割の重要さを改めて強く感じたものです。これからの町づくりは、今までにも増して私ども建築家の責任が重要になってくるでしょうが、21世紀に向けて更に研鑽をしていきたいと思います。

今日は、いろいろ貴重なお話をいただきありがとうございました。

Life Sketch
10年先まで考えて

National
松下電工

NaiS
ナ・イ・ス
National Interior System
SYSTEM KITCHEN
ナ・イ・ス システムキッチン

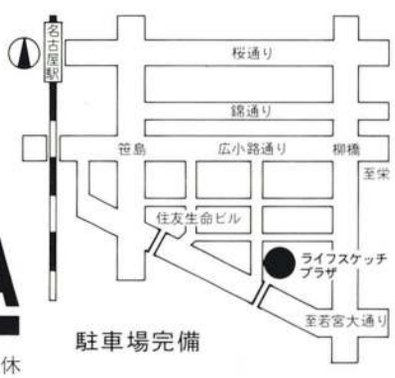


キッチンプラン自由主義

暮らしのスタイルに合わせて自由にプランニング。
ナ・イ・スシステムキッチンの豊富な部材とデザインで、あなたの夢のキッチンが実現します。

● お求め、お問い合わせは
ライフスケッチプラザへどうぞ。

専門のコーディネーターが、ご希望をうかがい、プランをおつくりします。



駐車場完備

Life Sketch PLAZA

10年先まで考えて—ライフスケッチ

〒450 名古屋市中村区名駅南2-7-55 ☎(052)583－8281 水曜定休





名古屋港ポートビル

設計　建築　村瀬邦市＋プロジェクトチーム
　　構造　森田設計室
　　設備　PES建築環境設計
施工　大林組・鴻池組・小原建設共同企業体
延床面積　6,503.30㎡
規模　地上7階　塔屋2階
構造　鉄骨構造　柱：Gカラム
竣工　1984年6月

名古屋港は熱田神宮の南にあり、桑名七里の渡し（宮の渡し）と呼ばれる古くからのミナトである。

明治中期からの幾多の困難をのりこえ、以来戦災、伊勢湾台風などの大きな障害にもめげず、今日では世界十大港のひとつに数えられるまでに成長した。ここをさらに県、市民が港湾や海運事業に親しむ憩いの場として再整備する機会に、この一画に国際港ナゴヤのシンボルとして、人びとに愛され親しまれるポートビルが出現した。

海に浮かぶ帆船をイメージした、子供たちから老人に至る、幅広い年齢層に親しまれているデザイン、底層部の半円形の部分はガーデンや海に広がる円孤の波紋を表し、海の豊かさや穏やかさを意味し、三角形の部分は海の荒い波形を表し、海の冷酷さや荒々しさを表現し、強烈で動的なインパクトを与えている。（名古屋港管理組合の「海事思想普及」に基づく公開コンペにより実現した）





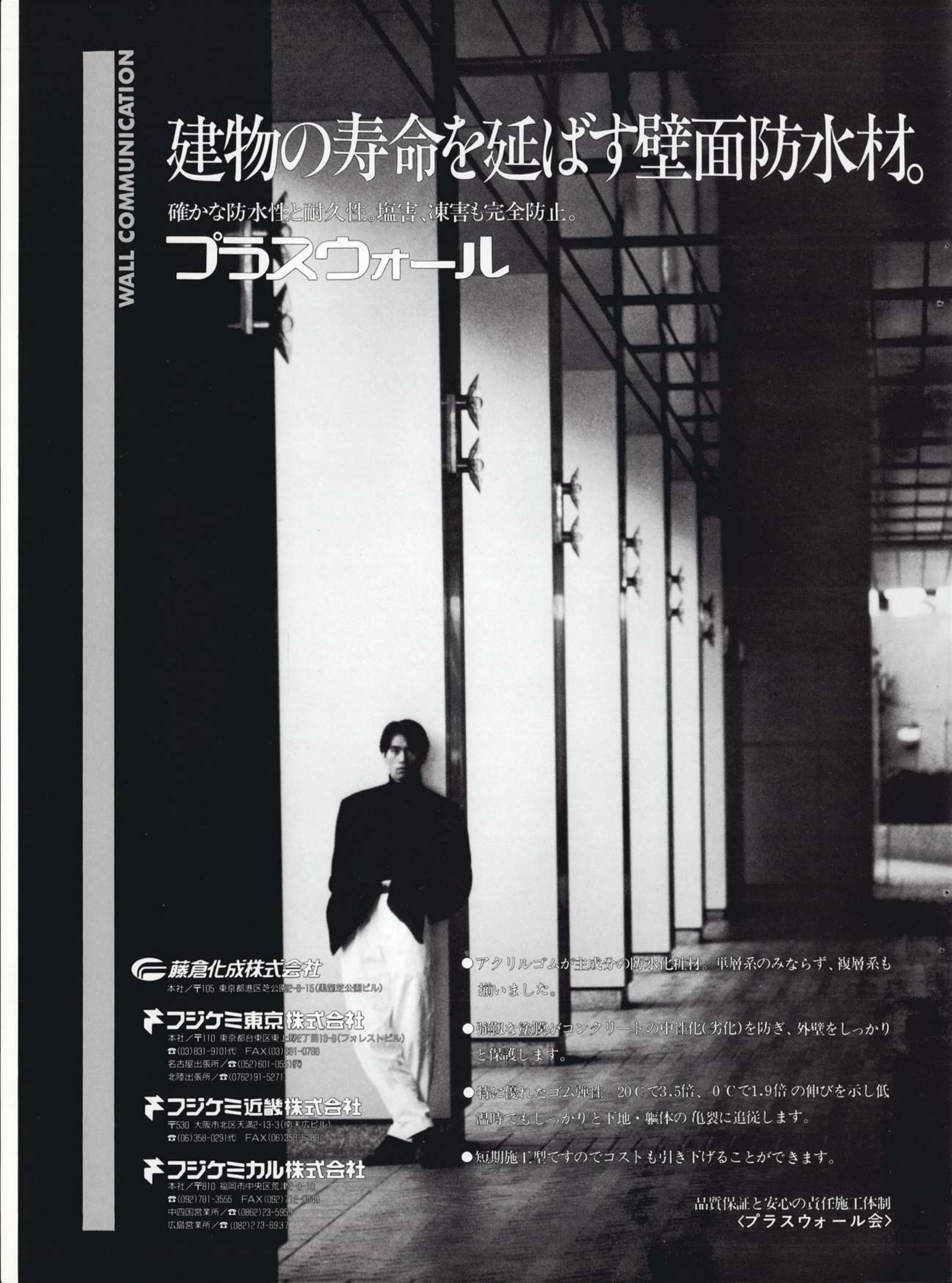
日建・住生ビル

設計　日建設計名古屋事務所
施工　鹿島建設・竹中工務店共同企業体
延床面積　12,763.09㎡
規模　地上12階　地下1階
構造　鉄骨鉄筋コンクリート造
竣工　1983年1月

久屋大通りは、名古屋の真ん中を南北に大きく流れる大河を想わせる〝みち〟である。テレビ塔はその北の端に聳立し、アクティブな姿を見せている。

名古屋市民は、この流れのなかに〝顔〟を創ろうと、いろいろの提案をしている。

このビルは、なかでもその中核的意味をもっている。通りの東の中央に、横の線を強調し、その外装とともに、静かに、しっとりとした姿を見せてくれた。エンゼルパークからの眺めは、緑の見えかくれに優しさを感じる。



WALL COMMUNICATION

建物の寿命を延ばす壁面防水材。

確かな防水性と耐久性。塩害、凍害も完全防止。

プラスウォール

●アクリルゴムが主成分の防水化粧材。単層系のみならず、複層系も揃いました。

●強靭な塗膜がコンクリートの中性化(劣化)を防ぎ、外壁をしっかりと保護します。

●特に優れたゴム弾性。20℃で3.5倍、0℃で1.9倍の伸びを示し低温時でもしっかりと下地・躯体の亀裂に追従します。

●短期施工型ですのでコストも引き下げることができます。

品質保証と安心の責任施工体制
〈プラスウォール会〉

藤倉化成株式会社
本社／〒105 東京都港区芝公園2-6-15(藤倉芝公園ビル)

フジケミ東京株式会社
本社／〒110 東京都台東区東上野2丁目19-9(フォレストビル)
☎(03)831-9101代 FAX(03)831-0739
名古屋出張所／☎(052)601-0551代
北陸出張所／☎(0762)91-5271

フジケミ近畿株式会社
〒530 大阪市北区天満2-13-3(南木広ビル)
☎(06)358-0291代 FAX(06)358-5280

フジケミカル株式会社
本社／〒810 福岡市中央区荒津2-1-1(
☎(092)781-3555 FAX(092)771-0030
中四国営業所／☎(0862)23-5959
広島営業所／☎(082)273-6937

アクリルゴム系壁面防水化粧材

プラスウォール

藤倉化成株式会社
本社事務所　東京都港区芝公園２－６－15黒龍芝公園ビル　TEL03－436－1100
大阪営業所　大阪市北区天満２－12－３南末広ビル　TEL06－352－3801

１．はじめに

塗膜に軟かさを持たせ、コンクリート面のクラックに追従出来ることを特徴とした仕上塗材（吹付材）は数多くあるが、これまで各方面で評価された結果を大きく分類すると**表－１**のようになる。プラスウォールは単層系でありながら、防水化粧材に位置づけられ、低温時の伸びの大きな材料である。

２．プラスウォールの特徴

① 塗膜のゴム弾性が優れ、20℃で3.5倍、特に低温時は０℃で1.9倍と卓越した伸びを示し、コンクリート、モルタル面にクラックが生じても、優れた防水効果を長期間維持する。

② アクリルゴム系で底艶のある水系塗料であり、耐候性、耐水性、耐薬品性、温冷繰返し性、コンクリート中性化防止性、塩害防止効果に優れる。

③ 単層系のため、複層系に比較して、トップコートの亀裂、トップコートの影響による伸び率の低下等がなく下地亀裂追従性能が容易に発現でき、常に安定した性能を示す。

④ 主材とトップコートの区別がないため、工程が簡単で複層系のように主材とトップコートとの層間剥離がない。

⑤ 仕上げ塗膜の厚さは0.8～1.0㎜であり、複層系に匹敵するテクスチャーが可能であり、単層系の欠点である汚染が少ない。

３．適性下地

コンクリート、モルタル、ＰＣ板、ＡＬＣ板、石綿板、および、既存のリシン、吹付タイル下地。

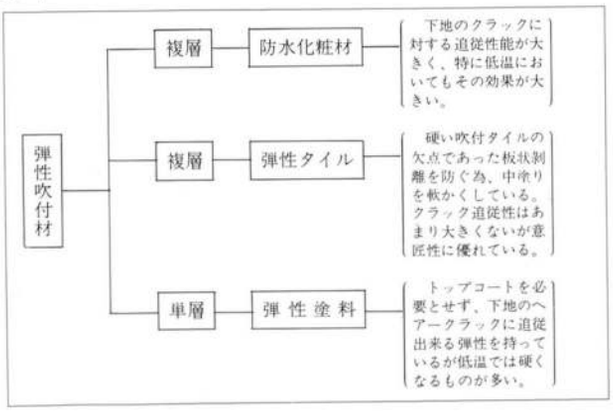
４．塗装仕様

塗装工法としては、Ｎ工法（のせ模様）、Ｃ工法（ローラー押え模様）、Ｆ工法（小クレーター模様）、Ｒ工法（なみがた模様）があるが、それらの工法の仕様を**図－１**に示す。

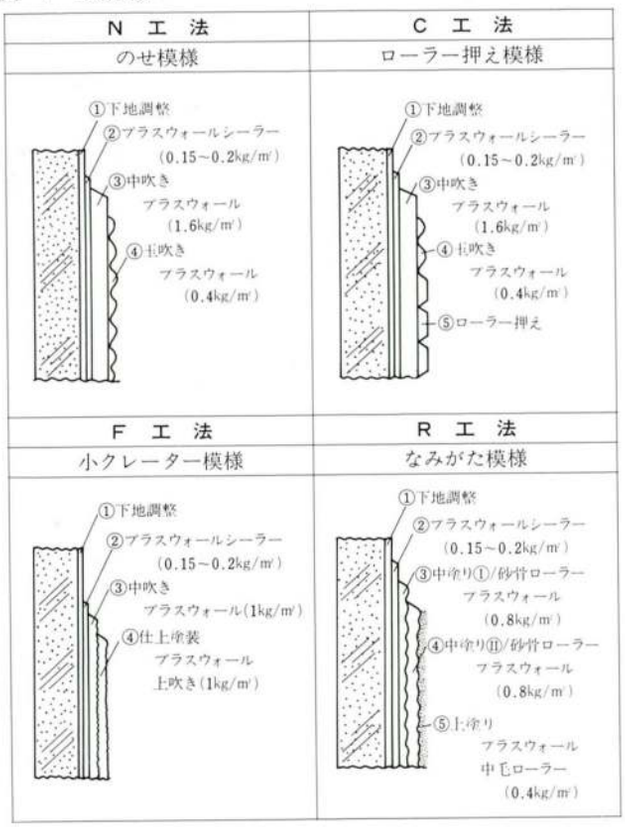
５．プラスウォールの性能

諸性能を表－２、３、４に示す。

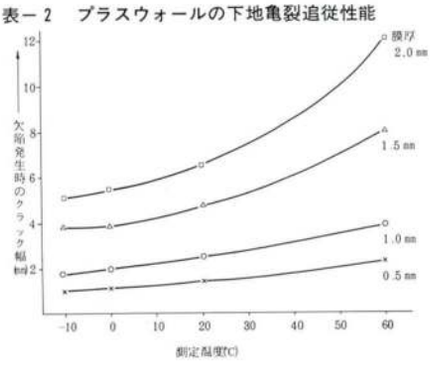
表－１



図－１　塗装仕様



表－２　プラスウォールの下地亀裂追従性能

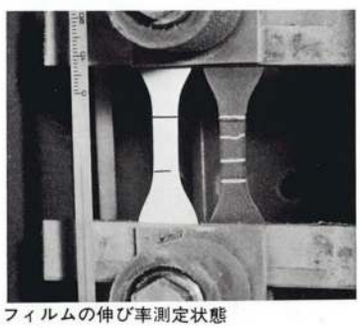


表－３　プラスウォールの強伸度性能（JISA6021. に準ずる）

試験項目			プラスウォール（単層）
引張強さ (kg/㎠)	無処理	測定温度－20℃	１２４．９
		測定温度－10℃	９０．０
		測定温度　0℃	５７．４
		測定温度　20℃	２３．１
		測定温度　60℃	８．１
	加熱処理	測定温度　20℃	３５．０
	アルカリ処理	測定温度　20℃	４１．６
	酸処理	測定温度　20℃	３３．４
	紫外線処理	測定温度　20℃	２７．３
破断時の伸び率 (%)	無処理	測定温度－20℃	４１
		測定温度－10℃	８０
		測定温度　0℃	１８９
		測定温度　20℃	３５０
		測定温度　60℃	４３８
	加熱処理	測定温度　20℃	２６０
	アルカリ処理	測定温度　20℃	１９０
	酸処理	測定温度　20℃	２６０
	紫外線処理	測定温度　20℃	２７０

表－４　プラスウォール塗膜物性

試験項目		JIS-A-6910 規格値	試験結果
低温安定性		塊がなく、組成物の分離・凝集がないこと	合　格
初期乾燥ひびわれ抵抗性		ひびわれが生じないこと	異状なし
付着強さ (kg/㎠)	標準状態	7　以　上	23(素材破断)
	浸水後	5　以　上	15(素材破断)
温冷繰り返し作用に対する抵抗性		試験体の表面にはがれ、ひび割れ、ふくれがなく、かつ、著しい変色および光沢低下があってはならない。	異状なし
透水性(mℓ)		0.5 以　下	0.2
耐衝撃性		ひび割れ、著しい変形およびはがれを生じないこと	異状なし
耐候性		ひび割れ、はがれがなく、変色がグレースケール３号以上であること	異状なし
伸び (%)	20℃時	120　以　上	350
	－10℃時	20　以　上	80
	浸水後	100　以　上	310
	加熱後	100　以　上	260
伸び時の劣化		剥離、反り、ねじれがなく、主材に破断およびひび割れがないこと	異状なし



●フィルムの伸び率測定状態
左側：プラスウォール（単層）
右側：複層系防水化粧材　トップコートに亀裂が見られる

建材委員／猪野達雄（竹中工務店）

Paric®

時代のニーズに応える新素材の提案

同時添加で大きな効果

プラント添加型流動化剤

パリック® FP-100

■鉄筋コンクリート用防錆剤

パリックC（財）日本建築センター評定品

■コンクリートAE減水剤（無塩カルタイプ）

パリックS（標準形）

パリックR（遅延形）

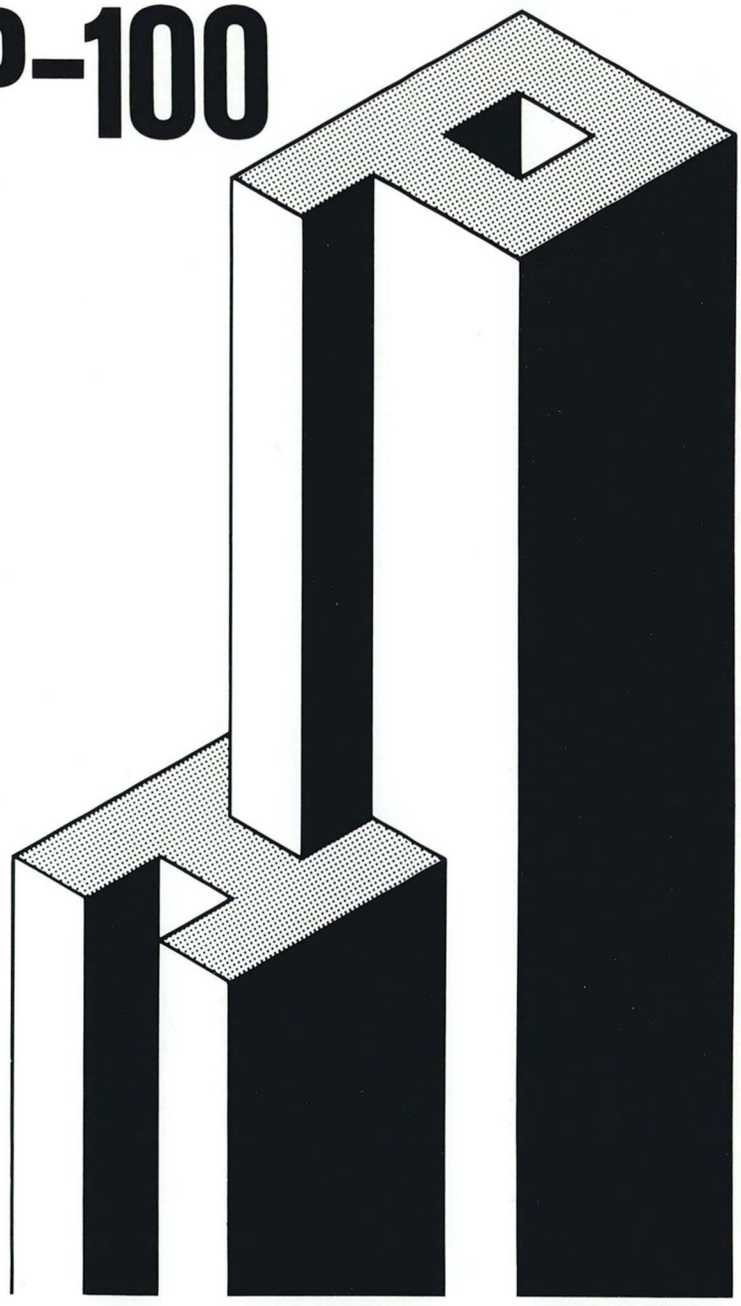
パリックA（促進形）

■コンクリート用流動化剤

パリックFL

■超遅延剤

パリックT



ひびわれ対策・ガードは万全

乾燥収縮低減剤

ヒビガード

フジサワ
藤沢薬品工業株式会社
本社 大阪市東区道修町4丁目3
電話（06）202　1141（大代表）
支社 東京都中央区日本橋本町2-7
電話（03）279　0882（代表）

乾燥収縮低減剤　ヒビガード
プラント添加型流動化剤　パリックFP-100

藤沢薬品工業株式会社
本社　大阪市東区道修町４－３　TEL 06－202－1141

乾燥収縮低減剤　ヒビガード

近年、コンクリートはポンプ工法の普及や骨材事情の悪化により、単位水量が多く、ひびわれの発生しやすい状況となっており、かつては半永久的といわれた鉄筋コンクリート構造物の寿命が短かくなり、20年、30年程度で使用に耐えられない場合が増えています。そのため、コンクリートの乾燥収縮によるひびわれの低減、耐久性向上の必要性が一段とクローズアップされてきました。これらの要望に応えるべく開発されたヒビガードはグリコールエーテル系（特許出願中）のまったく新しいタイプの高性能乾燥収縮低減剤です。

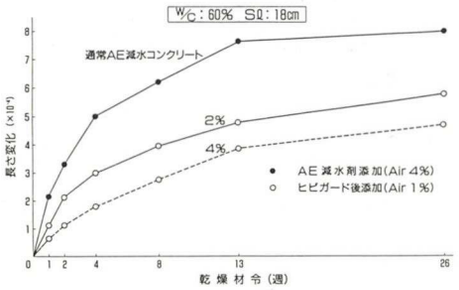
ヒビガードは乾燥収縮低減作用の他に透水抵抗性の改善、中性化の抑制、凍結融解耐久性の改善などの作用を有しているため、コンクリートの耐久性を著しく高めることができます。

１．ヒビガードは水に少量しか溶けませんが、ミキサやアジテータで撹拌することによって容易に均一に分散し、本剤を添加した時の長さ変化は**図－１**の通り、添加量を増加することにより、著しく小さくなっています。

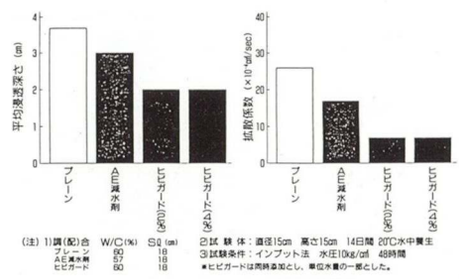
２．ヒビガード添加コンクリートの透水性は、**図－２**の通りＡＥコンクリートおよびプレーンコンクリートに比較して極めて小さく、各種の腐食性物質の浸入を防ぐと共に、コンクリートの中性化の進行も抑制します（**図－３**）。

３．凍結融解に対する抵抗性については**図－４**の通りで、空気量が0.9～1.0%であるにもかかわらず、300サイクルにおいても、その相対動弾性係数は90%を上回っており、優れた耐久性を示しています。

４．この他、フレッシュコンクリートの性状や強度発現は**表－１**、**表－２**の通りプレーンコンクリートと同等であり、耐久性の向上と相俟って良品質のコンクリートを製造することができます。

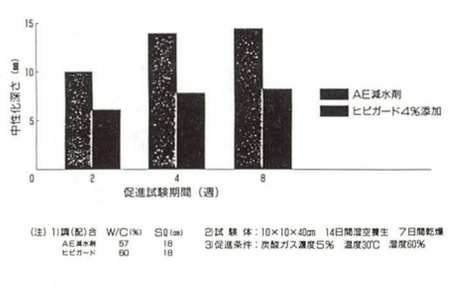


図－１　スランプ18cmの乾燥収縮



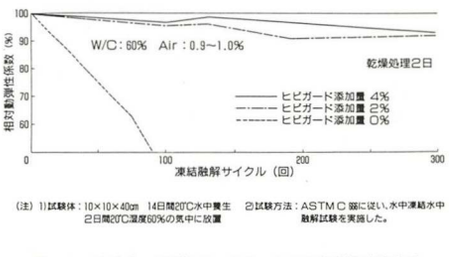
(注) 1)調(配)合　W/C(%)　SQ(cm)
プレーン　60　18
AE減水剤　57　18
ヒビガード　60　18
②試験体：直径15cm　高さ15cm　14日間 20℃水中養生
③試験条件：インプット法　水圧10kg/cm²　48時間
■ヒビガードは同時添加とし、単位水量の一部とした。

図－２　コンクリートの透水試験結果



(注) 1)調(配)合　W/C(%)　SQ(cm)
AE減水剤　57　18
ヒビガード　60　18
②試験体：10×10×40cm　14日間湿空養生　7日間乾燥
③促進条件：炭酸ガス濃度5%　温度30℃　湿度60%

図－３　コンクリートの中性化促進試験結果



(注) 1)試験体：10×10×40cm　14日間20℃水中養生　2日間20℃湿度60%の気中に放置
②試験方法：ASTM C 666に従い、水中凍結水中融解試験を実施した。

図－４　ヒビガード添加コンクリートの凍結融解試験結果

表－１　コンクリートの調(配)合

ベースコンクリートの種類	ヒビガードの添加量 (%)	所要 SQ (cm)	所要 Air (%)	W/C (%)	s/a (%)
プレーン	0, 2, 4	18	1	60	45
AE減水剤	0	18	4	60	44

(注)ヒビガードは後添加とし、ベースコンクリートの単位水量はあらかじめ添加量分を差し引いたものとした。

表－２　フレッシュコンクリートの性状と強度の試験結果

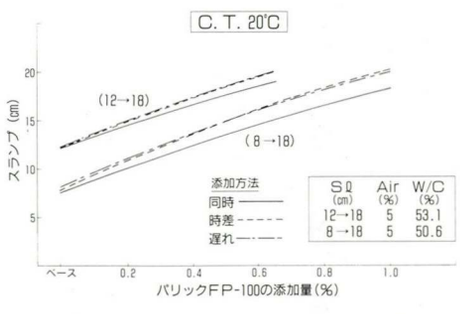
ベースコンクリートの種類	ヒビガードの添加量 (%)	練り上り SQ (cm)	練り上り Air (%)	凝結 始発 (時-分)	凝結 終結 (時-分)	ブリージング量 (cm/cm)	圧縮強度 (kgf/cm²) 7日	28日	91日
プレーン	0	18.0	1.2	6-22	8-36	0.27	236	355	411
	2	19.0	0.9	6-40	9-02	0.26	232	346	409
	4	19.5	0.9	6-44	8-38	0.26	234	344	413
AE減水剤	0	18.0	5.0	7-44	10-02	0.21	230	337	391

プラント添加型流動化剤
パリックFP-100

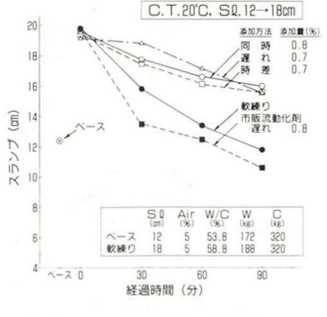
流動化コンクリートは、コンクリートの品質および作業性を大きく改善させることから急速に普及してきました。しかし、従来の流動化剤による流動化コンクリートはスランプロスが大きいため、流動化剤は現場で添加しなければならず、人手による添加作業、アジテータ車ドラムの高速回転による騒音、煩雑な品質管理など多くの問題をかかえています。こうした問題を解消するには、生コンプラントで流動化コンクリートの製造ができるスランプロスの少ない流動化剤の開発が望まれています。

パリックFP-100はこれらのニーズに応える為開発されたプラント添加型流動化剤で、特殊合成高分子系界面活性剤を主成分とする淡褐色の水溶液です。

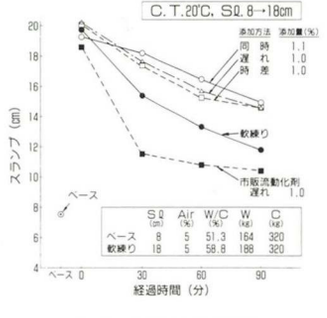
パリックFP-100を添加したコンクリートは、**図－５**および**図－６**、**図－７**に示す通り、添加方法（同時添加、時差添加、後添加）に関係なく、添加量に応じて良好な流動化効果を示します。特に、同時添加の場合、若干の割増添加量で、スランプロスが少なく良好な流動性を保持することができ、コンクリートの品質及び作業性を大きく改善することができます。



図－５　パリックFP-100添加量とスランプの関係



図－６　スランプの経時変化



図－７　スランプの経時変化

建材委員／中原　泰
（大阪セメント）

新規購入機器紹介——

排煙排ガス処理装置

財団法人 日本建築総合試験所
所 在 地…吹田市藤白台5－8－1　〒565
電　　話…(06)872－0391　FAX…(06)872－0784
業務時間…平日：9：00～17：00
　　土曜：9：00～12：00

昭和59年9月29日付で公布された建設省告示第1372号によって準不燃材料の防火性能試験に模型箱試験（**GBRC第37号に掲載**）が追加されたが、その試験を実施するために同年5月に直火式脱臭脱煙装置二次燃焼方式（**GBRC第35号に掲載**）を設置した。これは模型箱試験を実施したときに発生する煙、ガス、悪臭等による周辺住民に対する公害防止と当試験室内の環境保全を目的としたものである。また、副次的に耐火・防火構造試験を実施したときに発生する煙等を処理することをも目的とした。

この装置は運転開始後、再燃焼炉の発生音が周辺住民に対する騒音という新たな問題が派生したため、防音工事を実施した（**GBRC第38号に掲載**）。その後、昭和60年9月5日付けで公布された建設省住指発第510号によって「外断熱工法に係る防火性能試験方法」が規定され、それに基づいて当試験所も指定試験機関として受付けることになった（**GBRC第41号に掲載**）。外断熱工法に使用する断熱材は、有機系発泡材料（ポリスチレン、フェノールおよびイソシアヌレート等の各フォーム）を用いるものが多く、従来の耐火構造試験とは異なり、断熱材料から多量の煙およびガスの発生が予測される。

そこで、上記装置の排ガス処理能力を増強する目的で、冷却塔および送風ファンを昭和60年12月に新設した。**写真－1**にその装置の外観を示す。向って右より冷却塔、脱臭炉、ファン室である。設計施工は関西保温工業株式会社によって行われた。

装置のフローを**図－1**に示す。

なお、試験時に排出される煙・ガス等が本装置によりどの程度処理され、清浄となるかは現在、排煙および排ガスの化学分析を実施中である。本装置は壁用耐火試験炉に接続されているが、今後、床、梁用耐火試験炉にも拡張する予定である。

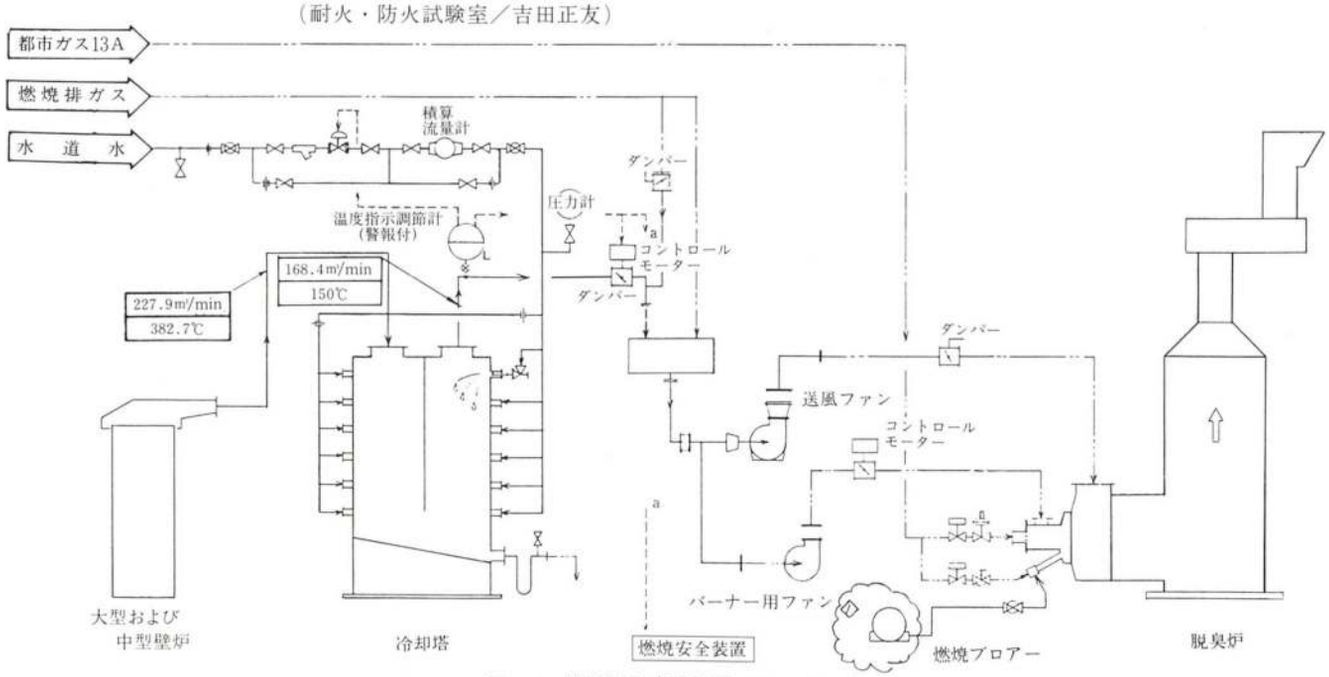
（耐火・防火試験室／吉田正友）



写真－1　排煙排ガス処理装置の外観

新設機器の仕様概要

・送風ファン
　型式：空冷式、中圧ターボファン
　風量：120㎥／min
　静圧：300㎜Aq
　最高温度：300℃
　材質：SS（ケーシング）、SS－TEN（インペラー）
　電動機：11kW×4p×220V、60Hz（全閉外扇屋内型）
・冷却塔
　型式：自立式縦型、冷却水噴霧方式
　寸法（cm）：122.8(幅)、183.8(長さ)、520.0(高さ)
　材質：SS41（耐熱塗料を表面に塗布）
　付属器：冷却用スプレイノズル、コントロール弁、流量計



図－1　排煙排ガス処理装置のフローシート

法令コーナー

編集委員会法令分科会

220

建築士を対象とする指定講習制度

建築士を対象とする指定講習制度は、近年の社会情勢の複雑化、国民の環境に対する意識の高まり、建築技術の進歩に伴う高度化、多様化といった諸要素から見ても、また、建築士行政の更なる充実という意味においても、早急に取り組まねばならぬ重要課題である。

建築士行政の実態のうち、昭和61年９月末現在の建築士および建築士事務所登録状況は、一級建築士がおよそ198,200人、二級建築士がおよそ469,100人、木造建築士がおよそ10,100人おり、建築士事務所は、一級建築士事務所がおよそ62,600、二級建築士事務所がおよそ55,200、木造建築士事務所がおよそ1,300である。

こういった背景のもとで、先の建築士法改正（昭和58年５月）により創設された「建築士は、設計及び工事監理に必要な知識及び技能の維持向上に努めなければならない。」（第22条第１項）と、「建設大臣及び都道府県知事は、設計及び工事監理に必要な知識及び技能の維持向上を図るため、必要に応じ、講習の実施、資料の提供その他の措置を講ずるものとする。」（第22条第２項）については、その具体的内容の一部として昭和61年８月18日付け建設省告示第1423号（建築士を対象とする講習の指定に関する規程）が定められ、同日付けで施行されている。

また、これに伴い、昭和61年８月18日付け、建設省住指発第237号により、建設省住宅局建築指導課長から都道府県建築士行政主務部長あてに、「建築士を対象とする講習の指定に関する規程を定める告示について」の通知が出された。その内容は、都道府県知事による建築士を対象とする講習の指定に関する要綱の制定等を速やかに行い、建設大臣の指定と都道府県知事の指定との連携等を図り、建築物の設計および工事監理に必要な知識および技能の維持向上が円滑かつ効果的に推進されるよう努められたいということと、講習の指定（都道府県知事の単独指定を含む）に関し、（財）建築技術教育普及センターを、①講習の企画についての助言、②テキストの監修等、③指定講習の実施結果の報告、データーの提供等で積極的に活用し、建築士に対する指定講習の周知徹底等を図り、受講を促す。この場合、指定講習の受講の義務付け等、行き過ぎた指導となることのないよう留意されたい、というものである。

なお、後日には建設省同課から都道府県へ「指定講習制度モデル要綱」の送付があり、各府県は当該モデル要綱を参考とし、地方性を勘案して、検討を加え、制定に向けて鋭意努力中である。

ところで、告示後の指定状況は今のところ、２件である。一つは昭和61年８月21日付けで、（財）日本建築防災協会と（財）日本建築センターが共同で実施する「コンクリート塩化物総量規制及びアルカリ骨材反応対策講習会」が特別講習として大臣指定されたものであり、他は、昭和61年11月21日付けで、（社）日本建築士事務所協会連合会の「建築士事務所の管理講習会」が定期講習として大臣指定を受けたものである。

これら以外としては、（社）日本建築士会連合会の「建築士のための指定講習会」が定期講習として大臣指定される予定であり、まだまだ、多くの団体が指定を受けるものと思われるのである。

（大阪府建築部建築振興課　**三木俊介**）

建設省告示第1423号

建築士を対象とする講習の指定に関する規程を次のように定める。

昭和61年８月18日　　建設大臣　天野光晴

建築士を対象とする講習の指定に関する規程

（目的）

第一条　この規程は、建築士を対象とする講習の指定に関し必要な事項を定めることにより、建築物の設計及び工事監理に必要な知識及び技能の維持向上を図り、もって建築物の質の向上に寄与することを目的とする。

（定義）

第二条　この規程において「定期講習」とは、定期的に反復して実施される講習をいい、「特別講習」とは、定期講習以外の講習をいう。

（指定）

第三条　建設大臣は、建築士を対象とする講習であって、建築物の設計及び工事監理に必要な知識及び技能の維持向上を図る上で奨励すべきものを、この規定の定めるところにより指定することができる。

２　前項の規定による講習の指定（以下「指定」という。）は、定期講習と特別講習に分けて行うものとする。

３　定期講習に係る指定は、５年ごとにその更新を受けなければ、その期間の経過によって、その効力を失う。

（指定の基準）

第四条　指定の基準は、次のとおりとする。

一　講習を実施するものが、建築物の設計及び工事監理に必要な知識及び技能の維持向上を目的とする民法（明治29年法律第89号）第34条の規定により許可された法人（以下「公益法人」という。）であって、講習を適正かつ円滑に実施するために必要な財産的基礎及び事務的能力を有するものであることその他講習を実施するにふさわしいものであること。

二　講習が、建築士を対象とするものであること。

三　講習の内容が、建築物の設計及び工事監理に必要な知識及び技能の維持向上を図る上で、適正かつ有益と認められること。

四　講習の内容に応じて、受講者の利便に関する事項について適切に配慮されていると認められるものであること。

（指定の申請）

第五条　指定を受けようとする公益法人は、次に掲げる事項を記載した申請書を建設大臣に提出しなければならない。

一　公益法人の名称、代表者の氏名及び住所

二　定期講習又は特別講習の別並びに講習の名称、目的及び対象者

三　定期講習にあっては講習の実施頻度、実施時期及び実施期間、特別講習にあっては講習の実施日

四　定期講習にあっては講習の実施地、特別講習にあっては講習の実施会場の名称及び所在地

五　講習の科目及び時間

六　定期講習にあっては講師の選任の方針、特別講習にあっては講師の氏名及び略歴

七　受講料に関する事項

２　前項の申請書には、次に掲げる書類を添付するものとする。

一　定款又は寄附行為

二　役員の氏名及び略歴を記載した書類

三　申請の日の属する事業年度の前事業年度における財産目録及び貸借対照表

四　申請の日の属する事業年度における事業計画書及び収支予算書

五　講習において使用するテキスト又はその作成要領を記載した書類

六　その他参考となる事項を記載した書類

３　前項第四号に掲げる書類は、講習に係る事項と他の事業に係る事項とを区別して記載したものでなければならない。

（指定を受けた旨の表示）

第六条　指定を受けた講習（以下「指定講習」という。）を実施する公益法人（以下「実施法人」という。）は、指定講習を実施するときは、指定を受けたものであることを表示するものとする。

（講習実施計画書等の提出）

第七条　実施法人は、指定を受けた定期講習を実施するときは、あらかじめ講習の実施日、実施会場の名称及び所在地、講師の氏名及び略歴その他講習の実施に関する事項を記載した講習実施計画書並びに当該定期講習を実施する日の属する事業年度における事業計画書及び収支予算書を、建設大臣に提出しなければならない。

２　第五条第三項の規定は、前項の事業計画書及び収支予算書に準用する。

（変更の承認等）

第八条　実施法人は、指定講習について、第五条第一項第三号から第七号までに掲げる事項又は同条第二項第五号に掲げる書類の変更をしようとするときは、その変更の内容、時期及び理由を記載した変更承認申請書を建設大臣に提出して、その承認を受けなければならない。

２　実施法人は、指定講習について、第五条第一項第一号に掲げる事項の変更又は同条第二項第一号若しくは第二号に掲げる書類に関する変更をしたときは、二週間以内にその変更の内容及び時期を記載した変更届出書を建設大臣に提出しなければならない。

（建設大臣の指示等）

第九条　建設大臣は、指定講習の実施に関し必要があると認めるときは、実施法人に対して必要な事項を指示し、又は必要な資料の提出を求めることができる。

（廃止の届出）

第十条　実施法人は、指定講習を廃止したときは、遅滞なく、その廃止の時期及び理由を記載した廃止届出書を建設大臣に提出しなければならない。

（指定の取消し）

第十一条　建設大臣は、実施法人が次の各号のいずれかに該当する場合は、その指定を取り消すことができる。

一　指定の取消しを申請したとき。

二　偽りその他不正の手段により指定を受けたことが判明したとき。

三　指定講習を実施しなかったとき。

四　第四条に規定する指定の基準に適合しなくなったとき。

五　第八条第一項の規定により建設大臣の承認を受けなければならない場合において、その承認を受けなかったとき。

六　第七条第一項及び第八条第二項の規定により提出をしなければならない場合において、その提出を怠ったとき。

七　第九条に規定する建設大臣の指示又は資料の提出の要求に従わなかったとき。

八　指定講習の実施に関し不誠実な行為をしたとき。

２　建設大臣は、前項の規定により指定を取り消したときは、当該指定に係る実施法人に対し指定を取り消した理由を付してその旨を通知するものとする。

（指定等の公表）

第十二条　建設大臣は、指定を行ったときは、実施法人の名称及び住所、定期講習又は特別講習の別並びに講習の名称その他必要な事項を公表するものとする。

２　建設大臣は、第十条の規定により廃止届出書を受理したとき又は第十一条一項の規定により指定を取り消したときは、その旨を公表するものとする。

（指定講習の実施結果の報告）

第十三条　実施法人は、指定講習を実施したときは、三月以内にその実施結果を建設大臣に報告するものとする。

附　則

この規程は、昭和61年８月18日から施行する。





巽　和夫
京都大学教授

古林敏郎
広島県土木建築部都市局営繕課長

谷　淳之介
東畑建築事務所設計部長

美濃吉昭
大成建設建築部設計担当部長

1月号から6月号まで上記の4氏が担当

和式バス付高級ホテルのすすめ

日本の住様式の洋式化が急速に進んで、いまではイスやベッドの生活にすっかりなじんでいる。そのなかで、どうしてもなじめないものがひとつある。それは洋式バスである。奈良女子大の今井範子さんの調査研究によっても、日本人の洋式バスへの抵抗感は大変強いという。洋式バスの本当の使い方をよく知らないという面もあるが、外国映画の入浴シーンにみられるような、浴槽の湯を石鹸で泡立てて、あたかも人間が洗濯物になったようなスタイルで洗うのが正統なのだとしたら、やっぱりわれわれの生活感覚には到底合いそうもない。

最近、新しい高級な都市ホテルが続々と建てられているが、例外なく洋式バスしか設けられていない。今日ホテル利用者の大多数は日本人であり、その日本人が洋式バスになじめないというのに。しかも浴用石鹸は、固形のミニサイズが１～２個用意されているだけで、本当の洋風バスの使い方は実際上できないことになっている。高級都市ホテルは、すべからく和式バス付の部屋も設けて和・洋式の選択を可能にすべきであろう。もしこういうホテルが実現したとしたら、千客万来、繁盛すること疑いなし、と思うのだが、どうであろうか。

（K・T）

多様化新時代

衣、食、住の時代から今日では住、食、衣の時代といわれ「住」の為に懸命に働いているといっても過言ではあるまい。住宅のストックも10%を超えていると建設省白書は伝えているが、果して快適なる環境のストックであろうか、大都会周辺の地価の高騰は一般庶民には手のとどかないところになっている。住宅金融公庫も数年前から高規格住宅や省エネ工法の住宅融資を創設し、多様化した住に対しての色々なメニューを国民の前に披瀝し、要望に応えての対応に高く評価したい。

健全な家庭生活を営むに必要な住宅面積はどの位だろうか、平均的な４人家族の場合もあれば、老夫婦同居また３世代同居の場合等老齢化時代を迎えての住生活を見直す必要に迫まられており、その方の対策も議論がでる処であろう。

最近の住宅展示場の建物をみると、和室の数より洋室の部屋数の方が多く、玄関を入ると上部が吹抜け、豪華なシャンデリアを取りつけたり、洗面、脱衣場は壁一面に鏡を取付け、モダンな照明、まるでおとぎの国に行った感すら思わせる。これも生活をエンジョイしようとする新しい時代の生活に変化を求め、ファッションを取り入れた新しい時代の現われでもあろうか。

（T・K）

佐賀平野

一昨年の暮頃から時折、佐賀平野の北、背振山系の麓野部を高速バスで走るチャンスがある。四季を通じてのおだやかな光とのびやかな広がりをもった平野の風景は、都市の雑踏につかれた目を充分に癒してくれる。無数のクリーク（佐賀平野特有の灌漑用水路）の織りなす緑の綾、山麓部に茂る落葉樹林の四季のうつろい、南国特有のやわらかな風光を通しての風景は実に美しい。佐賀平野がここ数年来、熱気球世界大会開催地等として親しまれているのも充分にうなづける。

かつてイタリア半島を縦貫する太陽の道をミラノからローマに向って下った時に経験した透明感のある風景との共通点をふと感ずる。それはこの２つの風景が備えている美しさとは別に、日頃私達の周辺の街並や風景の中に氾濫しているあの色とりどりの看板類がほとんど見当らないことである。新幹線沿いや都市近郊の高速道路沿いにも美しく魅力的な風景は結構多いが、それらはややもすると多種多様な看板類を引立たせるための背景として利用されている。佐賀平野の透明感のある風景を都市近郊でももう少し経験したいものである。

（J・T）

場のデザイン

生活活動のあらゆる場面に、人と人との関係が満ちている。その人間関係が、うまく円満に収まっている姿は美しく、いわゆる生活の場にデザインのかかわりが見える。

一家庭の場から公共の場、ビジネスの場、生産の場、コマーシャルスペースなどの、それぞれにおける人と人との関係（コミュニケーション）がうまくいくには、場が生れる空間の質が問題で、その大きさ、明るさ、テクスチャー、家具の具合などが、場にふさわしい配慮をしているわけだが、その背後には人間関係の過去のしきたり、生活作法もかくされている。

そこで、今の多様な生活活動の状況を考えると、一般的な場の解からはみ出すケースが少なくない。様様なライフスタイル、新しい業態のコマーシャルスペースの出現など、それに伴った生活作法に新しい解釈を加えるわけだが、ときとして生活感を理解しないままスタイルのみを見る危険がある。そんなとき、人と人との関係については、人間の本性に根ざしたもの、自然と人間に対する思いやりと、生活を楽しむ機知の中に、作法を見い出してゆくことだと思っている。

（Y・M）

◀大阪府立体育会館改築工事の見学

日本建築協会・大阪建築設計監理協会
大阪府建築士会・大阪建築士事務所協会 4会共催

大阪、「なんばの体育館」としてながく府民に親しまれてきた「大阪府立体育会館」の改築工事が今急ピッチで行われています。

昭和62年2月には大阪府の中心的なスポーツ施設として、各種機能をあわせもった近代的な総合体育会館としてオープンします。

旧体育会館の限られた敷地の中で大幅な施設機能の拡充や新しい機能を付加するため、スポーツ競技や大規模集会等の機能をもつ第1競技場（約3,000㎡）は地上部2階に配置し、第2競技場（約900㎡）や柔・剣道場などは地下部におさめられ、中間層の地上1階部分にはピロティーやロビーなどの開放的な空間や、多目的ホールなどが配置され、設計上の工夫・配慮がうかがわれます。

多様化する都市部のスポーツ施設として、スポーツ競技以外の各種文化的行事も開催できる機能が備えられた「大阪府立体育会館」、完成後には、「21世紀のスポーツの殿堂」にふさわしい活用が期待されます。

今回は、大阪府並びに日建設計、大林組・戸田建設・鴻池組・村本建設共同企業体ほかご関係各社の特別のご厚意とご協力により、上記建築4団体共催により見学できることになりました。

多数のご参加をお待ちいたします。

なお、お申込みはご関係の会へ重複のないようお願いいたします。

日　　時　昭和62年 **1** 月 **29** 日(木)　集合13:30→解散16:30

集合場所　大阪府立体育会館・正面玄関前付近、目標会旗

（ただし、大阪・浪速区難波の「大阪球場」より西へ100m。地下鉄・市バス・南海電車「なんば駅」より徒歩5分、近鉄「なんば駅」より徒歩10分、国鉄「湊町駅」より徒歩15分。）

定　　員　160名（本会割当40名）

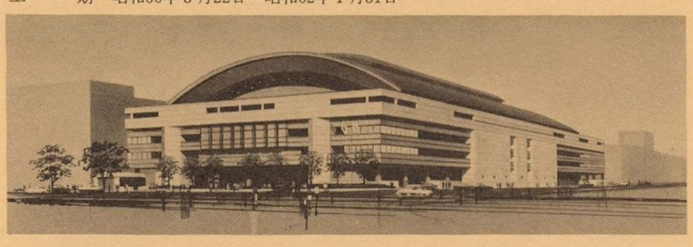
参加会費　会　員　500円・会員外　800円(当日受付にていただきます)

申込方法　ハガキまたは電話にて、氏名・勤務先名・所在地・連絡電話番号・郵便番号及び会員・会員外の種別、催し名称をお知らせ下さい。申込締切は1月20日(火)。申込者多数の場合は抽選にて決定の上、参加証をお送りいたします。

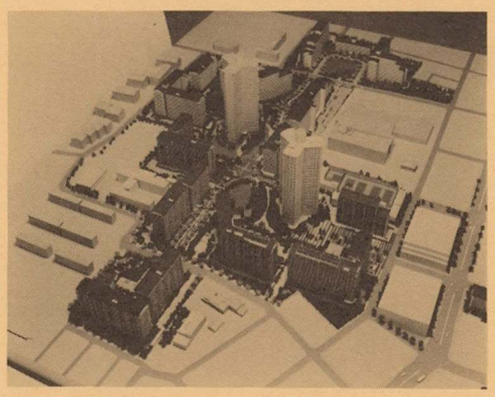
（日本建築協会事業課：〒530 大阪市北区梅田1−1−3−2100
大阪駅前第3ビル・21階　TEL 06−348−0633）

●建築・施工概要

所　在　地　大阪市浪速区難波中3−4−36
発　注　者　大阪府
設　　計　大阪府建築部営繕室、㈱日建設計
監　　理　大阪府建築部営繕室、(財)大阪府建設監理協会、㈱日建設計
施　　工　建　　築：㈱大林組・戸田建設㈱・㈱鴻池組・村本建設㈱　共同企業体
（壁面装飾）
電　　気：栗原工業㈱・浅海電気㈱・六興電気㈱　共同企業体
空　　調：東洋熱工業㈱・理研鋼機㈱・ナミレイ㈱　共同企業体
給排水衛生：鳳工業㈱・川本工業㈱
昇　降　機：三菱電機㈱　　発電機：ヤンマーディーゼル㈱
冷　凍　機：㈱日立製作所　　大型映像表示装器：松下電器産業㈱
敷地面積　8,356.88㎡
建築面積　7,171.38㎡
延床面積　28,318.27㎡
構造・規模　ＳＲＣ造、屋根＝Ｓ造　地上4階、地下2階、塔屋1階
高　　さ　軒高　20.221m　最高部高さ　34.415m
第1競技場　固定席　3,131席（大相撲開催時　約8,300人）、最大収容人員　約10,000人
工　　期　昭和60年3月22日～昭和62年1月31日



◀ベル・パークシティの見学



〝美しい公園都市の創出〟をめざして、今、「ベル・パークシティ」の建設が着々と進んでいます。

大阪・梅田から北東約3kmという都心地に、集合住宅を中心とする約3,600戸の新しい街づくり。

すでに、板状高層住棟に囲まれた広大な空間の中央部には、Y型の外観をした36階建の超高層住棟（G棟）が建設され、個性的な美しいシルエットを浮かびあがらせています。

昭和56年に起工された「ベル・パークシティ」、数年のちには計画人口約12,600人という町村単位にも匹敵する大規模団地として出現します。

今回は、三井不動産並びに三井建設ほかご関係各社のご厚意とご協力により、完成間近のG棟を中心として、周辺の関連施設の見学をいたすことになりました。

多数の方のご参加をお待ちいたします。

日　　時　昭和62年 **2** 月 **19** 日(木)　集合14:00→解散16:00

集合場所　現地・ベル・パークシティC棟（16階建）東側の画地Ⅳ付近、目標会旗

（ただし、大阪・地下鉄谷町線「都島駅」下車、都島本通りを北東方向へ徒歩約15分。（市バス「高倉二丁目」下車すぐ）。）

定　　員　40名

参加会費　会　員　500円・会員外　800円(当日受付にていただきます)

申　　込　はがきまたは電話にて、氏名・勤務先名・所在地・連絡電話番号・郵便番号・催し名称及び会員・会員外の種別をお知らせ下さい。申込締切は2月10日(火)。申込者多数の場合は抽せんにて決定の上、参加証をお送りいたします。

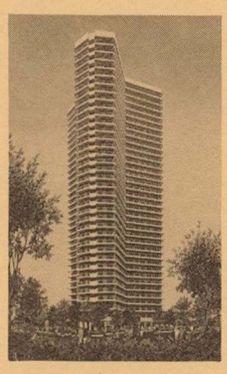
（日本建築協会事業課：〒530 大阪市北区梅田1−1−3−2100
大阪駅前第3ビル・21階　☎06−348−0633）

●ベル・パークシティ概要

所在地　大阪市都島区友渕町1−8−1ほか
事業主体　三井不動産株式会社、カネボウ不動産株式会社、株式会社デベロッパー三信、進和不動産株式会社、三鐘都市開発株式会社
設計監修　株式会社IDE建築事務所
建築施工　三井建設株式会社、鹿島建設株式会社、株式会社竹中工務店
敷地面積　152,590㎡
建築面積　43,000㎡（予定）
延床面積　378,000㎡（予定）
構造規模　SRC−部RC造、地下0～2階、地上7～36階、塔屋0～2階
住戸規模　1LDK～5LDK
工　　期　昭和56年10月～昭和65年10月（予定）

●G棟・住棟概要

設計・施工　三井建設株式会社
階　　数　36階、塔屋2階（住宅階2階～36階）
形　　状　Y型住棟
総住戸数　329戸
基準階住戸数　9戸、10戸
建築面積　1,687.51㎡（510.47坪）
延床面積　34,248.12㎡（10,360.06坪）



謹賀新年

昭和62年元旦

(50音順)

青山幸夫

株式会社 青山建築積算事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区京町堀1-10-19江南ビル 電話06(443)0430
〒610-11 自宅・京都市西京区大原野上里勝山町14-6
電話075(331)8082

井上隆

井上窯業株式会社 代表取締役
〒543 大阪市天王寺区生玉町11番28号 電話06(771)2851代
〒659 自宅・芦屋市川西町4番23号 電話0797(22)5930

市川繁雄

日本管工業株式会社 取締役社長
〒601 京都市南区西九条豊田町20 電話075(681)5101～6
〒606 自宅・京都市左京区下鴨芝本町37 電話075(781)0289

浅井泰

株式会社 笠谷工務店 専務取締役
〒659 芦屋市業平町4－1 電話0797(22)0703
〒659 自宅・芦屋市翠ケ丘町13－5 電話0797(22)5291

飯田精次郎

共同設計株式会社 代表取締役
〒530 大阪市北区西天満5丁目10番14号 電話06(364)5836
〒560 自宅・豊中市本町2丁目2番24号 電話06(852)5775

市川宏

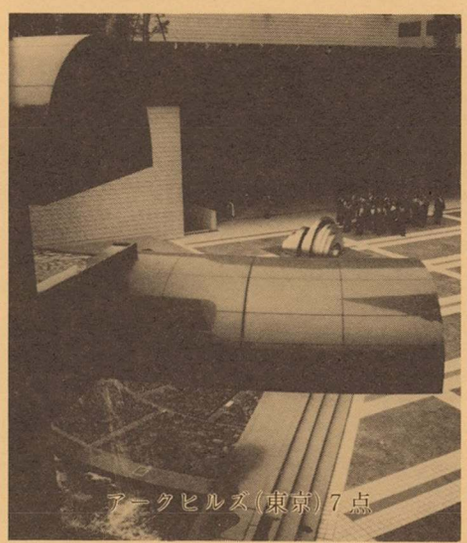
株式会社 東畑建築事務所 取締役社長
〒541 大阪市東区伏見町5－19 電話06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手4丁目4－32
電話078(811)0216

浅野昭夫

株式会社 浅野建築設計事務所 代表取締役
〒543 大阪市天王寺区城南寺町5－35 電話06(768)0201代
〒631 自宅・奈良市西登美ヶ丘6丁目4番5号
電話0742(46)4346

生島道春

社団法人 日本建築積算協会関西支部 支部長
〒542 大阪市南区鰻谷中之町62番地 市川ビル2F
電話06(245)6645



指宿真智雄

株式会社 建築デザイン1級建築士事務所 代表者
〒564 吹田市江坂町1丁目23番101号 大同生命ビル
電話06(386)1311代
〒606 京都市左京区下鴨北野々神町8－5 電話075(781)6573

浅沼茂夫

株式会社 淺沼組 取締役社長
〒543 大阪市天王寺区東高津町12番6号 電話06(768)5222
〒168 自宅・東京都杉並区下高井戸3丁目17番1号
電話03(302)1922

今井忠臣

イマヰ建設工業株式会社 代表取締役
〒547 大阪市平野区加美北5丁目11番12号 電話06(792)4425
FAX 06(792)5837
〒547 大阪市平野区平野北2－9－15 電話06(792)4404

淺沼誠夫

株式会社 淺沼組 取締役副社長
〒543 大阪市天王寺区東高津町12番6号 電話06(768)5222
〒630-02 自宅・奈良県生駒市東松ケ丘7番30号
電話07437(4)5556

今西茂雄

株式会社 今西建築デザインルーム 代表取締役
〒550 仮事務所・大阪市西区北堀江1丁目12番10号
山田ビル1F
電話06(541)3051～3

会長 浅海正雄
社長 浅海伸之

浅海電気株式会社
〒530 大阪市北区西天満3丁目7番4号 電話06(362)8701
〒665 自宅・宝塚市御殿山2丁目31番50—109号
電話0797(85)0745
〒665 自宅・宝塚市栄町2丁目10番26—712号
電話0797(81)1174

泉沢哲史

株式会社 泉沢建築設計事務所 代表取締役
〒530 大阪市北区神山町14番3号 木津信ビル
電話06(364)9071代

今西祥郎

財団法人 大阪住宅センター 理事長
〒530 大阪市北区中之島3丁目2番18号 住友中之島ビル12F
電話06(447)0615・0616
〒591 堺市新金岡町3丁1—23—102 電話0722(51)1902

安部康夫

安部建設株式会社 取締役社長
〒559 大阪市住之江区西住之江2丁目7番5号 電話06(678)3212～4
〒558 自宅・大阪市住吉区殿辻1丁目2－8
電話06(694)8774

礒岩武

大機建材工業株式会社 代表取締役
〒666 兵庫県川西市久代6丁目1番16号 電話0727(70)8563
〒665 自宅・宝塚市中山台2丁目18番9号
電話0797(88)3698

取締役会長 今村騰
取締役社長 糸岡義太郎

中央電気工業株式会社
〒530 大阪市北区太融寺町3番24号
電話06(312)8881代表

謹賀新年

昭和62年元旦　(50音順)

今村祐三郎

社団法人　大阪建設業協会　専務理事
事務局長
〒540 大阪市東区京橋3丁目70　電話06(941)4821

大槻國秋

日本電設工業株式会社 大阪支店　常務取締役支店長
〒531 大阪市大淀区豊崎3丁目17－15 電話06(372)3531
〒658 神戸市東灘区西岡本6－5－23　電話078(411)1673

奥村紘行

奥村重兵衛株式会社　取締役社長
〒530 大阪市北区西天満5丁目3番7号　電話06(312)4131代
〒662 自宅・西宮市南郷町14番34号　電話0798 (71) 0011

岩崎弘

専務取締役

吉竹寛

常務取締役西日本本部長

株式会社　教育施設研究所　大阪事務所
〒550 大阪市西区立売堀1丁目13番1号　電話 06(531)0916
大信ビル　電話 06(541)7301
〒630 自宅・奈良市法蓮立花町1046-2　電話0742(22)2217
〒560 自宅・豊中市東寺内10－36　電話 06(339)3550
グリンパークハイツ304

大西孝夫

株式会社　日建設計　常務取締役
大阪本社代表
〒541 大阪市東区高麗橋5丁目21番地1　電話06(203)2361

加藤忠三郎

株式会社　平田タイル　代表取締役会長
〒550 大阪市西区阿波座1丁目1番10号
電話06(532)1231代
〒601 自宅・京都市南区東九条北鳥丸町24電話075(691)1334

上西圭治

株式会社　大気社　代表取締役会長
〒530 大阪市北区中之島3－2－18 住友中之島ビル7階
電話06(448)3603
〒659 自宅・兵庫県芦屋市浜町12—14　電話0797(22)5949

岡澤勇

岡澤建築設計事務所　所長
〒530 大阪市北区西天満4丁目4番12号　近藤ビル6F
電話06(362)6082代表
〒567 茨木市藤の里2丁目16番6号
電話0726(43)5230・8953

数井利美

株式会社　西村建築事務所　取締役社長
〒652 神戸市兵庫区荒田町2丁目1-8 楠六パレスビル
電話078(521)0205～0207
〒654 自宅・神戸市須磨区白川台2丁目39—13
電話078(792)5862

植野寿雄

株式会社　寿建築積算事務所　所長
〒542 大阪市南区東清水町48つるのすビル電話06(244)1561
〒588 自宅・堺市大美野5－9　電話0722(37)1162



亀井晃治

一級建築士事務所
株式会社　A.R.I.(あり)建築事務所　代表取締役
〒542 本社事務所・大阪市南区谷町7丁目3番4—203
新谷町第3ビル2F
電話06(768)1771代 FAX06(768)1406
〒577 アトリエ・東大阪市上石切町2—14—35
電話0743(73)6137
〒631 自宅・奈良市中町1番地の479　電話0742(43)1226

尾亀清四郎

株式会社　三晃空調　取締役会長
〒540 大阪市東区城見ツイン21MIDタワー　電話06(949)1371
〒573 自宅・枚方市岡山手町15－4　電話0720(41)3427

亀田六夫

株式会社 増島製作所 大阪営所業　取締役
所長
〒530 大阪市北区西天満3丁目13番18号 島根ビル
電話06(364)1951
〒560 自宅・豊中市刀根山元町8—12　電話06(855)5356

多井幸男

(オオイ)

多井建築研究所　所長
〒541 大阪市東区今橋1丁目1番地　1番館ビル
電話06(226)0008
〒657 自宅・神戸市灘区曽和町3丁目1—11
電話078(821)6133

岡橋作太郎

〒659 自宅・芦屋市春日町3－3　電話0797(22)4500

鎌谷秀男

修成建設専門学校　理事長
〒555 大阪市西淀川区大和田5丁目19-30 電話06 (474)1644
〒665 自宅・宝塚市千種3丁目8番23号 電話0797(72)1380

大井弘治郎

株式会社 大井建築設計事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区京町堀1丁目10—8　福岡ビル
電話06(444)4521～2
〒562 自宅・箕面市百楽荘4丁目4—11 電話0727(21)4113

岡本行善

株式会社　昭和設計　代表取締役社長
〒550 大阪市西区新町1丁目5番7号　四ツ橋ビル
電話06(532)3421代
〒659 自宅・芦屋市岩園町35—7　電話0797(31)3201

柄谷順一郎

株式会社　柄谷工務店　取締役社長
〒660 尼崎市玄番南之町4　電話 06(411)1451
〒663 自宅・西宮市甲子園浦風町9—14　電話0798(41)0700

謹賀新年

昭和62年元旦　(50音順)

川岸繁夫

株式会社　川岸窯業商店　代表取締役会長

〒550 大阪市西区西本町1丁目13—33　電話06(532)0461代
FAX06(535)5181
〒563 自宅・池田市天神1丁目10—10　電話 0727(61)8598

川瀬甲子雄

扶桑管工業株式会社　代表取締役

〒616 京都市右京区太秦和泉式部町12番地　電話075(861)1157
大阪支店 電話06(304)0777　東京支店 電話03(263)0501
〒565 自宅・吹田市津雲台6—7—2　電話06(834)1734

川出盛也

高砂熱学工業株式会社大阪支店　常務取締役 大阪支店長

〒530 大阪市北区芝田1丁目4番8号北阪急ビル
電話06(372)8411

河井覚弘

株式会社 河井建築事務所　所長

〒631 奈良市登美ヶ丘4丁目8—10　電話0742(45)4378
〒631 奈良市登美ヶ丘4丁目8—11　電話0742(44)8100

河裾和夫

螢光産業株式会社　代表取締役

〒531 大阪市大淀区本庄西3丁目9番20号
電話06(371)5146代
〒560 自宅・豊中市中桜塚4丁目6-4　電話06(852)4148

木原正雄

近畿工業株式会社　専務取締役

〒540 大阪市東区谷町2—1　近鉄大手前ビル
電話06(943)5500
〒663 自宅・西宮市浜甲子園1—10—16　電話0798(41)6580

木下國男

内外パーキング施設株式会社　取締役社長

〒550 大阪市西区京町堀1丁目8番5号 明星ビル
電話06(441)0477代
〒665 自宅・宝塚市逆瀬台6丁目15番11号 電話0797(73)3228

汲川圭司

社団法人　全国鐵構工業連合会顧問
大阪鉄構建設業協同組合理事・顧問
大阪鉄構建設業協同組合顧問

〒543 大阪市天王寺区生玉前町1番21号 小山ビル 電話06(772)0182
連合会事務所
〒103 東京都中央区京橋2丁目10番2号 第2ぬり彦ビル9F
電話03(564)3711代

小北博一

株式会社　ジャス　代表取締役

〒565 大阪府吹田市古江台6丁目3番1号 健康の森
電話06(833)6611代
〒565 自宅・豊中市新千里北町1—1　C5—209
電話06(872)6461

小阪永一

大信印刷株式会社　代表取締役

〒531 大阪市大淀区大淀中4丁目13—11　電話06(451)7631
〒553 大阪市福島区福島6丁目20—10　電話06(451)5346



小島勝巳

有限会社 小島勝巳建築事務所 代表取締役

〒541 大阪事務所・大阪市東区南本町4丁目41番地
イヨビル8階　電話06(252)8088代 FAX06(243)0640
〒103 東京事務所・東京都中央区日本橋本町4丁目14番地
山本ビル7階　電話03(661)0768代 FAX03(661)0769
〒166 自宅・東京都杉並区成田西1丁目16—17
電話03(315)5435

小西岬 / 橋本正章

取締役会長　小西岬
取締役社長　橋本正章

株式会社　小西設計

〒550 大阪市西区立売堀1丁目12—16　電話06(532)4051

小林清

株式会社　新住宅社　代表取締役

〒530 大阪市北区中之島4丁目3番25号　電話06(443)6641代
FAX06(443)6642
〒545 自宅・大阪市阿倍野区北畠3丁目1番7号
電話06(654)0584

小林四郎 / 代谷正元

取締役会長　小林四郎
取締役社長　代谷正元

住友電設株式会社

〒553 大阪市福島区福島7丁目22番8号電話06(452)1151大代
〒662 自宅・西宮市西平町19—11　電話0798(74)6621
〒665 自宅・宝塚市仁川北3—13—20　電話0798(52)5971

河内義就 / 河内國利

取締役会長　河内義就
代表取締役　河内國利

有限会社 河内義就設計事務所

〒730 広島市中区八丁堀6番7号 チュリス八丁堀503
電話082(228)2271

鴻池藤一

株式会社 鴻池組　代表取締役会長

〒541 大阪市東区北久宝寺町4丁目27番地
ダイヤルイン電話06(244)3500(受付台)
〒603 自宅・京都市北区平野鳥居前町86 電話075(461)1526

佐々木森一

株式会社 佐々木建築事務所　代表取締役

〒550 大阪市西区京町堀1—3—22　電話06(443)0675
〒617 京都府向日市上植野浄徳11—19　電話075(921)0728

佐藤康

大鉄工業株式会社　取締役社長

〒532 大阪市淀川区宮原4丁目4番44号　電話06(394)1281
〒562 箕面市箕面6丁目9番36号　電話0727(22)3608

佐野正一

会長

株式会社 安井建築設計事務所 代表取締役社長

〒540 大阪市東区島町2丁目7番地　電話06(943)1371代
〒662 自宅・西宮市雲井町4の9　電話0798(72)1569

謹賀新年

昭和62年元旦　(50音順)

斉藤國義

株式会社　斉藤工業所　代表取締役
〒557 大阪市西成区岸里2丁目6番5号　電話06(661)3325代
〒557 自宅・大阪市西成区岸里東1丁目21番3号
電話06(652)0208

菅谷節

大阪電気暖房株式会社　代表取締役社長
〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話06(441)8231
〒158 自宅・東京都世田谷区等々力6丁目3番18号
電話03(703)1027

取締役社長 高橋慶夫
専務取締役 上田宏二

株式会社　高橋上田設計事務所
〒550 本社・大阪市西区新町1－4－21 大幸ビル
電話06(533)0971～3
〒110 東京事務所・東京都台東区上野5－3－7
宮代ビル3F　電話03(831)6108

雑賀幸夫

株式会社 大阪雑賀建築事務所 代表取締役
〒543 大阪市天王寺区上本町8丁目3番23号
電話06(772)4426・4436
〒573 自宅・枚方市香里ヶ丘7丁目11-16 電話0720(54)0004

杉浦敏郎

三機工業株式会社大阪支店　支店長
〒541 大阪市東区北浜2－22　電話06(202)3051代3071代
〒560 自宅・豊中市岡町南1－7－7　電話06(855)5995

橘泰治

東邦パーライト株式会社　取締役社長
〒540 大阪市東区森ノ宮中央2丁目7番15号　電話(941)9445～9
〒590-01 自宅・堺市若松台3丁26番3号　電話0722(91)2267

堺徳吾

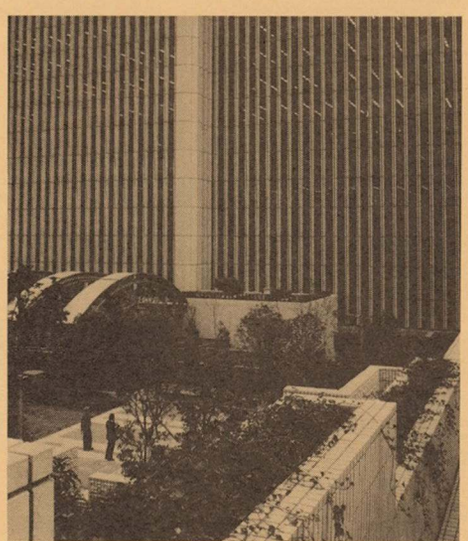
西日本建設業保証株式会社　取締役社長
〒550 大阪市西区立売堀2丁目1番2号　電話06(543)2553

鈴木隆二

株式会社 鈴木隆二設計事務所 代表取締役
〒460 名古屋市中区松原1丁目17－6
電話052(321)1763・6720
〒463 自宅・名古屋市守山区小幡池下73　電話052(792)3505

立田清

有限会社　柳々堂（建築専門書店）
〒550 大阪市西区京町堀1－12－3　電話06(443)0167～8
営業所：鴻池ビル　電話06(251)8233



志賀修一

フジタ工業株式会社　大阪支店　専務取締役 支店長
〒530 大阪市北区堂島2丁目1番16号　電話06(348)4510
〒567 自宅・大阪府茨木市下穂積4-11-39

立野一郎

株式会社　ユニオン　代表取締役
〒550 大阪市西区南堀江2丁目13番22号
電話06(532)3731代

四方靖郎

四方設計工務株式会社
一級建築士事務所　代表取締役社長
〒612 京都市伏見区深草関屋敷町32－2　電話075(642)9516
〒612 自宅・京都市伏見区深草関屋敷町32－2

知見義夫

春日設備工業株式会社　相談役
〒601 京都市南区西九条春日町48番地 電話075(671)5377代
〒601 自宅・京都市南区西九条春日町48　電話075(691)3860

名誉正会員

白石登喜男

株式会社　藤木工務店　常務理事
〒540 大阪市東区両替町1丁目13番地　電話06(944)1468
〒558 自宅・大阪市住吉区墨江1－7－39 電話06(671)3792

田中優

株式会社 ユソニアン一級建築設計事務所　代表取締役
〒530 大阪市北区東天満2丁目1番26号 福山ビル
電話06(354)2781～4
〒536 大阪市城東区成育4丁目20番2号　電話06(931)8857

名誉会長

塚本猛次

株式会社　日建設計　最高顧問
〒541 大阪市東区高麗橋5丁目21番地1　電話06(203)2361
〒665 自宅・宝塚市清荒神2－6－27　電話0797(87)1940

城口庸平

株式会社　大阪城口研究所　取締役社長
〒530 大阪市北区角田町2番15号　電話06(372)7151代

田村真二

株式会社　竹中工務店　常務取締役
〒541 大阪市東区本町4－27　電話06(252)1201
〒663 西宮市浜甲子園2丁目5－19　電話0798(41)4300

辻本豊

株式会社 ツジモトユタカ設計事務所 代表取締役
〒640 和歌山市東長町中の丁12－3 電話0734(26)2030代
〒640 自宅・和歌山市東長町中の丁12-3電話0734(26)2030代

謹賀新年

昭和62年元旦　(50音順)

津村芳仁

オリエンタルメタル製造株式会社　代表取締役社長
〒660 尼崎市昭和南通３丁目26番地　電話06(412)5131代
〒330 自宅・埼玉県大宮市高鼻町３丁目58番地
電話0486(41)0204

長澤孝行

日本住宅パネル工業協同組合大阪支所　支所長
〒530 大阪市北区西天満５丁目６番10号 富田町パークビル
電話06(313)3321
〒598 自宅・大阪府泉佐野市佐野台20-52 電話0724(63)1260

名誉正会員
浜口幹三郎

株式会社　淺　沼　組　社友
〒543 大阪市天王寺区東高津町12番６号　電話06(768)5222
〒631 自宅・奈良市二名町南登美ヶ丘3336－７
電話0742(43)1091

傳馬正明

ムツミ産業株式会社　代表取締役
〒550 大阪市西区靱本町１丁目17番15号
電話06(441)0378大代
〒558 自宅・大阪市住吉区長居東３丁目14番22―515
電話06(699)5326

蜷川守男

大阪装飾株式会社　代表取締役社長
〒550 大阪市西区京町堀1丁目13番24号　電話 06(444)1410
〒665 自宅・兵庫県宝塚市社町3番10号　電話0797(72)6045

林唯夫

株式会社　昭和設計　代表取締役副社長
〒550 大阪市西区新町１丁目５番７号　四ッ橋ビル
電話06(532)3421
〒565 自宅・吹田市青山台３丁目41―11　電話06(872)3608

名誉会長・名誉正会員
東畑謙三

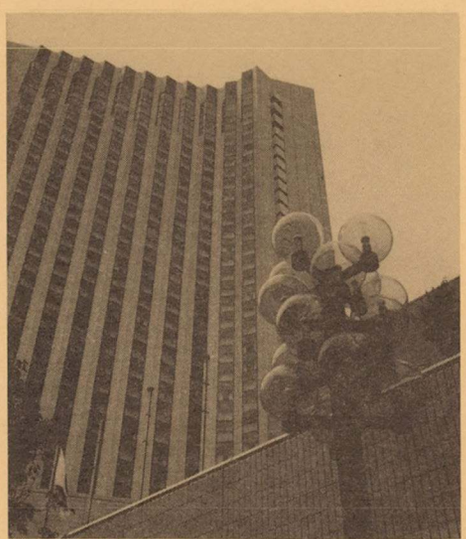
株式会社　東畑建築事務所　取締役会長
〒541 大阪市東区伏見町５－19　電話06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手4-4-35　電話078(851)5043

野村文英

野村建設工業株式会社　取締役社長
〒541 大阪市東区高麗橋２丁目９番地　電話06(202)4791代

原精一

コーナン建設株式会社　代表取締役
〒532 大阪市淀川区十三本町2丁目4番28号
電話06(308)1551大代
〒662 自宅・西宮市名次町12番９号　電話0798(72)1504



徳岡昌克

徳岡昌克建築設計事務所　所　長
〒530 大阪市北区西天満6丁目3番11-205号　電話06(314)1688
〒661 尼崎市次屋３丁目６番60号　電話06(499)0701
〒532 自宅・大阪市淀川区新高6丁目6番18号　電話06(391)1438

原田セメント化工株式会社
大統商事ＫＫ・泉州コンクリート工業ＫＫ
〒554 大阪市此花区西九条4丁目3―34　電話06(465)1212代
〒661 自宅・尼崎市塚口町３丁目41－８　電話06(421)4518

内藤正克

株式会社　内藤建築設計事務所 代表取締役会長
〒675-13 兵庫県小野市上本町240 小野ビル　電話07946(2)4757代
〒675-13 自宅・兵庫県小野市久保木町1063　電話07946(2)4668

伴一郎

株式会社　西原衛生工業所大阪店 代表取締役社長
〒531 大阪市大淀区中津六丁目８番４号 電話 06(458)3628
〒563 自宅・池田市石橋３―11―14　電話0727(61)8652

中原英雄

株式会社　創美設計　代表取締役
〒530 大阪市北区末広町３番21号 星和地所扇町ビル
電話06(312)3587代
〒565 吹田市桃山台４丁目３番１―808

野津民夫

日本アルミニウム建材株式会社　社　長
〒532 大阪市淀川区三国本町3―9―39　電話06(392)5821代

平城勧

株式会社 朝日工業社 大阪支社　取締役副社長
大阪支社長
〒532 大阪市淀川区加島1丁目58番59号　電話06(302)2270
〒665 自宅・宝塚市中山桜台４―15―４ 電話0797(89)3884

永井賢城

株式会社　久米建築事務所　取締役社長
〒106 東京都港区西麻布１丁目13番11号 電話03(403)0251大代
〒251 自宅・藤沢市鵠沼海岸2丁目8の26　電話0466(36)7706

橋本晃芳

株式会社　鴻　池　組　専務取締役
〒541 大阪市東区北久宝寺町4丁目27番地 電話06(244)3545
〒659 自宅・芦屋市精道町４－１　電話0797(31)6766

福永薫

株式会社　建設技術センター　代表取締役
〒532 大阪市淀川区西中島５丁目７番17―602号
電話06(304)1148代
〒542 自宅・大阪市南区南船場４丁目７－３
電話06(251)3102

謹賀新年

昭和62年元旦　(50音順)

藤木鐵三

株式会社　藤木工務店　取締役社長

〒540 大阪市東区両替町1丁目13番地　電話06(944)1468代

名誉正会員

松本与作

建築家　第一生命保険株式会社　顧問技師

〒145 自宅・東京都大田区田園調布3-17-3 電話03(721)4723

薬袋公明

株式会社　日建設計　取締役社長

〒541 大阪市東区高麗橋5丁目21番地1　電話06(203)2361

堀内史郎

第一工業株式会社大阪支店　常務取締役支店長

〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号　電話06(364)6661代

〒573 自宅・大阪府枚方市朝日丘町12-18 電話0720(41)5396

三品哲夫

財団法人　大阪市建築技術協会　理事長

〒541 大阪市東区大川町27番地 住友生命淀屋橋ビル4階
電話06(208)8144

〒560 自宅・豊中市上野東1-10-45-205　電話06(848)9067

水間義雄

株式会社　水間組　代表取締役社長

〒534 大阪市都島区東野田町1丁目1番4号
電話06(352)3121代

〒538 自宅・大阪市鶴見区今津南4-10-15　電話06(961)0785

前田敏男

財団法人　日本建築総合試験所　理事長

〒565 本所・吹田市藤白台5－8－1
電話06(872) 0391

〒531 大淀分室・大阪市大淀区長柄西2－1－18
電話06(351)7217

〒592 堺分室・堺市浜寺石津町西2－1－34
電話0722(44)3912

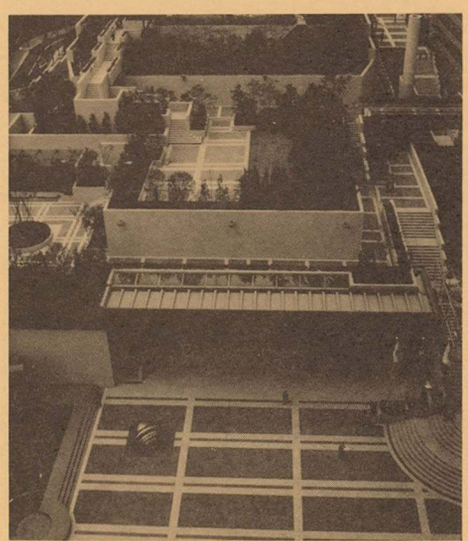
〒612 京都分室・京都市伏見区中島前山町24－2
電話075(622)0713

〒675-01 加古川分室・加古川市別府町新野辺字畑下1311-3
電話0794(35)5811

三富和

東海興業株式会社　大阪支店　常務取締役 支店長

〒530 大阪市北区堂島浜2-2-8 東洋紡ビル電話06(348)5602



名誉正会員
取締役会長 **道田泰治郎**

取締役社長 **道田泰平**

株式会社　道田工務店

〒666 川西市中央町18番21号　電話0727(57)9777代

〒660-01 自宅・川西市向陽台3丁目6－216
電話0727(92)1984

前田平一郎

ゼネラル事務機株式会社　社長

〒550 大阪市西区靱本町3丁目2番7号 第1横井ビル
電話06(441)1462代

〒560 自宅・豊中市上野東1丁目16－21　電話06(849)5764

宮後浩

株式会社　コラムデザインセンター
株式会社　大阪パースアカデミー　代表取締役

〒542 大阪市南区南船場4－13－15　コラムビル
電話06(245)4631(コラム)
電話06(253)0285(大阪パース)

松田恒彦

株式会社 ART建築設計事務所　代表取締役所長

〒530 大阪市北区東天満2丁目3－10 田中ビル
電話06(357)5351代

〒546 大阪市東住吉区西今川2丁8－7　電話06(702)6738

村石全

浪速合板株式会社　代表取締役社長

〒556 大阪市浪速区幸町2丁目5番3号　電話06(568)3671

〒659 自宅・芦屋市岩園町25番15号　電話0797(34)0835

松村雄二

株式会社　松村組　取締役会長

〒530 大阪市北区天満2丁目1番3号電話06(353)1131

三谷忠義

株式会社　三谷設計　代表取締役

〒694 島根県大田市久手町波根西777の1
電話08548(2)8121代

〒694 自宅・島根県大田市久手町波根西225の2
電話08548(5)8320

村上二郎

サンエス石膏株式会社　代表取締役社長

〒530 大阪市北区堂島2丁目4番17号 藤田ビル本館
電話06(344)6526～9

〒565 自宅・吹田市千里山西3丁目7番5号　電話06(384)1002

松本重太郎

松本金物株式会社　取締役社長
大阪建築金物卸商協同組合　理事長

〒543 大阪市天王寺区四天王寺1丁目5番47号
電話06 (774)2200
受付案内台

〒542 組合事務所・大阪市南区島之内1丁目22番20号
大和ビル本館5階602号室　電話06(245)3187

三輪泰司

株式会社 地域計画・建築研究所　代表取締役所長

〒600 京都市下京区四条通高倉西入ル立売西町82番地
大和銀行京都ビル　電話075(221)5132代

〒540 大阪市東区石町1丁目1番地 天満橋千代田ビル2号館
電話06(942)5732

〒460 名古屋市中区丸の内3丁目18番30号 ツボウチビル
電話052(962)1224

〒612 自宅・京都市伏見区桃山南大島町95－45
電話075(601)3962

室谷山水

室谷商事株式会社　取締役会長

〒650 神戸市中央区北長狭通4丁目2－4 ツインズ元町ビル
電話078(331)0881

〒650 自宅・神戸市中央区山本通4丁目17－17
電話078(221)5050

謹賀新年

昭和62年元旦　(50音順)

毛利哲三

松尾橋梁株式会社　取締役社長

〒551 大阪市大正区鶴町3丁目4番18号
電話06 (552) 1551代表

両角保

浦安工業株式会社　専務取締役 大阪支店長

〒130 本社・東京都墨田区錦糸2丁目8—7 電話03(624)2441
〒530 大阪支店・大阪市北区天満2丁目3—5
電話06(351)7502代

森淳

三和電気土木工事株式会社　取締役社長

〒530 大阪市北区南森町1丁目4番19号　電話06(361)6451代
〒596 自宅・大阪府岸和田市別所町2丁目3番5号
電話0724(22)7710

八木喜美蔵

八木惣株式会社　代表取締役社長

〒593 堺市津久野町3丁28番10号　電話0722(62)1175
〒593 自宅・堺市津久野町3丁28番10号　電話0722(62)0722

八十島健二

株式会社　竹中工務店　取締役副社長

〒541 大阪市東区本町4—27　電話06(252)1201
〒663 自宅・西宮市甲子園二番町5—30　電話0798(41)0598

取締役会長 簀本弦三
代表取締役社長 曽我部輝雄

株式会社　笹川組

〒520 大津市打出浜13—15　電話0775(23)2314
〒520-21 自宅・大津市一里山5—9—11　電話0775(45)3966

山内恒男

株式会社 石本建築事務所　大阪支所長

〒542 大阪支所・大阪市南区島之内1—20—19 仁水ビル
電話06(251)7507
〒102 本社・東京都千代田区九段南4-6-12 電話03(262)7161

山田保

株式会社 山田保建築設計事務所 代表取締役

〒733 広島市中区本川町2丁目6番11号第7ウエノヤビル2階
電話082(292)8211代
〒733 自宅・広島市西区己斐東2丁目12番27号
電話082(271)0690

山田恒治

株式会社　山田工務店　取締役社長

〒651 神戸市中央区雲井通4丁目1番3号
電話078(232)1800代
〒651-11 自宅・神戸市北区泉台4丁目9番12号
電話078(592)5902

山本一彦

株式会社 和光建築設計事務所　代表取締役

〒550 大阪市西区北堀江2丁目9番15号　電話06(531)4488
〒536 大阪市城東区森之宮1丁目4番204号
電話06(969)0788



山本貴士

朝陽電気株式会社　代表取締役

〒530 大阪市北区中之島3丁目2番4号　電話06(385)1361代
朝日ビルディング内
〒565 自宅・豊中市新千里東町2丁目4番 A1—404
電話06(871)0851

米倉豊夫

日本住宅パネル工業協同組合　理事長

〒113 東京都文京区本駒込6丁目15番7号
電話03(945)2311大代

和田眞一

株式会社　東和組　代表取締役

〒530 大阪市北区西天満4丁目5番14号　電話06(363)4051
〒659 自宅・芦屋市公光町3番8号　電話0797(22)3282

和中勝

株式会社　和中商店　取締役会長

〒531 大阪市大淀区豊崎5丁目8番11号　電話06(371)0731—5
〒150 東京都渋谷区桜丘町11—5　電話03(464)9723
〒453 名古屋市中村区黄金通3丁目34番地
電話052(481)7338
〒662 自宅・西宮市大畑町10—22　電話0798(67)7544

渡辺健一

株式会社　曽根組　代表取締役

〒676 本社・兵庫県高砂市曽根町2257の1
電話0794(47)1551代
〒541 大阪支店・大阪市東区伏見町2丁目15 ホンダビル
電話06(203)4415代
〒650 神戸支店・神戸市中央区北長狭通4丁目 高橋ビル
電話078(321)3471代

渡辺忠

東洋シャッター株式会社　取締役相談役

〒540 大阪市東区両替町1—12日生ビル　電話06(943)6571代
〒560 自宅・豊中市緑丘3丁目21番8号　電話06(856)0983

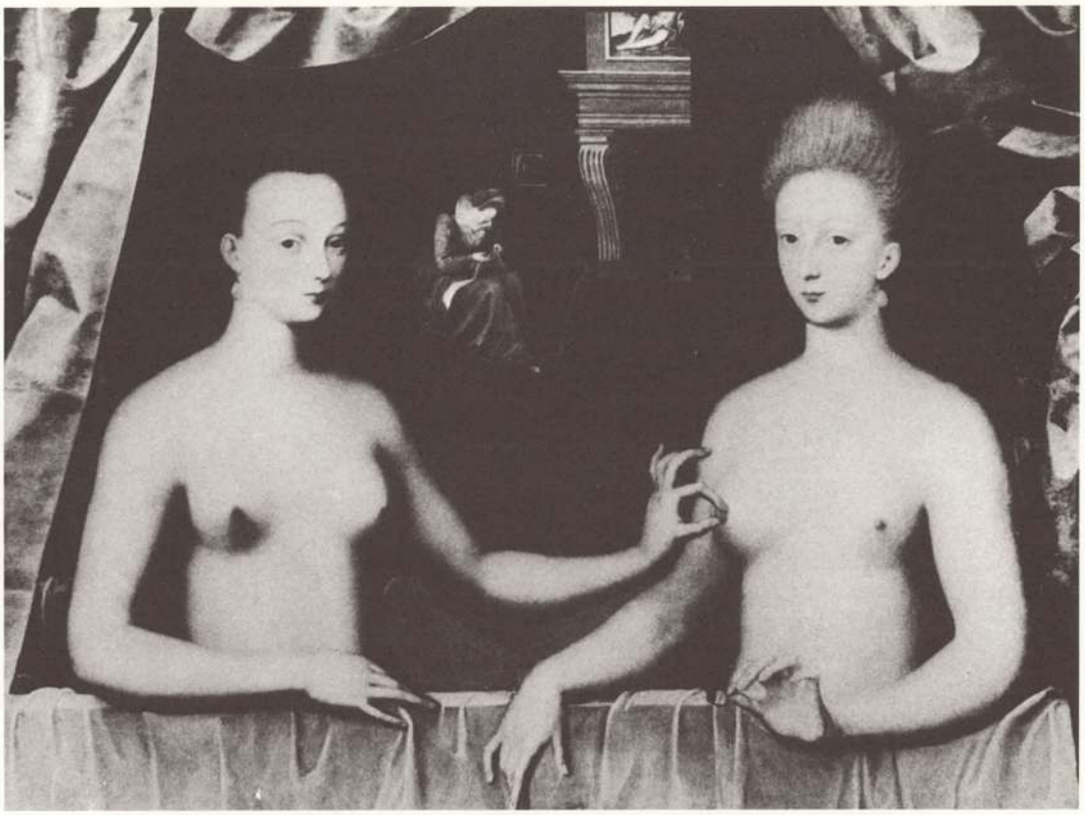
渡部慶一

株式会社 松田平田坂本設計事務所　大阪事務所 所長

〒530 大阪市北区堂島2—2—25　電話06(344)7821
〒530 自宅・大阪市北区中之島5—3—92
ルイシャトレ中之島622号　電話06(448)5645

事務局一同

社団法人　日本建築協会



特集：入浴物語

猿もお風呂が大好きだという。人間は、それよりももっとお風呂が好きな動物かもしれない。有数の火山国である日本では、各地に風光明媚な観光温泉地を有する。そしてお風呂を介在させた人情味あふれる下町文化の歴史もある。健康ブームの中で、新型の各種施設の出現もある。〝入浴〟という一つの生活行為の側面を、都市や建築という空間ベクトルと人間の生活文化における歴史的視点すなわち時間ベクトルとにクロスオーバーさせ、〝入浴〟にかかわる物語を展開することを試みた。お正月を迎えた皆様に各界さまざまな風呂談義をホットにお届けします。気軽に読んでいただければ幸いです。

編集幹事　田中直人

1 新春風呂談義

ポンペイの浴場跡をみる／東畑謙三
城崎のまちづくり／西山夘三
ゆあみのうた／落合茂
浴室―東西文化の融合へのみち／保坂陽一郎

2 座談会●風呂と入浴物語

出席者：大場修・西井弘和・高田公理

3 エッセイ

牟婁の湯―白浜の大衆浴場／西山夘三
地域に根ざした銭湯―延命湯／竹原義二
今、何故か健康センター／副島雅行
求められる〝クアオルトロジー〟に思う／岩崎輝雄
露天風呂／山田義之
お風呂こぼれ話／山崎猛
温泉を地域の住民に開放―小山田温泉物語／川村耕造
集合住宅の風呂／川村真次
庶民生活と銭湯／松島信雄

4 外人留学生よりの入浴談義

エジプトの風呂・温泉
タイのbathing
中国の銭湯の伝統的なサービスコース
韓国の入浴、沐浴そして私
ガーナの入浴

5 事例●今おもしろい〝温泉〟みてあるき

ルポ記事9点
アンケート事例6点

6 資料篇●KURHAUS

本特集企画担当編集委員：奥村礼子・河端秀直・川前　勉・佐野潤一・清水　肇・芝吹千昭・田中直人・高田佳子・藤田治彦・舟橋國男・北條　誠

ポンペイの浴場跡をみる

東畑謙三

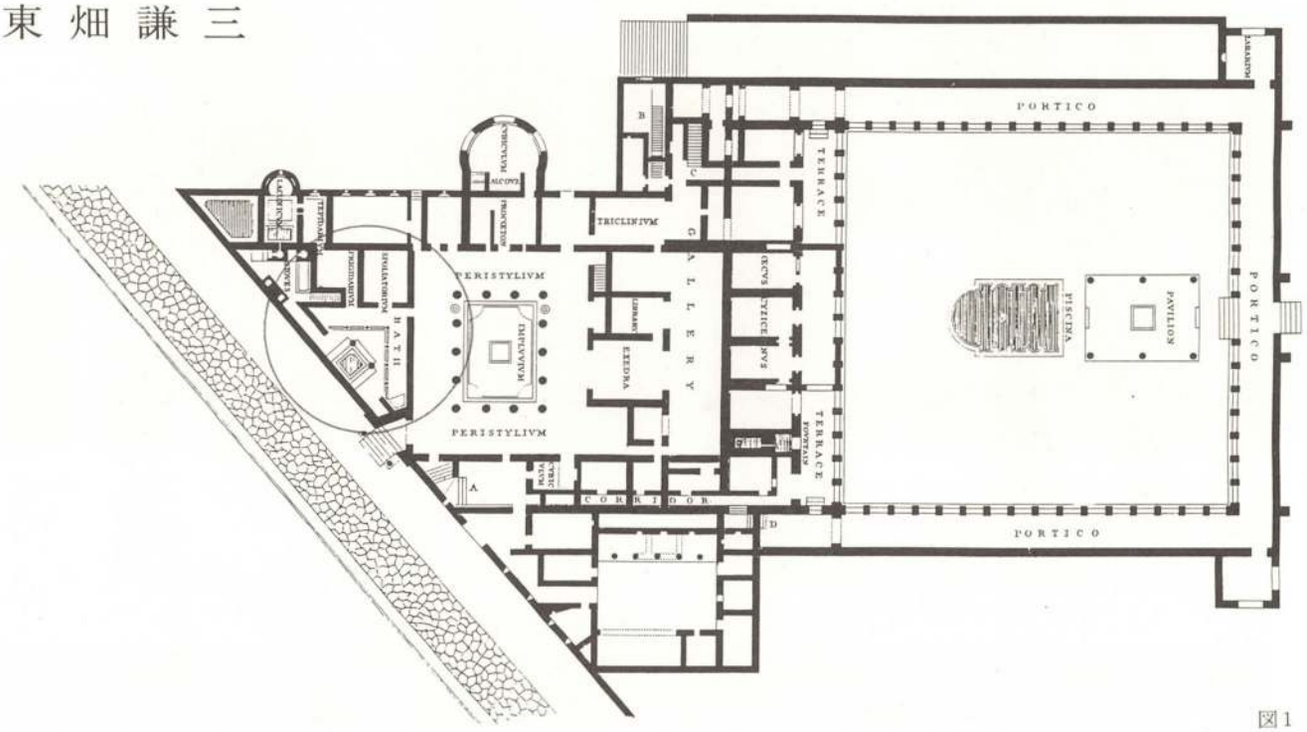


図1

54年前の昔の話。昭和７年５月、私は建築設計で社会に出るべく、機会を得て海外旅行に出た。あこがれの西欧建築をみるためである。当時は欧州へはシベリア鉄道によるか、日本郵船の欧州航路によるかの二つよりなかった。私は後者を選んだが、神戸を出て印度洋、スエズを経由、寄港さきのあちこちを見学しながら35日目にイタリアのナポリに着いた。あこがれの本場である。

船の事務長に聞いた欧州の始めての宿が当時の歌でよく聞いたサンタルチアー通りのホテルである。若輩の泊るところ、二流のホテルであったが、驚いたことはその浴室の広さである。寝室と同じ位の大きさで、その一面に壁一パイに張った鏡がある。縦横２メートル位の大鏡、西洋人の日常生活に、東洋の書生はまずどぎもをぬかれた。

夕やみせまる頃、サンタルチアー海岸通りの散歩、西洋人達のスタイルの好さ、ことに体格の立派なこと等、東洋人のインヘリオリテーを感じることおびただしきものがあった。

ナポリ市街の見物はとにかく、郊外数キロにあるポンペイの廃墟の見物に出かけた。ポンペイはヴェスビアス山麓で、地中海に面した風光明媚な地方である。ナポリ市の出来る前、南伊の一王国の城下町がポンペイである。群雄並びたつ時代の一王国の首府で、当時人口が２万位、その後ローマ帝国の支配下となり、ローマ帝国の貴族、富豪の別荘地となり繁栄した町である。

西暦63年、この地に大地震あり、修復間もなく同77年ヴェスビアス火山の大爆発あり、栄華の都は一挙に６～７メートル、深いところは20メートル位溶岩と灰に埋まったのである。

そして十数世紀がすぎて18世紀の中頃より発掘が始まり、当時の建築家によりローマ時代の豪華な市民生活の大要が図面で報告されだした。西欧文明が一つの頂点に達した時代そのままの出現だから、全く貴重な資料である。

発掘調査はいづれも当時の建築家の役目であった。多くの報告書があるが、平面図は相当詳しく作図されている。当時は写真がない時代だから、姿図は専らエッチングによる銅版画で示されている。

手元にある資料の中で、1827年版、建築家ドナルドソンの調査報告、クーケのエッチング図……Pompeii, recent excavations by T. L. Donaldson, Architect, & engraved by W. B. Cooke. London 1827……の大著の

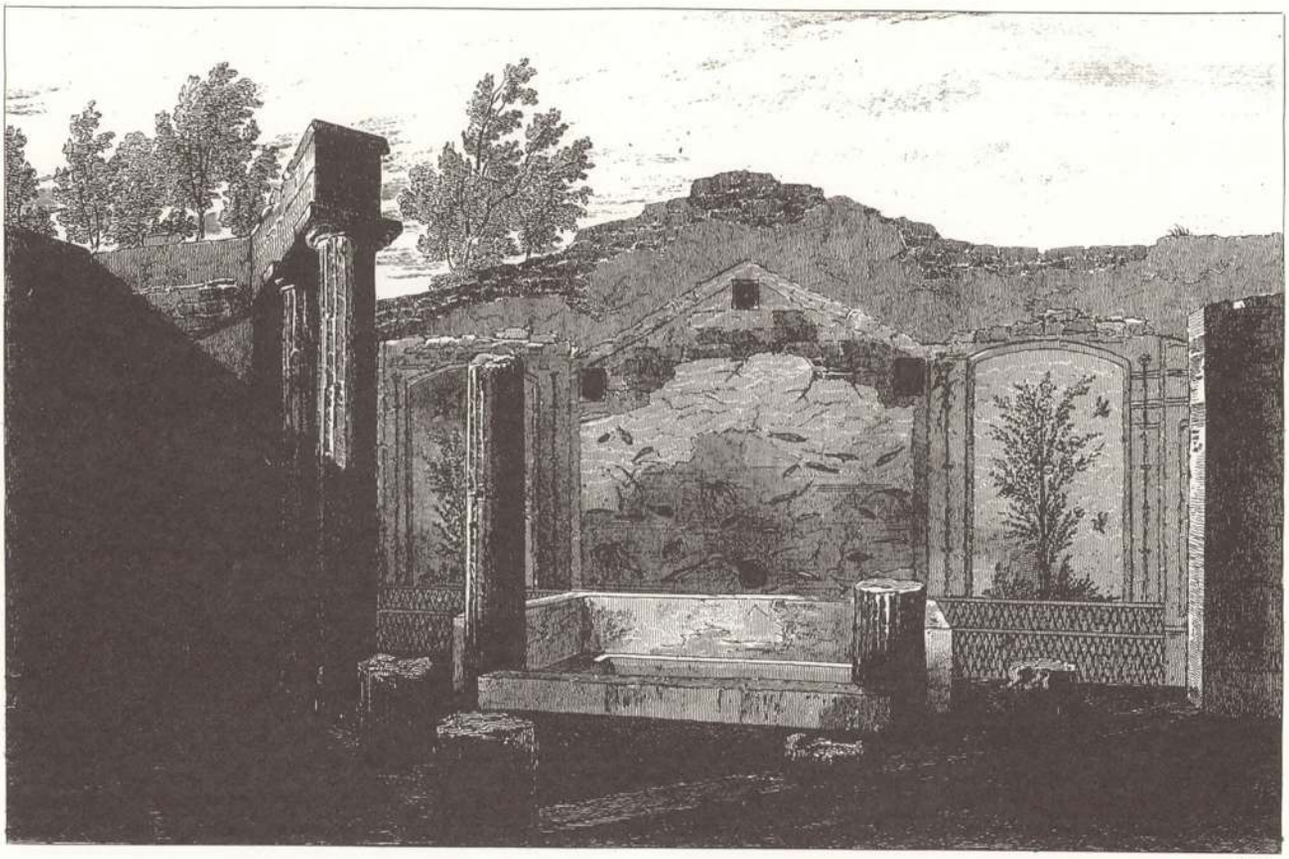


図2

中にポンペイ市街の主要部分が出ている。その中に、一豪家アリウス邸…… Arrius Diomedes ……が詳しく報告されている。

図1。この豪邸は大規模な礼拝堂の附属屋の型式であり、宗教と生活とを兼ねた型式で、礼拝と日常生活とを全く切りはなし、礼拝はペリオンで広場より出入りし、生活の方は細い前面道路より出入りしている。生活部門の方は、図のごとく、門を入るとインプルヴィウムがある。これは現代でいうサンクガーデン式の中庭で、列柱でとりまかれた一族交遊の広場である。この広場をはさんで一翼がガレリーになっていて、美術品の陳列場と図書室がある。

また他翼には広い浴場がある。平面図からみれば、古代ローマ人は交遊の場合、一方は知識の交遊、一方は肉体の交遊、この状態がよくわかる。肉体の交遊は浴場で、いわゆる裸のつきあいである。

図2。大理石で造った大浴槽、壁面はフレスコで画いた魚のおよぐ大壁面、洗場にはドーリックオーダーの大理石の柱等、全く豪華なかまえである。広場をはさんで、一方には知識の交換場所である文庫があり、片方には肉体の見せ場、浴場がある。平面よりみれば、知識と肉体と併行しての訓練がローマ時代の文明を作ったものと思う。

場所はわすれたが、発掘現場のある住宅跡に案内された。私は当時妻と同行しての見物だったが、案内人は奥様はここでしばらく待てと言って私だけ案内したのが当時のベッドルームである。そこに、壁面にフレスコで画かれた夫婦間のベッドシーンがあった。この室は個室であっても、密室ではない。古代ローマでは、この情景は夫婦間の秘めごとではなく、一つのいとなみであったのであろう。当時日本では、展覧会に裸体画は出品出来なかった時代である。古代ギリシヤ、ローマの彫刻や、いわゆる泰西名画の群像等が出来たのも心身併列の思想から来たものだろう。この点が東洋文明と異なるところだろう。

中国の故事に酒池肉林という言葉があるが、故宮で楊貴妃が使った大理石の浴場をみた。また西安の華清池でも同じく大理石の浴槽をみたが、いづれも密室的なもので、ポンペイの一豪族のあけはなした豪華な浴場にはくらべものにならなかった。

（とうはた　けんぞう　東畑建築事務所会長）

城崎のまちづくり

西山卯三

城崎（きのさき）には最近御無沙汰をしている。先日ＮＨＫのテレビで久しぶりに懐しい風物を見た。志賀直哉が大正の始め、交通事故で怪我をしたあと、しばらく養生をかねて滞在した。その折の所感を描いた「城崎にて」がよく知られているので、今は三階建になっている当時の宿の主人などもでてくる回想の番組だった。玄武岩をつみ重ねた護岸は現れなかったが、町を流れる大谿川（おおたにがわ）にかかる特徴のある橋や手摺、並木や旅館の町なみ、それをかこむ緑の山や社寺、数多い共同浴場など、旧知の景観が次々と現れてくるのを懐しく見た。

私は「温泉」が好きである。子供の頃、親父が夏場の避暑に宝塚や有馬に行ったとき、よくお伴をした。宝塚は、駅から武庫川へ一本の堤（どて）道が走り、途中に一軒だけ茶店があった。蓬来橋を渡った川向うが旧温泉で、橋のたもとの右角が定やどだった。左角にはせんべい屋があり、旅館の二階から向い側の店で、卵をいくつも割ってかきまぜ、タンサンセンベイを焼いているのをあかずに眺めていた。大正初期の話である。姉につれられて新温泉にもよく行った。小林一三が少女歌劇をはじめ、雲井浪子というスターがいたのを覚えている。有馬温泉は手拭いがすぐまっ赤になる。何々坊という旅館が共同浴場を囲む細い道に建てこみ、みやげ物屋には「知恵くらべ」といって面白い形の寄せ木組みを売っており、それを分解してまた組立てる。バラバラにしたあと、元の形にならず弱った。そのほかには、紀州の湯崎（白浜）や城崎の名前をしっていたが、別府ぐらいしか行っていない。海岸の黒い砂にうづまった感触は今も肌に残っている。

私は湯に入るのも好きで、一番よく入ったのは１日に７回である。温泉といえばむろん共同浴場（外湯）である。ところが今は「内湯」が多くなり、浴室をもつ住宅がふえて、銭湯などには行かなくなったためか、ハダカを人に見せるのをいやがり、折角温泉に行っても部屋のバスルームですませる人が多いときく。何のための温泉か。

城崎は、敗戦直後兵庫県の都市計画の仕事をしていた関係で、地元の観光協会の講習に出かけ、「一の湯」の向い側にある「ゆとうや」に泊ったのが機縁で、宿の内湯の設計をたのまれた。先代の主人は町長でもあり、町内の共同浴場が改築期にきていたので湯の好きな私は喜んでその設計を引受けた。それ以来城崎には随分通った。大正14年の但馬の大地震のあと建てられた「一の湯」は早大の吉田亨二先生の設計ときいた。鉄コンで社寺風の外観、瓦屋根をのせている。その後何度か改修されたが、外観はほぼ原形を残している。「まんだら湯」も大体昔のままだが、「御所の湯」「地蔵湯」、少しおくれて「鴻の湯」は私が手がけた。いずれも浴室のとり方に工夫をこらしたが、今考えてみると、女湯より男湯を少し大きくしたのは失敗である。「一の湯」には底にグリ石をならべて、湯の中に立つとやっと首がでるという深い浴槽があった。体の小さい直哉は溺れそうになり、縁をつかんだという話がテレビであった。しかしこれは残せなかった。「地蔵湯」は立地の関係で正五角形のプランにして浴室のとり方にも苦心したが、ファサードは大味で、特に湯気抜きの工夫がたりなかったと見る度に思う。「御所の湯」は大きな格子をつけ、「鴻の湯」は妻入りにした。



城崎　鴻の湯

城崎には、これら主として観光客用の５つの湯と、町民湯の色彩のこゆい２つと合わせて７つの共同浴場がある。湯の湧出量がそう多くないので旅館の内湯には配湯を制限し、共同浴場（外湯）を主にしている。給湯のシステムはテレビでも紹介されていたが、いくつかの泉源の湯を一つにまとめ、ループになっている給湯管で町内に湯を循環させている。

夏は浴衣、冬はドテラで、宿の下駄をひっかけ、外湯にゆく。湯上りに手拭いをぶらさげて町を散歩する。みやげ物屋、遊戯場、喫茶店などが旅館のあい間に軒をならべ、名物のカニや海産物を売るおばさんたちが手車をおして街頭に店をひらく。そこをひやかしつつうろつくのが浴客の楽しみの一つである。近頃は７つの湯めぐりでスタンプをもらう楽しみもあるらしい。旅館・外湯・店舗・その他の施設がそれぞれ機能を分担し、町全体で客をもてなす構造になっている。すぐれた特色といえよう。

こうした形が昔の温泉場の原形だが、今は何々温泉と称しても、大きなホテル・旅館が建ち、めいめい趣向をこらした浴場、広いロビーにみやげ物を列べ、遊戯場やホール、アトラクションのショウもあり、宿につくと出発するまで外に出ずにすむという形がふえている。時間的ゆとりのない客もこれを便利としているようだが、これはどんなものだろう。湯治と称して何日も滞在するのはむつかしいにしても、やはり町なみや環境をゆっくり味わうのでなければ、温泉に行ったということにはなるまい。

城崎の温泉地としてのいい所は、このように中心の町がコンパクトにできているうえに、水辺レクリの発展が将来期待できる円山川、少し足をのばせば名勝・玄武洞、山陰海岸の景勝地・日和山、竹野の海水浴場、やき物と城下町の出石といった見処があり、それらの観光地の宿泊基地となっていることであろう。

ただ、山にかこまれた大谿川ぞいの町の中心は懐がせまくゆとりがない。町を貫通する道路も道幅がせまく、歩車分離は困難である。しかしその方が車の暴走を押えるとして利点と見る考え方もある。客室の増加には木造３階建をこえて更に建て上げるという動きもあるが、限度を心得るべきであろう。防災の問題や従業員、一般町民の居住地の問題もある。戦後、円山川ぞいの開けた地域に新しい大型のホテルや施設ができる動きもあるが、全体のまちづくりの方向を町民全体が話しあって、計画的に協力してゆく必要があろう。そうした努力も行われている。

戦後、国民生活の変化と共に、レクリエーションや観光のあり方が、あわただしく変ってきた。大衆観光の時代から家族や小グループ、あるいは単身旅行への変化、その対象も国内から国外へ、あるいは有名地から人の知らない所へなど、多様化と能動化が見られる。温泉場への旅行や観光も姿をかえよう。しかし新奇を求めるだけで成功するとは思えない。城崎のまちづくりのあり方には今後の変化もふくめて、学ぶべきものが多くあると思う。

—1986．11．3—

（にしやま　うぞう　京都大学名誉教授）

ゆあみのうた

落合　茂

春寒くして浴を賜う華清の池
温泉水滑らかにして凝脂を洗う……

温泉のうたでまず思いだされるのは、中学時代に漢文で習ったこの白楽天の「長恨歌」である。玄宗皇帝命名の楊貴妃のふろ「華清池」は、いま西安観光の名所になっているが、近年ほんものの池が発掘されたという。

江戸城を築いた太田道灌の辞世のうたも、ふろと無縁ではない。道灌の主家・上杉定正は彼の威望に疑念を抱き、相模国糟屋の別荘に彼を招いた。当時の慣習によって入浴を勧められた浴場で、道灌は刺客曽我兵庫らに襲われた。かねて歌人としての道灌を知る兵庫は、槍を構えて「辞世はいかに」と問うた。それに答えた〈かかるとき　さして命のおしからめ　かねてなき身と思いしらずば〉が道灌辞世のうたであった。

古川柳は江戸時代の庶民生活をうかがい知る好個の史料であり、庶民の社交場ともいうべき銭湯風景をうたったものには、〈てんでんに浄瑠璃洗う風呂の中〉や〈湯屋の唄垢の抜けない声ばかり〉などのほか、熱湯好きの江戸ッ子気質をうたったものに〈念仏に力を入れて湯に沈み〉や〈沈む時念仏の浮く風呂の中〉などがある。

また明治10年ごろの「東京新詠」に載った戯詩に、

学ビ難キ鴛鴦雙浴ノ遊／温泉此段風流未シ／生憎ヤ
一片槽中ノ板／正ニ似タリ星沙ノ女牛ニ隔ツル

とあり、混浴禁止で男女の浴槽が板で隔てられたのを牽牛織女になぞらえて嘆じている。

銭湯にのど自慢は江戸時代からつきものだが、昭和初年には、銭湯で評判の美声の巡査がスカウトされて、小野巡という歌手としてデビューしている。昭和4年に「東京行進曲」が大流行したころ、作詩者の西條八十が近所の銭湯にでかけたところ、隣のカランで若い職人風の男がしきりに水をかぶるので、その飛沫がさかんにとんでくる。腹が立って怒鳴ろうとすると、なんと相手は〈ジャズで踊ってリキュールで更けて……〉とうたいながら水をかぶりだしたので、ノドまで出かかった怒鳴り声を思わず呑みこんだという（「唄の自叙伝」）。

ゆあみをうたった近代詩には、日夏耿之介・野口米次郎・千家元麿・大鹿卓・石垣りんなど少なくないが、ここでは私の好きな田中冬二の「くずの花」を紹介する。

ぢぢいと　ばばあが／だまつて湯にはいつている／
山の湯のくずの花／山の湯のくずの花

しめくくりに、ゆあみの和歌と俳句を添えておこう。

朝の湯の湯槽のふちにうなじ載せ　ゆるく息する物思ひかな　石川啄木
除夜の妻白鳥のごと湯浴みおり　森　澄雄
朝湯こんこんあふれるまんなかのわたくし　山頭火

（おちあい　しげる　花王株式会社資料室）

浴室——東西文化の融合へのみち

保坂陽一郎

住まいのなかでの水まわりの設備について、日本人は欧米の技術を極力吸収し、戦後飛躍的な変貌をとげたという話をよくきく。たしかに、考えてみればそのことによって、住まいの平面構成も全く変わってしまったと言える。かつては別棟として小屋のなかにおさめられていた便所や風呂は、近づけられたとしても母屋のはずれの位置しか与えられず、内部の間取りはそれによって左右されることはなかった。水まわりをどこにおくかで平面構成の性格がある程度決められてしまうようになったことには、設備上の変革に負うところが多い。

しかし水まわりといっても、便所と風呂とでは大分趣がちがう。設備というハードな側面によって、それまでの伝統的な人の行為が変えられてしまうことは、よほどの社会的強制力があるか、快適さが決定的にちがうか、どちらかであろう。便所については、用便という行為のかたちが10年20年という短い単位で変わってしまった私たち日本人の生活を考えてみれば、後者の原因による変革が決定的であったにちがいない。しかし風呂はちがっている。

そこではじめの話に戻るわけであるが、便所は洋風化し風呂は和洋折衷化したということができる。その証拠に欧米の人が日本の住宅を訪ねると、便所には何も興味を示さないが、風呂は極めて快適だという人が多い。そう考えてくると、日本の住宅の浴室はある意味で東西文

化の融合を示すものであり、サウナも附属した設備を考えれば、世界の入浴の方法を混合した多文化設備ということもできる。そこで住まいのなかの浴室まわりを対象に、その混合状態を点検してみるのも無駄ではなかろう。

用便の仕方は変わったが、入浴の仕方はさほど変わらない。入浴は体を洗うだけの行為ではなく、お湯にひたる満足感をともなわなければならないのは温浴の基本的なことがらであり、気浴は気浴でそれなりの空間と時間があることを考えれば、歴史的にも、また地域的な入浴のちがいを考慮しても当然のことである。浴槽のなかで体を洗うのでは、入浴の楽しみが欠落しやすいとすれば、日本人が入浴の仕方を変えなかったのは賢明であり、おそらく他の地域の人々もこれを見習うようになるであろう。洗い場があって浴槽があるというのが浴室の基本的構成であり、何十年か先、欧米の住まいのなかでこのようなプランを発見する楽しみをひそかに想像する。

浴槽はお湯にひたるものだから、適温の湯が入っていなければならない。そこで追焚という機能が要求される。風呂焚が給湯になったときも、この追焚だけは残された。もちろん不可欠のものではないが、住宅設計の場合ほとんどの人がこの追焚を要求する。洗い場はあくまでも洗い場であり、浴槽とは一線を画する。浴槽内は清浄であり、そこから入浴のマナーも生まれる。

一方、シャワーは日本人が積極的にとり入れた道具の一つである。ヨーロッパで19世紀以来、さまざまな工夫がなされたシャワーは、現代の浴室になくてはならないものである。ゴルフのクラブハウスに必ず浴室があるのも日本的特徴であるが、ぜい沢に入浴する習慣もここでつけられたようである。洗い場に一つ一つシャワーがついて、洗髪もそれで快適になり、それが住宅にも持ちこまれ、一方では追焚という、見方によればけちな設備をそなえながら、若い人ほどシャワーをふんだんにつかう。このせいだけではなかろうが、浴室の壁は耐水性が強く要求され、一般的に全面タイル張りになるのである。これがエスカレートすると、浴室全体が浴槽のようになってしまうかもしれない。そのあらわれの一つが天井で、現在も浴室の天井に適当なものがなくて困っている。シャワーをつかって水洗いをしたいという人も出てくる。かつては天井からの結露を気にしていたのだが、これからはどうなることであろうか。

そこでもう一度入浴の基本に戻る必要がある。浴槽にふたが要るのも、また日本的特徴である。輸入のバスタブにはこれがない。日本製のバスタブでも最も軽視されているのがふたであり、筆者もあるグループでいくつか提案しているのだが、なかなか実現してもらえない。追焚が要るなら当然ふたは必要不可欠である。本当はあの桧のふたがいい。浴室のなかから次第に木の姿が消え出したのは、東が西に押されている証拠であるとみる。せめてふただけでもと思うのは筆者だけであろうか。ふただけではなく、天井も桧を張りたい。ということは桧を長持ちさせる意味でも風通しを良くしたい。大きく窓をとり外部と通わせたいということである。水まわりを外気に接する位置におくことは、設備面が変革しても変わらない原則であると思っているが、それは木材のような有機的材料を駆逐しない一つの方法である。

お湯にひたる楽しみは、また外を眺める楽しみでもある。にわと浴室の結合は東の文化が頑張ってまもり通さなければならない一つの要素である。しかし眺めることは眺められることでもある。この矛盾を解決することにも工夫が要る。独立住宅なら階上に浴室をつくることができる。寝室との関係から言っても、洗濯を分離すればその方が便利であろう。２階３階であれば囲われたにわが浴室と結びつく。だが集合住宅ではむずかしい。屋上に共同浴場を設ける以外手がないかもしれない。今後の課題であろう。

浴室に脱衣室が附属するのも日本の特徴である。これは個人的領域に属さない証しでもある。ボフィールが設計したように寝室内に全く露出しておかれたバスタブは、日本人の私達ではどう使ったら良いかわからない。脱衣室は日本的に展開し、洗面設備だけではなく、いまやトレーニング・ルームにもなりかけている。このあたりは共同浴場とのコンビネーションのうまいところでもあろう。

企業の戦士たちが我が家にかえって最もほっとするところは浴室だという。それだけに少しでも豊かにしたいという願いは強い。今また気浴への関心が高まっている。世界の入浴の方法と設備のなかから日本人に合うものを選びとり、それを浴室という空間のなかで一所懸命に融合させているのが現在の姿であろう。住宅設備メーカーのカタログにある一つの浴室まわりモデル・ルームの写真は、まさに東西文化融合研究に相応しい資料にちがいない。

（ほさか　よういちろう　建築家・武蔵野美術大学教授）

座談会

風呂と入浴物語

出席者(発言順)

大場　修　(京都府立大学生活科学部助手)
西井弘和　(ＫＫ大一代表取締役社長)
髙田公理　(愛知学泉女子短期大学助教授)
司会　田中直人　(神戸市・編集委員)

田中(司会)　日本人は大体お風呂好きということですけれども、その辺の、いままで日本のお風呂はどういう状況であったのかということにつきまして、大場先生のほうからまず最初にお話を伺いたいと思います。

二つの軸—蒸し風呂と湯あみ

大場　もともとわたしは住宅史が専門なんですけれども、住宅そのものがどういうふうに変化、移り変わってきたのかというような歴史を幾つかのシリーズで本にしていこうというふうな企画がありまして、別に動機も何もないんですけれども、たまたま風呂の担当になってしまったということがあるんです。そういう形で、全くの素人なんですけれども、風呂の歴史を調べ始めたんです。

風呂の歴史を見ていく中で、二つの軸みたいなものがあるんですね。一つは、実は蒸し風呂というふうな点と、それと銭湯なんです。いまはザッと湯につかるという入浴形式が定着してますけれども、それを「湯あみ」というふうに言っていいと思うんです。けれども、実は昔の風呂はむしろ蒸し風呂が中心であったというようなことが第一点、非常に大きなポイントとしてあると思うのです。ですから銭湯も、いまのような銭湯の形式ではなくて、むしろ蒸し風呂から発達してきて、それが一定の変遷過程を経て現在の形になっている。ですから蒸し風呂の歴史がどうだったのかということを非常に力点を置いてやってきたんだと。そうすると銭湯と個人の入浴—内風呂ですね—とも非常につながりながら見ていけたわけです。もともとその「お風呂」という言葉自体も、柳田国男さんが言うには、風呂の語源は「室(ムロ)」であったんだというようなことなんです。

それはどういうことかというと、大きな岩があって、そこの中に穴をあけて、そこで火をたいて、たき終わったら灰をかき出して、で濡れむしろを敷いて、その蒸気で入浴をする、というふうな形式のものだったんですね。そういうものが実は瀬戸内海の沿岸の地方とか京都の八瀬のほうとかに、ああいう形で残ってるわけですけれども。だから日本人の入浴のルーツはそういう形であったんだろうと。

それと同時に、やっぱり温泉というものがあって、昔からそれを利用していた、というふうなことと、原始神道では「みそぎ」ということをやりますね、身を清めるために沐浴をするという形で、「湯あみ」という形式があって、片やいま言ったような形で「蒸し風呂」というものがあって、二つのものがどうも自然発生的にあったような形なんですね。

銭湯の歴史も見ていきますと、平安時代ぐらいのものには「湯屋」とか「湯あみ」という言葉が出てくるわけですけれども、具体的に湯銭を取って入るというふうな形式のものは、鎌倉時代ぐらいになって、堀川風呂とか五条何々風呂とか、具体的な地名をつけた銭湯の名前が出てくるんですね。ですから銭湯の歴史が鎌倉時代ぐらいまでにさかのぼり得るというふうに思うわけです。

具体的に江戸に銭湯が初めてできたのは天正19年というふうに言われてるんですけれども、天正18年に太田道灌が城下町の建設を始めますんで、その翌年にはすでに銭湯ができたと。その銭湯はどうも蒸し風呂だったようですね。

ともかく銭湯は蒸し風呂であって、蒸し風呂はあまり多人数が同時に入るということはできないんで、一定の改良を加えられて、いまのような形になってきた、ということなんです。

司会　お風呂の起源と言いますか、どういうものであったかと、いろいろ興味深いお話をお聞きしたわけですけれども、次に最近のお風呂として、新しい形式で具体的に事業としてやっておられる西井さんのほうから、いまの先生のお話を踏まえて、話をお伺いしたいんですが。

風呂の種類

西井　その風呂の流れの中に、蒸し風呂の流れとそれから水浴の流れと、二つの流れがあって、それがガッチャンコしてきておる、それが日本の風呂だ、というような話ですね。そういったお風呂の原点みたいなものが先生のご指摘の中にあるような気がするんですよ。

日本人は風呂好きだし、いろんな風呂を体験してるんだけれども、じゃ、いまこの瞬間の日本の国をパッと切ってみると、どんな風呂の種類が……要するに風呂屋の種類ですね、銭湯に限らず、どんな風呂屋の種類があるんだろうかというふうに見てみますと、よーけあるんですね。

まず、ネーミングもネーミングだけれど、それなりの特性が皆あるんですね。

それをずっと挙げていきますと、これは皆さんご承知のようにいわゆるソープランド、これも風呂屋ですね。これはお風呂としてとらえると蒸し風呂ですね。

それから、戦後間もなくできたサウナ屋さん。サウナというのは、これは乾式の空気浴ですね、空気を暖める熱気浴。蒸し風呂というのは、蒸気で体を温めるという熱気浴ですね。

それからもう一つ、いわゆる温泉ですね。これはいま全国で２万ぐらいあるだろうと言われております。

それから、これは最近はなくなりつつありますけれども、いわゆるヘルス


大場　修氏


西井弘和氏


高田公理氏


司会　田中直人氏

オブザーバー（編集委員）

奥村礼子　高田佳子　河端秀直

と　き　昭和61年11月10日

ところ　日本建築協会会議室

センターです。これは昭和30年代ぐらい。

もちろん旅館がそうですね。旅館は必ずお風呂がついている。

それからいわゆるいまの八瀬で出てきた、かま風呂と言われるもの。かま風呂というのも、かなりたくさんまだ日本ではありますね。

それからいわゆるラブホテル。これも風呂屋さんの一種だと思うんですが……。

この辺は、いわゆる戦後、昭和20年代からざーッといままで続いているお商売だと思うんですが、少なくともここ10年ぐらいの間にたくさんのお風呂の施設ができてきてるわけですね。

それを言いますと、いわゆるラドンセンターとかトロンセンターというようなもの。これは何かというと、人工ラジウム（泉）なんです。これも全国でかなりできてます。

それから交通公社さんの関係の財団がやっておられるクアハウス。これは温泉を利用した入浴施設ですけれども、いままでの温泉とは全然違うクアハウス。これはドイツのクアハウスの流れを交通公社さんが取り上げてやっておられるんですね。

それからいわゆる薬湯と言われる漢方薬湯。これは京都にもありますし、この前見に行ったら夙川にもできてましたね。いわゆる薬湯屋さん。

それからヘルスクラブ。これはマシンを使って体を鍛える。それはエアロとかジャズダンスとかそういったものを加味してるのがありますけれども、たとえばこれをやってられるのはピープルさんですね。「エグザス」という名前でやってられる。あれもサウナと温浴を抜きにしては存立し得ないんです、ああいう施設も。これもお風呂の概念の中に入れたら入れられるかなと。

それから最近の流れとしては、いわゆる健康センターと言われる超大型のお風呂だと思うんです。

もう一つは銭湯なんですけれども、銭湯がいわゆる都市型じゃなくてむしろ近郊型というか、非常に大型の銭湯ができてますね。

以上のお風呂の種類が、いま現在バーンッと切ってみると大体あるような気がするのです。で、それぞれが皆それぞれに特徴があって、それをアピールしながら営業展開しておられますね。

ただ、これ、もう一つの考え方があると思うんですけれども、いわゆるこれをどうくくるかというと、温浴リゾートなら温浴リゾートということで、温浴なら温浴でくくってもいいわけですけれども、温浴という場合の、温浴とは一体何やという話なんですね。これは要するに温かい湯に入ると。じゃ、「湯」というものの概念があるわけですね。どういうものを湯というんだということですけれども、大ざっぱに僕なんかいま考えてるのは、体温以上と体温以下というふうに考えるんです。温度によって決める。要するに37℃以上、あるいは35℃以上はむしろ温浴といってもいいだろう。それから体温以下、たとえば35℃以下でもいいんですけれども、いわゆるプールとか温水プールとかがあるけれども、あれは30℃未満ですね。だからたとえば最近いろんなものをくっつけたレジャープールが、関東・関西、全国的にたくさんありますけれども、これも一つの水を使っての何か、というふうに考えられないかなあというような気がするんです。

だからそういう施設がいっぱいある。

司会　お話の中で感じてたんですけれども、たとえば誰とお風呂に入るんや、というふうな形について言いましても、銭湯なんかよく言われますけれども、コミュニティーセンターみたいにいろんな人間同士のふれあいがある、と。最近家で家庭風呂がありますけれども、独り棺桶のようなお風呂にチョコッとつかってますけれども、そうじゃない、よさみたいなものがある。いわゆる誰と入るかというような流れの中で、遊びといいますか、都市における人間の遊び空間の一つになってるんじゃないかという気もするわけですけれども、その辺の都市における遊びのあり方というんですか、人とのふれあいというんですか、そういうコミュニケーションのあり方、その辺のことを踏まえて、高田先生のご専門の立場からお話しねがいたいと思います。

歴史的な軸でみる

高田　そういう問題を考えずに、もう少し歴史的な軸というのを整理しながら考えていくほうが面白いんじゃないか。

そうすると、日本人は非常にお風呂好きだと言われるんですけれども、現代は確かにそうですね。大体日本でアンケートすると、日本人はほぼ毎日風呂に入る、それに比べるとヨーロッパ大陸の人々というのは非常に回数が少ないというデータが出てまいります。昔からそうだったんかというと、必ずしもそうじゃない。

たとえば例のローマ時代の、これはヨーロッパというよりもオリエントの西の端ということになるんでしょうけれども、非常に風呂の盛んなところですね。まあ日本で有名なカラカラ帝のお風呂とかいうふうなものがありますけれども、ローマの皇帝というのは必ず風呂をつくって、住民をその中に誘った。この風呂は、温湯があり、それから微温湯があり、水があり、蒸し風呂があり、熱気浴があるというふうなものだったわけですよね。

ところがヨーロッパにキリスト教が広がる時代から、これがずっとお風呂に対する需要がなくなってくる。特にプロテスタント以後、風呂に対する非常に禁欲的な対応が出てくる。

それはなぜかというと、一つは、宗教施設が、風呂をつくることによって

もっぱら病気治療であるとか健康であるとかの方向にいってしまった。そういう意味で、お風呂というのは、娯楽であるとかいうふうな方向には発展しなかった。これは、治療に限定される。何でかというと、風呂というのは、日本でもこれはしばしば問題になるところですけれども、性風俗みたいなものと非常に深いかかわりがある。そういう流れをたどったわけですね。ところが日本の場合はそうじゃない。

柳田さんの『風呂の起源』なんか見ると、さっき大場先生がおっしゃったように、もともと日本人というのは冷水浴で、海とか川とか、で沐浴、要するにみそぎとして水の中に入るということが盛んだったわけですけれども、他方、海岸のほこらとかそういうところで蒸気風呂もあった。それが実は日本の場合、仏教が入ってくるというふうなことと非常に深いかかわりがあるということを柳田さんは示唆してますね。つまり日本では仏教が入ってきたときに蒸し風呂が入ってきたわけですよ。

蒸し風呂というのはシルクロード全域に大体分布している。チベット……チベットというか、要するにシーアン（西安）以西のシルクロードにずっとあって、それが実はトルコのお風呂までつながるわけですけれども、そこを通って入ってきた仏教が、これを布教のために使う。だから昔の寺院ですね、神社じゃなくてお寺には必ず風呂が設けられて、それがいわば人々が仏教に近づいていくところのきっかけになる。で病気治療であるとかそういうようなものに使われた。それが第一段階なんだろうと思います。ところが日本には先ほどおっしゃってたようにみそぎの伝統があり温泉がある。

多分天正ごろにできた風呂というのが、湯4蒸し6ぐらいのね、底のほうに薄く浅く湯を入れておいて、その蒸気でもってやるという、そういう時代だと思うのです。化政期になってそれが逆転する。つまりざくろ口みたいなものができてきたころに湯6蒸し4というふうに転換する。このときに日本ではおそらくお風呂を宗教と切り離して、あるいは宗教の側、一仏教の側がお風呂を使って人間の意識みたいなものに働きかけるというか、非常に宗教の世俗化みたいなものが化政期に上手に行われたんじゃないか、というふうな仮説があるわけです。

大体僕らでも湯に入ると、「ごくらく、ごくらく」という言葉が出てくるわけですよね。それは多分肌と湯というふうなものが非常になじんで、日本



ふし風呂（大場修著「風呂のはなし」より）



湯あみ（ルドフスキー著「さあ横になって食べよう」より）



日本人は常に公衆浴場に集まった。うわさ話を交換し、交友をあたため、不和を水に流すために。歌川芳幾作（ルドフスキー著「さあ横になって食べよう」より）

人は西洋人と比べると少し熱い湯に入るんだけれども、まるで自分の体が溶けてしもうたように感じる。この感覚が、風呂に入ることの一番大きな効用なんじゃないか。

裸のコミュニケーション

高田　そこで裸になるといわばお殿様でも家来でも、みんな同じだ、かみしも脱いでお風呂に入る、という歌がありますね。でコミュニケーションというところでも、貴賤なんとかの差が全部なくなってしまう、しかも気分はそういうふうに外界と肉体とがとろけてしまう、というふうなところに、お風呂がそういうコミュニケーションの場になっていくプロセスがあったんじゃないか。

ところが化政期というのはご承知のように町人文化がずっと広がる時代でありますので、ちょっとそこで考えてみると、風呂であるとか……風呂だけじゃなくて、それにマッサージ、それから酒食、社交、さらには性と、大体この五つがセットになってお風呂の文化というのはできてるというふうに僕は見ているんです。そういうものが化政ごろに完成する。以後、日本の風呂は、湯の中につかるというタイプの風呂がどっと広がるわけです。再度蒸気浴が出てくるのは、昭和26年に東京・銀座に東京温泉というのができて、これがトルコ風呂の原型になるわけですが、ここのトルコ風呂では女の人の性的なサービスというのはなくて、マッサージだけなわけです。それが昭和30年代に入って売防法ができる、売防法ができたときに、くるわが全部個室付き浴場に転換していくわけですね。最初は蒸し風呂とマッサージとそれから温湯浴のセットであったものが、急速に性的な方向に傾斜をしていって今日のソープランドというふうなものに発展してくる、というふうな経緯があるんじゃないかと思うのです。

その結果、現在では蒸気浴と温湯浴、さらに先ほどおっしゃってた微温湯、ぬるいお湯の中で遊ぶ。そういう意味で言うと、幾つかの転換を経て、いまその風呂をめぐる文化が、ありとあらゆる形で分散している。

それは何となくわれわれ日本人というのは、ある時期に海に帰っていくというふうな、あるいは水に帰っていく、だからアクアカルチャーの時代というふうな考え方ができるかもしれへんなと。それは多分日本の近代化が一応完成した時点で、ある意味で言うと目標を失ったときに、水の中に何かがあるんと違うかと。これは柳田さんの、最後は“海上の道”に回帰していくというふうな話と非常に深いかかわりがあるような感じがするんですけれどね。

だからそういう意味で言うと、宗教という字句を入れると、つまり特に沐浴から蒸気浴、それがもう一度お湯の中につかるという形式になり、いまのアクアカルチャーとでも言えそうな時代風潮みたいなものとつながってくるのかもしれんな、というふうな感じがするんです。

司会　宗教という話でいきますと、もう一つよく使われるファクターに、火がありますね。その火ということを考えた場合に、熱というんですか、特に温泉ということをとらえてみますと、日本は火山国だと…。で地球というのは大体火の玉の上に人間が住んでるところで、そのマグマの成分がどうのこうのという話をしていきますと、温泉の成分がいわゆる人間そのものの根源につながる、火と水というその取り合い、あやみたいなものがある…。お風呂のいろんな……たとえばそれを液体として表現するのか、蒸気としてやるのか、そしていろんな温度の取り合いがありますね…。

特に、単にお風呂と言いましても、お風呂として構成する空間というのは、いろんな形がその地方あるいは歴史においてありますね…。たとえば、石でつくったり木でつくったり、すべて何か……もともと地球、根源は、この宇宙根源にあるのは皆一緒なんだという、そういう微妙なあやみたいなものがありまして、それをいかに演出するかということが、お風呂をつくる人、あるいはお風呂を取り巻く社会の一つの技術みたいなものでね。

そこでいわゆるレジャー、遊びというような産業としての視点と、かつて宗教的な意味合いにおいて展開されたものとの関係をとらえるというのはできないんですか。

西井　その辺の話はちょっと僕も……。

宗教儀礼と入浴

高田　これはヒントになるかどうかわからないですが、レジャーと宗教というのは精神空間というか、全然対立したものじゃなくて、すべての遊びというのは大体宗教儀礼から出てくる、と。そうでしょう。たとえば音楽界というのは、全部宗教音楽から始まりますしね。ギリシャの演劇というのは、宗教的なお祭りのときに演じられるものだったし、もとを正せば、みんな宗教というところに行き着くんでしょうね、多分。

司会　先ほどの関連で一例を申しますと、物凄い忙しい方がお風呂へつかってしまうんです、個室に完全に。そのときは全く頭が空っぽになって一つの心の世界に入り込むんだというのを、また一つの売り物にしている…アメリカで、あるそうですけれども。

高田　だから宗教性を入れたら、風呂屋というのははやると思うんですよ。

司会　心のよりどころを取り戻すような一つの場所を提供するというか、仕掛けを提供するというような動きはありますね。

西井　そういうふうに問われると、ちょっとむずかしいなあ。（笑）

仕掛けとしての風呂

司会　通常は、たくさんの人が集まってきて楽しくやるとかいうことなんですが、人間そのもの、素朴な個に戻って、精神の世界に入るための仕掛けとして、お風呂が活用されないかなあという気もするんですけれどね。

高田　物凄く比重の重たいお湯の中に液体をつくって、完全な密室で人間の体を浮かすと、あの無重力状態に近い状態が体験できるんですね。そうすると物凄いリラックスできると。

西井　そういう仕掛けはいま萌芽的にあることはあるんですよ。商業ベースとして商業空間の中に、そういうキャビンを一つつくって、で比重の重いそういうものを使って、たとえば非常に高濃度の塩水であるとか、そういったことをやってめい想空間をつくるんだというような、そういう仕掛けもあるんですね。ところがいまそういうふうに……まあ先ほど田中さんおっしゃったような、いわゆるコミュニティーというか、人がワッと来て、皆さんと一緒にワッと楽しんでドバッと入って遊んで帰るということと少し違う方向ですね。しかし、いまの少なくともこういった温浴施設の流れからいうと、ちょっとそれははずれてるような感じがしますね。だから、あえてそういったものを、いま行われているものを宗教性との関連性の中でつかまえるというのは、僕はちょっとあまりピンとこないんですね。ちょっと牽強付会というか、なんかつくってるような気がしますね。むしろ楽しく……お嫁さんがね、まあ郊外型銭湯をつくっても、あるいはいまの健康センターをつくっても、何をやってきても、女性比率がうんと高いんですよ。たとえば男性に比べて女性が6であるというぐらいに高い。で瞬間でポーンと切ってみると、8と2ぐらいに女性が高いわけですね。

その場合に、その女の人たちは子供を連れて来るでしょう、それからおじいちゃん、おばあちゃんを連れて来ますね。そういう家族のグループというか、団体でパッと来ますね。それに同時にまたお年寄りのかたまりやとか何やとか、ファミリーとかそういったので来るわけです。それがみんな料理屋さんでいうと〝追い込み〟という座敷、広いところ、ああいった空間のところへみんな寄って、御飯食べたりワーッとやったり……。

高田　生の形で、古典的な意味での宗教という観念と僕も結び付かないと思うんですよ。そういう意味でいったら、ヨーロッパの温泉のほうがはる

かに宗教性が高い。たとえばシャルトルの温泉であるとか、ルルドの泉であるとかですね。ルルドというのは、1世紀ぐらい前にマリアの復活の奇跡が起こった場所でしょう、そうすると足なえが突然治ったり、万病に効いたりするわけですよ。現にこれ効く、と。それは宗教というものの世俗化……お風呂を媒介にした宗教の世俗化というのがヨーロッパの近代では展開しなかった。おそらく日本ではそれが世俗化したと。世俗化したけれども、やっぱりお年寄りがお風呂に入ると「ああ、ごくらく、ごくらく」というのは、そのときの気分を表現してると思うのですよ。

そういう意味で言うと、現在の宗教というのは何かというと、もっと一般化すると、たとえば芸能というのはかなり宗教に近い役割を果たしている。これは言ってみれば、日本の盛り場の歴史を見ても、必ず近代以前は宗教施設の周りに盛り場ができる、それが近代以降、何に変わったかというと、西洋文化のありがたみみたいなもの、あるいは西洋文化のありがたみに対するあこがれみたいなものが宗教的機能を果たす。デパートというのはそうですよね。

いまそれを何がやってるかというと、放送局ですよ。赤坂であるとか六本木であるとかいうところが、なんで日本一の盛り場になるのかというと、僕はそれは多分放送局があるからだと。それがぼつぼつ怪しくなってきている、と。何か違う情報的付加価値みたいなものが風呂とセットになったときに、風呂というのは物凄いたくさんの人を呼び込めるような機能を果たせるのじゃないか。だから、そういう意味で言うと宗教というのは、情報的付加価値というふうに読みかえた途端に、ある種の積極的な意味を持ってきませんかね。

接客の要素

大場　日本の場合は、そういう宗教性と楽しみとしての風呂と、もう一つ接客という要素として、もてなすということ、風呂をごちそうするということですね。古い建築的な遺構を見てますと、確かにお寺に付属した浴室というものが多いんですけれども、いわゆる自分が楽しむと同時に、お客さんに対してもお風呂を振る舞うというものが結構残ってるんです。

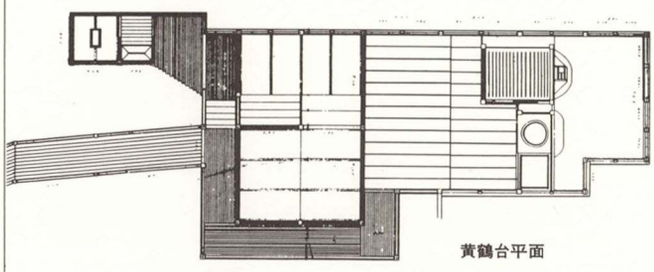
それの代表的な例が秀吉の聚楽第の遺構というふうに伝えられているものなんですけれども、西本願寺に黄鶴台というものがありますね、あれは浴室があって、その手前に涼み台という座敷がついてるわけです。で大きな庭があって、そこで浴後を楽しむわけですね。で自分だけじゃなくて、客と一緒に、ということなんです。

それとか、大庄屋の付属浴室みたいなものは、まあ規模的には小さいんですけれども、何はともあれ、まず座敷の横に風呂があって、風呂でまず汗を流してもらって、それから座敷でもてなす、というふうな形ですね。だから、そういう一つの視点みたいなものは、浴室の歴史を見るときに非常に大事ですね。それは確かに共同浴場ではなくて、あくまでも個人風呂と言いますか、内風呂と言うんですかね。

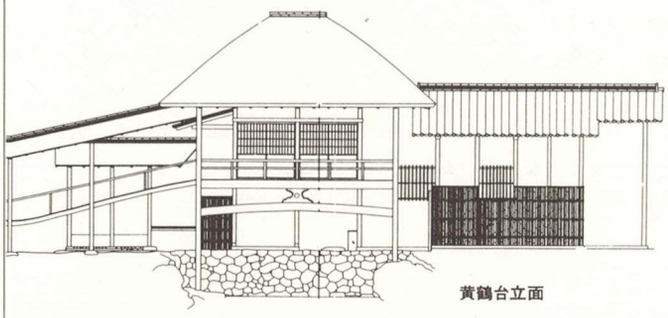
高田　僕らの子供の時代まで、もらい風呂というのはありましたよ。それから農村では明治以降、農村地帯に据え風呂というのが物凄く増えてくる。柳田国男が『火の昔』という本の中に書いてるんですけれども、燃やせるゴミがたくさん出てくることによって農家の据え風呂というのは可能になった、ということを書いてますね。ところが、毎日沸かすと大変な労力もエネルギーも要るので、だから社交の契機としてちゃんと組み込まれてるのですね、昔の農村あるいは都市の中で。

大場　そういう農村部を考えますと、そういう接客用の浴室は確かに上層のクラスにはあるわけですけれども、まあ本百姓以下の暮らしですと、ほとんど風呂なんて持ってないんですよね。持っていたとしても、土間の片隅にポコッと置いてあるもので、それは蒸し風呂なんですね。そんなに湯をたくさん使えないというのは先ほどの話ですけれども。だからほんとに少ない湯を最大限効率的に利用しようと思ったら、ああいう形式になるわけですね。

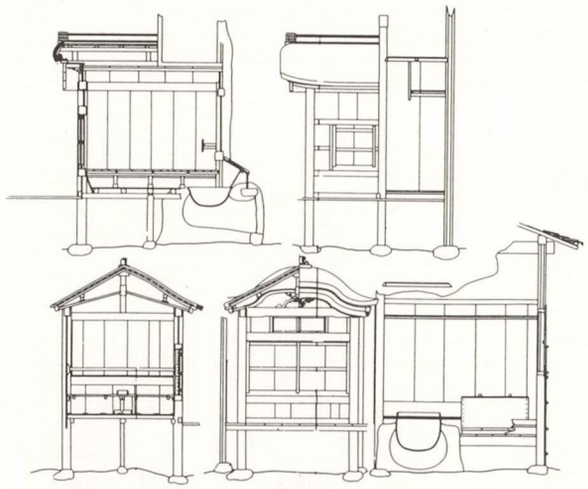
しかもその湯というのは、後で肥料的な価値を持つわけです。だから汚ければ汚いほどいいわけで、何回も何回も使うわけです。汗と泥でドロドロになったような湯をまた生産活動に活用するというふうな。だからいろんな側面がありますね。



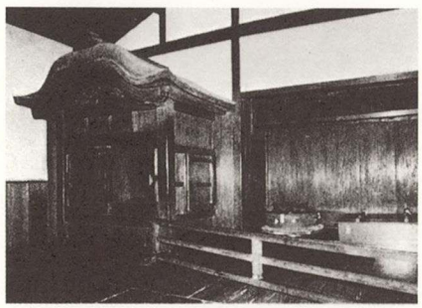
黄鶴台平面



黄鶴台立面



浴室の断面



浴場内部　浴場の奥には唐破風造の蒸風呂屋形を据え、その右手には蒸気浴後のかかり湯の設備である湯釜と水槽が置かれている。

西本願寺飛雲閣の黄鶴台の浴室

大場修著（「風呂のはなし」より引用）

儀式的なものと切り替え

司会　さっきの宗教の話になるのでしょうが、労働して汗とかいろんな付着物があるのを、一汗かいてさっぱりするという精神的な作用……それも清めて何かしましょうかという行為の切り替えの儀式みたいな気もするんですが、その辺高田さんどうですか。

高田　そういうことって、あるでしょうね。

司会　行為でつながりを切り替えていくというか、とりあえず先、お風呂へ入ってきなさいというのは、そういう切り替えの話かなという気もするんですがね。

高田　そういう意味で言うと、食事自体が宗教儀礼的な要素を持っておって、僕らの子供のときまでは、大体「いただきます」と。これは誰にいただきますと言ってるのか、はっきりわからないわけですよ。一家を支えている親父に言うてるという面もあるけれども、まさかそれだけじゃない。そうすると何か実りをもたらしてくれる超越者に対する挨拶みたいなものとしてあったとすれば、風呂が当然その前段階として、清めであるとか潔斎であるとかいうふうな意味を持っていたということは考えられるでしょうね。

司会　そうですね。

高田　だからそれから宗教性みたいなもの、生の宗教性は抜け落ちているけれども……。

司会　別の心の世界というか、清めというか切り替えというか、何かそういうポイントになっているんじゃないかと。

西井　切り替えというのはわかりますね。旅の疲れをそこで流しなさい、旅の垢を流しなさい。そういうのはあるでしょうね、要するにお客さんに対するサービスですね。それはこういうまちの銭湯じゃなくて、ちょっとお金の高い、まあいまの健康センターだとか何とかいったところへお客さんが来たら連れていって一つのごちそうをするという、そういう客に対するサービスとして使われる面がかなりあるみたいですね。現実的にそうしてやっておられるみたいですね、皆さん。

治癒の意味

司会　それと宗教性ということでちょっと感じますのは、よく体を、健康のことを加味したような宗教がありますね、新興宗教で。たとえば触ってたら肩のコリがなくなるとか、病気が治ったとかね。わけのわからんものに対する恐れみたいな、そういうのは宗教につながると思うんですが、そういう効能として、あそこのお湯はよく効くから行ってごらんとか、ゴッツイ効き目がある……とよくやってますね。あの効き目というのは、宗教の効き目みたいなもので、その辺でもいわゆる健康志向にもつながりますけれども、なにか健康とか、看病、病気を治す治癒の意味においての温泉の効果みたいなものがやっぱりあるんと違うかなと、さっきの先生のお話をお伺いして感じたんです。

高田　だから必ず温泉場の近くには神社がありますよね。

司会　何とか神社の温泉ってね。

高田　提携してはるわけですよ。

司会　で、温泉祭りってやってますね。神社の境内でも有馬なんかそうですね。

大場　そういう間接的な宗教性と言うんでしょうか。それと同時にいわゆる直接的に清潔を好むと言うんですかね。たとえば江戸時代に外国人が来て旅行記を書きますね、日本人はなにはさておき清潔好きだ、それが日本文化の一番いいところだ、というようなことを口を揃えて書くわけですね。そういう清潔好きというのはどういうところから……たとえば気候風土からくるというような点もあるでしょうけれどね。非常に湿潤であって、汗をかきやすい……それだけでは片付けられないような……。つまりいろんなアジアの国を見ても、日本ぐらいこれほど風呂の文化が深い国はないわけですものね。

高田　清潔の観念というのは異常ですね、日本人は。

西井　異常ですか？（笑）

大場　たとえばイギリスなんか、1399年だと思うんですけれども、入浴令というのが出てるんですね、で、人間一週に一回は風呂に入りなさい、というふうな法律が出てるわけです。（笑）それぐらい誰も入らなかったわけでしょう。

高田　もともと病原菌が発見されるのが18世紀の後半、明治維新前後でしょう、それまでは不潔という感覚は、なかったんと違うかな。（笑）

司会　さっきの話で、風呂に酒食、マッサージなどの付加価値がついた、そして最後はセックスになったという話ですが、そういういわゆる〝お風呂産業〟というようなお話がありましたね、一つの風俗の……。それをアマチュアでやるか、プロでやるかは別にしまして、何らかのサービスが付加されて、一つの社会的な事象として連綿とありますわね。いまの清潔という観念からして、一つのみそぎだと思うんです。後始末のみそぎ……。（笑）

高田　要するに体をリラックスさせるわけでしょう。リラックスさせるためのマッサージをするわけだけれど、最後それでビッと緊張させて緩めとくと、あんまがよう効く、と。（笑）それは風呂とは離れてありますね。日本の場合はおそらく風呂というのはリラックスの非常にいい場面なわけで……。

西井　どうなんでしょうね、日本だって平安のころなんかは、非常にお風呂……女官、女の人たちは、まあ上のほうの人たちの話ですが、お風呂へ入る機会というのは非常に少なかったんでしょう、だからこちらでも香をたくでしょう。追風用意とかなんとか言って、香をたくでしょう。ああいうのを見とっても、やっぱり日本でもかなり近いところまではお風呂に接する機会、水浴であろうと蒸気浴であろうといいんですが、そういうものは、一般の日本人の中にはなかったんじゃないですか。

水に流す

司会　いまの話でちょっと思い出したんですが、トイレもそうと違うかなと思うんです。トイレもあれだけ大量に水を使って流すということがなかったときは、何か匂いのもので、どっちが勝つか頑張ってみようでやってたわけでしょう。

高田　ただ排せつ物については、もともとがかわやでしょう、だから〝水に流す〟というのは、かなり古くからあったに違いないんですよ。

司会　水のないところではやっぱりためますからね。だからそういう水がもたらす生活文化の改造というか、改革みたいな話で、水はいろいろ寄与してきた。特に水に対する温度調整の技術がかなり発達してきたことによって、家庭生活においても、そういう風呂というものが簡便にコンパクトになってきたということで、いわゆるユニットバスに代表されるように、非常に閉じ込めたような空間が出てきた。そういったことで逆に銭湯いうんですか、外のお風呂を見直そうという動きもあるんですけれどね。

一つ話題を提供したいのは、家庭生活におけるお風呂、いわゆる住宅におけるお風呂のあり方みたいなことで、大場先生にご意見いただきたいんですが。

住宅における風呂の歴史

大場　そもそも江戸時代なんて見てますと、内風呂は基本的にはないと見ていいわけですね。江戸なんかは埋め立ててどんどん広げていったところですから、基本的に水が不足なんです。だから神田上水みたいなああいう水道が、江戸時代にもうすでにひかれていたぐらいですね。しかも水道の水を取るためには、水源地で水の使用料を払う必要があるぐらい。ですから銭湯がそれだけ普及するわけです。で明治時代になって少しずつ内風呂が普及してくるんですね。

われわれ建築の立場で、住宅の中にどういうふうにお風呂とか便所とかが平面計画的に組み込まれてくるかというのを、ちょっと過程なんて見てみると、積極的にお風呂を活用しようというふうな組み込まれ方を、あまりしてないですね。

水まわりの近代化というのは、まず台所から始まってますね。だから明治時代の近代化というのは、台所まわりからまず始まるわけですね。風呂とかトイレというのは一番後回しですね。しかもそのトイレと風呂というのは大体セットになってますから、主屋からできるだけ切り離して考える。だから水まわりを一つにコンパクトにまとめて合理的にというふうな考えは、大正以降になってくるわけですね。だから非常に遅れていた部分だと思います。

高田　戦前は公衆浴場については、公衆衛生ということよりもはるかに風紀びん乱ということに対する関心が強いみたいですね。本格的に衛生であるとか清潔であるとかいうことの近代化が始まるのは、第二次世界大戦以後だと考えていいと思うのですよ。だから第二次世界大戦以前は混浴とか風紀のびん乱ということについて物凄く行政は関心を持ってるけれども、戦後は大体衛生的であればよろしい、と。ようやくそれが出てくるのは昭和40年前後に当時のトルコ風呂の囲いこみがあって、一定区域以外に外に出してはいかん。つい最近は、新風営法が出てくる。それまでは公衆衛生一本やりなんですよ。いまだから都心部で混浴の風呂をつくっても、法的には問題ないでしょう、多分？

西井　いや、あかんのです。だからいわゆる混浴ということを禁止する法令というのは、もう明治の半ばぐらいですね。明治30何年かに出てますよ。

司会　家族風呂は混浴と違うんですか。

西井　家族風呂はちょっと違う……。いま地方ではいろいろ家族風呂がありますけれども、たとえば大阪府では家族風呂はできないことになってますね。条例でつくれないことになってますね。

高田　京都なんかいっぱいありますよ。

西井　新しくつくれなくなってるんです。大阪でも家族風呂というのは二、三あります、まだ。ほんとに混浴……混浴という話は、ごっつい面白い話ですね。なんで混浴の話になったのか知りませんが……。

司会　小さいお風呂で非常にコンパクトで、一緒に入りたくても家族で入れない、と。もちろん男女一対のカップルのみだったら入れるかもしれませんが、それはまた別の意味で……。

共同風呂

西井　僕は一つは問題の提起としては、日本で共同風呂と言われるいわゆる昔の町湯ですね、共同風呂銭湯というものは、外国に比べてなんで日本はこんなにたくさんあるんだと。大阪府を取り上げても、いま1,900店ぐらいありますね、府下一円で。で東京へいきますと2,300店か2,400店ぐらいあるはずです。町湯、共同湯というのがすごくたくさん、いわゆる銭湯がある、と。なんで外国に比べてこんなに銭湯が多いねんという話が一つ。

それともう一つ、日本の場合は、外国人なんかが開国の当時に、要するに混浴でやっとると、なんと行儀の悪い民族であろうかということをいっぱい言ってるみたいですけれど、混浴の風習が実際に町湯から追放され始めるのは、明治中期以降なんです。それまでにも幕末の時代にそういうおふれが出るわけですね、混浴はあかんと。で、どうするんだといったら、男女、脱衣室だけ二つにわけてあるわけですね。浴室へ入ると一緒だ、というようなことがどうもあるみたいだし、いまでも温泉へ行きますとありますね、男風呂、女風呂で別に……。

高田　あれはどういう法的……。

西井　ないんですよ。

高田　温泉の場合はいいんですか？

西井　みたいですね。あれの規制は何にもされてないみたい。

司会　あれは精神的なものでしょう。入るときはしらふだから。入ってしまったらわからない。

西井　脱ぐという動作のときは、混在すると具合が悪い。

高田　温泉の場合は公衆浴場法の規制を受けないんですか？

西井　あれは温泉法の規制を受けてるんです。

高田　そうすると町中で温泉をつくったらいいわけですか？

西井　いや、これでも町中の場合はどうかなあ……これはやっぱり公衆浴場法の規制を受けるでしょうね。

司会　公衆浴場と温泉とどう違うんですか？

西井　ちょっとわからんな。

高田　坊さんが裏掘ったら必ず湯が出てくるでしょう。

司会　実際温泉の湯を使ってやってる銭湯もあります。

西井　たくさんあります。まあ都市の場合はそんなふうな形で男女混浴は絶対にできない格好になってますね。で先ほどの公衆衛生という概念を持ち込んできたのが戦後であろうというお話があるんですけれども……。

高田　急に広がったのはね。

西井　だけどね、やっぱり戦前の……まあ昭和の初めごろのいろんなそういう衛生局というんかな、あそこらから、公衆衛生ということを盛んに言ってますね。

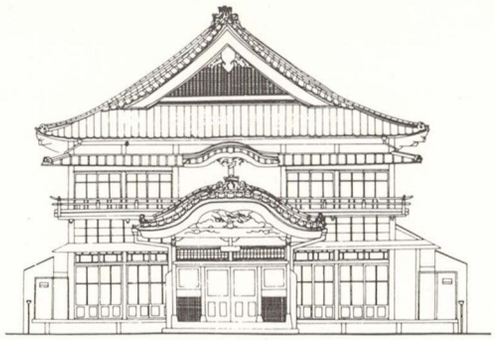
高田　多分そうだと思うんですよ、関東大震災以後だと思うのです。ところがね、すぐ戦争に入っていくんで、あんまり風呂が普及しなかったと思うのですよ。そんなに余裕ないでしょう。だからその時代に戦争がなかったら、19年以前、20年以前にダッと日本の家庭の自家風呂というのは増えたんと違うかと。その辺でみんなデータ、くぼんでるんですよ。

西井　実際に家庭風呂が増え始めるのは、昭和40年代から。だから昭和40年中ぐらいの大阪だけとらえると、自家風呂の普及率というのは30%割ってるわけですよ。大阪府下で見るわけですが、そのころが、いわゆる公衆浴場の全盛時代というわけですね。まあ大体、20年代から30年代というのが、公衆浴場の全盛時代ですね。ところが40年代ぐらいの初めをピークにして、ダーッとお風呂屋さんのお客さんが減っていきますね。これは家にお風呂がつき始めるんですね。

大場　集合住宅の歴史を見ても、まずは共同風呂から始まりますね、関東大震災の後に同潤会が住宅をつくっていきますけれども、住宅団地の中に共同浴場をまずつくっていくんです。その次の段階は、階段を何戸かが共有してますね、でその単位で一つお風呂をつくるとかいうふうなこともやってますね。それはあまりうまくいかなかったようですけれども。江戸川アパートというのが同潤会の代表作というんでしょうが、その中では何割かの戸数に内風呂をつくってますけれど、非常に狭くて、最小限のスペースですね。

だから関東大震災の後と以前ということで、その銭湯の姿がちょっと変わりますね。というのも、いまよく東京のほうへ行きますと、いわゆる唐破風で書院造りと言うんでしょうか、宮造りの凄い豪華な銭湯があるんですけれど、ああいうのは、まさに関東大震災以降に出てくるんですね。

で明治時代の銭湯は、江戸時代の銭湯の形をそのまま引き継いで、ごく当



たり前な町屋の形をしているんですね。

唐破風のファサード

西井　しかしざくろ口とかなんかつくるときに、ざくろ口の姿をそのまま前へ持ち出してきたんと違いますかね。

大場　確かに唐破風のモチーフというのがどうもシンボルというか、そういうものとしてあるんですけれどね。

西井　あれのもとはわかりますわね、唐破風のああいうようなものはね。あれのもとは、いま先ほどおっしゃった西本願寺のものなんかも、みんなそうでしょう。

だからそれをそのままざくろ口に持ってくる、で今度はざくろ口をファサードに持ってくる。で、それを表へ出してきてファサードにする。

大場　ただそういう遊廓とかこういう施設共通のシンボルですね、唐破風というのは。

高田　やっぱり情報産業だったんでしょうね、多分。

司会　いまのデザインの話ですが、たとえば、最近できている銭湯、びっくり銭湯とかいろいろ出てきてるんですけれども、いわゆるファッションホテルまがいのデザインとか、そういう材料を使ったようなのが見られますね。

高田　その唐破風が出てきたころというのは、実は最後はその辺に落とし込まなあかんのだろうと思うけれど、コミュニティーというふうなものと非常に結び付いた形でお風呂屋さんがあったと。で大体町内に1軒から2軒、大体200メートルから700メートルぐらいの範囲に風呂屋というのは……。

西井　あれは距離制限があるんです、お風呂屋さんは。

高田　ああそうですか。それギリギリのところにずっと分布してるでしょう。

司会　需要が高かった時代はそうですね。

西井　昭和40年代では大阪では220メーターだったかな、それ以上離れてないとできない。

高田　その時分の子供というのは風呂で社会化するというか、友達と一緒に行ったり、あるいは近所のおじさんに面倒を見てもらったりで、少しずつ大人になっていく。それが、マイホーム主義というのが出てくるわけですね、コミュニティーの神ではなくて家族の中、家庭の中に神がおわすという考え方と、家族風呂の普及というのは物凄く関係があるのと違うかという感じがするんですよ。実は家族の団らんというようなケッタイなことを言い出すのは、大正時代のその同潤会アパートが出てくる時代に、田舎から都市へ出てきたサラリーマン家庭で初めて始まるわけですよね。それまでの商家とか農家に家庭の団らんというのはあるはずないんですよ。だから大正時代につくられた神話なんですよね。それが実は実現するのが、高度成長期を経んことには、それが実現できへんかった。その時代にドッと家族風呂というのは増えた。ところが、それが実現されてみると、家族とか家庭というのは、なんやしらんうっとうしいものだ、かなわん、と。そういうところもあって、いま風呂をある局面だけね、つまり体の清潔を保つとか毎日リラックスするのは家族風呂でやる、しかしそれだけでは満たされへん、何かがまちの中にある、あるいは温泉にある、クアハウスというふうなところへの需要を喚起してるんと違うかというふうな感じがするんですけれどね。

司会　機能本位じゃなくて、もっと違う側面をどんどん入れていこう、と。だから年齢層によっても違いますし、それから生活志向も違ってきてると思いますね。だからエアロビクスをやってみたりですね。かなり積極的な意味を持ってる。もう一つ言ったら、食べることも物凄く一緒にやっていくんだとか、そういうことでどんどんこれから先鋭化していく、機能的にも性能を上げていく。昔は数だけ、ある機能だけ満たされたらよかったけれども、もっと高度の生活情報なり文化を求めていくというそういう動きがあるように思うわけです。

健康という観念

高田　ところで、ブワーッと周りからシャワーが四方八方から出てくるのはなんというんですか？

西井　あれはジュビナバスというんです。

高田　あれは何となく宗教でいうたら滝にうたれたりするのと似てるという感じがするんです。(笑) そのときの神は何かといったら、ぼくは健康という観念だと思うのです。で健康なんてのは、お風呂によって促進されたりスポーツによって促進されるということについては、もちろんそれはあるんでしょうけれども、ある意味でいうと割合幻想的なものだと。スポーツをやり過ぎたスポーツマンって、必ず早死にするでしょう、スポーツほど健康に悪いものはないわけですよ。(笑) 風呂が同じやというふうにはもちろん申しませんけれど、多分その健康というのはいま神としての役割を果たしてるだろう。その回りに、さっきいった伝統的な要素でいうと風呂でしょう、マッサージでしょう、酒食、社交、で性というのは小さな死というそうですから(笑)、これはかなり宗教的なものだろう、と。そういうふうなものがどんどん風呂という、入浴という行為の回りに張り付いてきている時代。さっきおっしゃってた女の人が来はるというのは、風呂と同時にオバはん連中、社交に来るんですよね。

西井　そうですね。

司会　ずっと話していたいんですが、そろそろ時間もきましたので、これからのこういうお風呂にかかわるあり方みたいなもので、わたしはぜひこういう形をおすすめしたいとか、あってほしいとか、夢物語りと言いますか、期待するところを、お一人ずつ最後にいただきたいと思います。大場先生から……。

これからの風呂のあり方

大場　ちょっと水を差す話じゃないですが、昔から風呂へ入るのきらいだったんです、僕自身は。というのは風呂に入ると、肩までつかりなさい、10数えるまで出ちゃいけません、と。いわゆる文化として根付いてるわけですけれども、文化的な一種の強制なんですよ。風呂にほんとに楽しみで入ってるわけじゃなくて、入れさせられてるというそういう側面が非常に印象としては強いんです。だから内風呂で1日の疲れをどうのというふうなそういう体験があまりないんですね。だから具体的な提案はできませんけれども、これからは内風呂をもう少し、質的に豊かにしていくというようなことは絶対に……むしろいまは日に1回とか2日に1回とかむしろ強

制的な側面のほうが強いんじゃなかろうか。特に小さい子供達とかね。そういう印象を非常に持ってるんです、体験的にですね。

司会　小さな子供はお風呂で遊ぶのが好きですね。

大場　それはむしろ銭湯とかそういう大きな空間で、一つの交わりですね、一つの遊びとしてやるわけですね。

司会　家風呂に遊びの空間を、豊かさを、ということですか。

大場　それには絶対的な面積がまず要るんじゃないですか。

西井　少なくともラブホテルの風呂ぐらいの面積は要るでしょうね。最低3坪の浴室面積は要るでしょうね。

大場　非常に先取りしてますね、風呂の文化というのは。(笑)

風呂の大型化

西井　風呂好きなやつは、10坪ぐらいの風呂をつくってますものね、家の中へ。

僕は、個人の風呂と違って、共同風呂をつくるという考え方でずっときてるでしょう。共同風呂、どんな共同風呂……要するにたくさんの人が入ってそして楽しめる、あるいは遊べるお風呂をつくりたいと思うんです。

これ、風呂という概念でくくるのがいいのかどうか、ちょっと僕はわかりませんけれども、最近は皆お風呂が大型化してきてますね。たとえば大阪の銭湯の浴室面積、まあいろんな機能がありますけれども、お風呂の浴室面積が男女あわせて約25坪から30坪ぐらい、それが大阪なんですね。

神戸の場合はかなり小さくなって、20坪とか15坪とか。京都でもそうなんです。特に京都は小さいように感じますね。あれは焼けてないからでしょうね。戦前型が残ってるからでしょう。

大阪はとにかくその30坪あるやつを、法規違反してさらにもう5坪のばすとか10坪のばすとかいう形で、無理して無理してのばしていって面積を増やす。

なぜ面積を増やすかというと、要するにお風呂の中にただつかるという機能だけの浴槽じゃなくて、もっといろんな浴槽造りをするわけですね。浴場機能といったらいいか、浴室機能といったらいいか。たとえばいま先ほどのマッサージをするお風呂、これは各種ございます。それからいまの熱気浴とかあるいは露天風呂とか、とにかく考えられる限りの入浴施設を浴室の中にいっぱいつくっていこうとするわけですね。

ところが、どうしたって地価が高いし、それから敷地面積が狭いものですから、やろうたってできないわけですね。だから勢い外へ出ていって郊外型で大型化する。いまの健康センターなんかでも、大きいので考えますと、男女あわせて大体500坪ぐらい。というぐらいの大面積の浴室ができるわけですね。その中でいろんな入浴施設が点在するという格好になるわけですね。

運動する機能と女性用風呂

西井　それからもう一つ、僕考えてるのは、お風呂の中で運動をする機能ですね。遊ぶ機能はもういっぱい考えられますけれども、運動する、お湯あるいは水で運動をする……。

司会　スポーツセンターですか。

西井　というか、トレーニング。僕らの言葉では温浴トレーニングというんですけれども、温浴トレーニング機能のようなものをお風呂の中にもっと入れていく必要があるだろうと思いますね。

もう一つは、いま僕が一番関心を持ってるのは、女の人を喜ばせる浴室機能ですね。どうすれば女の人が、より美しくなるかとか、より肥満を減量するかというような、特に女性向けのお風呂といったものを研究する必要があると思いますね。

それともう一つ、混浴機能。これはどうしても水着をつけなければいけませんけれど、男女の混浴をいまの概念、日本の概念からいうと水浴なんです。プールであれなんであれ、いわゆる冷水浴、あるいは微温のものなんですけれども、そうじゃなくて、いろんな温度帯の浴場施設、いろんな施設の中で男も女もが混在して楽しめる、トレーニングもできるしマッサージ……まあ健康機能もできるといったような、そういうようなものをつくる必要があるだろう。ということは、かなり大面積の浴室をこれからつくっていく必要があるし、もっと空間的に広がらないといかんと思いますね。

司会　複合施設になっていくわけですね。

西井　もちろんコンプレックスですね、物凄いコンプレックスにする必要があるだろうと思いますね。だからアメリカなんかの施設を見とってもわかるんですけれども、ビッグな施設ですね、非常にビッグな施設を日本はこれからつくっていく必要があるだろうと思いますね。いま言うような銭湯のような、全部あわせて100坪ぐらい、なんぼ大きくても100坪とか120～130坪ですけれども、そうじゃなくて、もう2,000坪とか5,000坪といったような大空間をそういうところでつくっていく必要がある。

司会　そういう傾向は出てますね。

西井　出てます。現実に出てる。

大場　そうすると、むしろ非日常的な……いまの銭湯とはまた違ったあり方が……。

西井　もちろんもちろん。

高田　ハレの風呂ですな。(笑)

西井　まさにハレの風呂。だからほんとに非日常、その敷地のキャンパスの中へ入った途端に、もう非日常の世界がパーッと広がってしまうというようなものをつくらないと、やっぱりこれからはインパクトがないんじゃないかなというふうに思いますね。

それともう一つは、その中で考えないかんのは料金なんですね。サウナは1,800円とかあるいは1,500円というのをもう少し日常レベルに落とさなければいかんと思うのです。で繰り返し反復して人が来れる、と。あそこはこの前行けなかったから、3日後には行くんだよと。使えなかった施設は3日後に使うんだよというつもりで、繰り返し繰り返し日常の中に入り込んでくる非日常空間というかな、そんなものを僕らはつくっていきたいなという感じですね。

司会　最後になりましたが、高田さんから……。

都市構造の転換に風呂が……

高田　いま家庭の風呂と外の風呂とおっしゃったんですが、その話を聞いてて、これはまさにその通りだろうということなんですけれども、それ都心部でつくるというのは物凄いむずかしいですね、いまの地価を考えると。

西井　絶対にできません。

高田　そうすると、実は都心部に盛り場があるというのが近代都市の非常にケッタイなところで、盛り場というのは必ず昔は川向うにあったわけですよね、町の周辺にあった。そういう意味で言うと、近代都市だけが盛り場があたかも都心であるかのような倒錯した都市構造を持っておったと。それがたとえばいまそういう巨大な風呂ができ、その周辺にパチンコ屋ができ、あるいは本屋ができブティックができるということになると、都市構造そのものが転換していく、そういうふうな転換の一つのシンボルに風呂というふうなものがなっていく可能性があるんだなと。なんかそういうことを感じました。

司会　どうもありがとうございました。　(終)

牟婁の湯―白浜の大衆浴場―

西山卯三

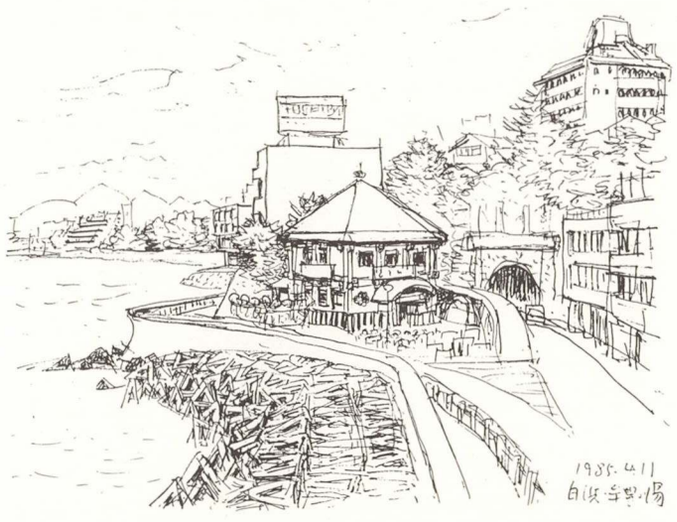
その昔、ガラスのいい原料だといってきれいな砂をドンドンとって運び去ったから、浜がずっとやせてしまった南紀・白浜町の白良浜を、ずっとたどって南にゆくと、太平洋の中に磯が突出している。この磯のつけ根に、湯崎と古来よばれてきた白浜由緒の温泉がある。大正の頃、武田五一先生の設計で本瓦葺き四注の上屋が門と共に造られた。男湯の岩の上に観音像がたち、海の方は磯まででられるようになっていた。戦時中、満一歳の長男をつれてでかけたことがある。

南紀の海岸は四国の室戸岬などと同じ台風銀座で、この上屋もいためつけられ、戦後に殺風景な鉄コン2階建に代ったが、傷みがはげしく、その改築の相談をうけたのは14、5年前だった。その後、この上屋は取払われ、今は竹垣で囲った露天風呂になり、裸のままで磯までゆけるようになっている。

この上屋のあった浴場に代るもの、これに白浜町内にある数個の町民湯の一つの改築をあわせる、浜ぞいのトンネルのある崖のふところに新しい湯をつくる――ということが計画され、その設計を頼まれた。補助金の関係で、その階上に町内の集会場をつくる、「崎の湯」の代りに観光客も入れるが、上の集会場を町民が使っていない場合は観光客にも使わせるという複合機能が求められた。

設計の途中で、地元の意見として浴室から海が見えるということを強く要求された。しかし浴場と海の間に道路が通っており、外を見えるようにすると、夜は高いバスの中から浴場がのぞき見られる。これをさけようとすると浴室を二階にするしかない。そんな案もつくってみたが、結局男湯だけ、立てば海が見えるということにした。

二階の集会場は舞台つき、40帖の和室、階下の入口ホールから階段で上れるし、裏の崖道からも入れる。無論過大な要求と工費の制約には苦心した。暴風の際、窓に厚板をおとせる工夫もした。昔の由緒をもって「牟婁の湯」と名づけられたが、地元の書家にたのんだ字は少し大きすぎ、まずいと思ったが竣工式にいって初めて見たので、後の祭りだった。社寺建築のように軒をそらせる考えもあったが、暴風にそなえてむしろまるめるような形にした。方形の屋根の上に金色の玉をのせた。城崎などとちがい、潮風のきついところで、果して何年もつか見守りたい。（にしやま　うぞう　京都大学名誉教授）



地域に根ざした銭湯―延命湯―

竹原義二

現在の豊かな暮らしの中で大多数の人々は、自家風呂を持つようになった。それまで人々の毎日の生活に機能的に必要不可欠なものとされていた銭湯の位置づけは、時代と共に変化してしまった。現在から未来にかけて、「銭湯」がどのように変化してゆくべきなのかを考えて、延命湯の設計に携わった。

国鉄環状線の福島駅、阪神の福島駅の二線と国道2号線に囲まれ、大阪の中心部にありながら、戦前からの長屋などが密集して残り、職住混合の下町の路地裏空間の一角にこの延命湯はある。

昭和初期からの営業で、地域の人々に大変親しまれ愛されてきた銭湯であった。しかし、時代の変化や建物の老朽化に対応しきれず、利用客の足は遠ざかっていった。このような状況の中、経営不振や将来性を見いだせなかったことから、オーナーは廃業を考えることにもなったのだが、再び地域に根ざし「生き残る銭湯」へと生まれ変わるため、敗者復活戦に挑める銭湯を計画してほしいというオーナーの要望であった。

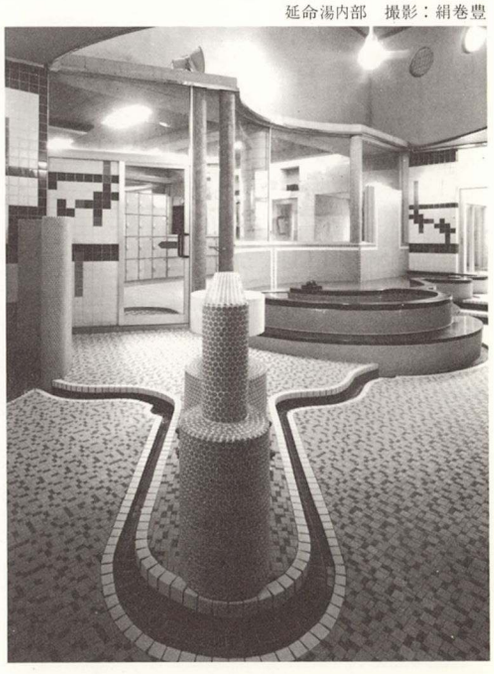
プランについては、従来の並列配置、吹抜け一体型を止め、浴室を両端に配置することで、番台と脱衣室、浴室を視覚的に広げ、透明の壁で一体感を生み出させた。この結果、番台から子供や老人に目がゆきとどくようになった。

また、脱衣室、主浴槽から、奥の露天風呂に導かれている。露天風呂は、若い人はもちろんのこと、少し年配の婦人方によく利用されている。高温を利用した湿式サウナと露天風呂は、井戸端会議の場所にもなって下町湯に溶け込んでいるようである。

浴室内の湿気や温度の調節を窓と換気ガラリで自然処理するため、住居部分のベランダから全ての窓と換気ガラリが操作できるようにした。上昇湿気は吹抜けで処理をした。二階部分は半円、三階部分で四分の一円、最上部のトップライトへと吹抜けはかたつむり状に上昇してゆく。内部から見上げると、絞り込んだ空間の中に丸窓からの光が半円壁に反射し、浴槽内に光を落とす。光影は、入り込んだ浴槽に反射し、入浴を楽しいものにしている。

日本文化が持ちつづけてきた固有の場を、「延命湯」というこの名前のように、地域に根ざした銭湯として時代に生き残っていくことを願っている。
（たけはら　よしじ　無有建築工房主宰）

第30回大阪建築コンクール・渡辺節賞受賞作品
延命湯内部　撮影：絹巻豊



今、何故か健康センター

副島雅行

『湯・友・遊』、『アイ Love 湯浴』、『湯・裕・優』、『湯らんど』、『湯とぴあ』、『湯宴地』、『遊浴』、『バスケーション』…何のことかお分かりであろうか。今、何故か流行の大型健康センターのキャッチフレーズＰＲの新造語の数々である。遊んで、楽しめる10種類の温泉調お風呂群、飲んで、歌って、自分がスターになれる大宴会場、最新のＶＴＲが大型画面で満喫できるムービーシアター、広い廊下や応接ゾーンでワイワイガヤガヤのコミュニケーション、ちょっとしたお買物が楽しめる朝市、夕市のショッピングゾーン、うたた寝に最適な広く豪華なレストルーム、ヘルスのゾーンで気持ち良いマッサージ、その他ゲームコーナーや、カフェバー・スナックなど、近くて、安くて、大きくて、豪華な施設が24時間年中無休営業でお応えする…これが今流行の健康センターである。

４年前神奈川県座間市に芽生えた相模健康センターを第一号に、２年前には名古屋市郊外に1300坪の大型化した中部健康センターが開業し、その驚異的な来場客に刺激され、続々と中部地区に合計12店舗の大型店が出現し、前に述べたようなキャッチフレーズのもとに大激戦を展開している。

今、何故健康センターなのか、今、何故中部地区に集中するのか？

余力時間ができ飽食の女性達とお年寄りをまずターゲットにして、設備や料金の納得度と満足度を狙ったこと、小さくて数少ないレディスサウナの高い料金に対して、安い料金設定をしたこと、24時間年中無休、外食産業、食文化のＭＩＸ導入、温泉ブーム、カラオケブームの採取、ヘルシー志向とのマッチング、さらに近くて安くて、大きいというその簡便性が、うけた直接的原因ではないだろうか。

では、何故中部地区に集中したのか？

名古屋は一番商売のしにくい土地柄であり『名古屋で商売ができれば一人前』とよくいわれるように、東京の長男坊的建前論、大阪の次男坊的本音論に対し、名古屋の三男坊的感覚は、心の満足と納得度に加え、さらにもう一つの充足感を求めるという、プラスアルファの考え方が価値観の根底をなしているようだ。パチンコでは名古屋が発祥地であり、オールナイトサウナを始めたのも名古屋が最初、初めて映画や麻雀の無料サービスを始めたのも名古屋、といったように、健康ランドは単一の目的に対応するだけの施設ではなく、目的を複合化させたところが流行の直接的原因であろう。つまり、機能を複合化させ、１＋１が２ではなく、３にも４にもなるという付加価値を付け加え、十二分の満足を提供する仕組みが盛り込まれている点が東京、大阪と違う処である。土地にしても、中部地区にはまだまだ広大なこのような健康センターに適した場所が数多くある。金はあるが適した事業を模索していた企業家にとっては、一つの流行したモデル店を目の当たりにしただけに、恰好の材料であったに違いない。このような感覚と規模をもった健康センターが今、日本中に続々と建設中なので、ここにちょっと書きとめてみた。

（そえじま　まさゆき　KKウィズプランニングチーフプロデューサー・お風呂コンサルタント）

求められる〝クアオルトロジー〟に思う

―クアハウス遂に年間百万人が利用した今―

岩崎輝雄

〝日本人の入浴好きについて彼等は胎内回帰形の耽溺の芸術とでも思っているようだ〟……これが戦後日本人の堅い頭が真綿で締められた思いのあのベネディクト教授の「菊と刀」の一節だが、案外これに気づく人は少ない。筆者も彼女のファンの一人だが、今日でもかなりの潜在的人気に驚くことしばしばだ。

日本に来たこともないコロンビア大教授が、戦前、米軍の日本戦略としてまとめた報告論文である。今日でも、その分析価値は高く、洋の東西比較論は逸物とされているが、唯一の分析に窮した箇所がこれで、訝しさ一杯の解釈の一つと常々考えている。

〝耽溺の芸術〟。ともかく理屈抜きで入浴好きが日本人。湿気が多いとか、清潔好きではその理由にならない。では理由は？と聞かれて、〝限りなく好きだから……〟。理由以前の事柄が他国民に判ってたまるものか！これが筆者の答えでもある。これが温泉ともなるとなおさらだ。

いま私どもは全国に温泉による健康づくり保養館として12年前より「クアハウス」施設を開設指導、本年で20施設、年間百万人の利用客を数え、あと２年間でさらに30施設が計画され、合計三百万人の〝耽溺の友〟が誕生の予定。温泉医学を中核に運動生理学、栄養学等の学際研究を重ねたソフトプログラムがクアオルト（温泉保養地）システムに導入されている。

６年前、特許庁にクアハウス名は商標登録、３年前の自由国民社の現代用語として保健の項目で枠囲みで登録し、市民権を得た。これで気分のよかったことは、一般紙のクアハウス取材で、若い記者から〝クアハウスって何？〟の質問に答えて曰く、〝自由国民社の現代用語で紹介のこれをご存じないのですか？〟一本ヤラレタと知る若い記者の笑顔がまた可愛い。

ともかく、百万人の長期滞在型温泉保養余暇行動にもっと積極的にＰＲをと一般紙の皆さんは支援してくれている。クアハウスは外観、内装、意匠だけでなく、施設利用システムに、医学その他の道理をとり入れたユニークさがあり、安全体制と効果的な健康づくり効果の研究に責任の重さを痛感している。

ドイツ医学にクアオルトロジー（Kurortologie）―温泉保養地学―があり、医学だけでなく、保養効果を高めうる自然条件に造園、林学、建築等の学際研究支援体制がある。これまでも、またこれからも、自然空間のアミニティ条件の具現化が望まれている。

「国際研究、学際研究、業際研究」……いま医学を中心に三際研究は、ホログラフィックな研究として「個と全体が整合性をもって結合する」ことが、注目されている。クアハウス開発にもこの発想が希求されている。

（いわさき　てるお　財団法人日本健康開発財団常務理事・運動生理学）

露天風呂

山田義之

昭和60年度の全国の温泉旅館利用客は、１億1109万人にのぼるそうである。国民１人当たり１回温泉を利用したことになる。

温泉ブームといわれて久しい。国鉄のディスカバージャパンのキャンペーンが展開されたのが昭和46年である。その年に女性向けの旅行雑誌アンアン、ノンノが登場し、女性が個人レベルでの旅を楽しむようになった。

当時、私たちテレビ番組制作者も、京都と温泉は忠臣蔵と同じだ、とよくいったものである。つまり日本人が忠臣蔵が好きなように、京都のガイドか温泉を取り上げると番組の視聴率が上がるのである。

今は、温泉も少々様子が変わってきた。露天風呂が是非ものなのである。確かに露天風呂は絵になる。鳥のさえずり、川のせせらぎ、風が静かに山間をかけ抜ける。まさに自然の中に立つ湯けむりは茶の間に届ける映像としてうってつけである。見る人の気持ちをなごませてくれる。

だがここ数年、旅館やホテルの庭に、露天風呂を無理に作っている所がやたらと目立つ。露天風呂が無いと客も来ないというのが理屈らしい。奇妙な形をした大きな石を並べ、だらしなく垂れ下がった枝の松を植え、ホウキを逆さまにしたような垣根を立て、下品な灯ろうを置いた露天風呂を見るにつけ、この発想をいつも陳腐に想うのである。伝統的な日本の回遊式庭園を真似したものだろうか。もしそうならば、われわれ人間は池の鯉ならぬ、池の人といったことになる。

ここでひとつとっても気にいった秘湯中の秘湯を紹介しよう。

日本一の水深で有名な秋田県田沢湖から車で40分、乳頭温泉郷である。一軒宿の温泉が６カ所に点在するひなびた温泉郷である。それぞれの宿に黒湯、孫六温泉などと名前がつけてある。そのひとつ鶴の湯に昨年８月に訪れた。県道から３kmほど入ったまさに山と山に囲まれた古い湯治場である。その昔、南部藩の芦名氏の湯治場でもあった。

200年以上も昔に建てられたカヤぶきの長屋風の建物が自炊宿である。中は10畳ほどの間で囲炉裏が切ってある。調理用のガスも電気もない。料理はすべてその囲炉裏の火でするのである。江戸時代にタイムスリップしたとしかいいようのない宿である。

表には、水車が谷川の水に身を任せるようにカタカタ回っている。これが小さな電球をいくつか灯すための発電機である。鶴の湯のご主人、佐藤和志さんがここを譲り受けたのは５年前、もちろん電気はきていない。とりあえず商売のため電話を引こうと思ったら、今の赤電話には電気がいる。その電気を引くためには800万円かかる、ということで水車発電に取り組み、苦労の末、500ワットの出力を得たのが３年前とか。テレビやラジオを置く電力的余裕などもちろんない。

野趣豊かなそのような環境にふさわしく、お湯がまた格別によい。４種類の成分の湯が湧いている。木の枠で大きく囲った露天風呂が２カ所、乳白色のお湯がいつも溢れている。風呂の底には小石が敷きつめられていて足の裏を心地よく刺激してくれる。

夜、ランプの灯でぼんやり白く浮かぶお湯に身を沈め、満天星くずで埋めつくされた夜空を仰ぐとき、自然と心身がひとつになる。

これが露天風呂である。

（やまだ　よしゆき　テレビ番組プロデューサー）

お風呂こぼれ話

山崎　猛

日本風トルコ風呂は、後世の人からどう見られるのでしょうか。「昔も今も変わらぬ風呂好きの賜物である」「男損女肥時代に咲いた束の間の徒花」「究極の浴室パフォーマンス」、はたまた目障りとばかりに「湯垢の類い」同様掬いとられてしまうのでしょうか？

小学生を対象にしたある入浴剤メーカの調査では、全体の65%が「風呂大好き」であり、「ほぼ毎日、夕食後に25分間かけ入浴」しています。「入浴は一人」というのは平均20%ですが、六年生では50%に急増しています。自立心の芽生えと見るか、個室浴への本能の蠢きと見るかは個人の体験次第ですが、「友達と一緒は恥ずかしい」と思う子供が四年生の18%から六年生では28%へ増えているのを見ると、「他人と同じ指向型人間を増やす」といわれる偏差値型躾のせいの方が大きいような気がします。慰安旅行先の大浴場で淋しくなった頭にタオルをのっけて、一杯機嫌でカエル泳ぎを楽しむ自分達の世代とは良くも悪くも違うらしい。案外寂しい世代ではないかと思う矢先に、「たまにはゆっくり親と話をしたいので一緒に入りたい」子供が20%いると聞けば、ほっといたします。

入浴の基本は、あくまでも温浴、入浴剤は飾りであるとの思いはあるものの、お風呂に目覚めた人達はせめて家族で温泉気分とばかりに入浴剤に手を出します。

桃の葉を　入れてあさけに　風呂を焚く　（岸白路）

気分は時代を問わないのです。テレビから流れてくる「さわやかな香り」と「なめらかな肌ざわり」の入浴剤効果を信じ込み、外吹く風の冷たさも湯気の中で一途に忘れ、今宵は熱燗と思いを馳せるのも、今の季節ならではの風呂の楽しみです。わが家で使っている入浴剤は、医薬部外品ゆえか成分は記されていませんが、全国で400社以上が製造しているといわれる入浴剤の多くは炭酸水素ナトリウム(重曹)、塩化ナトリウム、たん白質分解酵素等が主成分のようです。炭酸水素ナトリウムは皮脂を洗い流し、塩化ナトリウムは湯ざめ防止の保温効果、ユズの皮などに含まれるたんぱく質分解酵素は肌をなめらかにする美肌効果があるそうです。

美肌で思い出すのが、エステティックと、なにやら舌を噛みそうな言葉です。AESTHETICISMは唯美主義、美的趣味ですが、美を求め心を豊かにすることは、やはり入浴へと相通じるようです。エステティックメニューの一つであるDIET法のもみ出し、サウナ、パラフィンパック、低周波マッサージ、バンテージ（皮下脂肪に作用する薬をやせたい部分の表面に塗り、上から布をまいておく）なども、あと何年かすれば入浴剤に加え、家庭内に入ってくるかも知れないと思うと楽しくなります。

いま話題の気泡浴槽もスタートはホテル等の業務用ですし、サウナも然りです。とくに海藻パックなどは何やら頭髪にも著しい効果がありそうなので、個人的にも興味のあるところです。大いに研究がすすんでも良い分野であると、なぜか声が大きくなります。それにしても、あの手、この手と日本人の風呂好きは一体、何なのでしょうか？

筆者はヨーロッパ旅行の最中、あの洋風バスというどうにもやり切れないものに辟易し、思わず水泳パンツを片手にプールは無いかと探し、ホテル地階のほの暗い小さな貯水槽のような所で、泳ぐというよりはグランドマラソンよろしく何回も何回も本当にこれはプールなのかと疑いながらも、もう一人の水泳客である金髪女性につ

（次頁下段へ）

温泉を地域の住民に開放 —小山田温泉物語—

川村耕造

三重県四日市市郊外の、緑に囲まれ空気のおいしい小山田の地に、社会福祉法人青山里会小山田特別養護老人ホームが産声をあげたのは昭和49年。小山田病院、小山田軽費老人ホーム（A・B型）、第2小山田特別養護老人ホーム（日本で最初の痴呆専用老人ホーム）、デイ・サービス・センターが次々と建設され、昭和61年11月には隣接して、小山田温泉地域交流ホーム　小山田記念温泉病院がオープンし、小山田老人施設群として漸次整備されてきた。

思うに、小山田老人施設群の建設の原点は、祖母の5年間の寝た切り生活と母の介護の苦労を目の前に見たことである。「一期一会」というが、恐らく祖母が脳卒中で倒れて寝込まなかったら、今の小山田施設群は、日の目を見なかったであろうし、温泉とも無縁であったことだろう。人の運命はまったく解らないものである。

私は内科医であるが、若き青年時代に信州の病院へ3年間赴任したことがあり、休みにはアルプスへ登山したり、同僚と信州の温泉めぐりをし疲れた体を癒したものである。山々の目のさめるような緑に囲まれた露天風呂に入りながら、若き美女との混浴に期待をふくらませつつ、大抵は夢が破られたものであった。

障害をもった老人さん達と付き合っているうちに、「この老人さん達にも温泉に入浴させてやりたいものだ、それに熱き温泉が湧出すれば、熱源も節約できるのにな」と思って、設計士に相談すると、「先生、そんな山師みたいなことをいって、私は反対ですよ」とのたまう。周囲の連中に意見をもとめても、さも軽蔑の目差しで一笑にふされてしまう。

四日市市郊外に湯の山温泉という昔からの有名な温泉があるが、これが冷泉ときている。「え〜い、ままよ、温泉が出なくてもともとよ、水でも多少の温水は出ることだろうよ」ということで、地元のボーリング屋に依頼をして掘ったところ、1200mのところで、あら嬉しや、50℃近い温泉が湧出したという次第である。

職員にも毎朝、行きと帰りにはボーリングのやぐらにお参りをするようにといい、私も心の中で土の神に祈り、出なければ、あの鉄塔の上で首つりやなと半分本気でいっていたが、湧出したお陰で首がつながっている。

弱アルカリ単純泉で、1分間に約1トンの湧出量があるので、早速、全施設へ温泉を配湯した。これこそ、天から賜り物である。老人さん達へのプレゼントであろう。施設内の敷地に熱い温泉が滾々と湧き出るのは、すこぶる気持ちのよいものである。

早速、杉木立ちの中に男女別の露天風呂〝きじの湯〟を作った。そして病院の8階に展望風呂を建設し、大浴場には〝鈴鹿の湯〟（鈴鹿山脈が一望に見渡せる）、小浴場には〝御在所の湯〟（鈴鹿一の名山、御在所岳が真正面に眺められる）と名付けた。地域交流ホームの地下には、半露天式の浴場を作り、〝伊勢の湯〟と名付けた。

最近は、若い人に秘湯の露天風呂が異常なまでブームになっている。しかし、何といっても温泉を心から愛しているのはお年寄り達であろう。この小山田温泉で、3日間温泉まつりをやったところ、地元の老若男女がわんさと押しかけ、行列をしてまで入浴する有様で、その熱気たるやすさまじいものであった。

こんなに喜んでいただけるものなら、地域交流ホームだから地元の人々に開放しようということになり、朝10時から夕方の4時まで開放している。孫や子供達を連れて、朝から入浴し、終わると温泉病院のアトリウム（ふれあい広場）で弁当を食べたり、グリルでビールをのんだり、コーヒーを飲んだりして満足気に帰って行かれる。

1200mの地下から湧き出た温泉は、文字通りバージン・ウォーターであり、温泉療法にもつながる。

ヨーロッパでは、温泉療養が盛んに行われ、医療制度、医療施設・設備の両面で、日本よりはるかに進んでいる。最も大きな違いは、温泉療養に健康保険がきくという点であろう。日本では、温泉病院にでも入院しなくては保険の対象にならない。

昭和61年夏、ハンガリー、ユーゴスラビア、西ドイツの温泉療養地を廻り入浴してきた。

なぜか、西独のバーデン・バーデンの温泉では、男女一緒に水着を着て入浴し、リハビリを行っている。健康増進に使われているわけだが、サウナに入って驚いた。男女皆真っ裸で、前をおっぴり出して隠しもせずに平気で長時間話をしながら入っている。もちろん、肌と肌の触れ合いである。日本の混浴風景とはまったく正反対である。私も、親しい設計士と真っ裸で土地の習慣に従ってサウナへ入っていったところ、どこからともなく〝ジャパン、サラミ〟という言葉が聞こえてきた。2人のうちどちらに投げかけられた言葉か知るすべもないが、私は多分、設計士に対してであったろうと思っている。しかし彼は多分私に対してであろうと思っているだろう。

まあ、温泉にまつわる話は、大概は愉快なものであり、人に夢を与えてくれるものである。バージン・ウォーターよ、ありがとう。

（かわむら　こうぞう　医療法人社団主体会理事長　川村病院理事長　医学博士）

（前ページ下段より）

られ泳ぎかつ肩までとっぷりとつかった後に、広々としたサウナと痛いと感ずるほど水勢のあるシャワーを体験し、どうも日本人の考える風呂とはまったく違うものだと痛感したことがあります。

日本式の風呂の特色の一つに、身体を洗う場所と、温める槽（それもとっぷりと肩まで入れるところが良い）をはっきり分離したことが上げられます。身体の爪の先から頭までゴシゴシ洗いあげさっぱりするのも楽しみなら、その後、温泉気分でゆったりと湯船で揺れるのも不可欠の要素であります。この二度楽しめる感覚はOFURO STYLEとして外国でも受け入れられるのではないかと、つねづね思っているのですが、いかがでしょうか？

日本は、1500を越す温泉を持つ世界一のお風呂先進国であり、なんと東京都23区内にも25カ所の温泉が残り、長野県の地獄谷では野猿さえ温泉の中で高温・全身浴を楽しんでいる国なのです。（立場を変えれば、お猿並みといわれそうな気もしますが……）

昔から、行水の　恥らひつつも　立膝す　（吉川青蓮子）

などと湯掛三昧身についた垢を湯掻きの後は、夏は浴衣で冬は雪明かり、酒は憂いの玉箒とかいうでしょう。一風呂浴びて湯快になったところで一句行きましょう。

こがらしも　ひとふろうなり　湯快愉快　（字余り。猛）

（やまざき　たけし　東陶機器KK東京支社商品企画課）

集合住宅の風呂

川村真次

日本人は入浴がたいへん好きで、大半の人々が毎日入浴し、一日の疲れを癒す。この入浴という行為は、その目的や風俗・風習の歴史的変遷に伴って変化し、日本人は『風呂桶の中で身体を温め、洗い場で身体を洗う』入浴方法を定着させた。一方、浴室空間の形態についても、建物の構法や熱源・釜などの設備の進歩に伴い、また人々の感性の成育に伴って大幅に変化し、昔の釜や桶を適当に建物の中に設置した単純なものから、防水や耐久性を当然考慮した上に電子機器や健康機器等も複雑にからめた設備を設けた。名付ければ『快適・健康的複合的装置空間』とでも言うべき方向に向けて誘導・定着させつつあるようで、入浴行為そのものにも影響をあたえている。これらの変化は戸建住宅が先行し、集合住宅が後追いしているようである。

集合住宅を顧みると、戦前の西欧化と近代化による人口と産業の都市集中が、必然的に人の集まって住む集合住宅を生み出し、創宇社や同潤会の活動によって広がっていった。同潤会は鉄筋コンクリート造の集合住宅を大正14年度より建設し出すが、その浴室は各戸の住宅には設けないで、周囲の銭湯を利用するか、アパート内の共同浴場を利用する方式を採用した。この頃の民間集合住宅でもほとんど浴室がなく、W・H・ボーリスの設計による御茶の水文化アパートのように純洋式のバスルームを設置した事例はかなり特殊であったようである。

公営住宅も同様に、浴室を設けないで出発。昭和27年には、浴槽や釜を設けない浴室が設けられるようになったが、本格的に集合住宅に「内風呂」を設け出したのは、なんと言っても昭和30年に住宅公団が発足し、内風呂を設けた２ＤＫを標準的に供給したときからである。寝食分離のＤＫスタイルもライフスタイルに大きな変化をもたらしたが、全戸に内風呂を設けたのもエポックであったと言えよう。

この２ＤＫの浴室は鉄筋コンクリート造の躯体に熱アスファルト防水を施した在来工法であり、浴槽は開放型燃焼器のガス釜を内蔵した木製の桶風呂で、各戸に煙突を付けた原始的なものであったが、昭和40年頃からバランスドフリュー型と呼ばれる密閉燃焼式の風呂釜を導入、シャワー付きも現れ、浴槽は木製からホーローやＦＲＰに移り変わっていく。昭和49年頃からは浴室外に給湯器を設けた給湯方式が、また、同時に大型浴槽が採用され、ようやく浴室から釜を除いた昔の「取り湯」的な給湯方式が日の目を見、浴室がすっきりすることになる。

工法の面では、昭和39年の東京オリンピックに合わせて作られたホテルニューオータニに設備ユニットが設けられたのを皮切りに、躯体・内装材等の工業化が進められ、ホテルや民間アパートに浴室ユニットが普及し、昭和50年には筆者も評定幹事をやっていた建設大臣認定優良住宅部品のＢＬ浴室ユニットがデビュー、公団住宅にも採用され、浴室ユニットは著しく浸透し定着することになった。

このユニット開発により浴室は、空間として人間工学的に、また機能や性能面で詳細に把握できるようになったのが、大きな成果であった。しかしながらこれまでの集合住宅の浴室は、設備の老朽化や変化に対応できるような更新性、浴室内で生じた今までの事故の再発防止、管理上の問題点の改善等、機能性や性能面、それに耐久性や安全性等に重点がおかれたデザインを目標としていたため、「うるおい」とか「やすらぎ」といった感性を配慮するまでには及んでいなかった。



ＢＬ浴室ユニット

ところが、現在では、住宅は質の時代から味の時代になったとも言われ、あらゆるニーズに対応した住宅供給が必要となっており、浴室についても同様に対応せざるを得えない状況にある。最近の公団関西支社の事例でも大型浴室タイプ、バスコート付き浴室、２階に設けたトップライト付き浴室、そのほかにはサウナ付きや乾燥機付き、風呂センサーセキュリティーシステム付きの浴室が見られるのであるから、これからはますます変革すると思われる。

将来に向けては、とくに個性、文化性、快適性、健康性といったことがより注目され、個性豊かで、ゆとりややすらぎを感じさせる空間を有し、かつ健康機器等をからめた高級化・高設備化された風呂になっていくであろう。それは浴室関連製品の製造メーカーが、ハイテクノロジーの、また住まいが経済の中に組み込まれ商品として取り扱われる時代にあって、各種商品の開発にしのぎを削っていることでも明らかである。

ここで気をつけなければならないのは、ただ単に見かけや奇をてらうものが、販売・入居促進上のニーズに乗って市場を制覇していくことである。売らんがための商品開発、一部電気製品に見られる「良い物が売れるものでなく、売れたものが良いものである」ということが人の住まいでも正当化される傾向にある。浴室ユニットでも見た目は変わらないが、相当な耐久性を考慮したものが値引き率が低いため売れない。したがって競争力を付けるため、あえて品質を低レベルのものに合わせるという悪循環を見ることも少なくはない。多様化という名の混迷の時代にあって、私達の住まいはどうあるべきか、またその浴室はどうあるべきなのか、見きわめ、デザインしていくことが必要になっている。素人であるユーザーにもわかりやすく、公的な立場で、あるべき姿を選択し、社会的指標として提示していく、そんな役目が公団の役目かも知れない。建設大臣認定優良住宅部品であるＢＬ浴室ユニットの採用や在来工法浴室の公団性能も、その指標の一つと見ることができる。

（かわむら　しんじ　住宅都市整備公団関西支社都市再開発部専門役）

エジプトの風呂・温泉

イブラヒム・マブルーク

エジプトの風呂

われわれエジプト人の伝統や習慣は、イスラム教に基づいたものであるので、他のアラブ諸国の伝統や習慣と全く同じである。したがって、ここでエジプトの風呂について話をするということは、すなわちアラブ諸国の風呂について話をするということと同じになる。

アラブの国々では、ほとんどの場合風呂とトイレが一つの部屋にある。このことは後で述べるように、風呂場の配置方向の決定と非常に密接な関係がある。風呂の形式は、シャワー設備だけのものとバスタブとシャワーの両方が付いているものとがある。中産階級以上のレベルでは、ほとんどが後者の場合である。風呂の入り方は、日本の場合は外で体を洗ってからバスタブに入るが、アラブ諸国ではバスタブの中に少し水を張り、そこで石鹸を使って体を洗い、そしてその汚れた水を流し、上からシャワーを浴びるという形である。

さて先ほど少し触れた風呂場の配置方向であるが、このことについて話す前に少しイスラムの習慣について触れておく必要がある。われわれイスラム教徒が毎日お祈りするときは、事前に顔や手足をきれいに洗い、そして必ずメッカの方角を向いてお祈りする。われわれにとってメッカは聖地だからである。

同様のことがトイレについてもいえる。トイレは汚物を流すところであるから、用を足すときに正面あるいは背面方向に絶対メッカの位置がこないようにしなければならない。よって、風呂場の配置方向は、その付随施設であるトイレの配置方向に支配されることになる。ただし、バスタブに関しては、体をきれいにするところと考えるので方角にはとらわれない。

エジプトの温泉

アラブの国々では、日本と同様に温泉の数も多く、また泉質も良い方である。そのため、それぞれの政府は近くに療養所を建て、温泉を病気の人のための治療の場として提供している。日本では、骨休めや娯楽のために温泉へ行く人が多いようだが、アラブでは、病気の治療を目的とした場合がほとんどである。しかし、少数のお金持ちの人のために、娯楽を目的とした温泉が大きなホテルの中に人工的に造られているところもある。そこには、水が噴流するなどいろいろな形の温泉があるが、これらの場合はミネラルウォーターでなく、普通の水を用いているに過ぎない。エジプトでは、温泉に入るときは水着をつけて入るため、男女混浴であるが、他のアラブ諸国では水着をつけていても男女別々である。

（イブラヒム・マブルーク　エジプト・アルアズハル大学工学部助教授）

（邦訳：大阪大学大学院・荒木浩文）

タイの〝bathing〟

Somnuke Praparntanatorn

〈タイの国〉

〝Land of Smile〟として知られるタイは、東南アジアの国で、北西にビルマ、北にラオス、東にカンボジア、南にマレーシアの国々があります。

首都バンコックは美しい女性が多いので、旅行者の間で〝City of Angel〟と呼ばれています。タイは面積が日本の約1.4倍で、40%の国土が耕作可能な平野であり、少なくとも25%が利用可能な森林です。国土は美しいだけでなく、リンやタングステンなど、多くの地下資源にめぐまれています。人口は約5,100万人で、その多くは農業に従事しています。主な農産物は米、砂糖、ゴムの三つです。

〈〝bathing〟は五番目に必要なもの〉

一般に、生活には衣・食・住および医療の四つが必要とされていますが、タイではさらに必要なものとして五番目に〝bathing〟が挙げられます。なぜなら、タイの気候は熱帯に属し、気温は寒期でさえ20℃、夏の暑いときには40℃にもなるからです。だから暑いときでも体を清潔に保ち、快適に過ごすためには、できるだけ〝水浴〟をしようとします。

タイでは少なくとも1日2回は水浴をします。1回目は朝の出勤前に、2回目は帰宅後すぐに、さらに、夜寝る前にもう1回水浴をする人もいます。

タイの田舎では、運河や小川、あるいは池で水浴をしたり、井戸から水を汲んできて水浴びをします。都会の水道が普及しているところでは、家庭内で水浴をします。その場合、浴槽に身体をつけるのでなく水槽にためた水を汲み、水浴びをします。

タイの人々にとって〝水浴〟はプライベートなことなので、街には共同浴場のような施設はなく、各家庭で一人ひとりで水浴をします。田舎では川や運河などの自然の共同浴場を利用しますが、決して人前で裸体をさらすことはありません。必ず1枚の布で身体をおおっています。また男女が同じ川や運河で水浴をする場合は、それぞれのグループは離れています。

温泉はタイ北部に2、3カ所あります。そこは一部の人々が治療のために利用しています。もちろん野天風呂や共同浴場ではなく、用意されている個々の部屋で温泉水を浴びます。

サワッディ

（サワッディはタイ語であらゆる挨拶の意味をもっています）

（ソムヌック　パパーンタナトーン　大阪大学工学部建築工学専攻博士課程）

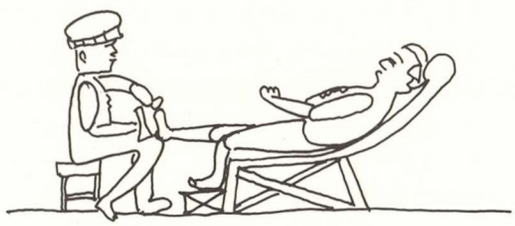
中国の銭湯の伝統的なサービスコース

于　穎

中国では、公衆浴場というものは、今なお都会の人々にとって主な入浴場所である。一日の仕事が終わると、附近の銭湯へいって、のんびりと風呂にはいるのも楽しみの一つで、現在の日本の銭湯と比べてほぼ同じ様式で、昔からのいろいろなサービスコースは今でも続けられている。たとえば、肩流しや、按摩や、理髪や、〝修脚〟などで、そのうち、前の三つは日本でも以前はあったと言われており、ほとんど同じものだと思う。

ところで、〝修脚〟という言葉は、中国語をそのまま使ったものだが、辞書にあるとおり、〝修〟とは、わが身を飾り、わが身を整え、手入れをして、よくすることであり、〝脚〟とは、足のことであり、これで〝修脚〟の意味は大体わかっていただけると思う。

実は、修脚というコースには、二つの部分を含んでいる。まず、客が風呂から出ると、長椅子で横になり、サービス係は向かい側の腰掛けにすわって、客が手入れをしてほしい足を自分の左膝の上に置かせて、ナイフを手にしっかりと持って、足う



〝修脚〟の姿勢—Service in Public Bathroom of China

らの皮紋に沿って、たこを一段一段と削り取り、最後には、たこは全部取り除かれ、客は少しも痛く感じない。その他の足の病気もほとんど同じ方法で取り除かれるが、それは特別医療室で行われる。道具としては、ナイフ以外にピンセットなどもよく使われ、一般に、足の病気によって、用いる道具も異なる。

さらに、水虫を患っている客にとって、足を長い時間熱湯に浸すと表面の固い皮が剝けるので、非常に痒く感じられる。その時、サービス係は80℃ぐらいのタオルでそっとその部位を押さえ、あるいは人さし指をまっすぐ伸ばして、客の痒い部位の上を繰り返して転がるように押さえる。これは〝捏脚〟と呼ばれ、なかなか人気があり、外国からの客もこれを大変好む。

最近、中国の公衆浴場の値段も少し値上がりしたという。それでもまだ安いほうだと思う。一般には、1.0元/人から2.0元/人ぐらいで、サービスコースの中で一番高いのはやはり按摩で、2.5元/人・回ぐらいである。

（ウ　エイ　大阪大学建築工学科　中国からの留学生）

韓国の入浴、沐浴そして私

李　相浩

「われわれが入浴と称している動作は、単なる沐浴にすぎないもので、昔は、入浴の前に行われたものである」と言った人がいる。私にはよくわからない話だが、わかってきたような気もする。韓国には、沐浴という言葉しかない。私には、ただ、体をきれいにするという意味しかない。もし、入浴が身体を洗う意味以外、楽しむという意味を含んでいるとしたら、特に、私とはほど遠い話である。

私はサウナも好きではない。息が詰まる。私はお風呂に入ったら、早く出ることばかり考える。

私の子供の頃は、〝沐浴しなさい〟、銭湯に行ってきなさいという母の声はまるで悪魔の声に聞こえたのである。私はただ、人に見られる顔や手さえきれいにすれば良いと思っていたから、特に銭湯まで行って沐浴しなければならない理由はなかった。正直に言って、今の私も、お風呂や銭湯は体をきれいにする場所以外の何の意味も持たない。温泉も日本で初めて行ったことがあるだけで、別にその良さなどは何も感じていない。韓国には日本のようにそんなに温泉は多くない。

いつであったか、日本の友人が沐浴という行為の中であかを落とす作業をするのは韓国人と日本人しかいないのでは…と言ったことがある。そのあかを落とす作業は、私の平均1時間半に及ぶ沐浴時間の90%を占めていたので、沐浴がすんだらくたびれてしまったのであった。

韓国にも、日本のような銭湯がどの町にもある。また以前と違ってきれいだし、換気もよくでき、ほとんどがサウナ施設を持っている。そういう銭湯が好きになった。しかし今も、銭湯の熱すぎるお湯は、いやだ。耐えられないのである。また、銭湯まで行くのがいやだ。しかし銭湯を出た時の爽やかな気分は最高！でも、やはり家でゆったり沐浴ができる場所があったら、私はそっちを選ぶだろう。

今の私には、入浴の時間が唯一の私だけの時間である。誰にもじゃまされずに考えごとができる。もしかしたら、世の中のすべての人間もそうかも知れない。また、家の中のお風呂は好きなだけいられるから好きである。

銭湯には万人平等があり、考えることによって自分は偉い人にもなれる。少なくとも服を着て帰るまでは……。できるならば、私は銭湯に最高級の服と装身具を身につけて行きたい。銭湯の中で見た夢が服を着て帰る時も壊れないように……。

私に入浴の意味がわかって、それを楽しみたい気分があるとしても、今は無理がある。いずれ生活にゆとりができ、もっとおとなになったら、多分できるだろう。入浴の良さ、その真の意味を知り、実行できるのには、この世の中、忙しすぎる。時間がない。温泉も銭湯も多い日本にいる間、私にそういう習慣ができたら……。

（イ　サンホ　大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻後期課程）

ガーナの入浴

オスマン・タニム・タンコ

ガーナでも、特に都市的な地域では、近代的な技術や西欧化された生活標準が入浴の様式や方法に大きな影響を与えてきている。しかし田舎の人々は、できるだけ伝統的な入浴方法を保っていこうとしている。これはその方が安上がりで、また彼らの生活様式に適しているからである。

ガーナでの伝統的な入浴は、リラックスのためというより、むしろ義務的なものである。日本人はリラックスのために長い時間を過ごすけれども、ガーナ人は体を清潔にするに必要な時間しか費やさない。温暖な気候ゆえに、日に2回、朝起床後と、夜の外出前か就寝前、簡単な入浴をさっさと済ませる。朝の入浴は、就寝中の汗などで汚れた体を洗って一日の準備とし、夜の入浴は、一日の活動のアカをおとして、安らかな眠りへといざなう。

入浴の具体的なプロセスは、男と女とで異なる。日本も含めて多くの国々では、男女同じ浴室を共用するが、ガーナでは女の浴室は男のそれとは別に仕分けられている。女の浴室というのは、もともと彼女らの寝室の一部であった。（12歳以上の男女は寝室が別々になっている）女の寝室の床は普通僅に傾いており、浴室はその低い方の端部にある。これは浅くて小さな丸いへこみである。まず、薪や炭で水を20℃位に温めてきてここに注ぎ、足を中に入れて縁に座り、湯をすくって体にかけ、石鹸とスポンジで洗う。その後で、すぐそばに置いてある桶の水で体を流す。近くの床は濡れるけれどすぐ乾く。男の方は普通、屋根のない、別に囲われた所で入浴する。それは約2㎡位で、小さなスツールしかない。ここで、そのスツールに座ったり立ったりしながら、バケツに入れてある水をかけ、石鹸やスポンジで体を洗い、その後水で洗い流す。

ゆったりと、気分を安らげる日本の「フロ」とは違って、ガーナ人の入浴は、体を洗い、リフレッシュすることしか意味はない。浴室での時間は7～20分であり、どこか他の社会でのような30分～2時間といったのとは、まるで違う。日本では、温泉に入ることに永年人気があるけれど、ガーナでも、温泉が湧いているとはいえ、そんな所に漬かるなんて誰も思わない。むしろ河を使う方が多かったようである（家事用のことを考えて、河を汚さぬように集落の下流の方を使う）。蒸気浴もあるがこれは専ら治療用である。熱をだした場合、薬草を蒸してその上にしゃがみ込み分厚い毛布をかぶせる。どっさりと汗をかくことになり、熱も下がるというわけで、病人が直るまでに許される唯一の入浴法である。

かつては、皆がその家に浴室を持つものとされ、公衆浴場はなかった。現在もなお、大部分の都市部では、すべての住居は浴室を持つべしとの建築規則故に公衆浴場はほとんどない。そうした僅な公衆浴場には、シャワ、便所、洗面がある。日本人とは違って、人々は非常にプライバシーに敏感なので、シャワやその他用のスペースもちゃんと分離されている。

簡単にいうと、ガーナの人々が体を綺麗にするのには幾つかの方法がある。ある程度宗教、とくにイスラム教が入浴に影響しており、たとえば、モスレム教徒はすべて少なくとも日に一度は入浴し、かつその上、陰部、手、足、顔を少なくとも日に5回は洗わねばならない。というわけで、身体的な清潔、リラックスということとは別に、精神的な面もあるのだ。身体的ならびに心理的な理由から入浴をして清潔を保つことになる。気候の面でも、二日も入浴しないでいることはほとんど不可能な位であり、社会もまた、規則的に入浴しないような人を軽蔑する。

（オスマン・タニム・タンコ　大阪大学大学院建築工学専攻）

温泉 HOT SPRINGS

（『朝日新聞』昭和61年11月16日付より転載）

若い女性を中心に温泉ブームが起こっている。秘湯(hide-away hot springs)を訪れ、景色や土地の料理(local dish)を楽しむだけでなく、露天風呂(open-air bath)の混浴(mixed bathing)にも勇敢に挑む。水着(bathing suit)を着て入り、温泉好き（？）の男性のひんしゅくをかう人たちもいるが、〝本来〟の姿で堂々と湯にひたるお嬢さんも少なくない。“Mixed bathing？ Yes, I have tried it several times.”とこともなげに答える若い外国人もいる。

温泉はhot springs〝熱いわき水〟の意味。spa ともいうが、こちらは14世紀に発見された温泉の所在地、ベルギーのSpaに由来する。日本には2053カ所あり、世界で一番多く、広大な面積を持つ中国（1900カ所）、米国（1003カ所）をはじめ、ヨーロッパ諸国をはるかに引き離している（平凡社大百科事典）。西ドイツのバーデン・バーデンやウイズバーデンのようにカジノ（casino）やコンサートホールもある観光都市もあるが、ほとんどが閑静な土地にあり、保険の利く療養所として利用されている。治療は何回も入浴するというよりは、飲泉として用いることが多い。なおbadenは英語のbathのこと。英国にはBath、米国には Hot Springs とその名もずばりの場所がある。

温泉に限らず、西欧人は日本人と比べて入浴回数が少ない。これは不潔というわけではなく、湿度が低いという気候からくる習慣の違いといえる。だがシャワー好きの人は多く、朝昼晩と浴びる人が大勢いる。

入浴物語●エッセイ

庶民生活と銭湯

松島　信雄

庶民生活に欠かすことのできないものは、まさしく銭湯である。銭湯の歴史が、400年に及ぶことが、それを如実に物語っている。明治維新後、近代産業が目ざましく次々と現れたけれども、その寿命はほぼ30年ほどと言われている。

それに比べると、銭湯の寿命はまことに長い。まさしく銭湯は、息の長い商売であり、その息は、まさしく庶民の息だからである。

太平洋戦争後、占領政策の一環として個人主義、自由主義、民主主義が力強く推進され、国民生活に深く滲透した。それは、文明の進歩と経済の発展をもたらし、日本は今や経済大国となってしまった。物に富んだ国となったが、心の貧しい国となりつつあると思うのは、私だけであろうか。

個人の尊厳が、個人の権利の主張であるかに考えられ、個人の自由が放縦と誤解され、個人の独立が孤立と思われていることは、果たして正常なのであろうか。

欧米人の生活を模倣することにより、自家風呂の普及率が高まり、銭湯に集まる庶民の数は次第に少なくなりつつある昨今である。自家風呂は、一人が入るだけで一杯になり、わがままが許される空間として快適な感じがするであろうが、所詮、わがままとマナーの悪さと孤立感があるだけである。そこには、人間の心のふれあいやコミュニケーションが全くない。

銭湯の長い歴史は、庶民のコミュニケーションの場であり、心のふれあいの場であり、スキンシップの場であり、社会教育の場であったことを物語っている。

銭湯の栄えたときは、町に人情が溢れ、温かい連帯感が広がり、町はふるさととしての潤いを持っていた。そこでは、子供は夢に生き、冒険を楽しみ、力強くたくましく行動し、非行化することはなかった。銭湯に入ることにより、集団の厳しさや規律を知り、裸のおつきあいの温かさや素晴らしさを身をもって体験したからである。

熱い湯に入ることにより、忍耐心を養い、周囲の人に湯水がかからぬように気配りするのがマナーであることを教えられたからである。子供は、親や大人たちとともに銭湯に入ることにより、マナーを身につけつつ自立し、たくましく集団の中に生き、自ら自尊心を身につけて成人したのである。

しかし自家風呂の普及は、子供から、これらの教育の機会をうばい去り、「自立」と集団の中の「個」の確立を不可能にしてしまった。そして、わがままとマナーの悪さと孤立感とを子供に与えて、個人主義の陰の部分が広がりつつあることは、まことに憂うべきことである。

人間は、集団本能を持っており、これは動物一般とあまり変わらない。大脳の古い皮質に、その本能の座があるからであるという。

日本人は、欧米人の個人独立型と違って、古来より集団依存型である。欧米人は、一人で風呂に入り、日本人が銭湯へ一緒に入る習慣を見ても、毅然としている。

欧米人は、来日して銭湯へ入り、日本人の集団で入浴する生活習慣に感嘆している。日本人が、近年、自家風呂に入る傾向に、むしろ首を傾げている。

米国で銭湯が大繁昌しているとの読売新聞の報道があったが、日本人も、本来の銭湯中心の社会の再構築へと方向転換すべきである。

欧米の個人独立型社会に教会があるごとく、日本の集団依存型社会に銭湯があってこそ、庶民の心のふれあい、真の安定したコミュニティの形成があると確信する。庶民の銭湯万才。

（まつしま　のぶお　大阪府公衆浴場環境衛生同業組合理事長）

今おもしろい〝温泉〟みてあるき

――事例のルポとアンケート紹介――

■今、市内でも郊外でもユニークな銭湯が増えている。露天風呂を併設したり、健康増進に役立つような入浴設備をそなえたり、トレーニングできる施設をもったりしたものも多くなった。

そこで、今回は、入浴物語の特集に当たって、編集委員が手分けして、京阪神のユニークな銭湯をいくつかピックアップして、ルポすることにした。

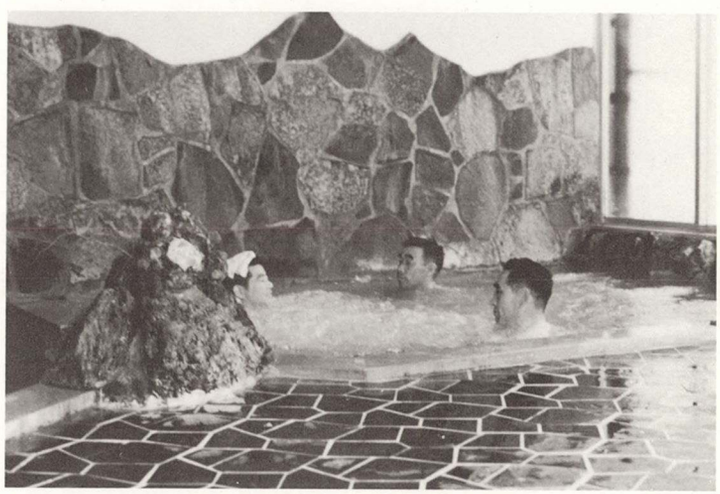
以下に9点の銭湯（クアハウス等を含む）についての編集委員のルポ記事を、写真つきで紹介する。

1．健康ひろば加古川	兵庫県加古川市
2．温泉町リフレッシュ館	兵庫県美方郡温泉町
3．ヘルスライフ京都	京都市
4．金閣寺湯	京都市
5．ゆーとぴあ	大阪府富田林市
6．西郷コミカ温泉	大阪府守口市
7．御三軒湯	京都市
8．清水湯	大阪市
9．塚口温泉	兵庫県尼崎市

なお、このほかに銭湯＝〝温泉〟でおもしろい事例を数点予定したが、時間の都合上今回ルポできず、割愛せざるを得なかったのは残念である。

■つぎに、遠方地、とくに北海道、東北、長野、滋賀、奈良などで、話題を呼んでいる銭湯、クアハウス等を、いくつか選んで、運営当事者に、設立年月、歴史、人々を魅きつける工夫、これはと思うセールスポイントについて、アンケートした。アンケートに応じて記事を送ってくれた事例は6点で、以下に紹介する。

1．クアハウス屈斜路	北海道
2．和賀町立夏油温泉館	岩手県
3．片倉館	長野県
4．クアハウス碁点	山形県
5．滋賀トロン保健センター	滋賀県
6．霊山寺薬師湯殿	奈良県



ルポ1
クアハウス

健康ひろば加古川

兵庫県加古川市平岡町一色105

お風呂とレジャーのジャンボプラザ

国鉄東加古川駅からバスに乗って、数分後、大きな看板が目についた。大きな〝キリン君〟が目印というチラシの通り、この施設のシンボルは、この〝キリン君〟で統一されている。

昭和61年9月にオープンして以来、連日、地元のヤングから遠方の家族づれまで、大盛況を呈しているそうだ。24時間オールナイトで大人1500円、小人800円也の料金は少し高いようだが、深夜12時からさらに500円割増となっても結構はやっているという。

〝地上の楽園〟という施設の内容は、大きく三つに分類できるのではないかと思う。一つは浴場機能、二つは食堂・宴会場機能、三つめはそれらを連結する休憩・ロビー機能であろう。

エントランスホール（ロビー）に入った感じは、やはり中年のおじさん、おばさんが多く（中年というのは筆者よりまだ上の中年という意味ですが）、何かヘルスセンターに来たという感じがした。以外とマイカーに乗ってやってきた家族づれも多く、新興住宅地、加古川の新しいレクリエーション施設の一つになっているなという感じがした。

ご存知の通り、加古川市は戦後から今日、神戸・姫路間の近郊農村地域として、重化学産業の工場等の立地も相まってスプロール的に住宅地が形成され、今や戸建住宅はもとより高層のマンションも立地する、人口集積の高いエリアを形成している。その中にあって、駅前、主要道路沿いには、各種の公益施設が立地するようになっている。近くにはニチイSCがあり、アイスアリーナやスイミングスクールを備えたピープルスポーツクラブもある。

この〝健康ひろば〟もこれらの爆発する加古川の人口エネルギーを背景に、お風呂という場を核に、地域にレジャー、レクリエーションを提供することを商業戦略的に展開したものであると思われる。

「キリンのかわいい名前大募集」「健康ひろば音頭の作詩募集」「ギャルのあいだでも大人気、ゲートボール場新設」「健康ひろば南でエンジョイテニス」「お風呂の忘年会、ご宴会パック」といった多彩な営業姿勢は、民間活力そのものを感じさせる。近くの民間商業施設の多くの立地からも、同様のエネルギーが感じられる。

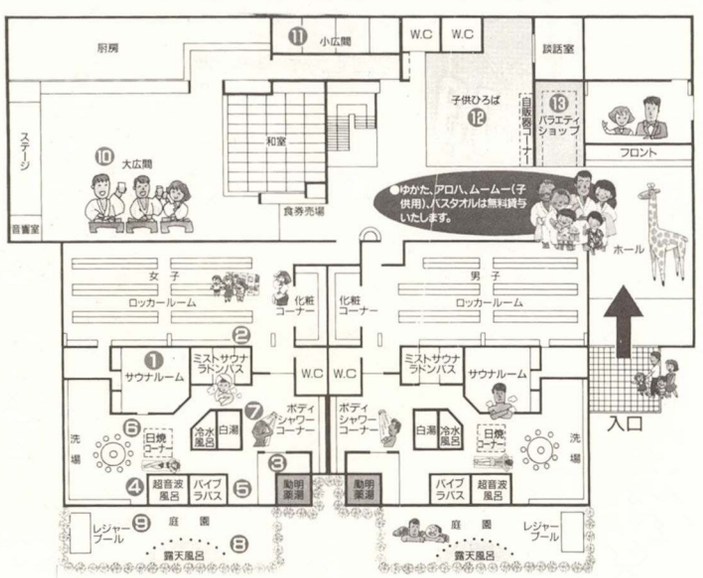
今後、この施設がどのように地域に生きづいていくか注目に値するところであるが、ロビーにいたおばさんの「あんた、また来とんかいなー、先に帰るけれど、まあ、ゆっくりしてきたらええわ」という、彼女の友人らしきおばさんへのあいさつが、帰路につく私の耳に何となくよく残っていた。**（田中直人委員）**







①遠赤外線サウナ
②ラドン・ミストサウナ
③漢方勤明薬湯
④超音波風呂
⑤バイブラバス
⑥日焼けコーナー（人工太陽灯）
⑦冷水風呂・白湯
⑧露天風呂
⑨お子様レジャープール
⑩大広間
⑪大・小宴会場
⑫子供ひろば
⑬バラエティショップ



ルポ2
温　泉

温泉町リフレッシュ館

兵庫県美方郡温泉町

健康増進と保養の場

吉永小百合が演じる夢千代日記のドラマは、山陰の厳しい自然風土の中で織りなす温かな人情と、懸命に生きる女性の姿を描いたものであるが、その舞台である温泉町は、今でもその情景が町の片隅から出て来そうなところだ。

温泉町は山陰海岸に近い山間部にあり、湯村温泉を中心とする人口8700人ほどの、但馬牛の生産を主とした農業と観光の町である。町では高齢化、過疎化といった社会問題を抱え、町の振興策をいろいろ立ててこられたが、その重要な施策の一つが、このほどその第1期工事を完成した「リフレッシュパーク湯村計画」である。

この計画は、このほどオープンした『老人福祉センター・町民プール(リフレッシュ館)』のほかに、現在工事中で62年3月竣工予定の露天風呂、温泉滝、日光浴広場、森林浴コース等屋外レクリエーション施設、また引き続き62年工事として予定されている工芸アトリエ、レストハウス、また関連事業として駐車場整備、町道河川整備、温泉配湯設備整備、山間部の防災対策等を含み、地域の一体的整備事業となっている。

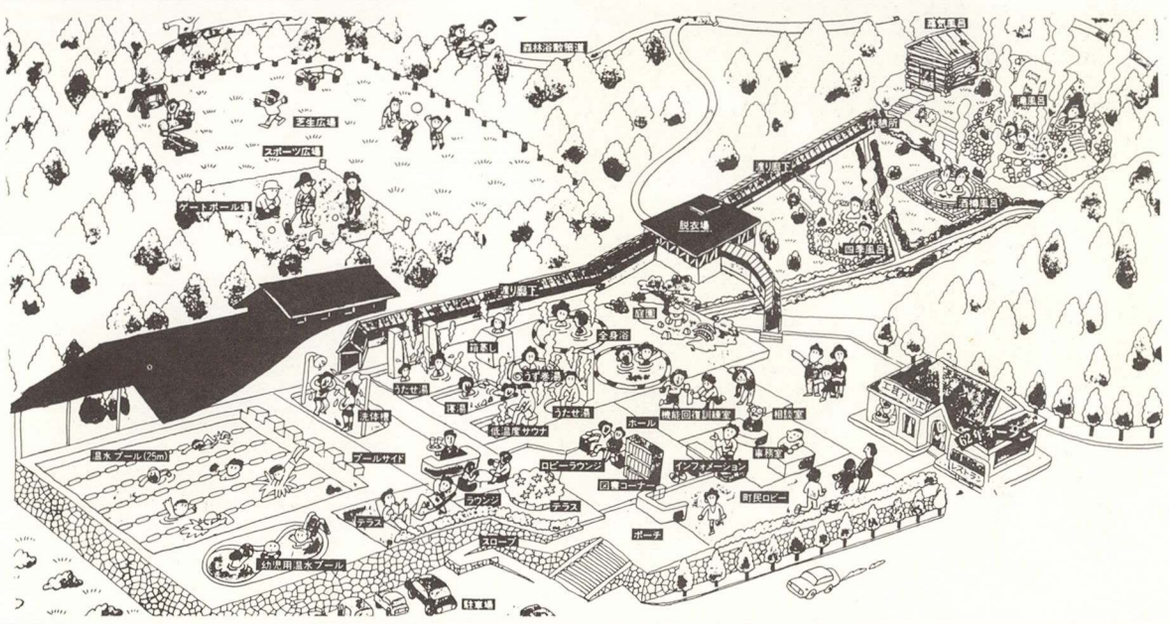
この計画は、①海水浴やスキーに来る若い世代や、家族でのレクリエーションに来る人々がもっと滞在していけるように、利用形態を多様化した、目的を持った施設を造ること、②町の資源である自然と但馬牛等の産物、全国でも稀な集中高温の温泉をフル活用し、特色を持った健康増進と保養の場を用意すること、③町の地形的問題を克服し、交通、防災等の生活環境整備にも寄与することをねらいとしている。

リフレッシュ館は、社会福祉施設整備事業と、公立社会体育施設整備事業の二つの補助事業からなる施設であるが、建物は一体で、温泉をフル活用した屋内保養・健康増進施設である。全身浴、圧注浴、泡沫湯、寝湯、うたせ湯、箱蒸し、サウナ等さまざまな浴形態の風呂や25m温水プール、機能回復ジム等、子供や若い人々にもゆっくり楽しみながらリフレッシュできる施設となっている。

また露天風呂等は、新林業構造改善事業森林総合利用促進施設整備事業によるもので、四季折々の草花を入れ四季の香りの漂う四季風呂や、温泉町が麹つくりの職人の多い町でもあり、全国の酒樽に囲まれ昔ながらの酒樽の木の香りのする酒樽風呂等々、特色のある屋外リフレッシュゾーンを造っている。またレストハウスでは、地場産業である但馬牛を使い、地方色のある料理を用意するなど、土地柄を生かし、町全体で新たなリゾート地とする拠点造りを目指している。　**(北條　誠委員)**







ルポ3 薬湯

ヘルスライフ京都

京都市北区平野宮北町

健康道湯をめざす薬湯

ヘルスライフ京都は、経営コンサルタントである㈱日本ＬＣＡが、これからの高齢化社会に向けての健康産業のモデルケーストして取り組んだプロジェクトである。

この『ヘルスライフ京都は現在全国的なブームになっている健康産業に多くみられる、レジャーセンター、ヘルスセンターではなく、本物の健康志向を目指した、健康最重点の一健康道場一をめざしており』、昭和59年に開設された。

このセンターはあくまで、『これからの新しい健康産業のケーススタディーとして取り組んでおり、内容も45歳以上のシルバー層にターゲットをしぼりこんだ健康センターとして、将来全国にフランチャイズ方式で建設展開していく』とのことで、すでに、京都を第一号店として、新潟、福山、倉敷、岡山等全国に７店舗が開設され、おのおの好成績を納めているとのことであった。

ヘルスライフ京都は、漢方を取り入れた薬湯、薬草サウナ等を柱とする漢方薬湯であり、人間がもっている自然治癒力を高める効果が非常に高いとのことである。

施設としては約260坪規模のもので、ロビー、休憩室、仮眠室、多目的室、浴室、治療室等で構成されている。

現在、会員が約3500名あり、日平均300～400名もの利用があり、会員は月平均2.5回ぐらいの利用で、年間約10万人に及ぶ利用があるとのことであった。

経営的には、当初、３億円近い投資でもってオープンしたが、開業２年目からすでに黒字になっており、新しい健康産業のモデルケースとしては大成功のようである。

センターを利用されている会員の評判もよく、会員同士のお付き合いも広がり、社交サロンとしての雰囲気も高まり、最近では会員の中から、ゴルフ、全身美容、カラオケ等の文化教室のニーズも高まり、会員自らがリーダーシップをとり、交流がますます深められているとのことである。

今後は、このヘルスライフセンターも、東洋の医療とのネットワークによる総合治療サービスの展開、ＩＣカードシステムの導入による各自の健康管理・指導にもあたっていきたいとのことであり、ますます内容も充実され、新しいタイプの健康センターとして発展していくことであろう。

最後に、レポーター本人もヘルスライフ京都のオーナーである随念さんに進められるままに、薬湯を体験することになったわけだが、『一信じられない……でも本当なのです一』のキャッチフレーズどおり、非常に爽やかな気分でもって、今回の取材を終えることができた。

（北条　誠委員）



正面玄関



入浴前の説明風景



仮眠室

ルポ4 銭湯

金閣寺湯

京都市北区衣笠北元神

サービス精神旺盛なユニーク銭湯

『金閣寺湯』、この名前は以前、週刊誌で見たことがあった。斜陽産業の先端にある銭湯（公衆浴場）業界のなかにあって、非常に面白そうな銭湯だなと思ったものであるが、今回、実際に拝見させていただき、感ずるところはおおかった。

金閣寺湯は、昭和29年に現オーナーである谷口さんの親父さんが開設されたとのことであり、谷口さんは二代目である。

そもそも、このようなユニークな銭湯を思いついた背景には、後継者の問題があったとのことである。最近、銭湯業界では後継者がいない、息子がいても、斜陽化する銭湯を引き継いでくれない、その結果、閉館、業種転換をせざるをえないケースが増えている。

金閣寺湯では後継者はいるが、『どこに、潰れそうな会社を息子に継がせる親がいるか』と、一念発起し息子が喜んで継いでくれるようなリッパな銭湯にすべく大改造に取り組まれたのが、ユニーク銭湯『金閣寺湯』の生まれた背景である。

では何がユニークなのか、まず最初に目に入るのが、カフェバー風のカンバンである。そしてどこの銭湯でも見られるのれんに代わって、スダレがある。なかに入って驚くのが、若者好みの今風のインテリアと、間接照明で構成された脱衣場である。また、この脱衣場の男女仕切りのカガミ戸棚は可動式になっており、小さなコミュニティセンターとして地域住民の集会、会議にも対応できる工夫がなされている。

浴室に入ると、またまたびっくりである。全面大理石張の浴

〔次頁へ〕



物療室

（前頁より）

場、そして、噴水、アーチ型のカガミ等ヨーロッパ中世の浴場を模したインテリアである。また、サウナにはテレビがそなえつけられてられており、くつろぎながら入浴できるようになっている。

それら以外にも、ジェット風呂、電気風呂、薬風呂等が設置されており、きめ細かいサービスにつとめられている。

入浴客の反応も上々であり、とくに学生層が遠くからくるようになり、今まで以上にお客が増えたとのことである。そもそも、『温泉気分でくつろげる銭湯を都市のなかでつくることにより、家庭では味わえない雰囲気とサービスを提供し、できれば週に一度でも利用してみたいと思っていただける銭湯をつくりたかった』と力説されていたが、今のところ当初の思いは十分に達成されたのではないかと思う。

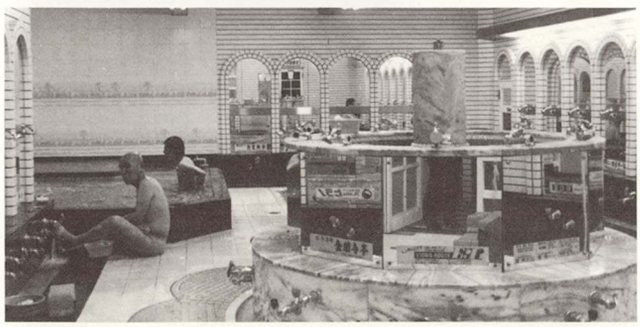
しかし、もうすでにオーナーはつぎの展開を考えられており、サロンの確保、温水プール風の浴場の増設等、新たな夢は広がるばかりである。『できればヘルスセンター的な、ゆったりとくつろげる銭湯をつくりたい、オーナーもお客さんもともに喜べる、自慢できる銭湯にしていきたい』と力説された。また、『銭湯はサービス業であり、サービス精神をわすれてはならない』とも言われたのが印象的であった。

最後に、『金閣寺湯』をバックにオーナーの写真をとらせてもらったが、そこには、威風堂々としたオーナーの姿があり、今後も公衆浴場業界の先頭をきって、アイデアいっぱいの銭湯経営に取り組まれていくことと思う。　**（北条　誠委員）**





外観と浴場内部



ルポ5 銭湯

ゆーとぴあ

大阪府富田林市向陽台２－２

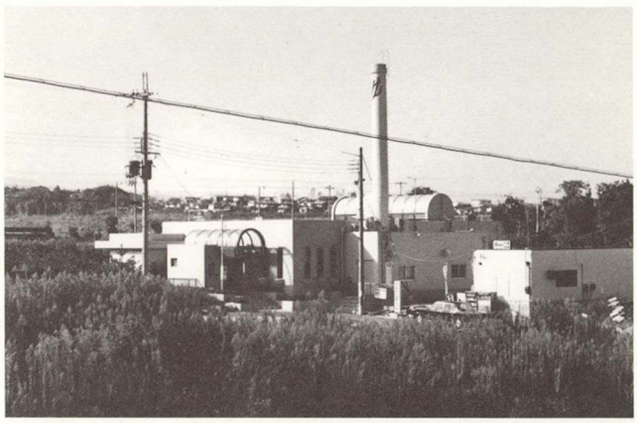
郊外型銭湯

難波から南海高野線の区間急行で25分の、金剛駅の東に広がる典型的な郊外団地金剛ニュータウン、その東団地地区の一画に昭和60年の秋オープン。オイルショックのあおりで10年近くも実現が遅れた東団地地区の、まだまだそこここにせいたかあわだち草がみられるような風景の中にあの風呂屋の煙突がそびえ立っている様は、何となくシュールである。

パーキング場、モダンな白っぽいタイルの外壁や透明なボールトの玄関庇と、銭湯らしからぬいでたちではあるが、入り口にはちゃんとあのなつかしい「ゆ」のマーク入りののれんがぶらさがっている。例の下駄箱のならぶ玄関を入ると、なんとそこにはソファーが並び大きなナイーブ派の絵が掛けられた広いホール、すなわち家族や夫婦の待ち合わせスペースがある。風呂屋の前で新妻が震えながら夫を待つといった風情はもうない。

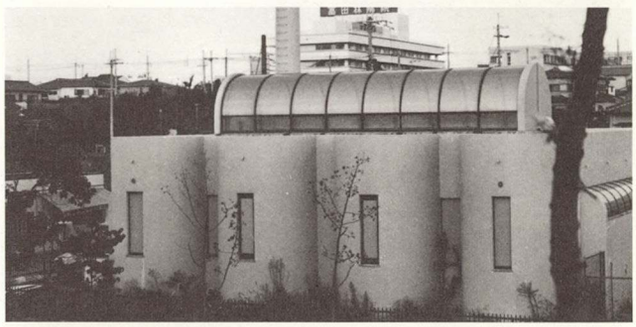
入場料の自動券売機になんとなく味気なさを感じながら男女別のドアを入り、昔ながらの番台、脱衣場にホッとさせられたのも束の間、浴場はアスレチッククラブのトレーニングルームかと思うほどさまざまの装置をもった浴槽が並んでおり、もう富士を見ながら浪花節とはいかないようである。何がうけたのか、100パーセント家風呂のニュータウンで、なかなかの盛況をみせているようだ。

（佐野潤一委員）





ゆーとぴあ外観



ルポ6 銭湯

西郷コミカ温泉

大阪府守口市西郷通

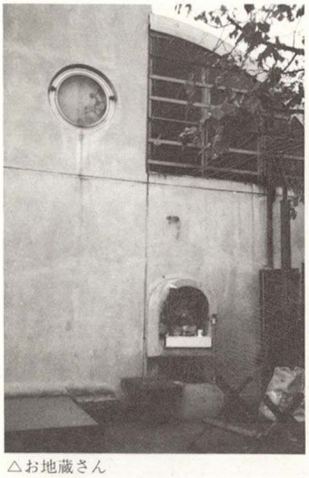
10年後の今もなお脈動するコミュニティ

健康志向がますます強まり、「健康ランド」というレジャー施設として新展開で注目されている温浴施設の中で、ほぼ10年前に完成したこの「コミュニティ銭湯」は今もなお新鮮な面持ちで脈動し続けている。完成当時は、自家風呂の普及により銭湯の数が激減した時期であるが、その中にあって銭湯本来の姿を見つめ直し、新しい銭湯づくりにチャレンジしたのが、この〝コミカ温泉〟である。

商店街に面し、一方は幹線道路、背後は児童公園に接するという立地条件を活かし、街とともに生きる新しい銭湯をつくりたいという経営者の強い希望が、「コミュニティ銭湯」という形で実現した。サウナや露天風呂を併設するなど先駆的な浴場にもまして、営業時間以外にでも誰もが利用できるようにと、イベントホールやレストランを独立して持つなど、入浴のためだけの施設ではなく、コミュニティ施設であるといった思想が徹底している。

周辺は、アパートや長屋風住宅が建て込み、昔ながらのコミュニティが形成されている地域ではあるが、「トークティ守口」による新しい街づくりの余波を受け、今後どのような展開を見せるのかが注目される。

（河端秀直委員）



△お地蔵さん





△多目的ホール



△商店街側のエントランス　▽幹線道路側に面したレストラン



ルポ7 銭湯

御三軒湯

京都市上京区上立売通
小川西入ル御三軒町

学生街の銭湯

京都にはカフェバー感覚の銭湯がたくさんある。その中で、代表的な銭湯を紹介したい。

上京区上立売の御三軒湯は、「ゆ」という例の暖簾がなければ学生街のカフェバーといったつくり。パステルカラーをふんだんに使った内外装は一目で若者狙いが見て取れる。同志社大の学生が、近隣にたくさん住んでいる。実際61年６月に改装オープンしてから、目に見えて学生の客が増えているそうだ。改装にあたっては、学生に来てもらうため、風呂に入ることプラスアルファの楽しみを若者好み中心に考えたという。色使い、ネオンボード、照明器具、ラウンジなど、風呂の設備そのものではないところにも気を使っている。

インテリアグリーンが浴室に並べられているところなど、気持ちの良いスペースづくりに気を使っていることが良く解る。ラウンジは、月２回カラオケ教室が行われるという。もちろん、ラドン温泉やボディーシャワーといった設備も改装の際付け加えられたものだ。

昔は風呂屋が客を選んだものだが、今は客が風呂を選ぶ時代。気持ちの良い銭湯は口コミで評判になり、車、バイクで来店する。銭湯も便利さよりも質の時代。中身さえ良ければまちなかの銭湯でも車、単車でかなり遠方からでも客は来るという。ということで、この銭湯は、駐車場も完備している。

ここだけではなく、京都市内には学生で賑わう名物銭湯が増えてきた。しかし、女子学生にはいまひとつアトラクティブではないらしい。改装して増えたのは男子学生で、女子学生は風呂付きの住宅に住んでいることが多いようだ。銭湯は、かつて女性にとっても社交場であり、井戸端情報局の役目もしていた。しかし、今では新人類世代の男性たちのひそやかな楽しみに変わってきているのかも知れない。

（高田佳子委員）







ルポ8 銭湯

清水湯

大阪市南区西清水町

ディスカバージャポ〜ン（ふろや発見）

〝え〜！まさかこんなところに!?〟とふろや発見に驚く。それもそのはず、御堂筋から西へ一筋目の日航ホテルに近いオフィス街のど真ん中。〝清水湯〟と大きな文字で染め抜かれたのれんが無いと素通りしてしまいそうな、はたまた、料亭とも見間違いそうな建物である。

のれんをくぐって中へ入ると、なんと正面にエスカレーターが動いているではないか。右手には広いロビーとカウンター喫茶があるため、きっと2階にふろやがあるのだと納得し、上がってみると、そこはフロントであった。となると浴室は3階ということになる。とうとう銭湯も多層化の時代を迎えたかと、わざとらしく感心しながら入っていくと、なんとエレベーターがあるではないか。と、またまたビックリ！

営業時間も朝5時半から深夜1時45分までと、24時間都市を標榜する大阪のオフィス街にあっては、都会で温泉気分が味わえるオアシスのような役目を果たしている。

また、タオルも石ケンも貸し出しているので、出勤前や、昼休み、会社帰りに利用するサラリーマンや、ＯＬも多い。

（芝吹千昭委員）







ルポ9 銭湯

塚口温泉

尼崎市南塚口町1丁目

八方温泉混浴パーティー

尼崎市の「塚口温泉」で10月10日、「温泉パーティー」という風変わりな催しがおこなわれた。

昨年5月に長野県で掘り出された温泉の湯をタンクロリーで運び出し、街中の銭湯でその湯を沸かしなおしてパーティーをしながら楽しもうという趣向だ。脱衣場にステージ、おでんやそばの屋台を並べ、緋毛氈の上で寄席などのイベントをビール片手に楽しむ。飽きてきたら香り高い温泉で湯浴をする。こんなことの繰り返しのなんとも疲れる極楽だった。

この企画は西武セゾングループのショッピングセンターつかしんが、1周年記念イベントの一環として楽に健康になろうという発想で体育の日におこなったものだ。つかしんといえば、最先端のファッショナブルなイメージが強いが、近隣の銭湯を使ってのイベントをおこなったその企画意図を、担当者はつぎのように語る。

「つかしんという計算された空間に、白馬の自然生活を持ってくることによって、ふれあいの場を演出したい」。つまり「ファッションというものは、自分を飾ること。自分自身を演出すること。入浴はそれとは反対で、ファッションを取り除いて人間的で原始的な本当のリラックスが得られる。つかしんという人工的なまちにもいずれふれあいが生まれてくるだろう。しかしそれには大変時間がかかる。自然のものを持ち込み、裸になる、開放的になるといった場をつくることで、ふれあいの場をつくりたい」ということだ。販売促進のためのイベントとしては異例で、つかしんから1kmほど離れた銭湯でおこなったが、物理的事情があったにせよ、ふれあいの場をつくっていきたいという姿勢には意欲を感じる。

ところで、この催しの参加者の年齢は、高校生から実年まで、多岐に渡った。主催者は、温泉ブームの折、若い女性中心になるだろうと思っていた。最近の温泉ブームで温泉に大挙繰り出しているのは、若い女性だ。温泉をお手軽に街で楽しめるのだから温泉好きの女性に人気が出ると予想したのだ。しかし、実際には温泉好きの中年以上の人が集まった。混浴パーティーというセンセーショナルな名前のせいもあるかも知れないが、銭湯という場所は、若い女性を引きつける場所になっていないようだ。温泉の持つ開放感、非日常性と違い、銭湯には近隣の人とのコミュニケーションというイメージがつきまとう。水着を着けての銭湯空間の中では、お湯が温泉でも、銭湯色が温泉色に勝ってしまったようだ。

（高田佳子委員）

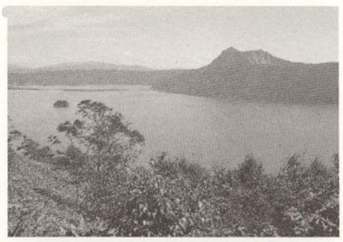


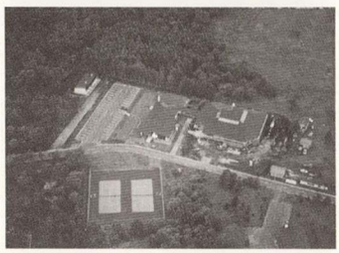
事例アンケート1　クアハウス屈斜路

北海道弟子屈町屈斜路湖畔仁伏温泉

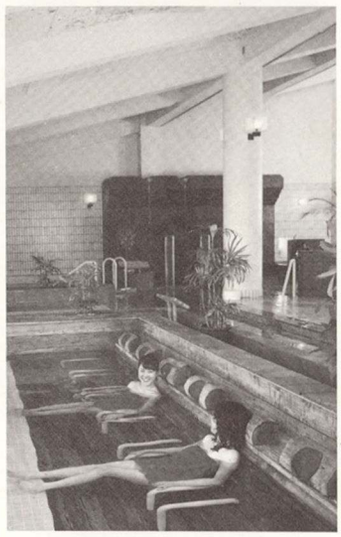
浴槽形態　8種の浴槽、12種の利用

設　　計　日本工房・交通交社総合開発共同企業体
施　　工　三共後藤建設・摩周建設・高橋建設共同企業体
階　　数　地上1階、一部地下1階
構　　造　鉄筋コンクリート造
建築面積　1,101.71㎡









1．オープンした年月

昭和61年5月

2．歴史

道内では最大の内陸カルデラ屈斜路湖。その湖畔に数多くの温泉が湧出し、仁伏温泉もその一つで、ここに保健・保養基地の建設を構想して以来10年。森と湖の恵まれた大自然は、クアハウスには最良の環境。

歓楽型から保養型の温泉地への脱却による観光地・弟子屈の活性化を期待してのオープン。

3．人々を魅きつけるための工夫

オープン初年にあたり、新聞・雑誌による広告、パンフレット等の配布や、クチコミ宣伝に努め、存在を知らしめるのが先決。

温泉ブームが下降しないうちに、つぎの作戦を実行しなければ……。浴室の時計を見ながら入浴プログラムを忠実に行う人も多い。

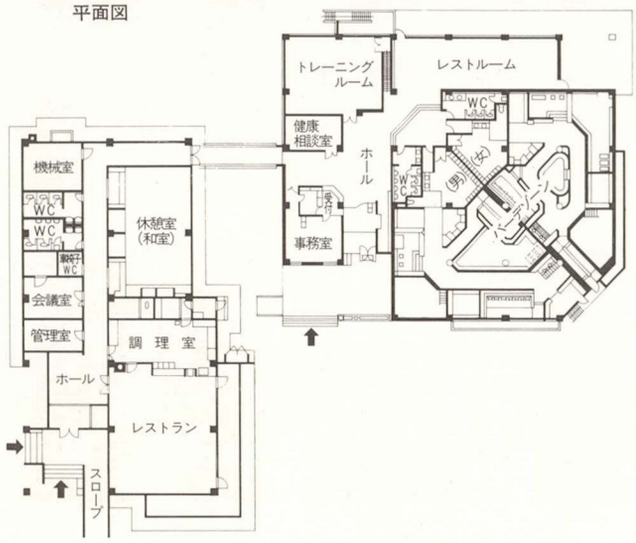
4．セールスポイント

コンピューターによる体力診断。

保健婦の健康相談。

（北海道弟子屈町役場産業課　**大下　精**）

平面図



事例アンケート2　和賀町立夏油（げとう）温泉館

岩手県和賀郡和賀町岩崎新田畑入山国有林

浴槽形態　——

設　　計　石川建築設計事務所（花巻市）
施　　工　マルケイ建設（和賀町）
階　　数　地下1階、地上1階
構　　造　RC造
建築面積　237.15㎡
延床面積　434.10㎡

1．オープンした年月

昭和55年4月

2．歴史

昭和52年に温泉ボーリングした結果、67℃、毎分150ℓの湧出を見、既設温泉に配湯し、なお余剰があり、これが活用を図ることから計画された。栗駒国定公園の北端にあり、東北でははじめての新しい温泉館である。備品25種類がある。

3．人々を魅きつけるための工夫

当温泉地内には露天風呂が散在し、これが人々を魅きつける要因となっている。また天然のサウナ（洞くつの湯）などもある。大石灰華ドーム（特別天然記念物指定）天狗の湯への散策コースも好評を博している。

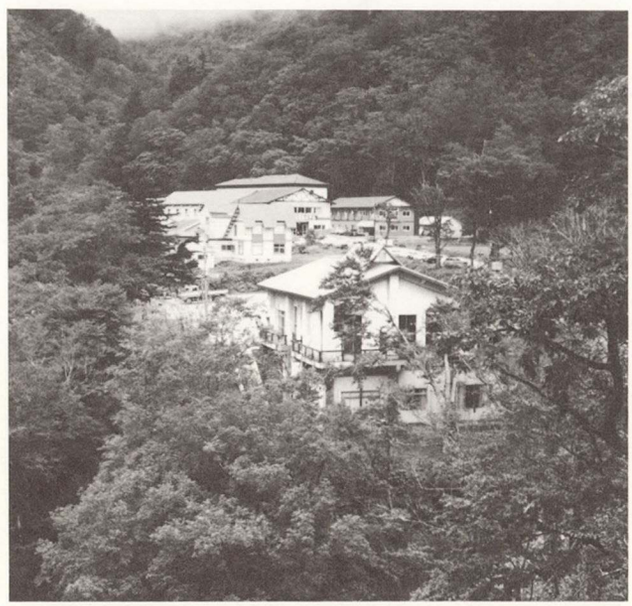
4．セールスポイント

入浴と運動を組み合わせた温泉保養。

（和賀町役場商工観光課　**小松芳夫**）







事例アンケート 3　財団法人 片倉館

長野県諏訪市湖岸通り４－１－９

浴槽形態　大浴場、ラドン温泉

設　　計　森山松之助
施　　工　小口工業
階　　数　地下１階、地上２階一部５階
構　　造　鉄筋コンクリート造
建築面積　1,350㎡
延床面積　3,135㎡

１．オープンした年月

昭和３年10月（現状のままで使用中）

２．歴史

御大典奉祝事業とともに、片倉製糸創立五十周年記念行事として、温泉浴場を建設。公衆の用に供することを目的としたものです。設立当時の施設としては、大浴場（3.6m×7.2m、深さ1.1m、浴槽の底に玉砂利を敷く）、滝風呂、蒸気蒸し風呂を備え、脱衣箱は電気式で、自動施錠の設備があり、鍵は指輪型をし、各自持参する方式を採っています。また２階に大広間と個室５室を備え、湯茶サービスの施設もあります。現代のヘルスセンター的、またクアハウス的要素をもったもので、恐らく日本における最初のものではなかったかと自負致しております。

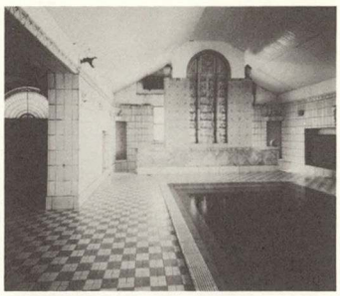
３．人々を魅きつけるための工夫

歴史的生い立ちと、昭和初期の洋風建築物で、現在までそのままで保存されているものが少なくなった現在、なお使用に堪え、しかも公衆の用に供されている点で、その景観は人の目を引きつけるものがあります。加えて昔、諏訪湖の湖底であった軟弱な地盤の上に建設された建物が微動だにせず、幾多の地震等にも耐えている姿は、現代建築にとっても参考になるものと思います。

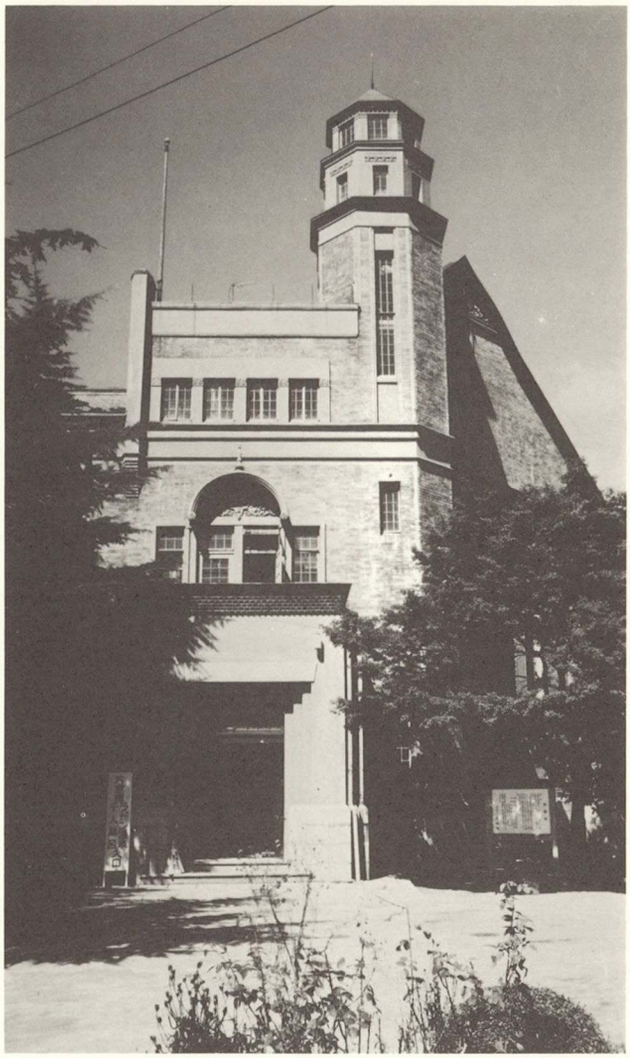
４．セールスポイント

窓を開ければ、諏訪湖の向こうに奥穂高連峰を望み、湖畔から見れば、緑の中の瀟洒な建物は、異国情緒を偲ばせるものがあります。

（片倉館　**尾沢茂寿**）







事例アンケート 4　クアハウス碁点

山形県村山市碁点1034－７

浴槽形態　12種類20浴槽

設　　計　——
施　　工　——
階　　数　地上４階
構　　造　鉄筋コンクリート造
敷地面積　26,600㎡
延床面積　6,105㎡

１．オープンした年月

昭和57年５月１日

２．歴史

山形百湯と昔より伝えられ、現在は151の温泉が存在しますが、わが村山市には、53年までは温泉が無でした。碁点のこの地に突然の理由で湧出したのを、市の方針の健康と温泉を組み合わせた開発を目標としてクアハウスの建設となった訳です。
オープン以来、年間18万人の利用者があります。

３．人々を魅きつけるための工夫

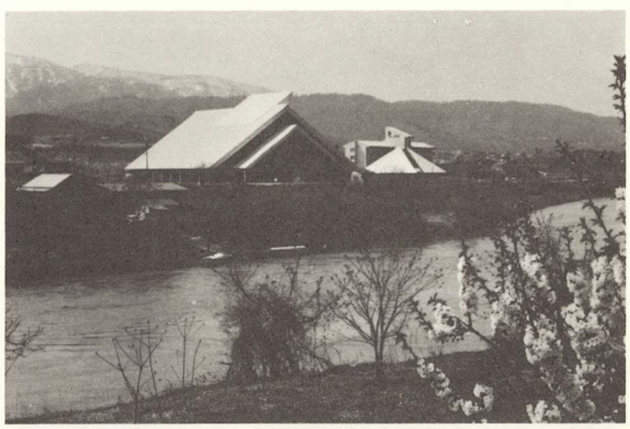
全国初のクアハウス（宿泊も含む）としてスタートした点も大なるものがありますが、接客サービスにおいて、他ではやってない点を重点に実施しているところが、お客様に認識されたものと考えています。

４．セールスポイント

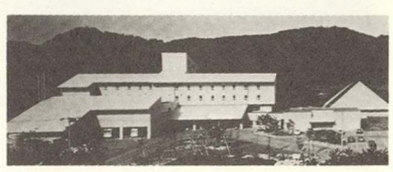
温泉浴槽と料理とサービス

（クアハウス碁点　**丹野幸一**）









事例アンケート5

滋賀トロン保健センター

滋賀県大津市苗鹿2丁目30－7

浴槽形態　〈9種類の温泉〉フリーバス（全身浴）スチームサウナ（吸入浴）リラックバス（座浴）バイタルバス（活力浴）ドリームバス（寝浴）ステップバス（歩行浴）クールバス（水浴）ジュビナバス（圧注浴）ヘルツバス（低周波浴）

設　計　エヌ・ピ・オー
施　工　フジタ工業
階　数　地上3階
構　造　鉄筋コンクリート造
延床面積　1,220㎡（370坪）

1．オープンした年月

昭和58年9月5日
昭和60年8月10日増築オープン

2．歴史

後ろに比叡山、前に琵琶湖景勝の地にある雄琴温泉で戦前より営業している元湯（ラジウム冷泉）旅館【湯元館】のオーナー針谷了は、旅館の売り上げが伸び悩んでいる一時期、健康産業の医科学温泉トロンに着目し、関西で唯一のトロンセンターを誕生させる。

もっとも、オープン当時はトロンという名称になじみがなく、〝トルコ〟と間違われるという笑えぬ笑い話もあった。

トロンは自然界でもっともイオン化作用が強く、その治療効果により「上がらなかった手が上がるようになった」「足の痛みが取れた」など、利用客の間で評判になり、杖をついてきたお客が杖を忘れて帰るため、「杖忘れ温泉」と呼ばれ、喜ばれている。またセンター内の備品飾りつけは、ゆっくりとくつろげるように落ち着いた雰囲気をだしている。

3．人々を魅きつけるための工夫

テレビ、新聞、折り込みチラシ、看板、バス車内広告等で宣伝をするかたわら、営業マン3人が、逐次、滋賀県内の会社、老人会、各種団体等を回り「湯一とぴあトロン」で健康家族のコミニュケーションを、と勧誘に回る。また増築オープン以降は新温泉時代を先取りし、温泉が本来持っている湯治効果以外に遊びの要素をふんだんに取り入れ、老若男女を問わず三世代の交流が図れる場として人気を得ている。

昭和58年にオープンして1年間くらい、映画大会、カラオケ大会、病院長を招いての健康講話等、各種イベントに力を入れたが、トロン効果の前では所詮付け焼き刃であった……。現在では、平均5～6時間の滞在時間中2回～3回くらい入浴し、ノンビリとすごされ、温泉そのものを楽しんで貰っている。

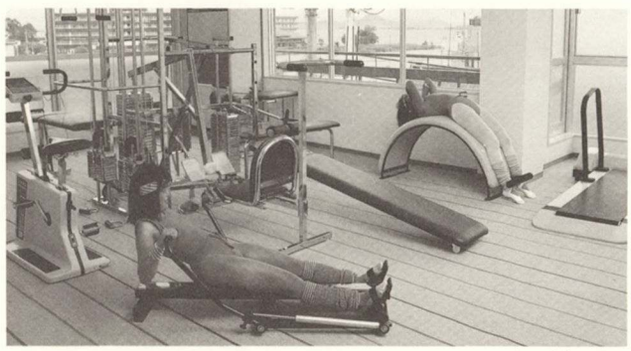
4．セールスポイント

昭和12年に、防衛大学名誉教授の畑晋理学博士がラジウムより人体に無害で有効な「トロン」の抽出をし、それに果実酸を加えた果実酸水溶液抽出法を発見し、天然のラジウム温泉より優れた人工ラジウム温泉〈有機弱酸性ラジウム温泉〉を作り出すことに成功した。当センターでは、全自動トロン抽出装置でトロンを抽出。常に循環濾過し、清潔な温浴水の維持に加え、常時新鮮なトロン温浴水を浴槽に送り込み、いつ入浴されても効果に差のないよう、細心の注意を払っている。

（滋賀トロン保健センター　**長田仁勝**）


トロンリラックバス（座浴）


ジュビナバス（圧注浴）


フィットネスルーム

事例アンケート6

霊山寺薬師湯殿（りょうせんじ）

奈良市中町4059

浴槽形態　岩風呂、大理石風呂

設　計　あすか建築設計事務所（代表者　山嵜文雄）
施　工　出口工務店
階　数　地上1階
構　造　鉄筋コンクリート造
建築面積　221.34㎡

1．オープンした年月

初期新築　　昭和17年12月
改築新築　　昭和57年4月
内部一部改造　昭和61年3月

2．歴史

昭和16年9月、神様のお告げにより、鉱泉湧出し、昭和17年12月、霊山温泉棟を建て、無料にて施湯。昭和24年より昭和56年まで、旅館霊山荘の浴場として使用。昭和57年、建て替え新築して一般に有料施湯。

3．人々を魅きつけるための工夫

1300年の昔、弘文年間、右大臣小野富人（通称・鼻高仙人）が右大臣を退職し、この地にて薬草を栽培し、薬草を風呂に入れて薬草風呂とし、風呂に薬師如来を祀り、薬師湯としても施湯す。この因により、現在時折にしょうぶ湯、どくだみ薬草湯として施湯もしている。

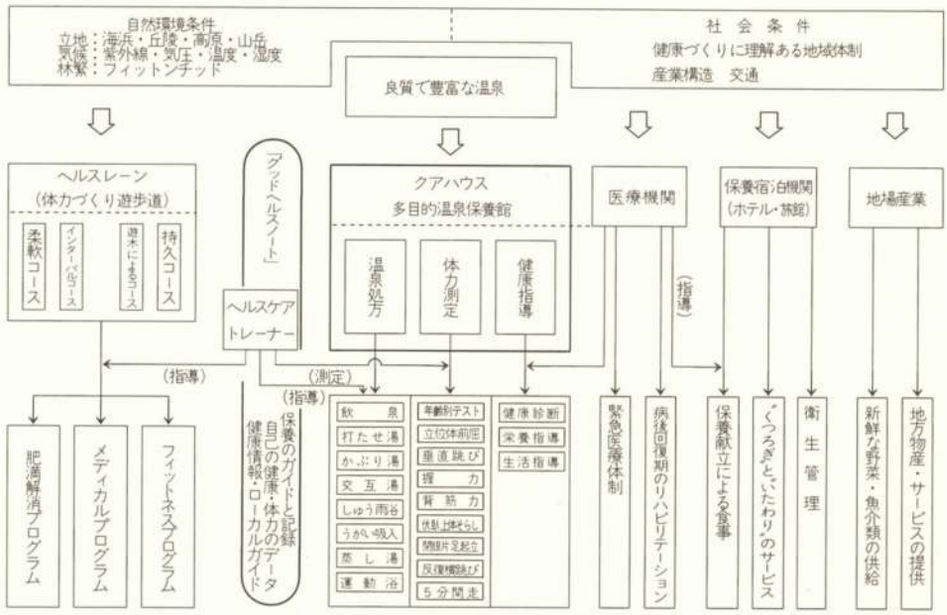
（霊山寺管長　**東山光師**）





KURHAUS

―㈱日本健康開発財団レポートより―



図－1　クアオルトシステム全体機能図

1．KURHAUSとは

KURHAUSとは、ドイツ語で保養館という意味である。

ヨーロッパ、とくに西ドイツを中心とした温泉地は、名実ともに長期滞在の温泉リゾートで、そこでは、温泉による医療・保養・レクリエーションが豊かな自然環境の中で一貫して行われている。とくに医療面では、単なる治療、リハビリテーションにとどまらず、中高年齢者の健康回復、健康増進を、化学的療法に頼らず、温泉を科学的に利用した自然療法によって3～4週間という時間をかけて行っている。

これらの温泉保養地の中心をなす施設がクアハウスである。そこでは、温泉医、バーデマイスター、トレーナー等の適切な指導と科学的データによって、さまざまな利用者の健康管理が行われている。

2．西ドイツの温泉保養地(クアオルト)

温泉医学の先進国である西ドイツには250カ所ほどのクアオルト（KURORT）と呼ばれる保養地がある。

クアオルトは、全部が温泉地というわけではなく、海浜の気候を利用した海浜療法の保養地、ドイツのクナイプ神父が開発した水治療法であるクナイプ療法をとりいれた保養地、それに山岳性の気候を利用した気候療法の保養地などもある。

クアオルトの中には、一般的に、クアハウスを中心として療養ホテル、飲泉所、回廊遊歩道、公園、劇場、レストラン、コンサートホール、図書館、病院、サナトリウム、浴場、トレーニングルーム、室内・屋外プール、美術館、乗場クラブ、テニスコート、山岳遊歩道などが配置されている。保養客は、温泉医の指導の下に入浴や運動を行ったり、飲泉コップを持ちながら遊歩道をゆっくり散歩したり、本をよんだりして1日をゆっくり楽しんでいる。また、コンサートや演劇など趣向をこらした催しが毎日開催され、長期滞在しても退屈しないよう周到な配慮がなされている。

3．日本の［クアハウス］

日本健康開発財団が提唱している［クアハウス］は、西ドイツのクアハウスやクアミッテルハウス（KURMITTELHAUS）、クアバード(KURBAD)、バーデハウス（BADEHAUS）等を参考にしつつも、わが国古来の入浴方式や入浴習慣を取り入れて開発したものであり、浴槽の種類やお湯の温度、面積、付帯施設（トレーニングルーム、室内プール、健康相談室など）、運営スタッフなどに独自の分類・基準を定めている。（**表－1**）

この日本版クアハウスを日本健康開発財団ではつぎのように定義づけている。

クアハウス(多目的温泉保養館)　温泉のもつさまざまな効果（温熱効果、物理的効果、化学的効果、転地効果など）の多目的活用を目的とした温泉利用施設のこと。

施設条件としては、バーデゾーン(浴場部分)、トレーニングルーム、リラックスルーム(休憩室)、健康相談室を備えており、健康づくりのための施設の面積の合計が500㎡を超えるもの。室内プール（運動浴槽）は、今後設置する施設については、必要条件とする。

環境条件としては、良質で豊富な温泉と森林、海浜等、豊かな自然環境に恵まれていること、周辺にプール、体育館、テニスコート、ゲートボールコート、森林内遊歩道等が利用できることが望ましい。

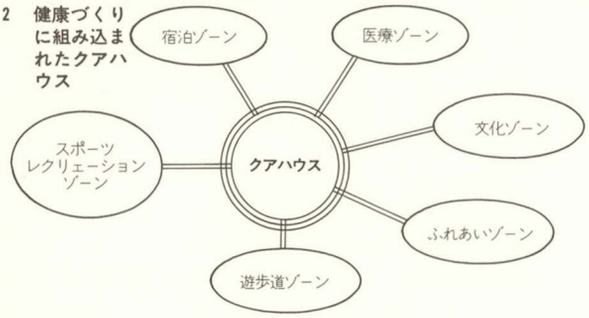
運営条件としては、財団が養成したヘルスケアトレーナー（健康づくり指導員）が施設の専任要員として、

表－1　健康づくり施設の名称と基準

◎必要条件　○十分条件　×不要

名称	商標登録	立地	健康づくりのための施設の基準	温泉	スタッフ					施設						
					顧問医	保健婦看護婦	栄養士	ヘルスケアトレーナー（健康づくり指導員）	鍼灸マッサージ師エスティシャン	バーデゾーン（浴場）	トレーニングルーム	室内プール	健康相談室	リラックスルーム（休憩室）	マッサージルーム（リフレッシュルーム）	宿泊施設
クアハウス（Kurhaus 多目的温泉保養館）	認可済	温泉地	500㎡以上	◎	◎	○	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○
クアバード（Kurbad 温泉保養館）またはクアホテル（Kurhotel 温泉保養ホテル）	出願中	温泉地	300㎡以上	◎	○	×	×	◎	○	◎	◎	○	○	○	○	○
アクアハウス（Aquahaus 保養館）	出願中	都市リゾート	500㎡以上	○	○	×	×	◎	○	◎	◎	◎	○	○	○	×
ヘルスファーム（Health Farm 長期滞在保養ホテル）	出願中	大都市近郊	1,500㎡以上	○	◎	○	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

図－2　健康づくりに組み込まれたクアハウス



宿泊ゾーン……ホテル、サナトリウム、旅館、コテージ、キャンプ、オートキャンプ、リゾートマンション、保養所、ペンション、民宿
文化ゾーン……美術館、博物館、展示館、資料館、記念館、劇場、プラネタリウム、天文台、科学館、水族館、工芸館、図書館、音楽室
ふれあいゾーン……ビデオルーム、映画館、動物園、集会場、研修室、会議場、ホール、イベントホール、サロン、ディスコ、娯楽室
スポーツ・レクリエーションゾーン……体育館、武道館、ゲームルーム、ホビールーム、テニスコート、グラウンド、バレーボールコート、パターゴルフ、パドルテニス、ゲートボール、サイクリングロード、ゴルフ
遊歩道ゾーン……森林浴レーン、遊歩道、ハイキングコース、登山コース、展望園地、休憩所、オリエンテーリング
医療ゾーン……クアクリニック、中間施設

図－4　全国クアハウス施設マップ



利用者の健康づくりの指導にあたること。さらに、顧問医（なるべく日本温泉気候物理医学会が認定した温泉療法医）、保健婦、看護婦のいずれかが配置されることが望ましい。

クアハウスは、原則として宿泊施設をもたない施設とし、地域住民の定期的利用による健康づくりと観光・保養客の誘致による温泉保養地の活性化を主たる目的とする。

4．クアオルト(温泉保養地)システムの基本

日本健康開発財団が提唱しているクアオルトシステムは、日本の各所に湧出している温泉とその周辺環境・施設を利用して、体力・健康度に応じた入浴・運動プログラムを実践することにより、健康人も半健康人も楽しみながら健康づくりをしようというものである。それは、従来の湯治のやり方を改良し、温泉医学、運動生理学等の医学的データにもとづいた、入浴と運動による温泉保養の方法である。

クアオルトシステムの全体機能を**図－1**に示す。

5．クアハウスとその周辺施設

クアハウスには、それだけ単体としてではなく、周辺の自然環境やスポーツ・レクリエーション施設を利用動線の中に組み込んで(**図－2**)、トータルで健康づくりの実効を上げることを期待している。したがって、周辺の施設が整備されていればいるほど優れたクアハウスといえる。

6．クアハウスの施設構成

クアハウスは**図－3**のように、ふれあいゾーン、健康づくりゾーン、健康管理ゾーンの３つのゾーンから構成される。

7．クアハウス開発と利用の現況

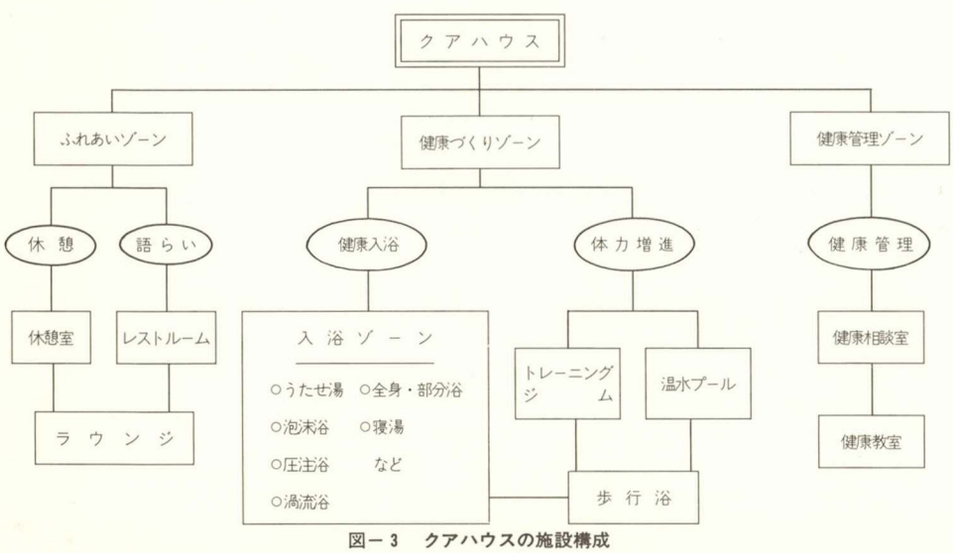
日本健康開発財団が指導、普及しているクアハウスは、市町村などの自治体や民間企業の賛同をえて、昭和61年10月現在、地域の人々の健康づくりや、観光・保養客の誘致による温泉地の活性化をめざして、全国20カ所につくられており(**図－4**)、61年度中には21カ所になる予定である。

その開発の目的によって、クアハウスはつぎのように分けられている。

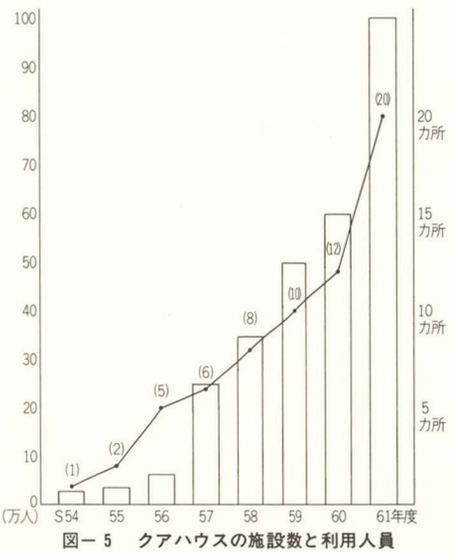
温泉地活性化型：クアハウスかけゆ、クアハウス栃尾又、クアハウスのざわ、クアハウス白川郷
地域住民奉仕型：白馬村国民保養センター、夏油温泉保養館、クアハウス屈斜路、クアハウス津南
宿泊施設活性化型：ホテル国富、菊水館(作業中)、クアハウス碁点、リステル猪苗代、クアホテル京急富津観光ホテル、(＊)クアホテル寿苑、(＊)クアハウス一心館、(＊)クアホテル石橋
地域保健型（人間ドック併設）：(＊)ヘルシークアハウス石和
単　独　型：名鉄サニーランドクアハウス、神戸クアハウス
リゾートマンション付帯型：クアライフ御宿

(＊)建設中のもの

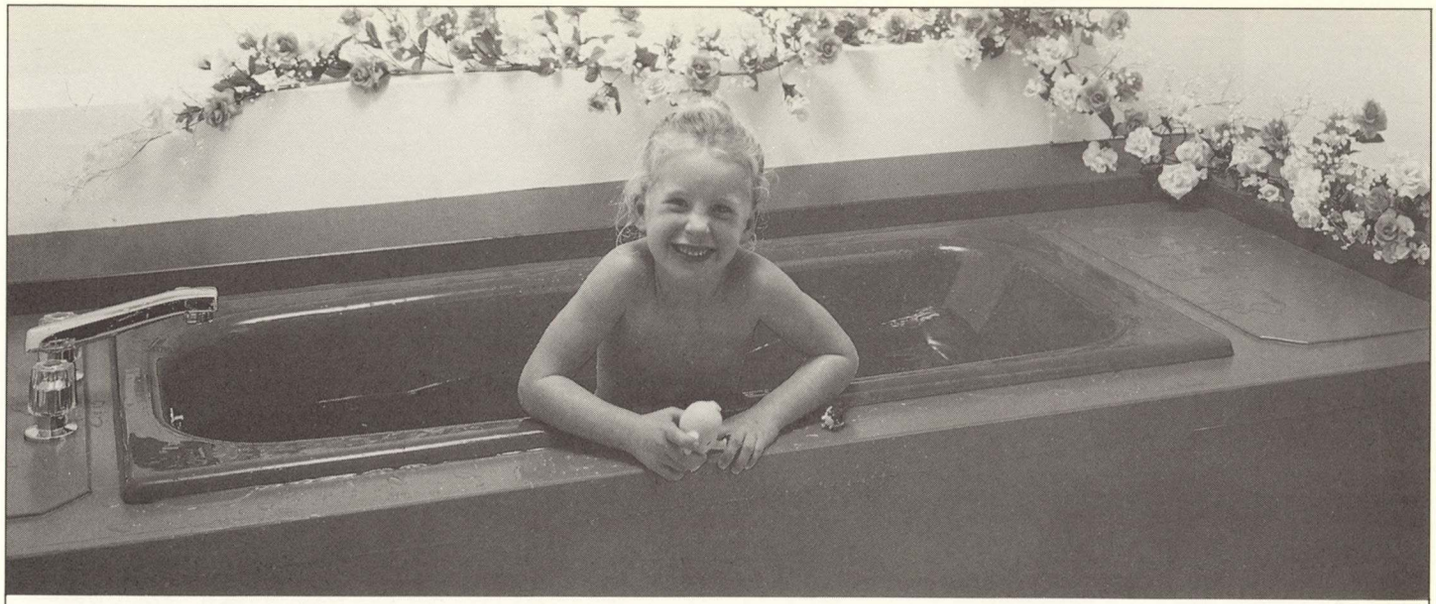
クアハウスの施設数、利用人員は年々増え続けており(**図－5**)、昭和61年度中に、98万人の利用者が見込まれている。



図－3　クアハウスの施設構成



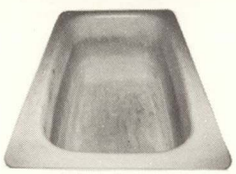
図－5　クアハウスの施設数と利用人員



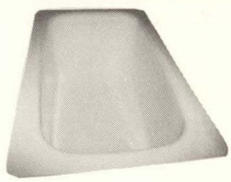
さわやかバスライフ

特殊塗料 プロテア・シンターン

浴室が話しかけてくる。



●施工前



●施工後

●浴槽などはそのままに、
バスルームが美しく生まれ変わります。

特殊塗料、プロテアとシンターンを使えば、バスタブから洗い場まで、思いどおりにリフレッシュ。改造となると、建物の筐体工事や配管工事が必要になり、工事費は大変高額になりますが、プロテア・シンターンで仕上げると、基材をそのまま生かして施工するため、工事費は約半額。工期も、バスタブは一日仕上げ。床・壁・天井の場合でも、非常に短期間で完成します。
基本カラー、特別色も豊富にそろい、デザイン、カラーレイアウトが自由に選べます。
肌ざわりも柔らかく、なめらかな光沢。カビも生えにくく、衛生的で手入れも簡単です。

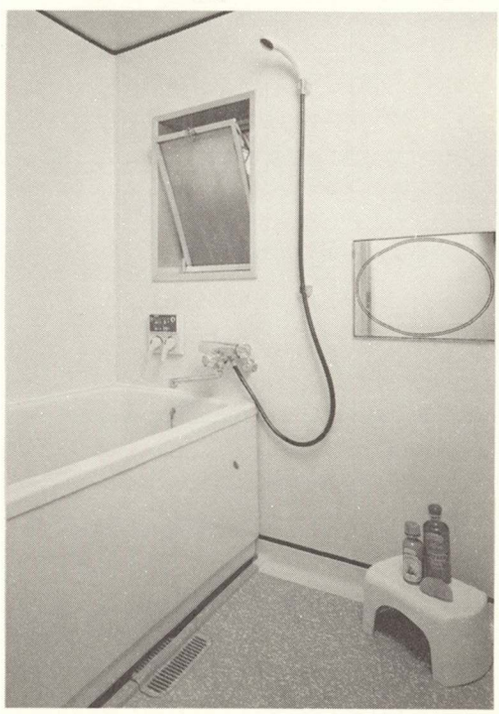
●プロテア物性データー(標準厚:0.2~0.25㎜)

試験項目	結果	試験規格
煮沸試験	異状なし	JIS・A・5704
耐熱試験	異状なし	JIS・A・5532
荷重試験	異状なし	JIS・A・5704
すべり抵抗	0.27	JIS・A・1407
カビ抵抗性試験	生育しない	JIS・Z・2911

●シンターン物性データー(標準厚:0.5㎜)

試験項目	結果	試験規格
耐摩耗	0.0745mg/mm²	JIS・A・1453
接着力	37.5kg/cm²	建研式引張試験
硬度	H	JIS・K・5400
耐酸性	良好	—
耐アルカリ性	良好	—
カビ抵抗試験	生育しない	JIS・Z・2911

ユニットバス・壁・洗い場改装



●洗い場・壁/シンターン施工 ●浴槽/プロテア施工

大協株式会社

本社	〒739-01	広島県東広島市八本松町原175-1	☎(0824)29-0111
大和工場	〒729-13	広島県賀茂郡大和町上草井505	☎(08473)4-0021
広島営業所	〒736	広島市安芸区船越南3丁目20-12	☎(082)823-7482
大阪支店	〒564	大阪府吹田市豊津町12番36号	☎(06) 380-1831
東京営業所	〒101	東京都千代田区神田須田町1-18(飯田ビル2F)	☎(03) 258-4471
福岡営業所	〒812	福岡市博多区博多駅東2丁目5番28号(博多偕成ビル803)	☎(092)451-2176

構造の頁

143

新しい制震構造に向けて ―ダイナミックインテリジェントビルの提唱―

小堀　鐸二

はじめに

震源から約400㎞も離れたメキシコ市に、想像を絶する被害をもたらしたメキシコ地震（1985年9月19日）から早くも一年数ヵ月が経過した。わが国も地震国であるが、耐震技術の水準や社会的基盤が異なるため、メキシコ市と同様な被害を受けるとは考えにくいが、従来にも増して地震動の不確定さに改めて思いを致す大きな教訓になった。それは、現在の耐震構造の考え方の枠内での改良を求める警告でもあるが、筆者にはむしろ耐震構造に関する新しいパラダイムへの転換を求められているように思えてならない。

耐震構造の設計思想の変遷

昨年は、日本建築学会が誕生して100周年に当たった。その長い歴史は、ある見方からすれば、建築の耐震構造化の歴史ででもあった。明治・大正年代の二大地震（1891年の濃尾・1923年の関東両地震）後にわが国独自の耐震構造の理論と実際的構法が、世界に魁けて芽生え、発展してきた。この耐震設計の手法は剛構造の考え方（耐震壁やブレースを設けて地震力に抵抗し、建物の変形をできるだけ少なくしようとする考え方）に基礎をおくもので、その後の耐震構造の進展に大きく寄与し、戦前にその設計思想に基づく体系化がほぼ完成の域に達したといえる。

戦後、経済の高度成長に伴い超高層建築に対する社会的要請が高まるとともに、それまでの耐震構造の設計思想からの脱皮を余儀なくされ、建物の高層化に対応すべく、コンピュータの発達と軌を一にして、そこに、応力のみでなく変形能力にも視点を置いた設計の考え方（柔構造の考え方）が加えられ、超高層ビルの出現となって開花したのは周知の通りである。しかしこうした耐震構造の設計思想は、それが剛であれ柔であれ、その名のごとくひたすら地震に耐えるものとして、受動的な受身の機能を果たすことに考え方の根底を置いてきた。

一方、耐震構造に対比するものとして、究極的には地震動のエネルギー伝達経路を遮断しようとする「免震構造」の考え方が、すでに昭和初期に生まれていたが、近年、それが見直され、主として入力エネルギーの低減を目指すものとしての装置が多角的に検討されてきている。しかしながら、地盤条件の相違などによる地震動特性の変動に対しては必ずしも万能とは言えない面もあり、また発想の原点に遡ってみても、地震から逃れようとする受動的な受身の思想に基づくものと言うことができる。

制震構造 －ＤＩＢ－の提唱

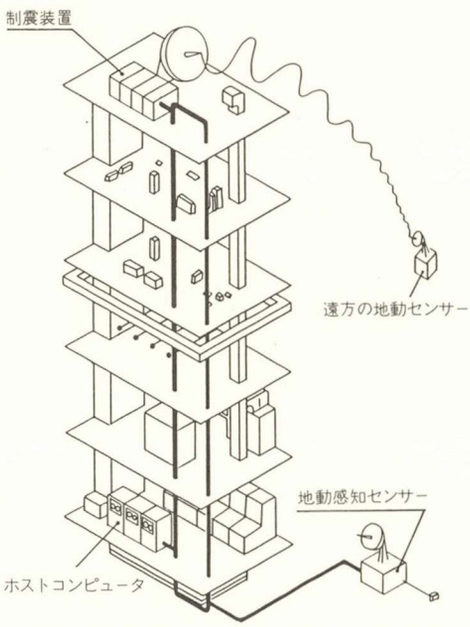


図1　ダイナミック・インテリジェントビル

そこでここに提唱するのが、この受動的な姿勢から脱皮して、時間軸上で能動的に対処する制震構造の一システムとしてのDynamic Intelligent Buildingである。

この，ＤＩＢ　システムとは、そうした不確定度の高い地震動に対し、建物それ自体が、時々刻々と能動的に機能し、対応できるようにインテリジェント化しておくことを目標としている。このことは現実的には、いわゆるインテリジェントビルに置かれたホストコンピュータを利用するか、あるいはそのためのマイクロコンピュータを設置して、これに検出機能を担う地震波観測センサーや、建物に適宜設けられた振動センサーの情報を判断、認識する人工知能を付与し、建物が時々刻々と自らの体質（剛性・固有周期・減衰能力）を選択変化させ、地震の破壊力から身を守ることができるような仕組みを与えようとするものである。（**図1**参照）

ＤＩＢシステムの構成

このような、建物の応答を能動的に制御しようとする考え方は、筆者がすでに30年ほど前に指摘しているが、同様の考え方に基づく試みが7～8年前頃から米国においても散見されるようになった。それらの対象は、主として風による外力であり、制御もまた地震動のような瞬時的な変化の厳しいものでなく、継続時間も長い場合であるために、「閉ループ制御システム」が採用されている。

すなわちセンサーによって建物の応答を分析し、所定のコントロール装置に指令を発し、いかに入力されたエネルギーを効率的に吸収するかという考え方の範囲に留まっている。

それに対し、今ここにＤＩＢシステムの一要素として新たに提唱する概念は、この「閉ループ制御システム」のみならず、建物に入力する以前に構造物の足もとに到達した地震動の外乱をいち早く感知し、その時々刻々に激しく変化する地震動の性質に即応して能動的にクイック・レスポンスするという、いわゆる「開ループ制御システム」の採用に踏み込んだ考え方に基づくものなのである。（**図2**参照）

また、この概念に基づく制震装置の機構としてはさまざまなデバイスが考えられるが、現在筆者らのグループが採り上げている主な機構の一つは、いわゆる「可変剛性機構」であり、建物の足もとに到達する地震動に対し

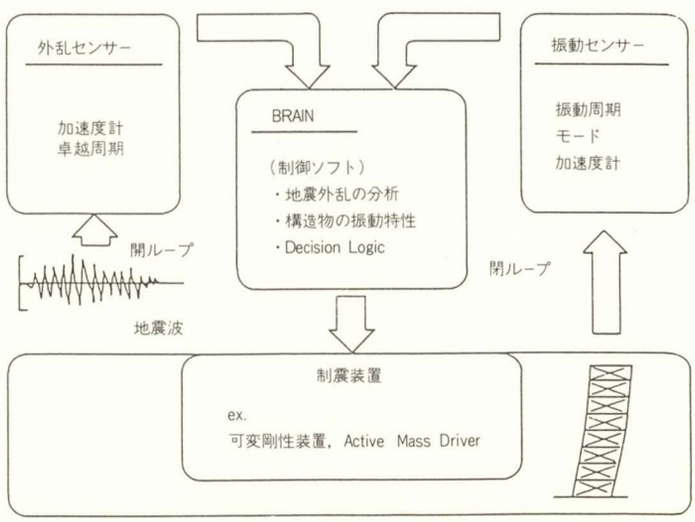
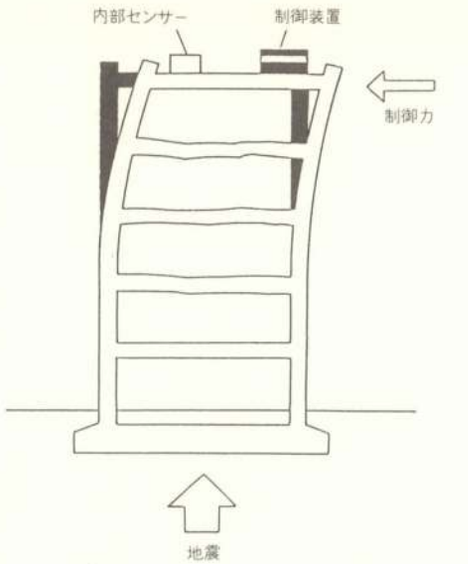


図2　ＤＩＢシステムの構成



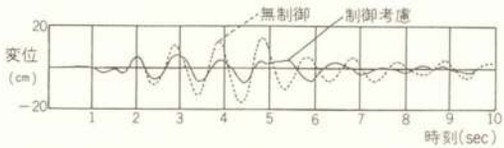
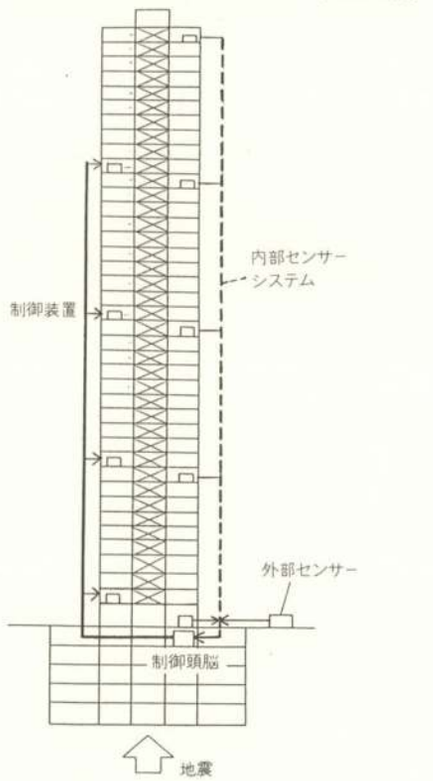


図3　閉ループ制御の例(外部エネルギー供給型機構)





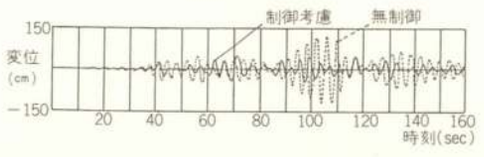


図4　開ループ制御の例(可変剛性機構)

共振しないように時々刻々「剛性」を変化させ建築物への入力エネルギーの低減を可能にするものであり、他方は「能動的エネルギー吸収機構」または、「外部エネルギー供給型機構」で、時々刻々の建物の動き（応答）に応じて能動的に作働させ、建物に入力したエネルギーを効率的に吸収させたり、生じた地震力にカウンターする制御力を逆に建物に働がせようとするものである。

いずれにしてもこれら制御システムの実現に当たっては、各種の「フェイルセーフ機構」の内蔵が不可欠であることは論を俟たない。

ＤＩＢシステムのコンピュータシミュレーション例

筆者らは、このシステムの実現を目指して、制御の方法とそれによる抑制効果を確認すべく、コンピュータによるシミュレーションと振動台による模型実験を実施している。

まず**図3**は、「外部エネルギー供給機構」タイプのシミュレーション例で、５階建のビルが、しばしば実際の建物の動的設計の際に用いられる地震動（1940年、エルセントロ地震）を受けたときの建物の頂部の揺れの時刻歴の挙動を示したものである。

図4は筋かいに、非線形剛性の理論に基づく「可変剛性」機構を持たせた場合の例で、この建物は４秒の基本１次周期（わが国では40階程度のビルに相当）に相当する剛性をもち、入力してくる地震動（ここではメキシコ地震の際の市内の記録）に対し、剛性が1/2～２倍の範囲内で11段階に変化が可能となるようなビルである。

いずれの例でも、制震システムを持たない場合の揺れ（図中点線）に較べて、このシステムを有する場合（図中実線）、かなり応答が低減されているのが分かる。とくに後者の図からは、制震システムを持たない場合の90秒以降の共振現象がかなり抑制され、このようなシステムがあれば、メキシコ市での壊滅的打撃をかわし得たのではないかと考える。

むすび

大地震から人命の確保と財産の保全を図るという、われわれ構造技術者に課せられた大目的に対し、先進技術をベースに能動的に地震に立ち向かう新しい発想に基づく制震構造の開発が、今後ぜひとも必要であることを強調したい。なお、ここに述べた制震構造の手法は、風の外乱に対しても、もとより有効であることは言うまでもない。

（こぼり　たくじ　京都大学名誉教授・鹿島建設株式会社副社長）

■「構造の頁」11月号について

1986年11月号「構造の頁」の「倉敷紡績本社ビルの構造設計」の記事において、下記の記述が欠落しておりましたので、追記いたします。

設計施工：㈱竹中工務店・㈱大林組・㈱藤木工務店共同企業体

フィンランド家具セミナー開催

森と湖の国、フィンランドの現代家具・インテリアを紹介するセミナーが、昨年11月28日、大阪の日航ホテルで開催された。主催はフィンランド大使館とフィンランド家具輸出協会。セミナーでは、訪日中のフィンランド家具輸出協会の主力メンバー4社が各15分ずつフィンランド・インテリアの現状を説明し、最後にメインゲストとして工業デザイナーのハンヌ・カホネン氏がフィンランドの家具、デザインの状況を40分間講演した。講演後、同ホテルにおいてビュッフェレセプションが開かれ、フィンランド・日本両国の建築・インテリア関係者約50名が互いの友好を深めあった。

〈セミナー概要〉

- 保育所における環境の重要性――ヴァーヤ・ヴァキオプー社
- 思いやりのあるオフィス家具――マルテラ社
- 船舶インテリアの事例・ロイヤルプリンセス号――レポフィン社
- インテリアに欠くことのできない部分、イス――アバルテ社
- フィンランドのかたち――ハンヌ・カホネン

〈フィンランド家具輸出協会〉

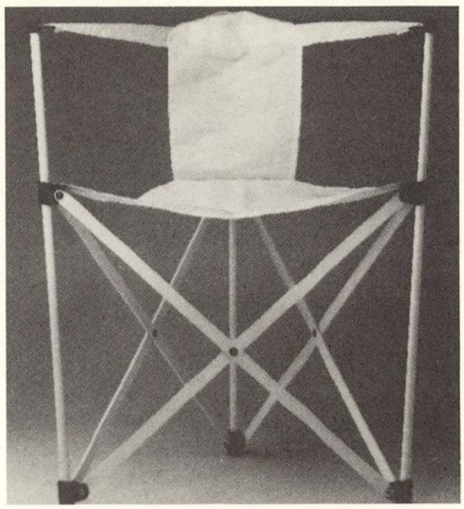
1958年に設立され、現在80社が加盟する。貿易に不慣れな弱小家具メーカーの輸出を助けている。他のヨーロッパ諸国に比して感性的に非常に似かよっところのあるフィンランドであるが、家具における日本とフィンランドの親密な交流は昨年から始まったばかり。第1回の交流は日本側から14名のインテリアデザイナー・建築家が参加し、ヘルシンキでセミナーを開催した。また、シモ・ヘッキラ氏、ユーロ・ワッカプロ氏との密度の高い討議も行った。今回は、第2回目として、リトヴァ・リサネン氏を代表とする8名の視察団が訪日。輸出では北欧3国に後れをとったものの、フィンランド家具の特徴である簡素・実用的・自然美をベースに斬新なデザインを加味したチャーミングな家具で日本との交流を計ろうというものである。

〈フィンランド家具のかたち――カホネン氏の講演より〉

フィンランド・デザインを決定的に特徴づける要因として、「厳しい自然」があげられる。国の大半が北極圏に位置する環境の中で、木をプッコ・ナイフ1本で刻んで家具にするといった、素朴で簡潔なかたちが生まれた。1860年代の産業化の中でもこの基本姿勢はくずれなかった。

近年、目立った動きのなかったフィンランド家具デザインに、新しい動きが出てきている。第一に「デザインに新しい意味を探そうとする動き」。デザインが物理的・機能的なものから、もっと精神的・感性的なものであると考えられるようになってきた。たとえばポストモダン・デザインのように。第二に「デザイン学生に対し学校教育や企業姿勢が変わってきた」スカンジナヴィアン家具フェアー、イタリアンカップなどのデザインコンペが開催され、学生達の積極的な参加がみられるようになった。第三に「新しい家具会社が設立されている」。新しい発想の新しいデザインの家具を製作する会社が数多く台頭してきている、などである。

（柏木浩一）



ハンヌ・カホネン氏デザインの折りたたみイス
1985年フィンランドデザイン賞を受賞
ヘルシンキ・ミュンヘン・エルサレムの美術館コレクションとなる



セミナー講師陣（左から3人目がハンヌ・カホネン氏、4人目が代表リトヴ・リサネン氏）



セミナー風景

編集後記メモ

■新年おめでとうございます。

本年は日本建築協会創立70周年に当たり、いろいろ記念事業もとりくまれます。「日本建築協会賞」の創設もその大きな柱のひとつです。そういう重要な年ですので、心を新たにして編集としても構想を練っていきたいと存じます。

■新年号というわけではありませんが、本文特集を「入浴物語」としました。新年早々に風呂に入って、昨年のアカをおとしたいとの願望もありますが、これからは家庭のなかにも、社会・都市構造のなかにも、風呂が大型化し、健康的にたのしむという風潮が強くなりそうで、そういった意味で、生活づくり、まちづくりの一環として、銭湯や〝温泉〟を展望してみようとしたものです。古い浴室の遺跡から新しいクアハウスの話まで、新春風呂談義として誌面を構成しましたので、気軽に読み、見ていただければ幸いです。そしてウサを忘れ、笑いとばせる正月でありたいと思います。

■笑いといえば、「三笑主義」ということがよくいわれます。建築主、設計者、施工者の三者がともによい仕事をしたといって、ともに喜び笑うというわけです。この三者に、使用者、地域住民の二者をも加えた「五笑主義」といけば、なお良い建築物となりうると思いますが……。

■ここで「笑い」について考えてみたいと思います。

「ホロン革命」の著者であるケストラーは、すべての創造活動に共通の基本パターンがあることを示しました。それは、つぎの三つの領域であらわされます。

すなわち、「Haha（ハッハッ）反応」の領域、「Aha（アハ）反応」の領域、「Ah（アッ）…反応」の領域の三つです。Haha は笑いを、Ahaはわかったという叫びを、Ah…は美的な体験の喜びをあらわしているといいます。

この三つの領域は、もちろん連続的で、Aha は Haha と Ah との両方を具えているようです。

Haha の領域に属する「笑い」にはユーモアやウイットがあげられます。ユーモアがおもしろいかどうかは、個人の好みの問題もありますが、ケストラーによれば、ユーモアには、〈独創性〉〈強調〉〈節約〉の三つの基準が考えられるといいます。独創性がないとうけないし、強調しなければ笑いをさそいださないというわけでしょう。〈節約〉とは、機械的に簡素化することではなく、はっきり口に出していうわかりに、それとなく遠回しに匂わせることです。この三つの基準があって、人々をユーモアにさそいこみ、笑いを誘致するのだそうです。

今年も平和を守る気概に加えて、〈独創性〉〈強調〉〈節約〉を基準にもつユーモアあふれる年、笑いの年、ハッハッの年になりたいと念願するのですが……、どうなりますか。

■今年の表紙絵も、昨年にひきつづき、吉田隆一さんに担当してもらいます。昨年はヨーロッパ篇でしたが、今年は、日本国内のスケッチで飾りますので、どうぞお楽しみに……。

この1月号より新しいシリーズものをつけ加えました。「大先輩に聞く」と「東海ルネサンス」です。「大先輩に聞く」は、本号の浦辺鎮太郎氏、次回予定の小林清周氏をはじめ、大先達のご意見を編集委員が聞いてまとめるというものです。「東海ルネサンス」は、東海の著名な方と東海支部長との対談記事です。

（松井記）

賀　正

1987
設計事務所有志



株式会社
A.R.I 建築事務所

代表取締役所長　亀井晃治

本社事務所　大阪市南区谷町7丁目3番4-203号 新谷町第3ビル2F　TEL(06)768-1771(代)
テレファックス(06)768-1406

アトリエ　東大阪市上石切町2丁目14－35　TEL (0743) 73−6137



株式会社 アーバンライフ建築事務所

代表取締役　小沼俊平

大阪市北区梅田1丁目3番1−500号　電話　大阪　06 (341) 2451−5番
東京都港区六本木3丁目3番29号　電話　東京　03 (582) 2451−5番

株式会社 東建築設計事務所

代表取締役　東　秀保

大阪市北区天神橋2丁目5番18号 南森町センタービル4F　電話 06(358)5598・3497

株式会社 伊東建築設計事務所

代表取締役　竹原永一郎

〒556 大阪市浪速区幸町2丁目2番20号(清光ビル) 電話(562)4343〜5

株式会社 伊藤建築設計事務所

取締役会長　伊藤鑛一
代表取締役社長　鋤納忠治

本　社　名古屋市中区錦3丁目3-6(日経錦別館)　電話〈052〉951-1110㈹
東京事務所　東京都千代田区神田美土代町7(久保ビル)　電話〈03〉294-6061㈹

株式会社 泉沢建築設計事務所

代表取締役　泉　沢　哲　史

〒530 大阪市北区神山町14番3号(木津信ビル)　TEL(06)364-9071(代)

株式会社 浦辺建築事務所

代表取締役　松　村　慶　三

大阪市北区梅田1丁目12番39号・新阪急ビル〒530　電話 06(341)1727
東京事務所 電話03(263)9758　岡山事務所 電話0862(33)6010　福岡事務所 電話092 (761)2206

株式会社 久米建築事務所

取締役社長　永　井　賢　城

本　社　東京都港区西麻布1丁目13番11号　電話 03(403)0251大代表
大阪事務所　大阪市西区江戸堀1丁目10番8号 帝人殖産ビル　電話 06(444)1161代　表

株式会社 小西設計

取締役会長　小　西　　岬
取締役社長　橋　本　正　章

本　　社　大阪市西区立売堀1丁目12番16号　電話(532)4051代表
大阪事務所　大阪市西区阿波座1丁目15番15号(第一協業ビル)　電話(532)4051代表
東京事務所　東京都千代田区神田鍛冶町3－3(大木ビル内)　電話(256)9301代表
広島事務所　広島市中区大手町2丁目7番1号(三葉ビル)　電話(246)0144

株式会社 篠田川口建築事務所

代表取締役社長　川　口　喜　朗

株式会社 協同設備事務所

取締役社長　川　口　喜代枝

〒461 名古屋市東区泉1-21-21　TEL (052)962-7581(代)　(052)971-2255(協同)

株式会社 昭和設計

建築・都市・上下水道
調査計画・設計監理

代表取締役社長　岡　本　行　善
代表取締役副社長　林　　唯　夫

本社事務所　大阪市西区新町1丁目5番7号 四ツ橋ビル　TEL代表 532－3421
神戸事務所　神戸市中央区八幡通4丁目2番17号 郵船航空ビル　TEL078－251－0651
東京事務所　東京都港区赤坂3丁目12番5号 赤坂田町ビル　TEL 03－583－2086

株式会社 AAA（スリーエース）総合設計

代表取締役社長　浅井潤一

大阪市南区東清水町66（朝日プラザ心斎橋東ビル２Ｆ）〒542　ＴＥＬ06(245)7300(代)

株式会社 創美設計

代表取締役　中原英雄

大阪市北区末広町3番21号 星和地所扇町ビル6階　TEL 大阪(06)312−3587代表

株式会社 大建設計

取締役社長　吉田周
常務取締役 大阪事務所長　木村喬夫

大阪市西区江戸堀1−12−8 安田生命大阪ビル　電話 06−441−9351(代)
東京・横浜・名古屋・京都・九州・室蘭

株式会社 東海設計

代表取締役社長　小坂忠勝

本社　名古屋市中区栄3丁目7番1号（伊勢町ビル）〒460 TEL052-261-2651(代表)
東京事務所　東京都中央区京橋1丁目14番4号（東信ビル）〒104 TEL 03-561-0815(代表)

東西建築サービス株式会社

取締役社長　中村隆慶

本社　〒541 大阪市東区横堀2丁目48番地　電話 06-202-3626(代)
支社　〒103 東京都中央区日本橋馬喰町2丁目1番1号　電話 03-663-1765(代)
（住友銀行浅草橋ビル4階）

株式会社 東畑建築事務所

取締役会長　東畑謙三
取締役社長　市川宏

本社 大阪事務所　大阪市東区伏見町5丁目19　電話 (06)202-0391
東京事務所　東京都千代田区永田町2丁目4番3号（永田町ビル）電話 (03)581-1251
名古屋事務所　名古屋市中村区名駅3丁目25番9号（堀内ビル）電話(052)571-8471
九州事務所　北九州市小倉北区魚町1丁目4番21号 電話(093)541-6531
（清和ビル）

株式会社 長田建築事務所

長田正雄

〒542 大阪市南区上汐2丁目4-12 ケーエスビル 電話 768－6121

株式会社 日建設計

取締役社長 薬袋公明
大阪本社代表 大西孝夫
土木業務所代表 松本澄

〒541 大阪市東区高麗橋5丁目21番地1
電話 06-203-2361(大代表)

日積工務株式会社

代表取締役 生島道春

本社 〒542 大阪市南区島之内1丁目14番27号(宇野ビル) TEL(06) 251－3195代表
東京支所 〒111 東京都台東区東上野3丁目16番5号(サンク・ユービル) TEL(03) 836－1271代表
名古屋支所 〒460 名古屋市中区錦2丁目9番25号(豊島第2ビル) TEL(052)221－7561代表
本社分室 〒542 大阪市南区鰻谷中之町62番地(市川ビル) TEL(06) 245－7685代表
㈱京都日積 〒602 京都市上京区今出川通室町東入今出川町333番地(第2高橋ビル) TEL(075)441－5690

株式会社 林設計事務所

代表取締役 林茂

大阪事務所 〒531 大阪市大淀区長柄中3丁目1番8号 電話 (06) 351－6831
和歌山事務所 〒646 和歌山県田辺市稲成町東沓代231番地の6 電話 (0739) 22－8227

株式会社 安井建築設計事務所

取締役社長 佐野正一

本社 大阪市東区島町2丁目7番地 電話 06(943)1371(大代)
支社 札幌・東京・名古屋・大阪・神戸・広島・福岡

株式会社 横河建築設計事務所

代表取締役社長 小池正雄
取締役所長 河村栄蔵

本社 東京都目黒区下目黒1－2－18 TEL (03) 492－7441
大阪事務所 大阪市東区伏見町5－42(大和生命ビル) TEL (06) 202－4509

賀　正

1987
建設業者有志

株式会社　**あめりか屋**

取締役会長　前野慶太郎

〒530　大阪市北区中之島四丁目3番25号　電話（06）444－1501

株式会社　**淺沼組**

取締役社長　淺沼茂夫

本社・大阪本店・大阪市天王寺区東高津町12番6号　電話 大代表(768)5222
東京本店・東京都新宿区荒木町5番地　電話代表(357)0261
名古屋支店・名古屋市中村区名駅南三丁目3番41号　電話代表(571)5571
支店・札幌・仙台・横浜・広島・福岡

株式会社　**新工務所**

取締役社長　新昭一

本店・大阪市北区曽根崎新地2丁目6番11号　電話 代表 大阪(347) 0110番
支店・東京都千代田区猿楽町2丁目1番14号　電話 代表 東京(291) 3741番
支店・名古屋市中区大須4丁目1番71号（時計ビル）　電話 名古屋 (262) 1725番

技術と誠意で未来を築く

安藤建設株式会社大阪支店

取締役支店長　沖田幸作

大阪市福島区福島6丁目3番21号　電話 代表 (453) 2190
本社・東京都港区芝浦三丁目12番8号　電話 大代表 03 (457) 0111
支店・名古屋・仙台・静岡・九州・広島・横浜・札幌
営業所・千葉・横浜・水戸・盛岡・新潟・神戸・京都・沼津・札幌・宇都宮・北九州・熊本

株式会社　**今西組**

取締役社長　今西壽雄

本社　大阪市天王寺区上本町6丁目6番23-309号　電話06(779) 3361
支店　東京都新宿区内藤町1番地　電話03(354) 0581
営業所　京都・奈良・西宮・神戸・埼玉

大之木建設株式会社

取締役社長　大之木一雄

本社　呉市中央3丁目12番4号　電話　0823(21)1511番
支社　広島市中区本川町3丁目1番5号　電話　082(231)5244番
支店　東京都港区麻布台2丁目2番12号 三貴ビル4F　電話　03(585)3655番
〃　福岡市城南区神松寺2丁目13番24号　電話　092(863)7171番

株式会社 **大林組**

取締役社長　大林芳郎

東京本社・東京都千代田区神田司町2丁目3番地　電話 大代表(292)1111番
本　店・大阪市東区京橋3丁目37番地　電話 大代表(943)1131番
支　店・札幌・仙台・横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・福岡

株式会社 **奥村組**

取締役社長　奥村俊夫

本　社　大阪市阿倍野区松崎町2の2の2　電話 大阪(06)621—1101(大代表)
東京本社　東京都港区元赤坂1の3の10　電話 東京(03)404—8111(大代表)
支　社　東京・大阪
支　店　札幌・仙台・浦和・横浜・千葉・新潟・名古屋・神戸・広島・高松・北九州・福岡

鹿島建設株式会社

代表取締役社長　鹿島昭一
取締役大阪支店長　津垣昭夫

本　社　東京都港区元赤坂1－2－7　電話 03(404)3311(大代)
大阪支店　大阪市西区靱本町1－11－7　電話 06(448)3311(大代)

株式会社 **金山工務店**

代表取締役社長　佐野友彦

本　社　大阪市東区内淡路町1丁目2番地　〒540　TEL 06—942—5461代
東京支店　東京都中央区日本橋堀留町1丁目10番12号　共同ビル6F　〒103　TEL 03—663—7844代
京都支店　京都市下京区烏丸通り四条下る水銀屋町635番地　梓ビル9F　〒600　TEL 075—351—5841代
神戸支店　神戸市中央区加納町3丁目1番25号　広瀬ビル9F　〒650　TEL 078—392—1761代
堺支店　堺市三国ケ丘御幸通り8番地　三国ケ丘ビル2F　〒590　TEL 0722—22—3003
滋賀支店　滋賀県大津市皇子ケ丘1丁目2番3号　〒520　TEL 0775—24—1816
出張所　横浜・吹田

株式會社柄谷工務店

取締役社長　柄谷順一郎

本　社　尼崎市玄番南之町4番地　電話大阪 06(411)1451(代)
営業所　大阪・西宮・神戸・高砂・豊田・三田・川西

株式会社 近畿建設

代表取締役　川崎健市

本　社　大阪市西区江之子島1丁目2番2号　電話　大阪06（448）5601代
滋賀支社　滋賀県栗太郡栗東町岡１９３の１　電話　0775（52）１３６１代

株式会社 熊谷組大阪支店

取締役社長　熊谷太一郎
専務取締役大阪支店長　星野晴彦

本　社　東京都新宿区津久戸町17番１　電話03(260)2111番(大代表)
大阪支店　大阪市都島区片町２丁目10番５号　電話06(352)1151番(大代表)

五洋建設株式会社

代表取締役社長　水野廉平
常務取締役大阪支店長　深谷林三

本　社　東京都文京区後楽２－２－８　電話 03（816）7111(代表)
支　店　大阪市北区梅田２－２－25　電話 06（345）0631(代表)

コーナン建設株式会社

代表取締役　原精一

大阪市淀川区十三本町２丁目４番２８号　電話(06)308－1551大代表
尼崎市南武庫荘２丁目７番２３号　電話　(06)437－9631代表
東京都中央区京橋３丁目13番10号(中島ゴールドビル)　電話　(03)564－5711代表
神戸市中央区磯上通５丁目１番24号　電話 (078)221－6293代表
枚方市大垣内町２丁目７番９号　電話 (0720)44－3257代表

株式会社 鴻池組

代表取締役社長　鴻池一季

本　社
大阪本店　大阪市東区北久宝寺町４－27　電話 大阪(244)3500(ダイヤルイン受付台)
東京本店　東京都千代田区神田駿河台2-3-11　電話 東京(296)7700(ダイヤルイン受付台)
支　店　名古屋・広島・福岡・鹿児島・松江・仙台・高松・札幌・横浜・神戸・京都・金沢

株式会社 金剛組

代表取締役　金剛利隆

本　社　〒543 大阪市天王寺区四天王寺１丁目14番29号　TEL 大阪06(779)7731㈹
関東支店　〒350-02 埼玉県入間郡鶴ヶ島町脚折町１丁目40－12　埼玉0492(87) 0301

佐藤工業株式会社

取締役社長 佐藤欣治・常務取締役大阪支店長 梅木正二

本　　社・東京都中央区日本橋本町４－８　電話　東京（661）1231（大代）
大阪支店・〒541 大阪市東区北浜1丁目25番地　電話　大阪（203）7221（代表）
支　　店・札幌・東北・関東・東京・横浜・北陸・名古屋・中国・四国・九州・東南アジア

清水建設株式会社

社　　長　吉野照蔵
取締役大阪支店長　橘節哉

本　　社　東京都中央区京橋２－16－１　電話03（535）4111
大阪支店　大阪市東区本町４－15－１　電話06（263）2811
支　　店　名古屋・広島・高松・福岡・金沢・仙台・札幌・横浜

大地への愛　人間への愛

錢高組

社長 錢高一善

本社・大阪支社　大阪市西区西本町2丁目2番11号 大阪（06）531－6431
東京支社　東京都千代田区一番町31番地 東京（03）265－4611
支　　店　札幌・仙台・北関東・千葉・横浜・北陸・名古屋・広島・四国・福岡

大末建設株式会社

取締役社長　佐伯正也

本　　社
大阪本店　大阪市南区島之内２丁目４番10号　電話　06（213）０５５５（大代）
支　　店　東京・福岡・名古屋・仙台・広島・四国・沖縄

大成建設株式会社

取締役社長　里見泰男
常務取締役大阪支店長　平島治

本　　社　東京都新宿区西新宿1丁目25番1号 新宿センタービル　TEL 東京（348）1111大代表
大阪支店　大阪市東区北浜４丁目３８番地　ＴＥＬ大阪（203）1131大代表
支　　店　東京・名古屋・九州・札幌・東北・広島・横浜・北信越・四国

限りない未来への挑戦

大日本土木株式会社

専務取締役大阪支店長　牧野保

本　　店　〒500 岐阜市宇佐南１丁目６番８号　電話0582（72）3141
大阪支店　〒530 大阪市北区堂島二丁目2番2号 近鉄堂島ビル　電話06（341）5931

株式会社 竹中工務店

取締役社長　竹中統一

〒541　大阪市東区本町4丁目27　電話 大阪（252）1201番(大代表)

鉄建建設株式会社大阪支店

専務取締役支店長　谷内与一

西日本業務担当常務取締役　児島章

〒541 大阪市東区瓦町4丁目56番地(瓦町K.Tビル)　電話(201)1881(代表)
本社・東京都千代田区三崎町二丁目五番三号　電話 東京(262)3411(代表)

戸田建設株式会社

取締役社長　戸田順之助
取締役大阪支店長　加藤久郎

本　社　東京都中央区京橋1丁目7番1号　TEL東京03(562)6111
大阪支店　大阪市西区西本町1丁目13番47号　TEL大阪06(531)6561
支　店　東京・関東・横浜・大阪・名古屋・札幌・仙台・広島・四国・九州

東海興業株式會社大阪支店

常務取締役支店長　三富和

本　社　東京都中央区銀座7－13－10　電話 東京(545)5111
大阪支店　大阪市北区堂島浜2-2-8 東洋紡ビル　電話 大阪(348)5602
支　店　名古屋・仙台・札幌・福岡・横浜

東洋土建株式会社

取締役社長　阿部暢

本　社　〒546 大阪市東住吉区東田辺2丁目3番2号　電話06(692)1331～5代表
東京支店　〒106 東京都港区六本木2丁目3番9号 亀甲ビル　電話03(586)0751　代表
営業所　横浜・名古屋

飛島建設株式会社 大阪支店

常務取締役支店長　石原昭一郎

大阪市東区島町2－28－1　〒540　TEL 06（942）2481
本社/東京都千代田区三番町2　〒102　TEL 03（263）3151
支店/札幌・仙台・東京・横浜・名古屋・北陸・大阪・広島・四国・福岡

南海建設株式会社

取締役社長　松川義一

本社　大阪市浪速区恵美須西3丁目14番22号　電話 06(644) 1212番
支店　東京都千代田区神田須田町1丁目5(新須田町ビル)　電話 03(251) 8431番
支店　大阪府岸和田市沼町18番1号(川長ビル)　電話 0724(23)2881番

明日をささえる

西松建設

本　　社　東京都港区虎ノ門1－20－10　電話03(502)0211
関西支店　大阪市東区釣鐘町2－41　電話06(942)1131

限りない可能性を追求する

日本建設株式会社

社長　積山吉興

本　社　大阪市東区備後町2丁目58番地　TEL(06)226－0630(代)
東京本社　東京都文京区小石川2丁目6番22号　TEL(03)818－6081(代)
支　店　東京・大阪・名古屋・福岡・札幌・仙台・広島

日本国土開発株式会社

代表取締役社長　石上立夫
取締役大阪支店長　石井富雄

本　社　東京都港区赤坂4丁目9番9号　電話 (03) 403－3311(大代表)
大阪支店　大阪市西区西本町1丁目10番10号(西本町全日空ビル)　電話(06)538－7351(代)

野村建設工業株式会社

取締役社長　野村文英

本　社　大阪市東区高麗橋2丁目9番地　電話(202)4791代表
東京本部　東京都千代田区大手町2丁目1番1号　電話(241)4171代表

長谷工グループ

長谷川工務店

取締役社長　水上芳美
専務取締役大阪支社長　山村武彦

本　社　東京都港区芝2－32－1　電話 03(456)5451(大代表)
大阪支社　大阪市東区平野町5－40　電話 06(203)5661(大代表)



先端技術と建設をむすぶ フジタ工業

大阪支店　大阪市北区堂島２丁目１番16号　電話 06(348)4510



不二建設株式会社

取締役社長　山口慎一郎

大阪本社　大阪市西区西本町１丁目１番９号 〒550　電話０６－５４１－５５３４代表
FAX０６－５４３－０２２９
東京本社　東京都新宿区西新宿４丁目５番２号 〒160　電話０３－３７７－５１７１代表
FAX０３－３７４－２２１７
支店・出張所　札幌・名古屋・福岡・仙台・静岡・大垣・京都・広畑・広島・大分



不動建設株式会社

取締役社長　庄野　勝

大阪本社　大阪市東区平野町５丁目30番地　電話 ０６（２０１）１１２１番
東京本社　東京都台東区台東１丁目２番１号　電話 ０３（８３１）９１１１番
支　店　北海道・東北・千葉・横浜・名古屋・神戸・広島・四国・南四国・九州・北九州



株式会社 藤木工務店

取締役社長　藤木鐵三

本　社　〒540 大阪市東区両替町１丁目13　電話 06(944)1468(代)
東京本社　〒160 東京都新宿区三栄町23－４　電話 03(357)1600(代)
本支店　大阪・倉敷・四国・京都・福岡
営業所　埼玉・多摩・静岡・名古屋・宇治・泉南・岡山・広島・徳島・新居浜・長崎・南九州



豊國建設株式会社

代表取締役社長　松丸哲也

本　社　大阪市北区天満橋２丁目３番１号　電話 06（353）１００１
支　店　東京・京都・東北
営業所　北上・盛岡・二戸・新井・福井・敦賀・舞鶴・尼崎・加古川・滝野・益田・三隅



真柄建設株式会社

取締役社長　真柄敏郎
取締役大阪支店長　永井健次郎

本　社　金沢市彦三町１－13－43　電話 金沢(0762)31－１２６６(代)
東京本社　東京都千代田区麹町５－１－６　電話 東京(03) 263－１２１１(代)
支店・営業所　北陸・東京・大阪・名古屋・福井・富山・新潟・七尾・立川・春日井・横浜・岡山・大津・京都・神戸・福岡・

地域社会に貢献する
総合建設
株式会社 前田組
取締役社長 前田敏彦
大阪府寝屋川市大成町1－1 TEL (0720) 24－1111

前田建設工業株式会社大阪支店
取締役支店長 川西光治
支店 大阪市都島区東野田町2丁目4番20号 電話 大阪 (353) 7891(代表)
本社 東京都千代田区富士見2丁目10番26号 電話 東京 (265) 5551(代表)

株式会社 増岡組
取締役社長 増岡正剛
呉本店 〒737 呉市西中央1丁目1番3号 TEL(0823)21-1441番(代表)
FAX(0823) 25—4833番
広島支店 〒730 広島市中区大手町1丁目2番1号(東海ビル) TEL(082)248-1421番(代表)

株式会社 松村組
取締役会長 松村雄二
取締役社長 松村雄吾
本社・大阪市北区天満2丁目1番33号 電話 大代表 大阪(353)1131
支店・東京・名古屋・札幌・仙台・広島・福岡

株式会社 水間組
取締役社長 水間義雄
〒534 大阪市都島区東野田町1丁目1番4号 電話大阪06(352) 3121(代表)
大津営業所 〒520 大津市中央4丁目11の6 電話大津 (0775) 22—6400番

三井建設 株式会社 大阪支店
常務取締役大阪支店長 高尾清次
大阪支店 大阪市北区中之島3－4－18(三井ビル2号館) TEL 06—446—1535
本店 東京都千代田区岩本町3－10－1 TEL 03—864—3456



村角建設株式会社

代表取締役　辻　善仁

本　社　〒559 大阪市住之江区浜口西2丁目12番9号　電話06(672)3551～6番
支　店　東京・神戸・堺・北海道・広島・香港



村本建設株式会社

代表取締役　村本豊嗣

奈良本店　奈良県北葛城郡広陵町安部５４７番地　電話 0745 (55) １１５１(代表)
大阪本社　大阪市天王寺区四天王寺一丁目５番43号　電話　06(774) ２１１１(代表)
東京本社　東京都千代田区二番町３番４　電話　03(238) ２１５１(代表)
支　店　札幌・東北・横浜・名古屋・三重・京都・神戸・和歌山・中国・九州他



望月建設株式会社

代表取締役社長　望月小太郎

本　社　大阪市北区中崎西２丁目３番12号　電話 大阪 (375)2345(代表)



株式会社　森　組

取締役社長　森　幸彦

本　社　大阪市東区横堀２丁目１４番地　電話 ２０１－２７６１(代)
支　店　東京・名古屋・九州・奈良
営業所　仙台・新潟・横浜・甲府・京滋・神戸・広島・熊本・高松・徳島



株式會社 米田工務店

代表取締役　米田良男

本　社　〒543 大阪市天王寺区逢阪1丁目1番7号 TEL 大阪(06)771-7771代表
FAX 大阪(06)779-2676

賀　正

1987

団体・建材・設備工事・報道有志

財団法人 大阪建築防災センター

理事長　小西　岬

〒540 大阪市東区常盤町1丁目39(大阪フコク生命ビル5階) 電話 06(943)7253(代)

社団法人 日本建築協会京都支部

支部長　橋詰一雄

〒604 京都市中京区押小路通柳馬場東入建設会館分室　電話 075 (211) 2857・2877

創業32年

——もっとも信頼され、読まれている情報紙——

株式会社 建設日報社

代表取締役社主　重村登龍

本　社　〒550 大阪市西区靱本町2－5－2 TEL 06(444)2405-9
別　館　〒550 大阪市西区江之子島1-6-2 TEL 06(444)6431-4

大阪で唯一の

株式会社 日刊建設新聞社

代表取締役社長　中山敏夫

大阪本社　〒541 大阪市東区高麗橋1丁目25(高麗橋ビル)　電話 202－6861(代表)
社長室　〒541 大阪市東区高麗橋1丁目20(メゾン高麗橋)　電話 229－0341
分　室　〒541 大阪市東区高麗橋詰町26(ユニ高麗橋)　電話 941－6847(代表)

建設業界の情報は……日刊建設産業新聞
近畿圏の工事ニュースは……日刊建産速報

株式会社 日刊建設産業新聞社

常務取締役大阪支社長　中村勝則

大阪支社　〒541 大阪市東区淡路町1丁目14(八千代ビル)　電話06(231)8171(代)
神戸支局　〒651 神戸市中央区八幡通4丁目2－9　電話078(291)0541～2
京都支局　〒602 京都市上京区河原町丸太町東入俵屋町460　電話075(211)1911
本　社　〒173 東京都板橋区板橋1丁目48－9　電話03(961)1691(代)

株式会社　梅　彦

取締役社長　松永嘉一郎

営業所　大阪市北区中崎西2丁目1番3号　電話 06 (312) 6171代
茨木工場　茨木市豊川3丁目1番6号　電話0726 (43) 5185代

各種硝子販売工事請負

株式会社 大阪硝子店

代表取締役 佐々木　廣

〒541 大阪市東区本町5丁目4番地　電話 大阪06(262)3536～8

大塚グループ

大塚オーミ陶業株式会社

代表取締役社長　大塚正士

本社　大阪市東区豊後町10番地　TEL 06 (943) 6695
支店　東京都千代田区神田司町2丁目9番地　TEL 03 (294) 1388
工場　滋賀県甲賀郡信楽町大字柞原字寺谷　TEL 0748 (82) 3001

建築用板硝子販売施工

キムラ硝子建材株式会社

代表取締役 木村喜則

〒540 大阪市東区内平野町2丁目28番地　電話 06(941) 4181㈹

クリヤマ株式会社

代表取締役社長　栗山芳雄

本社　大阪市淀川区西中島1丁目12番4号〒532　TEL. 06—305—2871大代表
TELEX. 523—3908
東京支店　東京都渋谷区南平台町15番13号〒150　TEL. 03－463－1841代表

装飾合せグラス
レインボーグラス　セーフティオパール

JIS表示許可工場　UL規格認承工場

株式会社 サトーセン

大阪工場　〒557 大阪市西成区南津守5丁目12番3号　TEL(06)658—1305
東京工場　〒144 東京都大田区東糀谷5丁目12番7号　TEL(03)743—5851

経験を基礎に新時代のニーズに応える

三精輸送機株式会社

代表取締役　前田完一

本　　社：大阪府吹田市江坂町1丁目13-18 〒564　☎ 06（385）5621㈹
東京支店：東京都渋谷区千駄ヶ谷5の32の6　☎ 03（356）5651
福知山工場：福知山市長田野町2丁目45番地　☎ 0773（27）1211
出張所：札幌・青森・秋田・仙台・名古屋・金沢・広島・福岡・沖縄

創意と誠意で信頼の輪をひろげる

鈴鹿塗料株式会社

取締役社長　田中茂徳

本　　社 〒510 三重県四日市市塩浜町1番地　TEL（0593）46−1116
大阪営業所 〒550 大阪市西区千代崎1丁目3番7号　TEL（06）581−3091

よりよき環境へ技術で挑む

株式会社 精研

クリーンルーム
バイオ関連設備
設計施工

取締役会長　木内清三
取締役社長　和田正八郎

本　　社　大阪市南区瓦屋町2丁目11−16（オートセンタービル）　電話 768−5031㈹
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2−5（九段ビル）電話 262−3241㈹
四国営業所　徳島県鳴門市撫養町小桑島前浜28−3（西谷ビル）　電話0886−85−0924㈹

東西アスファルト事業協同組合
西日本床工事事業協同組合

株式会社 タテバヤシ商店

代表取締役　舘林彦四郎

〒601 京都市南区西九条大国町37　電話（075）681−7221（代）
FAX（075）681−7224

TAJIMA

株式会社 タジマ

東京営業所　〒101 東京都千代田区岩本町3−11　電話（03）866−6101
大阪営業所　〒550 大阪市西区京町堀1−10−5　電話（06）441−5951

田島ルーフィング株式会社

東西アスファルト事業協同組合

東　京：〒101　東京都千代田区岩本町3−11−13　電話（03）862−8531
大　阪：〒550　大阪市西区京町堀1−10−5　電話（06）443−0431

東亜印ルーフィング　日本工業規格表示許可工場 許可番号585038

東亜工業株式会社

建設省計振発
第５５号認可　東亜アスファルト防水事業協同組合

本　社　〒581 大阪府八尾市南太子堂6丁目4番27号　電話0729－94－5682
営業所　東京・名古屋・九州
工　場　大阪・東京・和歌山

東洋シヤッター株式会社

代表取締役社長　岡田　敏

本　社　〒540 大阪市東区両替町１－12(日生谷町ビル) 電話(06)943-6571㈹
東京本社　〒106 東京都港区六本木6-3(第一地所麻布ビル) 電話(03)497-2911㈹

naigai

コピーの綜合コンサルタント

株式会社ナイガイ

代表取締役社長　木下　みどり

本　社　大阪市北区堂島２丁目１番18号　TEL (06) 345－９０５５
御堂営業所　大阪市東区本町４－27(御堂ビル)　TEL (06) 252－３９０６
横堀営業所　大阪市東区横堀２丁目36－４　TEL (06) 202－５２６０
神戸営業所　神戸市中央区磯辺通４－２－26　TEL (078)251－０５９５

造園土木　設計施工

株式会社西川造園

〒573 大阪府枚方市北中振３丁目27番17号
TEL 0720－33－8998代

株式会社西原衛生工業所大阪店

代表取締役社長　伴　一郎

大阪市大淀区中津六丁目８番４号　電話 大阪 (06) 458－3628

電算写植システム

日本写植印刷株式会社

代表取締役　神田都義

本　社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町７－５－30　電話06(606)1111代
東京営業所　〒160 東京都新宿区高田馬場3-12-6 高田馬場西商店街ビル801号　電話03 (360) 6847
広島営業所　〒739-01 東広島市八本松町米満109－５　電話0824 (28) 6253
津山写植センター　〒708 津山市福田１３７２－１　電話08682(８)4377
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町４－７　三宝ビル　電話0992 (26) 4371

ビニロイド　防水　責任施工
アコシート　防水　責任施工
ACロアP35　責任施工
防熱工事設計施工
プラスオール
コーキング　製造販売

三星産業株式会社

〒550 大阪市西区京町堀1－10－8（大栄ビル）　Tel.〈443〉9721(代)
〒101 東京都千代田区神田小川町3-28（三東ビル）　Tel.〈292〉1961(代)
出張所：札　幌〈721〉6031・6307　仙台〈21〉5366(代)
名古屋〈931〉4574・3393　福岡〈78〉3361(代)

ムツミ産業

三協アルミニウム工業株式会社代理店　日立化成工業株式會社代理店
アルケン工業株式会社代理店　新明和工業株式會社代理店
豊和工業株式會社代理店　近畿車輌株式会社 代理店
信越ユニット株式会社代理店　住友ゴム工業株式会社代理店

ムツミ産業株式会社

代表取締役　傳馬正明

〒550 大阪市西区靭本町1丁目17番15号　電話（06）大代表 441－0378番
出張所：東京・広島　　工場：大津・竹原

ヨッポ

装美建材
金属建材

株式会社 山京建材社

パーフェクトな
シロアリ退治に
フクビ防蟻防湿
システム
アリダンV工法

No. 1販売部・No. 2施工部

本　　社　大阪市西区北堀江1－1－1　電話（06)541-1861～9　FAX（06)541-0796
東　　店　東大阪市金物町3番1号　電話（06)723-2277～8　FAX（06)722-3273
山建ソービ　大阪市西区南堀江1（立花通）　電話（06)541-2152～3

デザインされた環境づくり

UNION

株式会社ユニオン

代表取締役　立野一郎

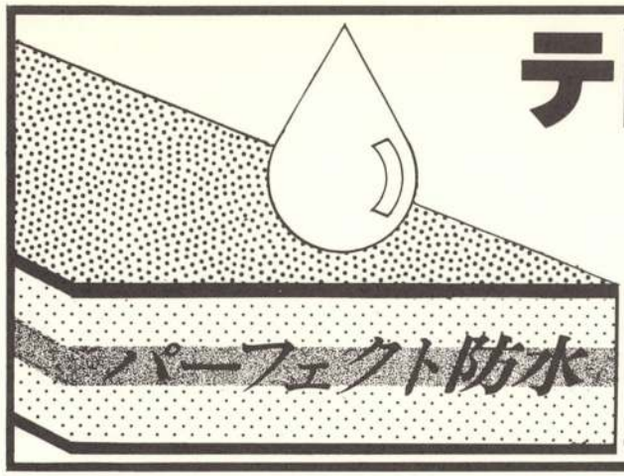
本　　社　大阪市西区南堀江2-13-22　〒550 電話 06(532)3731(代)
東京営業所　東京都墨田区石原4－3－1　〒130 電話 03(625)8131(代)
名古屋営業所　名古屋市東区筒井町1-14-9　〒461 電話052(935)6021(代)
虎ノ門ショールーム（17森ビル1F）東京都港区虎ノ門1-26-5　〒105 電話 03(508)2558(代)

営業品目　プール・浴場機器

株式会社ツルカメ

代表取締役　八和田桂司

本社　〒543 大阪市天王寺区寺田町2丁目2番12号　TEL 06(772)5307



テトカッパー防水層

防水専業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は（一層防水）施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーバータイト　新工法
オクロン防水帯　プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

本　社	東京都中央区銀座8—4—9	電話03（571）2703
大阪事務所	大阪市淀川区東三国6—1—41	電話06（391）1081-2
埼玉営業所	埼玉県桶川市東1—3—30	電話0487(74)2845-6
厚木出張所	神奈川県厚木市金田259	電話0462（21）1761
名古屋出張所	名古屋市南区若草町33	電話052（811）3660
九州出張所	佐賀県佐賀郡諸富町大字諸富津450	電話0952（47）2945

■防火・防煙シャッター　■軽量シャッター
■ステンレスシャッター　■クリスタルシャッター
■アルミニュームシャッター　その他特殊シャッターの製造

アフターサービスの24時間態勢完備

鈴木シャッター工業株式会社

大阪市北区茶屋町5番2号	電話大阪	06市外局番 371代表 4151～6
北陸営業所　金沢市長田町119番地	電話金沢	0762市外局番 65－5135～6
神戸営業所　神戸市長田区大橋8-4-7	電話神戸	078市外局番 611－7971 631－2021

防火・防煙から避難装置まで
建築防災の総合メーカー

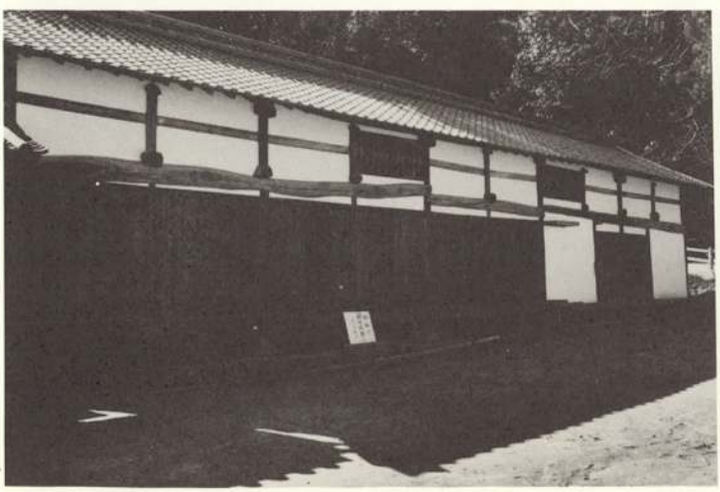
豊かな経験
最新の技術

東洋シヤッター

東洋シヤッター株式会社

本社：大阪市東区両替町1—12 日生ビル　☎（943）6571代表

東京・横浜・盛岡・仙台・水戸・静岡・岡崎・名古屋・富山・大津・京都・神戸・広島・高松・福岡他全国主要都市





空気調和・給排水・衛生・防災設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話 (434)6171(大代)
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話 (302)2271(代)
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話 (352)1131 (代)
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話 (667)3431 (大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

空　調・衛　生
防災・汚水処理　設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区角田町2番15号 電話 大阪372局7151(代)
京都市東山区大和大路正面上ル 電話 京都561局4944(代)
神戸市中央区下山手通6－2－8 電話 神戸341局5892

空気調和・衛生設備 設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市東区城見ツイン21MIDタワー　電話 06－949－1371
東京本店　東京都新宿区西新宿 新宿住友ビル　電話 03－344－1911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06－363－1371
支　店　仙台市大町2丁目2番10号　電話0222－61－3002
名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号　電話052－581－8571
広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話082－247－4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092－761－3795
出張所　青森・秋田・宇都宮・千葉・川崎・横浜・富山・福井・京都・神戸・松江・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

大阪電気暖房株式会社

本店・大阪本社　大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　〒550 電話(06)441-8231(大代)
東京本社　東京都中央区銀座2丁目2番17号　〒104 電話(03)535-5251(大代)
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・京都・神戸・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・松江・徳島・長崎・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン・スリランカ

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　社　大阪市南区瓦屋町2丁目11番16号 (オートセンタービル1,2階)
郵便番号542　電話 大阪(06) 768－5031代表
メンテナンス部　電話 大阪(06)768－1651代表
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号(九段ビル2～4階)
郵便番号102　電話 東京(03) 262－3241代表

■給排水衛生　■冷暖房
■空気調和設備　■その他管工事一切の設計・施工

斎久工業株式会社

本　社　東京都千代田区大手町2-6-2 (日本ビル)
電話 03-(270)-7411(代)
大阪支社　大阪市北区中之島4-2-38　電話 06-(443)5041(代)
支　店　札幌・岡山
営業所　仙台・千葉・横浜・名古屋・金沢・四国・広島・福岡
出張所　福井・倉敷・松山・宇都宮・静岡・苫小牧

新日本空調株式会社

大阪支店　大阪市北区堂島浜1丁目2番6号 (新大ビル)
電話 (06) 344－6031 (代)
本　社　東京都中央区日本橋本石町4-2(三井第二別館)
電話 (03) 279－5677 1(大代)
名古屋・九州・広島・札幌・東海村・北陸・大分

空気調和設備
給排水・衛生水道
電気設備
厨房

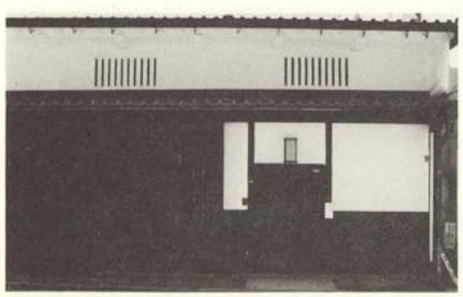
環境衛生施設
荷役運搬機械
化学鉱山機械

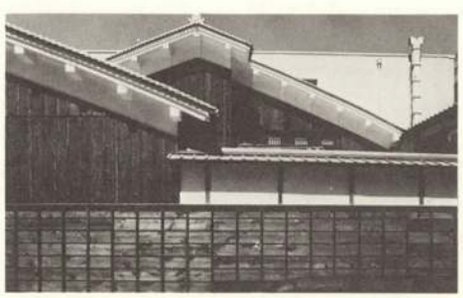
三機工業株式会社

取締役社長　玉置純治郎
大阪支店長　杉浦敏郎
大阪市東区北浜2丁目22番地　電話 大阪(202) 代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国・シンガポール
営業所　横浜・静岡・豊田・岡山・金沢・新潟・香港

cleanair
一年中 秋のすがすがしさ

創業1901
須賀工業株式会社
大阪市西区土佐堀1丁目2番30号 TEL.06-441-5171(大代表) 〒550







電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL06-313-1101
支 店 東 京・名 古 屋・舞 鶴・京 都・天 理
大 阪 南・神 戸・広 島・四 国・九 州

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 貴 士

本　　社 大阪市北区中之島3－2－4 朝日ビル TEL 大阪06 (385)1361(代)
大阪営業所 TEL 大阪06(385)1361(代) 京都営業所 TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所 TEL 東京03(574) 0 6 6 5 福岡出張所 TEL 福岡092(771) 6 1 6 8

電気工事設計施工

株式会社 三 興 社

代表取締役 土 井 敏 裕

本　　社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル7階)
電　　話 (361) 3 6 7 1 (代)
支　　店 東京都中央区日本橋箱崎町20番5号
電　　話 (671) 1 4 7 8 (代)
出張所 川 崎・相 模 原・堺・滋 賀

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

大 阪 支 社

大阪支社長 横 田 幸 一

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地 電話大阪 (202)0325～9番
本　　社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支　　社 札 幌・仙 台・丸 ノ 内・名 古 屋・福 岡
営業所・出張所 全国主要都市2ヶ所

――誠実と技術でお応えする――

住友電設

取締役会長 小 林 四 郎
取締役社長 代 谷 正 元

住友電設株式会社
本社／〒553 大阪市福島区福島7丁目22-8 ☎(06)452-1151(大代)
東京／〒105 東京都港区芝2丁目2－17 ☎(03)454-7311(大代)

営業種目 設計・施工・監理

●電力工事
発変電設備工事 架空送配電線工事 地中送配電線工事

●設備工事
ビル電気設備工事 工場電気設備工事 防爆電気設備工事 計 装 工 事 空 調 工 事 給排水衛生工事 特 殊 配 管 工 事 消防施設設備工事

●プラント工事
●情報システム工事
光伝送システム工事 CATVシステム工事 各種アンテナ装置工事

限りなきクリーンに挑戦する!!
電気設備・クリーンルーム・冷暖房設備
給排水衛生設備・計装制御設備・立体自動倉庫
エネルギー集中監視システム・回転式自転車置場
設 計 施 工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉 納 伝 三

本　　社 〒530 大阪市北区西天満2－6－8(堂ビル) TEL 06(364)1471 TELEX 523－3287
東京支店 〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル) TEL 03(504)0231 TELEX 222－6724
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城三丁目12－14 TEL 052(991)5131
神戸支店 〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル) TEL 078(881)5571

奉仕感謝の店
タイル工事施工

株式会社 川岸窯業商店

本　　社 〒550 大阪市西区西本町1－13－33
電話 大阪 06(532)代0461 〒550
天理営業所 天理市丹波市新町50

電気・計装・空調工事 設計施工

ヤマト電気エンジニアリング株式会社

取締役社長 山 本 永 造

本 社 大阪市北区西天満5丁目1番3号
TEL 06－364－3056 (代)
支 店 東京・神戸・広島・岡山
事業所 名古屋・岡山・札幌・苫小牧・浜松・滋賀
京都・高砂・三原・徳山・松山・新居浜・福岡・沖縄

雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量

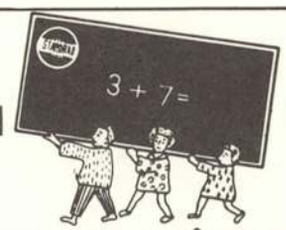


ナニワ緩勾配瓦

3寸緩勾最適軽量水止付(空葺)瓦

ナニワ瓦株式会社
〒556 大阪市浪速区塩草一－二－三
TEL〇六－五六一－七四一六
FAX〇六－五六一－七四五四

Standard



Board&Slate

フタバ工業

〒547 大阪市平野区加美北3－4－5 TEL 大阪06(792)5858(代)

模型製作

石膏模型・アクリル模型製作

宮岡建築模型製作所

〒103 東京都中央区日本橋浜町3 14 11
電話 (03)669 7565 FAX (03)669 7565

造園設計施工

富士造園土木株式会社

〒665 宝塚市山本東2－6－17
電話 0797－88－0501(代)

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－344－1851(大代)　大阪本社 ☎06－448－3603(代)
大阪支社 ☎06－448－5851(代)　名古屋支店 ☎052－211－1535(代)　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

第一工業株式会社
大阪支店

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06－364－6661(代表)
本　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03－211－8511(代表)

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681) 5101～5・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話(06)352－3501(代)
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26－3610(代)
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53－7431(代)
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22－9738(代)

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

高砂熱学

大阪支店　大阪市北区芝田1丁目4-8(北阪急ビル9階)
電話 大阪(372) 2 5 1 1(代表)
本　社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

Carrier
冷暖房はCARRIER キャリア

東洋キヤリア工業(株)デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話大阪(384)1201～7

MODAIR
空気調和設備
換気・除塵設備　設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区靱本町3－1－27　TEL(443) 8071
本　社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562) 1351
支　店　名古屋・福岡

活字のない印刷

日本写植印刷株式会社

代表取締役　神田都義

本　社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町7-5-30　☎06(606)1111代
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町4-7 三宝ビル　☎0992(26)4371
津山写植センター　〒708 津山市大手町8番5号 模範店会館　☎08682(4)1771
沖縄写植センター　〒900 南風原村兼城　沖縄印刷団地　☎0988(55)6100

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本社：設備部
大阪営業所　大阪市北区西天満5-11-12　電 06－313－1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3　電0720－49－2128

空気調和設備・給排水衛生設備・上下水道施設
環境衛生施設・公害防止施設／設計・施工・監理

山田工業株式会社

本　社　大阪市西区京町堀1－6－8　電話 06(443)8161(大代表)
(環境装置事業部専用)　電話 06(447)0831　(代表)
分析センター　大阪市淀川区三津屋南1-1-35　電話 06(308)1491
支　店　東京・名古屋・福岡
営業所　京都・神戸・姫路・広島・高松・松山

飛鳥野瓦(意匠登録549771号)
渡辺式緩勾配安定瓦(実用新案登録出願中110750, 110751)　製造販売
各和洋瓦全般・カラーベスト・モニエル瓦・セキスイカワラU

創業67年　綜合施工卸
久保田鉄工・松下電工㈱・日本モニエル㈱・積水化学工業㈱・富士スレート㈱・特約代理店

瓦寅工業株式会社

本　社　大阪市生野区林寺1丁目5番14号　〒544
電話 06(715) 0201代表～5番
営業所　大阪市平野区　工場　兵庫県三原郡(淡路島)

文化庁・宮内庁・各府県庁
国宝 重要文化財　社寺・天理教教会本部　御用達

株式会社 瓦宇工業所

代表取締役　小林麻造
〒630 奈良市西新在家町17番地
電話 奈良(0742)26－2901番(代表)

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－1
TEL(0729)39－3610
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

建設業界をアシストする
ポゾリス
■コンクリート用混和剤　■無収縮グラウト材
■鉄筋コンクリート用防せい剤　■工業用特殊床材
製造元　日曹マスタービルダーズ株式会社
販売元　ポゾリス物産株式会社
本　社/東京都港区六本木3－16－26　☎03-582-8811
大阪営業所/大阪市東区北浜３－７　☎06-202-3294

営業種目
●防水工事　塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法　各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事　各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事　シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹付工事　アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建設業許可　大阪府知事許可（般－53）第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員
大阪市北区末広町３－２１
星和地所扇町ビル201 S
TEL 06(315)0701
(株)特殊技研

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社　本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA……コンクリートのひびわれ防止に
（膨張性混和材）
●デンカタスコン……鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
（グラウト用無収縮材）
●デンカキューテックス……コンクリート躯体の漏水補修に
（止水・補修用急硬セメント）
●デンカES……地盤補強用薬液注入
（土質安定用急硬材）
●デンカΣ1000……コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に
（製品用超高度混和材）

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

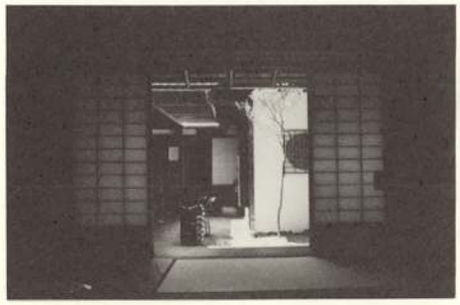
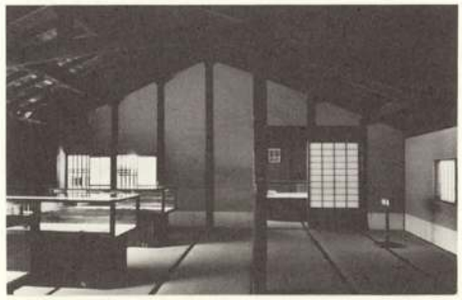
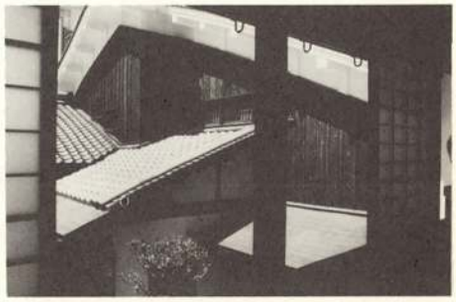
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）332－6861
TEL 東京（03）272－8501

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）443－6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）252－6000

株式会社トーゴー/本社
TEL 滋賀・守山（0775）83－2381

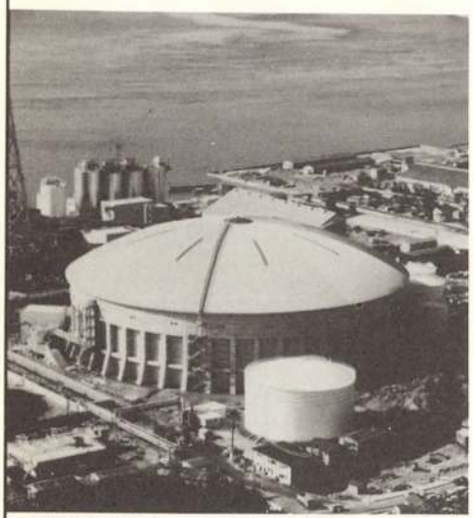
特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー！

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
・オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
・オリエンタルメタル(ＯＰＭ)



電発竹原火力石炭庫屋根に採用

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ボーロイド(断熱材)D.G.K.　※カタログを御請求下さい

オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660　尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷・姫路

東京本社及工場　〒335　蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨(0484)42－3115(代)
支店及工場　東北・東京・関東・熊谷

出版案内

ことばがわかる／仕組がわかる／
これからのオフィスビルの設計
沖塩荘一郎 監修　B5・144頁 定価2,300円

設計者と現場マンのためのわかる溶接
増補 溶接読本
井上 博 著　B5・157頁 定価3,000円

構造設計者のための
うっかり間違える構造力学
井上允彦 著　B6・93頁 定価1,200円

各種建築構造の計画・設計に役立つ
建築構造計算資料集
(全８巻) 中川 淳 編著
いろいろな建築構造の計画や設計に役立つ実用便覧として、最新の情報をふんだんに盛り込み、一貫した方針のもとでまとめたわが国建築界はじめての構造計算資料集。
1巻 鉄筋コンクリート構造篇(1)　B5・240頁 定価3,800円
2巻 鉄筋コンクリート構造篇(2)　1月上旬発売予定
3巻 鋼構造篇(1)　B5・225頁 定価3,200円
4巻 鋼構造篇(2)　B5・256頁 定価3,500円
5巻 鉄骨鉄筋コンクリート構造篇　B5・208頁 定価3,200円
6巻 基礎構造篇　B5・249頁 定価3,800円
7巻 終局耐力篇　B5・247頁 定価3,800円

株式会社 建築技術
〒160 東京都新宿区北新宿 1-8-1 中島ビル

全国主要書店にて好評発売中！

月刊 **建築技術** 7
KENCHIKU GIJUTSU
No.425　目次　特別定価 1,500円

特集　PART 1
わが国の建築技術の国際性
わが国の建築技術は、欧米からの技術移入によって培われ、わが国特有の技術として成長してきたが、結果として耐震設計だけが重要視され過ぎ、日常的に目指すべき技術が置き去りにされてきた傾向がある。一方で、建築技術の輸出が求められている現在にあって、わが国の建築技術の国際性の検証も急務である。この特集では、実務者の海外での体験を中心に、これらの問題を明らかにしていく。

主要目次
■構造技術の展望(座談会)
■建築技術の国際性(耐震設計／耐風・耐雪設計／規準／構法)
■海外設計事例(25例)

直接購読ご希望の場合年間予約金 ¥12,000 (送料共)

出版案内

専門技術者のための
建築構造問題快答集 7
同編集部 編　A5・216頁 定価2,900円

建築技術者のためのわかる設備
建築 設備読本 I. 給排水衛生設備篇
井上 博 著　B5・171頁 定価3,200円

わかる設備シリーズ第２巻
建築 電気読本
井上 博 著　B5・217頁 定価3,800円

山形骨組の応力計算はこの一冊で
山形骨組の応力計算
筒井助幸 著　A5・210頁 定価3,200円

建築技術者・ビル管理者のための
建築工事 内外装の損傷と補修
同編集部 編　B5・289頁 定価3,600円

目と手で確かめた水と土の記録
増補 最新場所打ぐい工法
北中克己 著　A5・341頁 定価3,500円

株式会社 建築技術
☎東京 03 (363) 4211(代)
振替口座 東京 0-72417番

最大の敵。

貴重な資源“水”も建物にとって最大の
敵となることもあります。
日本アスは多年の経験と実績を生かして
完全防水に取り組むプロ集団です。



地区	会社名	所在地	電話
北海道	クレミス工業株式会社	札幌市	TEL011(882)1232代
	株式会社互建防水工業	帯広市	TEL0155(25)5776代
	株式会社ソロ防水北海道	札幌市	TEL011(751)1736代
	トーフジ工業株式会社	札幌市	TEL011(822)0331
	日本防水総業株式会社	札幌市	TEL011(231)7511代
	日本防水総業㈱旭川出張所	旭川市	TEL0166(47)1050
	日本防水総業㈱釧路出張所	釧路市	TEL0154(23)2056
	日新建工㈱札幌出張所	札幌市	TEL011(663)1525代
	株式会社防水センター	札幌市	TEL011(683)5616代
	大和工業株式会社苫小牧出張所	苫小牧市	TEL0144(34)3358
	大和防水工業株式会社	札幌市	TEL011(641)1717
東北	開発株式会社	秋田市	TEL0188(24)2233
	北原建材工業㈱仙台営業所	仙台市	TEL0222(36)6768代
	協和建材工業㈱仙台支店	多賀城市	TEL02236(6)1136
	日新建工㈱仙台支店	仙台市	TEL0222(73)1921代
	日新建工㈱青森出張所	青森市	TEL0177(41)1697
	日新建工㈱郡山出張所	郡山市	TEL0249(23)1677
	日新建工㈱盛岡出張所	盛岡市	TEL0196(45)3536
	日新建工㈱山形出張所	山形市	TEL0236(41)5891
関東	葵工業株式会社	江東区	TEL03(632)3385代
	伊藤建材株式会社	台東区	TEL03(842)1431代
	金岡工業株式会社	新宿区	TEL03(363)4341代
	北原建材工業株式会社	八王子市	TEL0426(75)2911代
	木下工業株式会社	墨田区	TEL03(634)0821代
	協立工業株式会社	足立区	TEL03(889)6235代
	クリステル工業株式会社	中野区	TEL03(372)2451代
	大東スレート株式会社	足立区	TEL03(883)3131代
	株式会社東京シングル	練馬区	TEL03(994)3861代
	東京瀝青株式会社	荒川区	TEL03(803)3481代
	グロリー防水工業㈱	江戸川区	TEL03(678)4512
	合資会社中西商会	板橋区	TEL03(961)1924代
	日新建工株式会社	足立区	TEL03(870)6231代
	日本綜合防水株式会社	渋谷区	TEL03(403)0171
	野口工材株式会社	北区	TEL03(903)4151-2
	鴨田工業株式会社	千代田区	TEL03(263)4861代
	富士工材株式会社	江東区	TEL03(634)0163代
	藤瀝青興業株式会社	中野区	TEL03(367)1611
	フタバ興業㈱東京営業所	港区	TEL03(591)2491代
	古川株式会社	台東区	TEL03(834)4151代
	北條瀝青工業株式会社	江東区	TEL03(643)3963代
	大和工業株式会社	荒川区	TEL03(802)4751代
	瀝青建材株式会社	千代田区	TEL03(861)2706-8
	有限会社神守建材社	横須賀市	TEL0468(22)4288
	金港瀝青株式会社	横浜市	TEL045(421)6521-2
	不二防水工業株式会社	横浜市	TEL045(231)4461
	北原建材工業㈱千葉営業所	千葉市	TEL0472(32)0132
	日新建工㈱千葉出張所	千葉市	TEL0472(52)0707代
	三和工業株式会社	市川市	TEL0473(57)5153代
	糠信瀝青株式会社	船橋市	TEL0474(38)4511
	石田建材工業株式会社	高崎市	TEL0273(27)3302代
	石田建材工業㈱大宮支店	大宮市	TEL0486(51)1251
	石田建材㈱小山出張所	小山市	TEL0285(23)5011代
	瀝青建材㈱宇都宮出張所	宇都宮市	TEL0286(22)9737
	株式会社奈良屋	水戸市	TEL0292(41)5141代
信越	鹿住防水工業株式会社	上越市	TEL0255(24)3402
	株式会社仙嶺	松本市	TEL0263(58)3188代
	茂興業株式会社	新潟市	TEL0252(28)0351
北陸	株式会社折橋政次郎商店	高岡市	TEL0766(22)0999
	㈱折橋商店金沢営業所	金沢市	TEL0762(47)4139
	一公工業株式会社	高岡市	TEL0766(23)0391
	日精工業株式会社	金沢市	TEL0762(40)1101代

地区	会社名	所在地	電話
北陸	マルセ化建株式会社	金沢市	TEL0762(42)5151
	石橋建材株式会社	福井市	TEL0776(23)0775・0885
東海	協和建材工業株式会社	清水市	TEL0543(45)2221
	三井工業株式会社	静岡市	TEL0542(85)9151-2
	三信建材工業株式会社	豊橋市	TEL0532(45)8211代
	合資会社清谷商店沼津支店	沼津市	TEL0559(21)9610
	伊藤防水工業有限会社	名古屋市	TEL052(503)1172代
	大池建工株式会社	名古屋市	TEL052(912)6181
	合資会社明光建材	名古屋市	TEL052(524)1411
	重喜防水工業株式会社	名古屋市	TEL052(991)0111代
	辰己防水工業有限会社	名古屋市	TEL052(501)1401代
	中央建材工業株式会社	名古屋市	TEL052(761)6181代
	東京建材工業株式会社	名古屋市	TEL052(411)6621
	東海物産株式会社	名古屋市	TEL052(721)2211代
	長登工業株式会社	名古屋市	TEL052(751)8141
	日本建材鋼業株式会社	名古屋市	TEL052(571)5541代
	宮崎建材株式会社	名古屋市	TEL052(331)1531代
	名瀝工業株式会社	名古屋市	TEL052(721)5381代
	株式会社岩昇	一宮市	TEL0586(24)0505・1678
	株式会社名神防水	岐阜市	TEL0582(71)7459
	吉田防水店	恵那市	TEL05732(5)3297
近畿	株式会社神原商店	守口市	TEL06(909)1433・(908)1282
	国際工事株式会社	大阪市	TEL06(211)6385-6
	清水興業株式会社	大阪市	TEL06(372)0250-3
	日新工材株式会社	大阪市	TEL06(541)3785-6
	日新建工㈱大阪出張所	大阪市	TEL06(326)3845-6
	日本綜合防水㈱大阪支店	大阪市	TEL06(361)0471-5
	ヒカリ工業株式会社	大阪市	TEL06(395)1051代
	フタバ興業株式会社	吹田市	TEL06(385)2781代
	有限会社丸藤商店	大阪市	TEL06(351)2150代
	マルフジ工業株式会社	枚方市	TEL0720(57)3293代
	久下商店	京都市	TEL075(311)2044-5
	東洋建材株式会社	京都市	TEL075(672)5351-5
	中村瀝青工業株式会社	神戸市	TEL078(221)8011代
	棚田建材有限会社	神戸市	TEL078(841)3551代
	有限会社ミサキ商会	和歌山市	TEL0734(22)3922
中国	株式会社三洋技建	大竹市	TEL08275(2)5155代
	三和防水工業株式会社	広島市	TEL082(283)3366代
	豊永建材株式会社	広島市	TEL082(264)1223
	大和工業㈱広島出張所	広島市	TEL082(264)2761
	株式会社巴商会	宇部市	TEL0836(21)0760
	和光工業株式会社	松江市	TEL0852(37)1321
四国	大三工業株式会社	高松市	TEL0878(51)6811代
	徳島大三工業株式会社	徳島市	TEL0886(31)4161代
	株式会社マルマス河野商店	今治市	TEL0898(32)5000代
	㈱マルマス河野商店松山支店	松山市	TEL0899(22)2121
	株式会社山本商会	松山市	TEL0899(31)6261代
	大三工業㈱高知支店	高知市	TEL0888(45)4800代
北九州	安藤工事株式会社	福岡市	TEL092(561)7012代
	加茂装備株式会社	福岡市	TEL092(864)6051代
	草野工業株式会社	北九州市	TEL093(922)7631代
	日建工材株式会社	福岡市	TEL092(801)7822代
	株式会社工材社	北九州市	TEL093(371)1468代
	株式会社三宮材	大分市	TEL0975(36)2326-7
	安藤工事株式会社	長崎県	TEL09588(2)2450
	山崎工業株式会社	北九州市	TEL093(941)5441
南九州	株式会社大二商会	宮崎市	TEL0985(47)6155代
	日新興業株式会社	延岡市	TEL0982(33)2455-9
	株式会社北原建材商会	鹿児島市	TEL0992(29)5155代
	株式会社沖縄装美工業	那覇市	TEL0988(87)3847

協力組合員

北海道	エスアイ工業株式会社	稚内市	TEL0162(33)6407
	株式会社昌興建設	砂川市	TEL01255(4)1166代
	北海化学防水株式会社	札幌市	TEL011(831)2885
関東	有限会社荻野防水工業所	八戸市	TEL0178(22)8386・(43)7947
	株式会社建工	天童市	TEL02365(5)4400
	大興工業株式会社	泉市	TEL0222(52)4920代
	株式会社鍾屋本店	福島市	TEL0245(22)6106代
	合資会社東日本制水	いわき市	TEL0246(26)5011代
	新建工株式会社	長岡市	TEL0258(36)1248
	有限会社飯田産業	猿島郡	TEL0280(98)1274代
	有限会社興和建業	水戸市	TEL0292(43)3621
	有限会社鹿島建工	高津市	TEL0439(87)0272代
	日瀝工業株式会社	甲府市	TEL0552(32)5477
	有限会社児島防水工業	川崎市	TEL044(244)8271代
	赤堀樹脂工事株式会社	市川市	TEL0473(76)1185代
	勝見瀝青工業株式会社	板橋区	TEL03(930)2350
	株式会社コムナ	板橋区	TEL03(972)0281
関東	株式会社大二商会	荒川区	TEL03(803)2651-2
	新防水株式会社	足立区	TEL03(605)1855
	東洋シーラント株式会社	江東区	TEL03(642)7061代
	マサル工業株式会社	江東区	TEL03(643)5911代
中部	小野建材株式会社	岐阜市	TEL0582(31)7158
	株式会社カネミ商会	福井市	TEL0776(35)6868
	北陸瀝青工業株式会社	魚津市	TEL0765(22)4523
関西	株式会社太陽エポックス	大阪市	TEL06(302)2492
	松村建工㈱滋賀支店	滋賀県	TEL07494(6)1277
	有限会社和研防水工業	和歌山県	TEL0739(43)1116代
	橋本防水工業有限会社	倉敷市	TEL0864(48)7199
	株式会社岡本組	岡山市	TEL0862(52)6006代
	株式会社大一防水工業	大阪府	TEL0720(71)8951
九州	株式会社佐藤防水	鹿児島市	TEL0992(54)2704
	船田工業株式会社	福岡市	TEL092(566)0065代
	共進建工株式会社	福岡市	TEL092(611)4131

日本アスファルト防水工業協同組合

■建設省東計第240号認可

本部　東京都足立区千住東２－23－４
日新工業株式会社内
☎(870)5051(代)

製造元／日新工業株式会社

関東支部　東京都足立区千住東２－23－４　日新工業内　(882)2424(代)
中部支部　名古屋市千種区今池５－38－23(岐阜正ビル)　日新工業名古屋営業所内　☎(741)6257(代)
関西支部　大阪市西区新町１－12－２　日新工業大阪支店内　☎(533)3191(代)
九州支部　福岡市博多区博多駅前１－24－10　日新工業九州営業所内　☎(451)1095(代)
北海道支部　札幌市中央区南３条西13－319(柴田ビル)　日新工業札幌営業所内　☎(281)6328(代)

建築と社会　第68輯第1号
昭和62年1月25日発行（毎月1回25日発行）
昭和24年3月19日第3種郵便物認可

クラシック　タイル



床材新製品

〈クラシック・タイルシリーズ〉

エルズウッド▶（標準材、彩色材、集成材）
75㎜×914㎜×3.0㎜（厚）7,700円/㎡

エルズストーン▶（マーブル）
457.2㎜×457.2㎜×3.0㎜（厚）7,900円/㎡
（グラニット・サンド）
304.8㎜×304.8㎜×3.0㎜（厚）7,700円/㎡

エルズパール▶（無地）
304.8㎜×304.8㎜×2.0㎜（厚）7,900円/㎡

商業施設向・ファッション床タイルとして最適です。塩ビ系ホモジニアスタイルです。ナチュラルで優雅な風合い。いづれも耐久性、寸法安定性が抜群で品質、機能はもとよりデザイン性に優れています。

ロンシール工業株式会社
●本　社／〒101東京都千代田区神田松永町13川口ビル　☎03(253)4941㈹
●大阪支店／〒532大阪市淀川区西中島3-9-13大北ビル　☎06(304)2700㈹

※詳しいカタログをご希望の方は本社・支店または下記の各営業所までご請求下さい。

●営業所／札幌☎011(531)2602　青森☎0177(77)1155　仙台022(265)4771　新潟☎025(243)3791　金沢☎0486(64)1511　大宮☎0486(45)1511　横浜☎045(662)7370
静岡☎0542(51)3712　名古屋☎052(935)7063　岡山☎086926-4321　高松☎0878(31)4177　広島☎082(249)3600　福岡☎092(472)5857　鹿児島☎0992(58)6571

定価九五〇円（送料共）
表紙スケッチ・吉田隆一（説明目次頁）

正会員の購読料は会費に含めて徴収